

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
57-3 系統図	57-3 系 統 図	

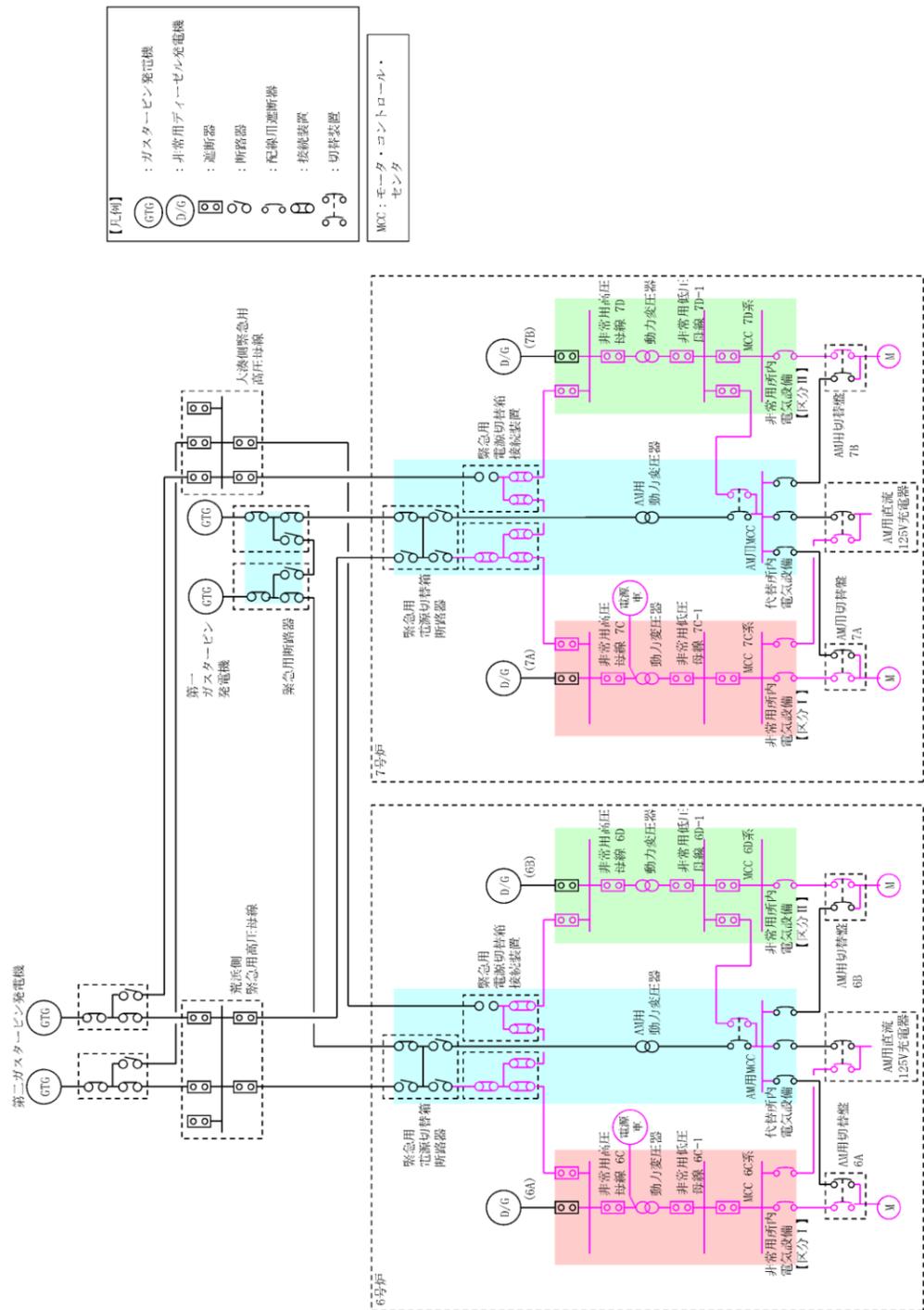
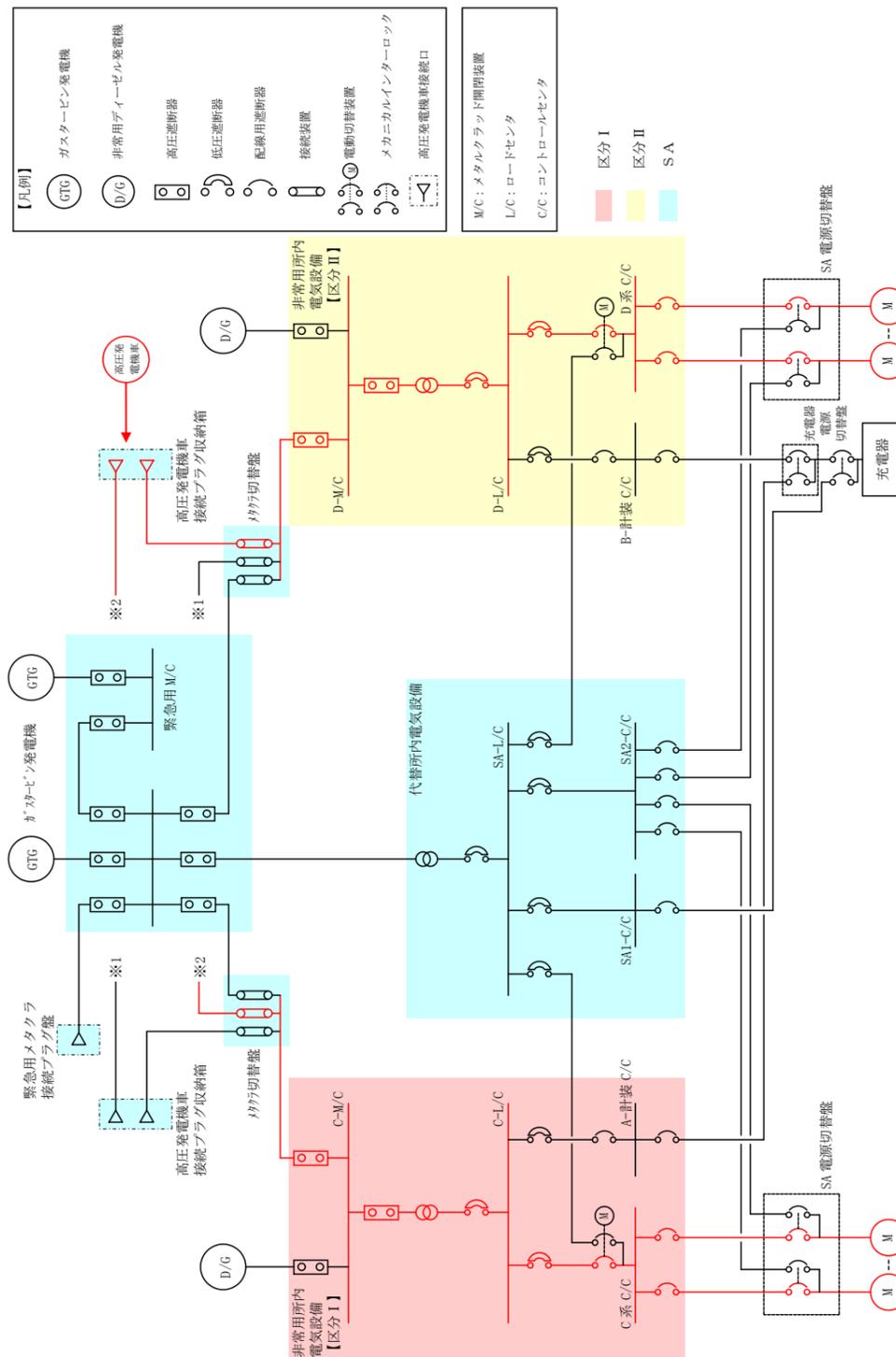


図 57-3-2 電源車系統図

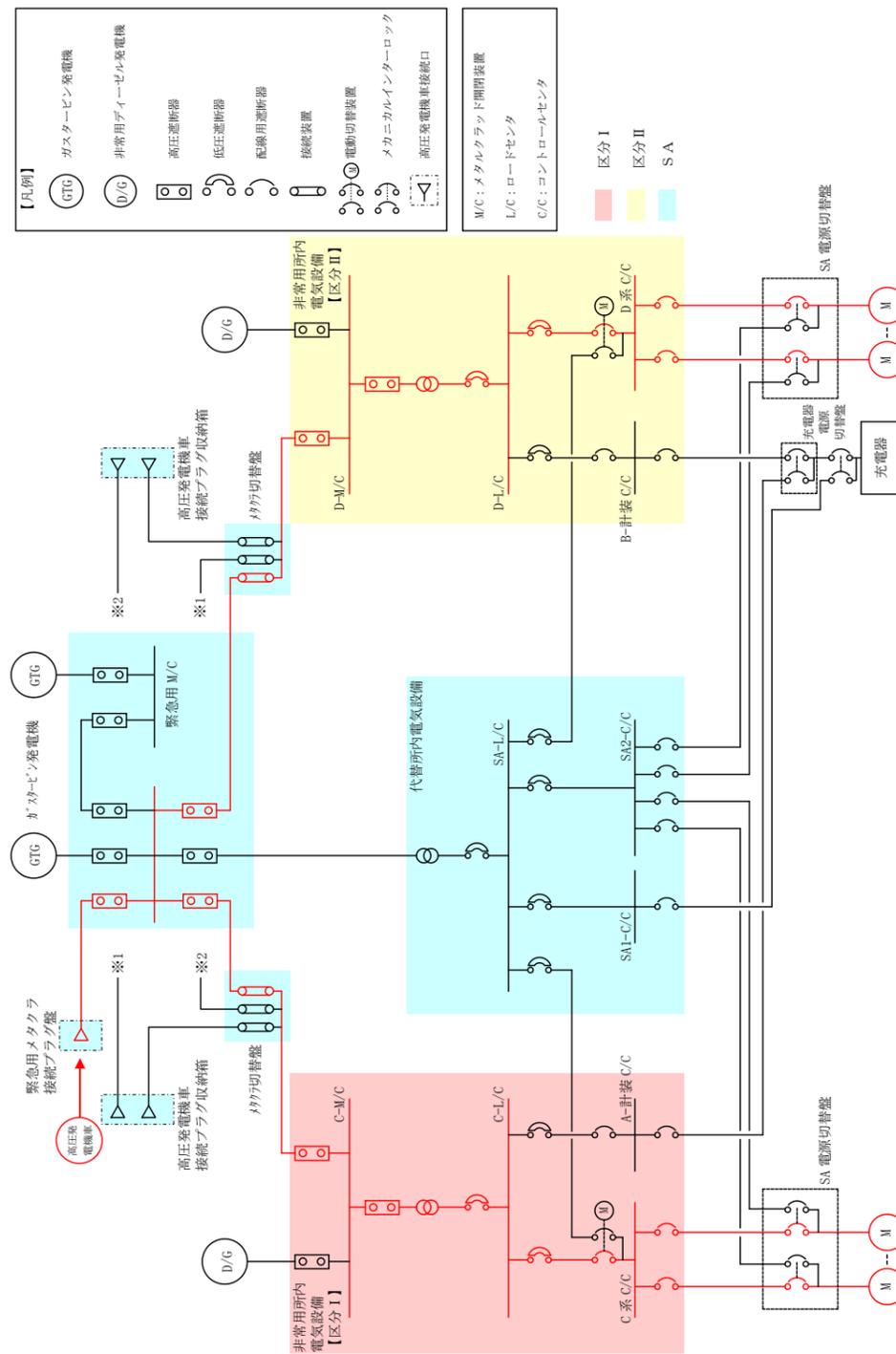
(電源車～動力変圧器 C 系～非常用高圧母線 C 系及び D 系)



第 57-3-2 図 高圧発電機車系統図

(高圧発電機車～高圧発電機車接続プラグ収納箱 (原子炉建物南側)
～非常用高圧母線 C 系及び D 系)

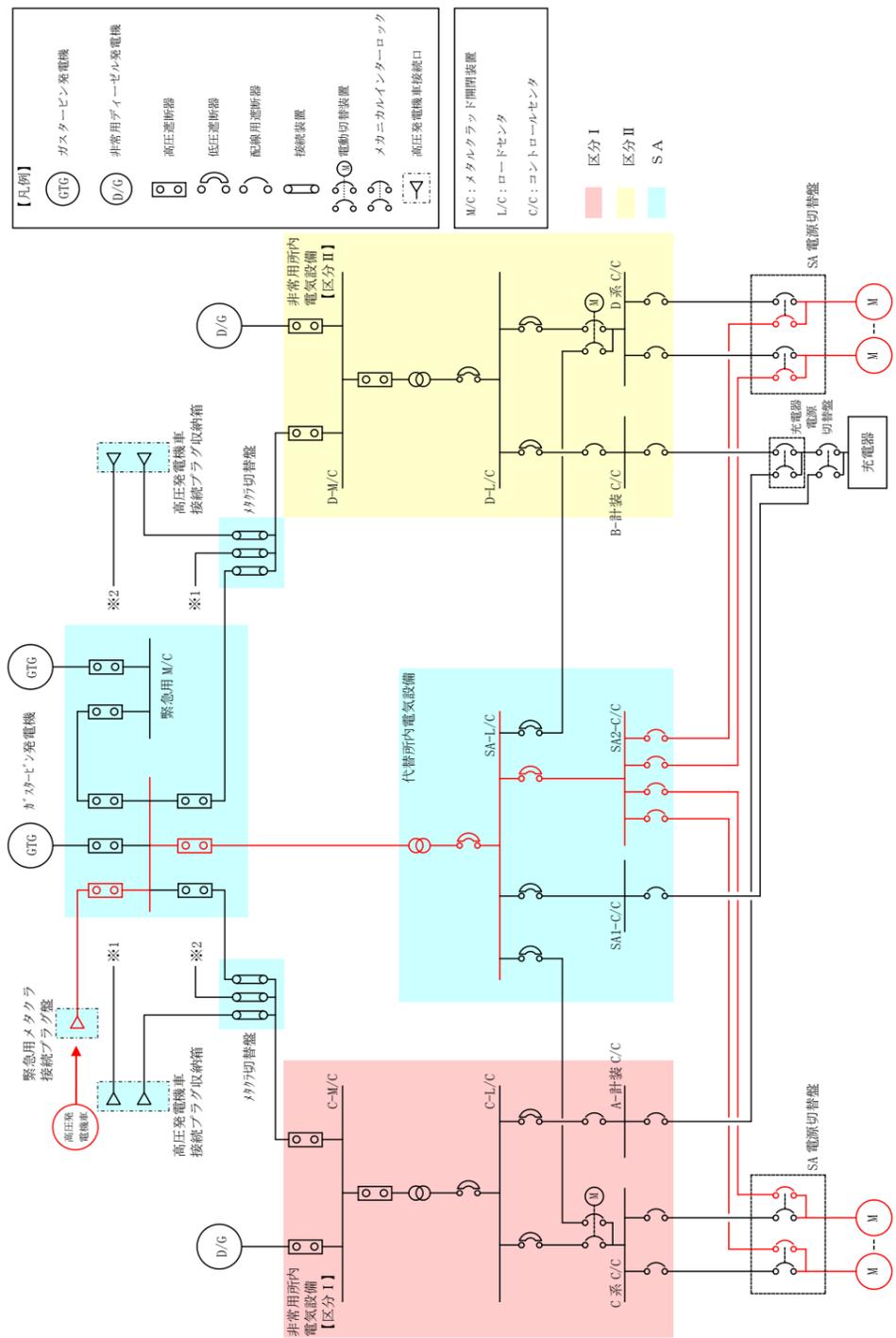
・設備の相違



第 57-3-3 図 高圧発電機車系統図

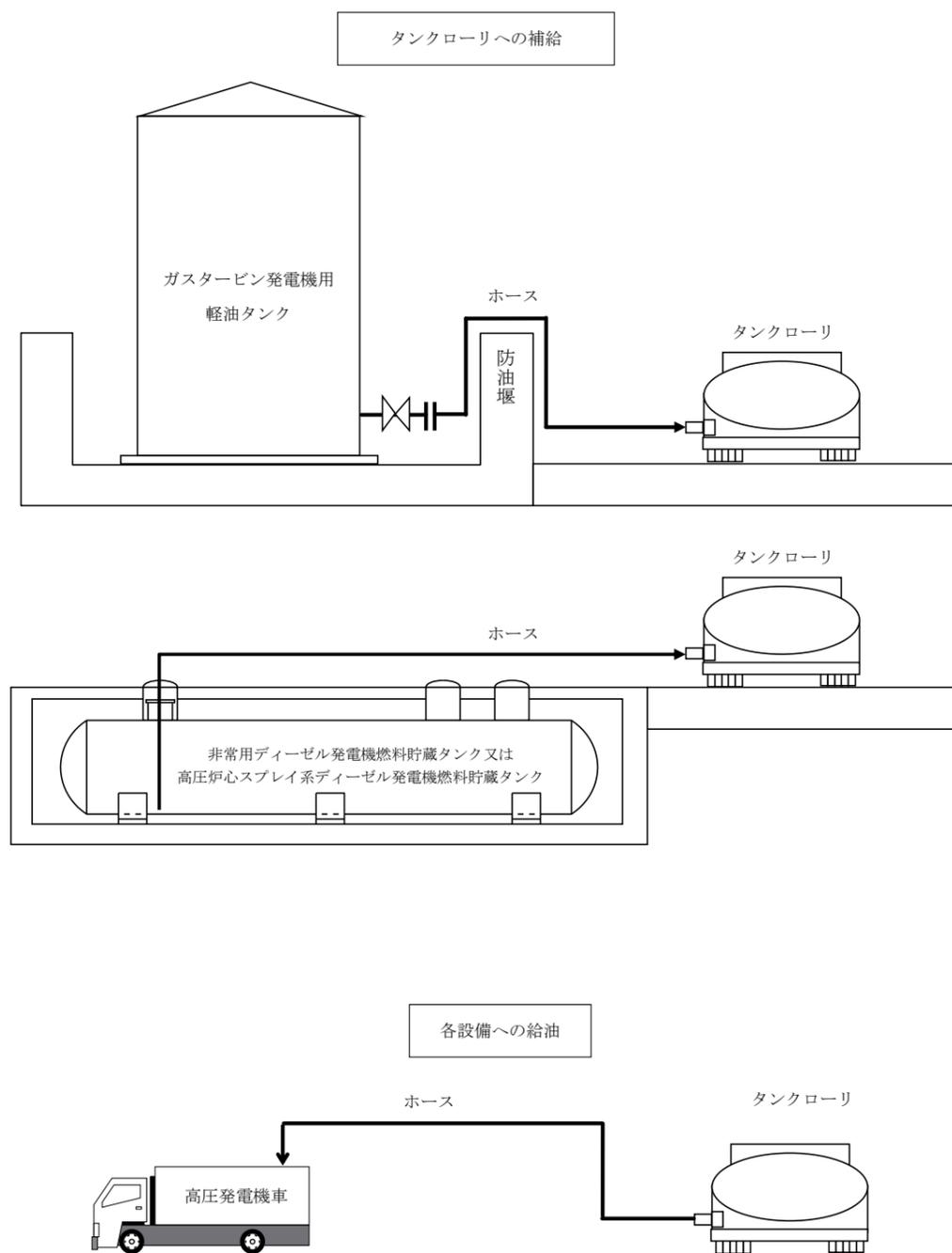
(高圧発電機車～緊急用メタクラ接続プラグ盤～非常用高圧母線C系及びD系)

・設備の相違



第 57-3-6 図 高圧発電機系統図
 (高圧発電機～緊急用メタクラ接続プラグ盤
 ～SA1コントロールセンタ及びSA2コントロールセンタ)

・設備の相違



第 57-3-7 図 可搬型代替交流電源設備系統概要図 (燃料系統)

・設備の相違
柏崎 6/7 の 57-3-9 が該当

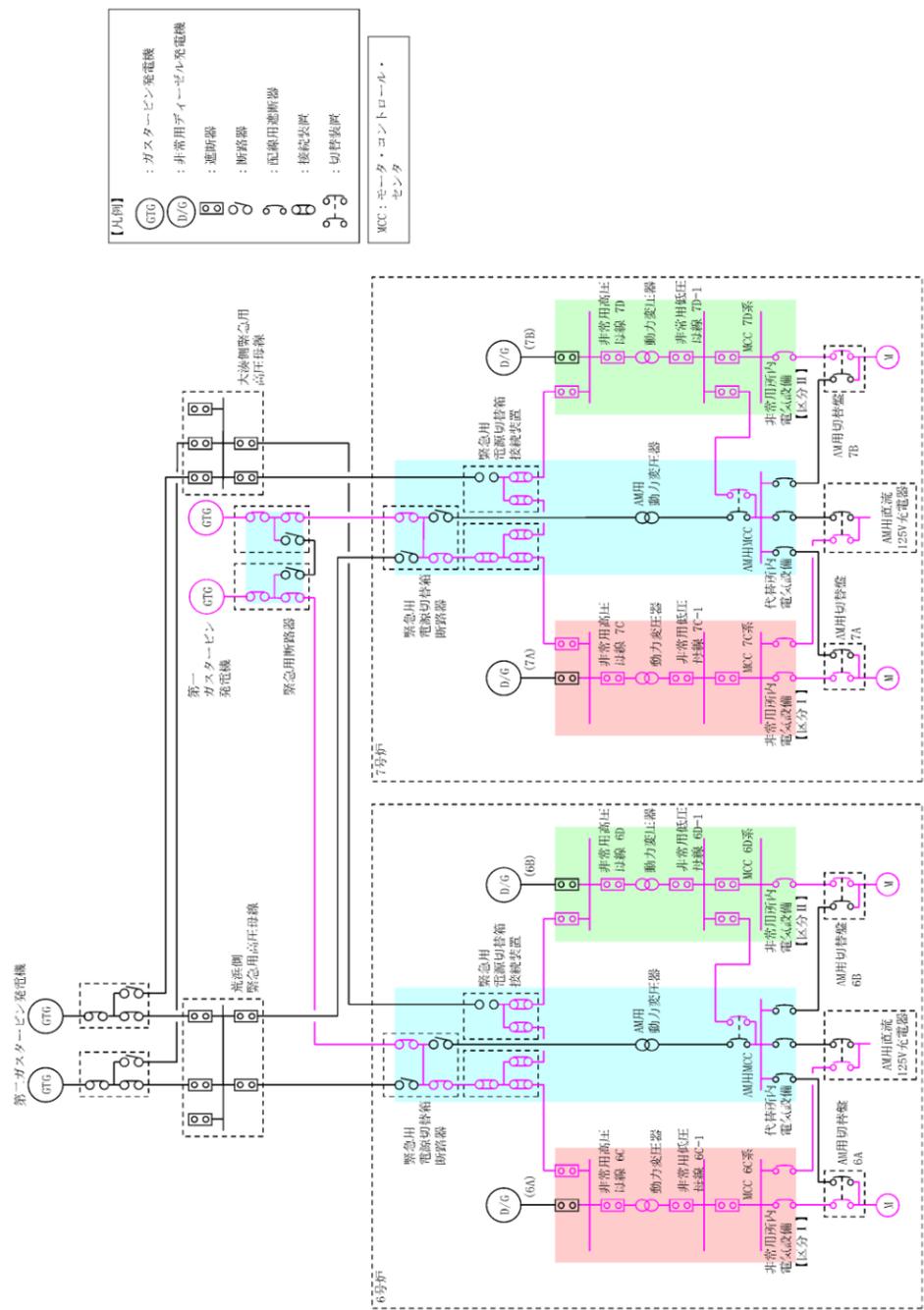
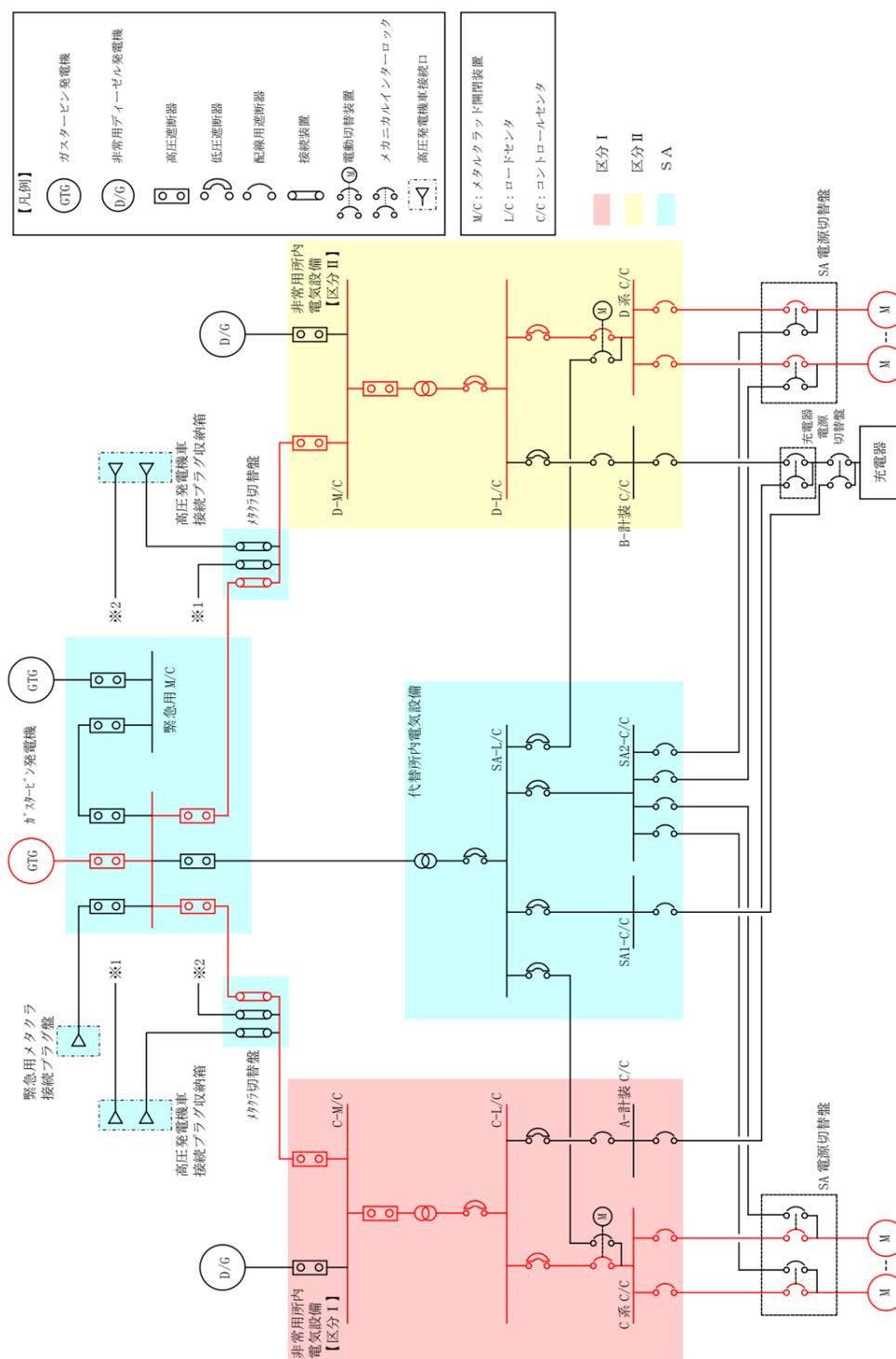


図 57-3-5 第一ガスタービン発電機系統図
(非常用高压母線 C 系及び D 系に供給)



第 57-3-8 図 ガスタービン発電機系統図
(ガスタービン発電機～非常用高压母線 C 系及び D 系に供給)

・設備の相違

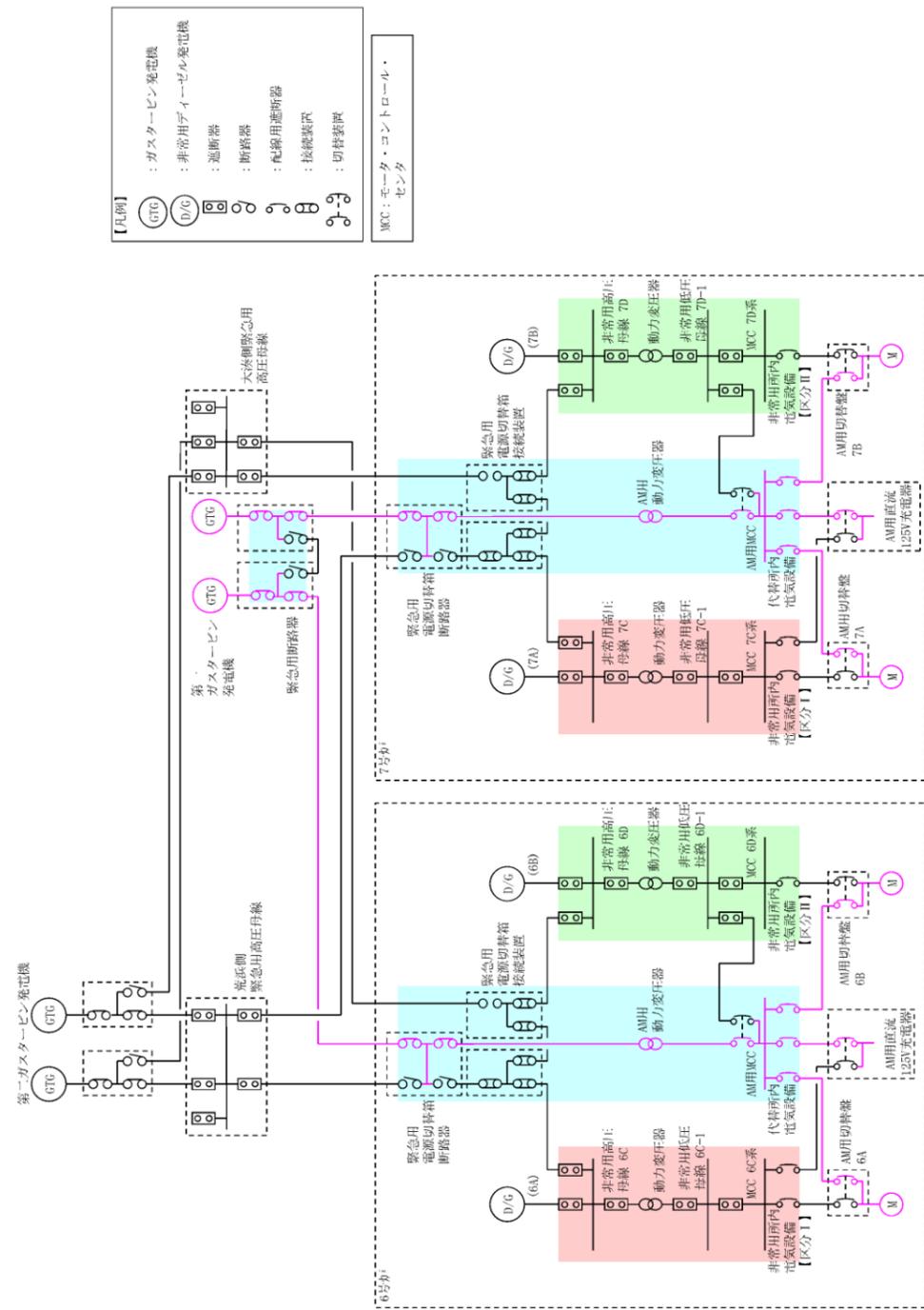
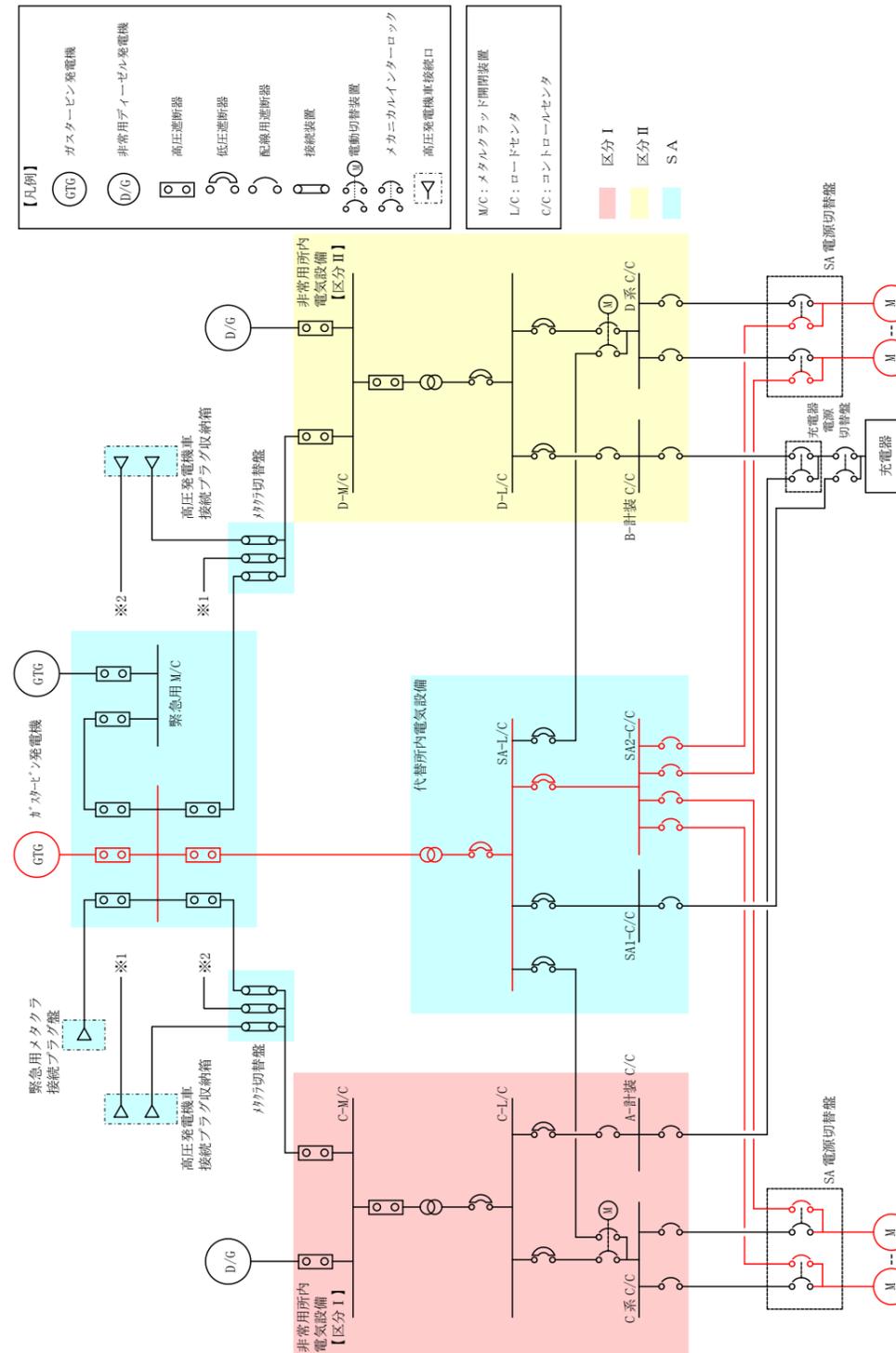


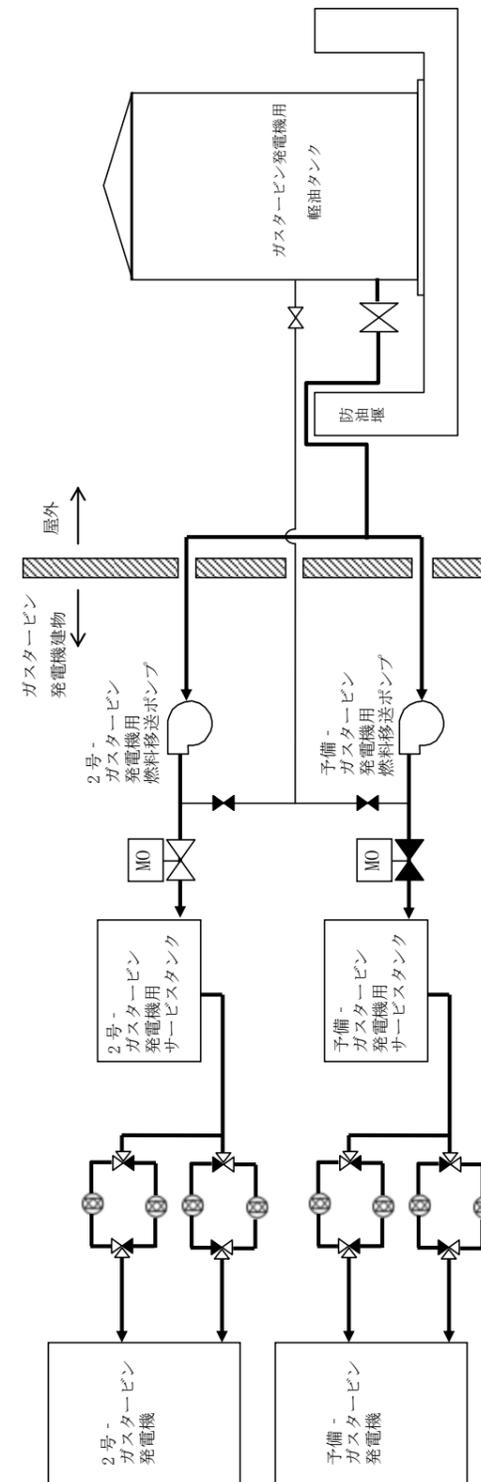
図 57-3-6 第一ガスタービン発電機系統図(AM用MCCに供給)



第 57-3-9 図 ガスタービン発電機系統図

(ガスタービン発電機～SA1コントロールセンタ及びSA2コントロールセンタ)

・設備の相違



第 57-3-10 図 ガスタービン発電機燃料系統図

・設備の相違
柏崎 6/7 の図 57-3-8 が該当

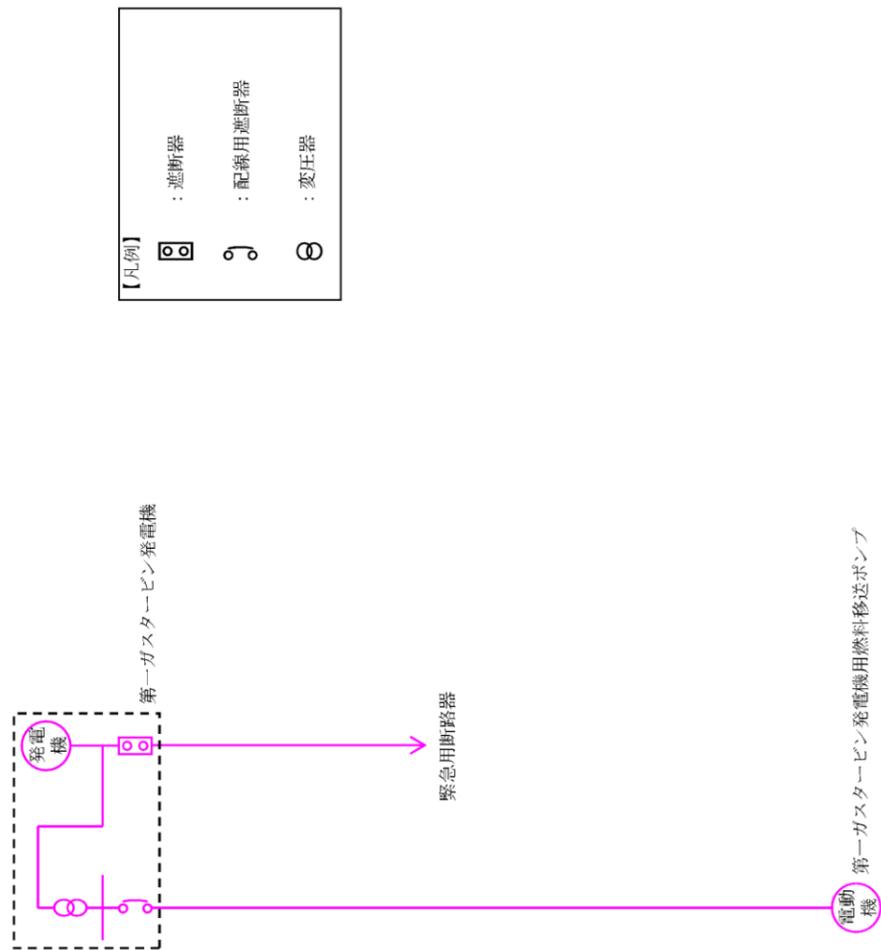
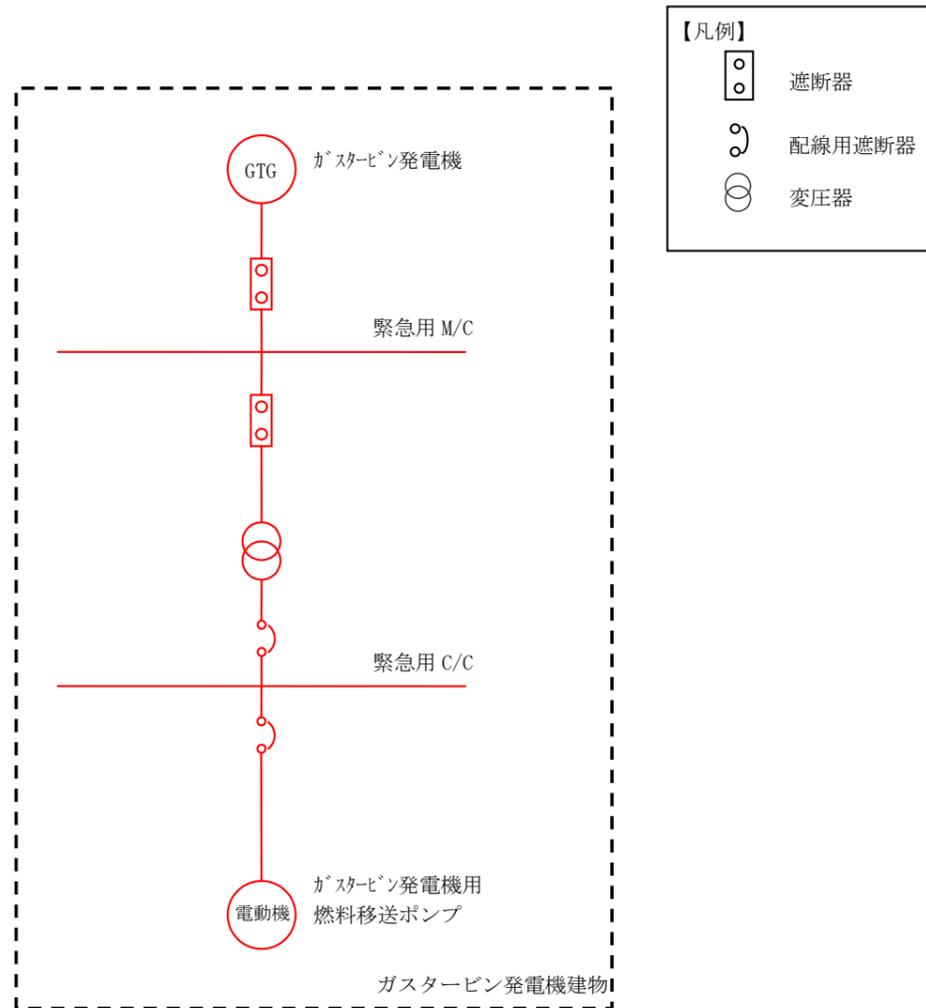


図 57-3-7 ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ電源系統図



第 57-3-11 図 ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ電源系統図

・設備の相違

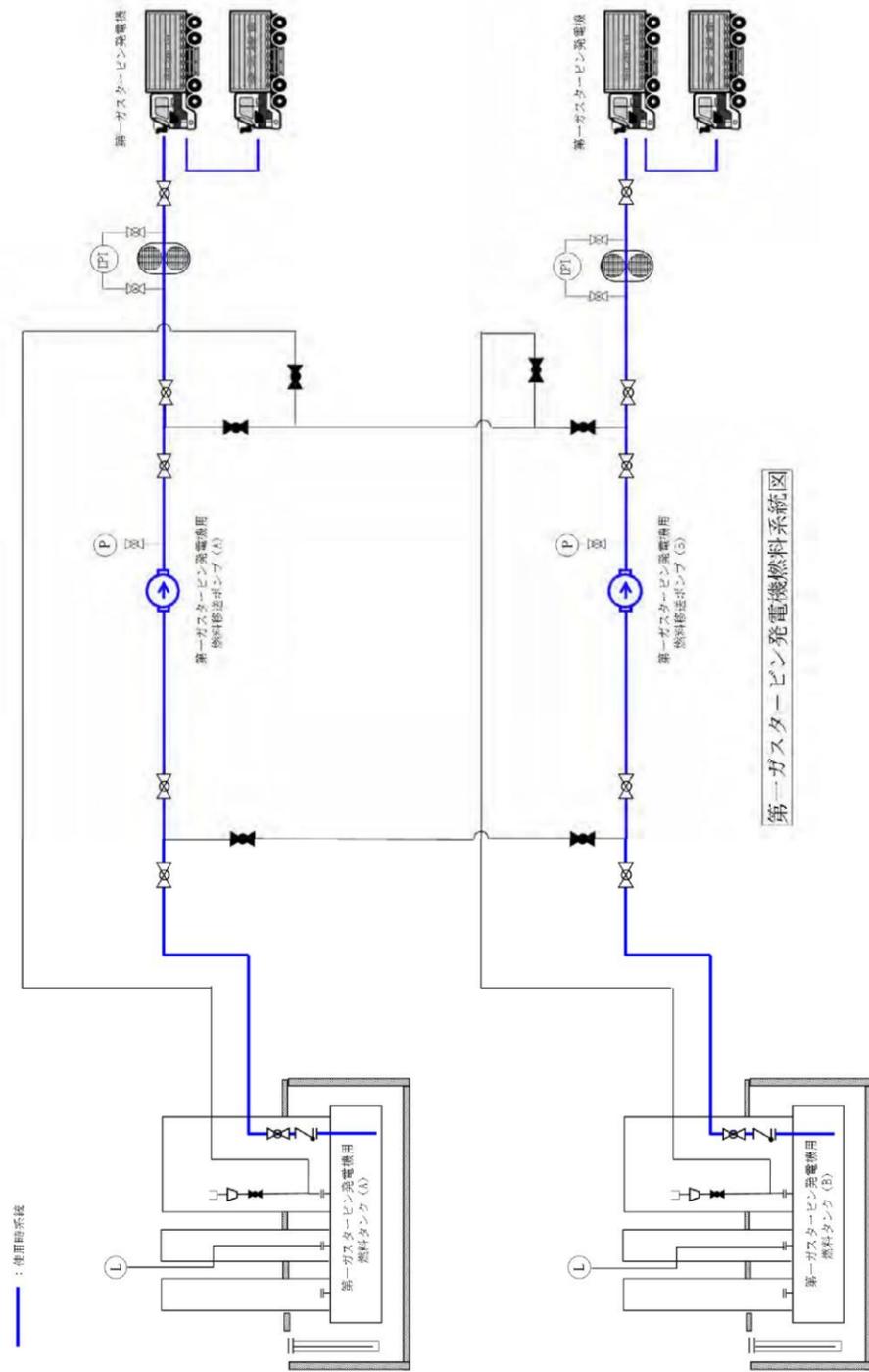
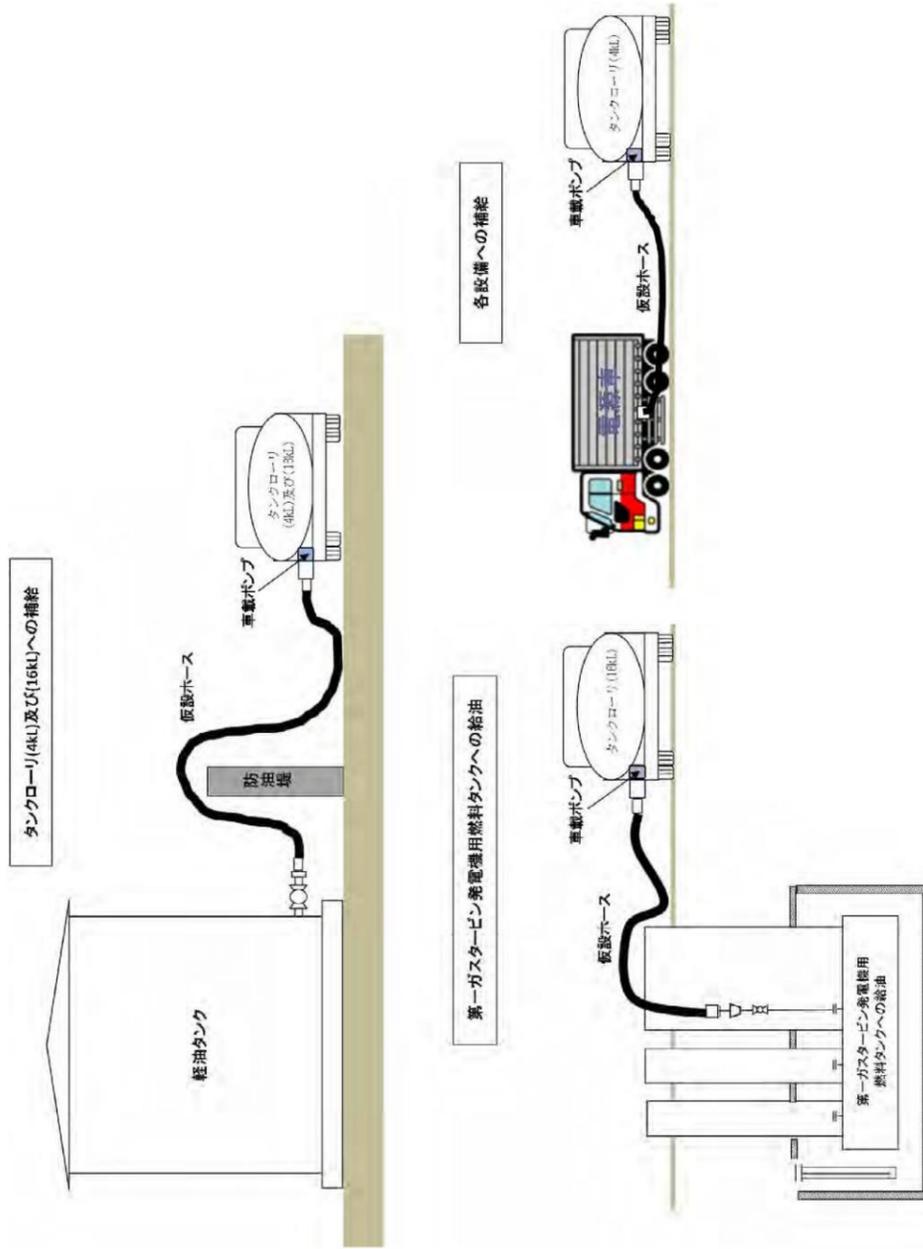


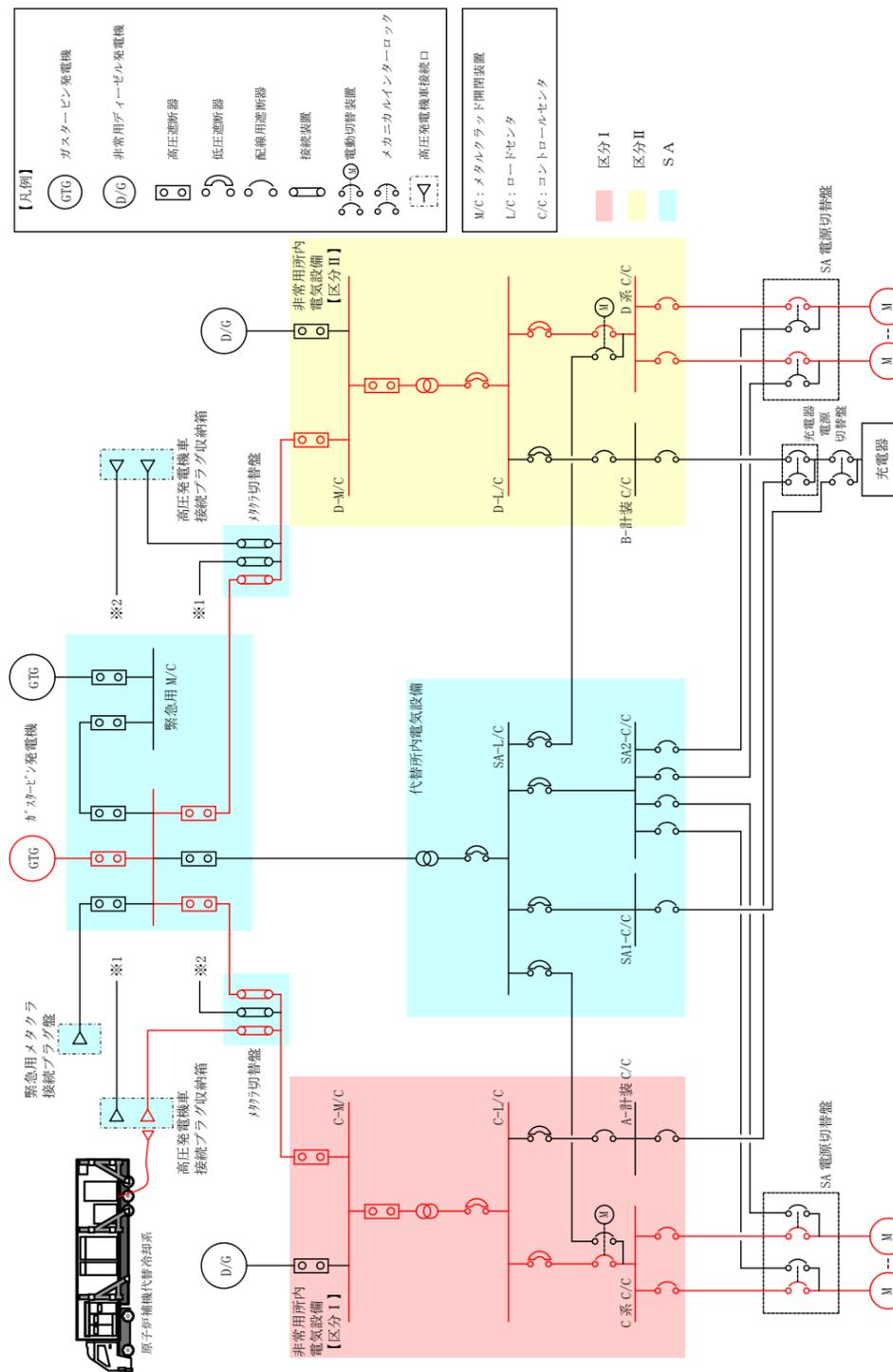
図 57-3-8 第一ガスタービン発電機燃料系統図

・設備の相違
島根2号炉の第 57-3-8 図が
該当



57-3-9 軽油タンク系統図

・設備の相違
島根2号炉の第57-3-5図が
該当



第 57-3-12 図 ガスタービン発電機系統図
(ガスタービン発電機～原子炉補機代替冷却系)

・運用の相違
原子炉補機代替冷却系に対してガスタービン発電機で電源供給する

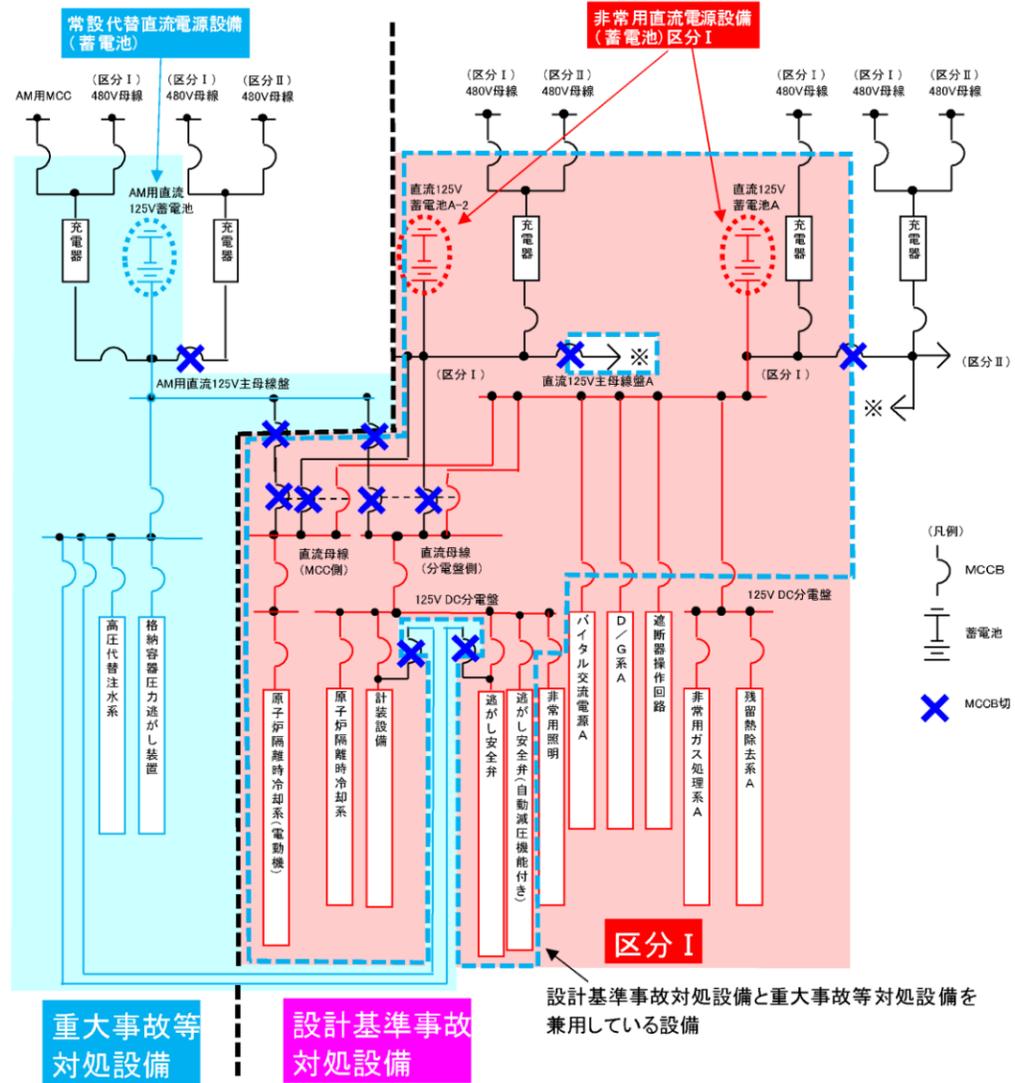
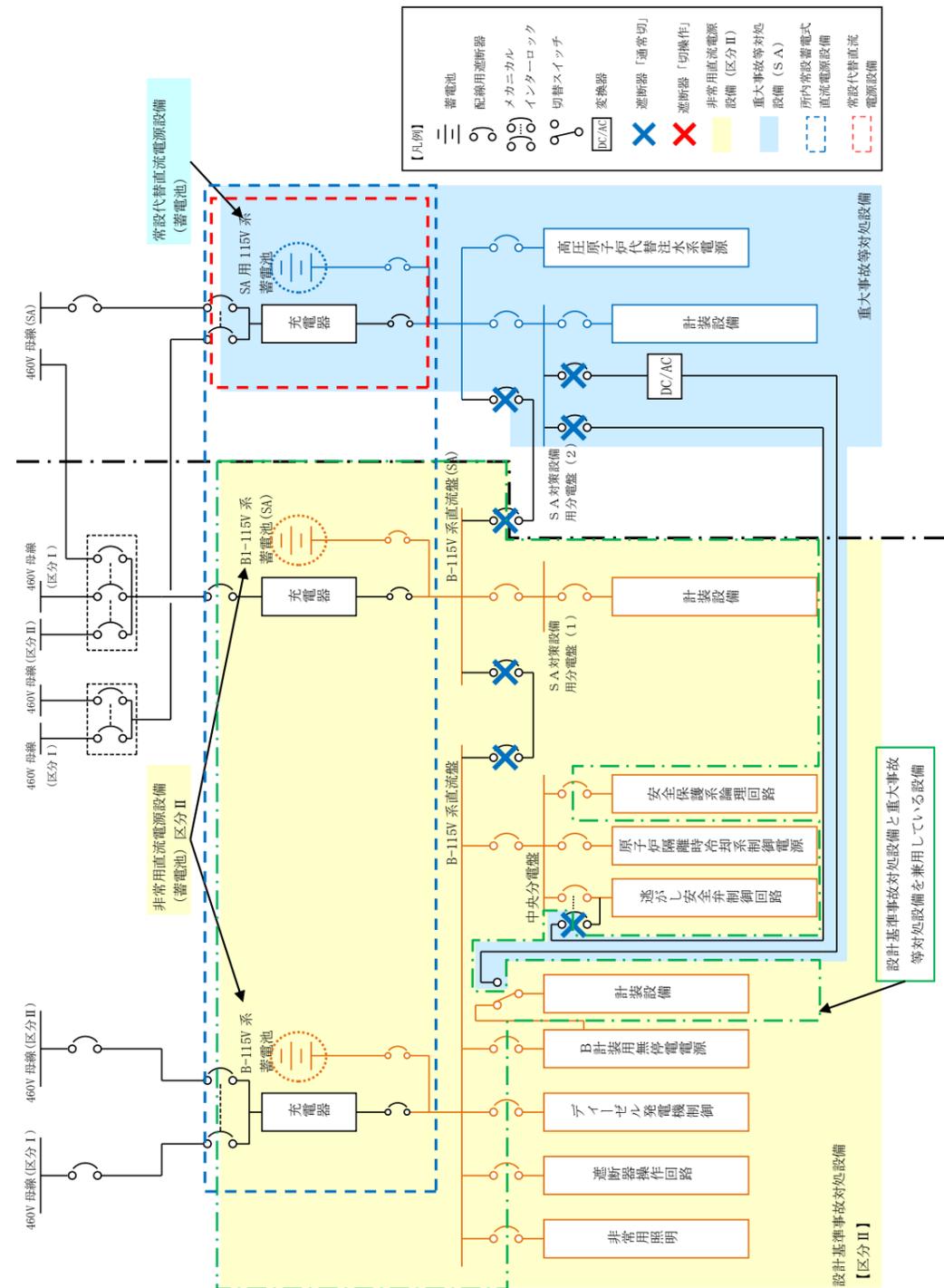


図 57-3-10 所内蓄電式直流電源設備系統図 (6号炉)
(全交流動力電源喪失直後~8時間後)



第 57-3-13 図 所内常設蓄電式直流電源設備系統図 (直流 115V 系蓄電池)
(全交流動力電源喪失直後~8時間)

・設備の相違

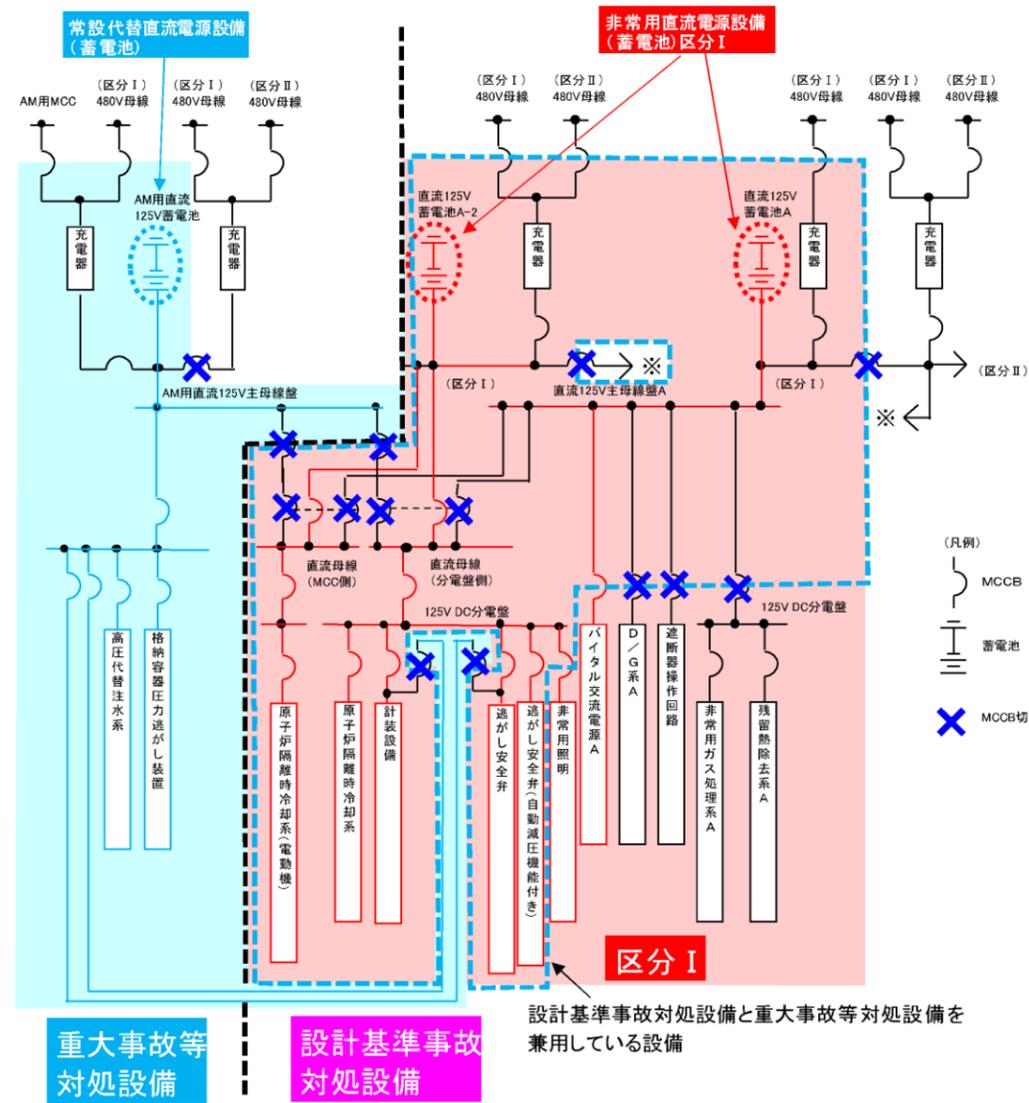
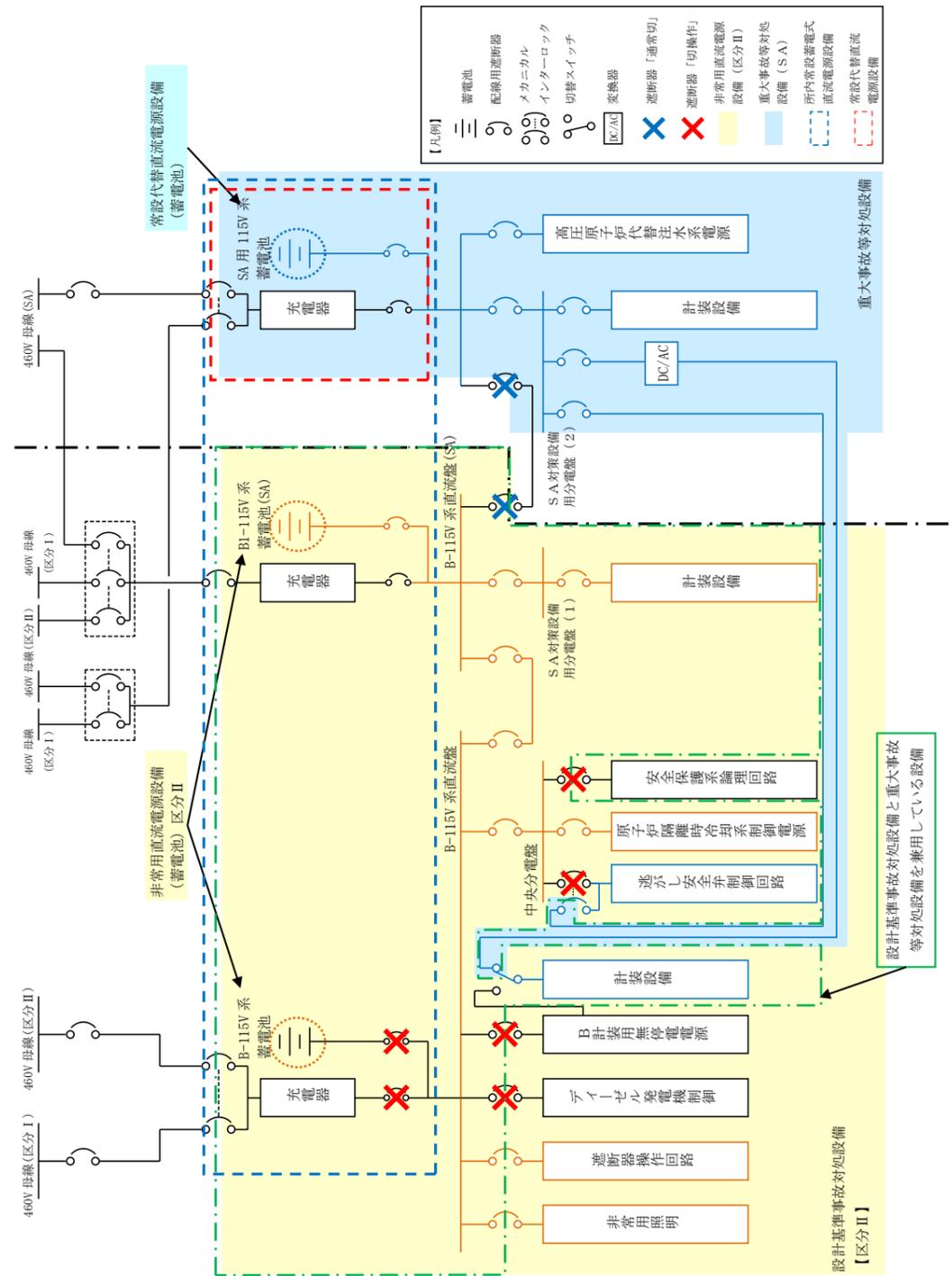


図 57-3-11 所内蓄電式直流電源設備系統図(6号炉)
(全交流動力電源喪失8時間後~19時間後)



第 57-3-14 図 所内常設蓄電式直流電源設備系統図(直流115V系蓄電池)
(全交流動力電源喪失8時間後~24時間後)

・設備の相違

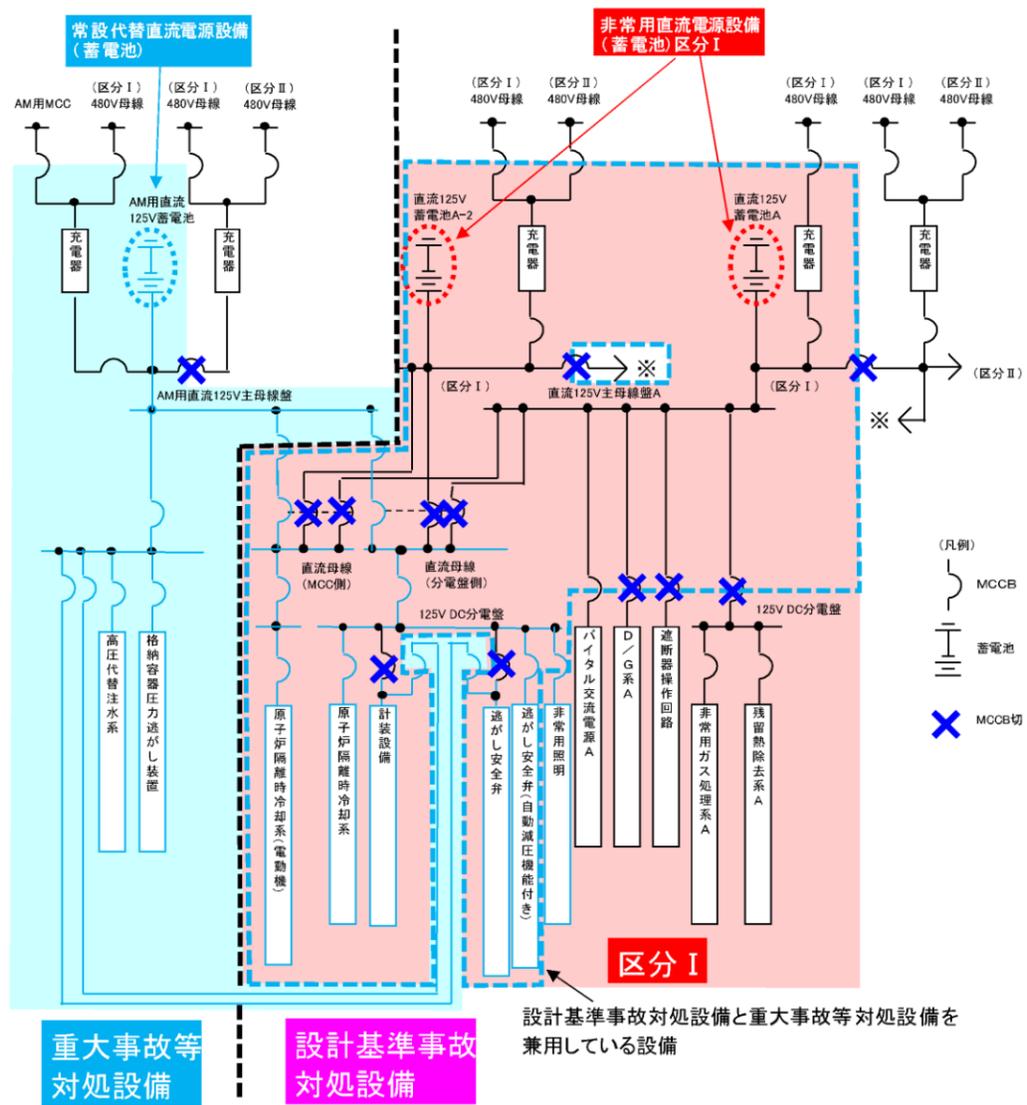
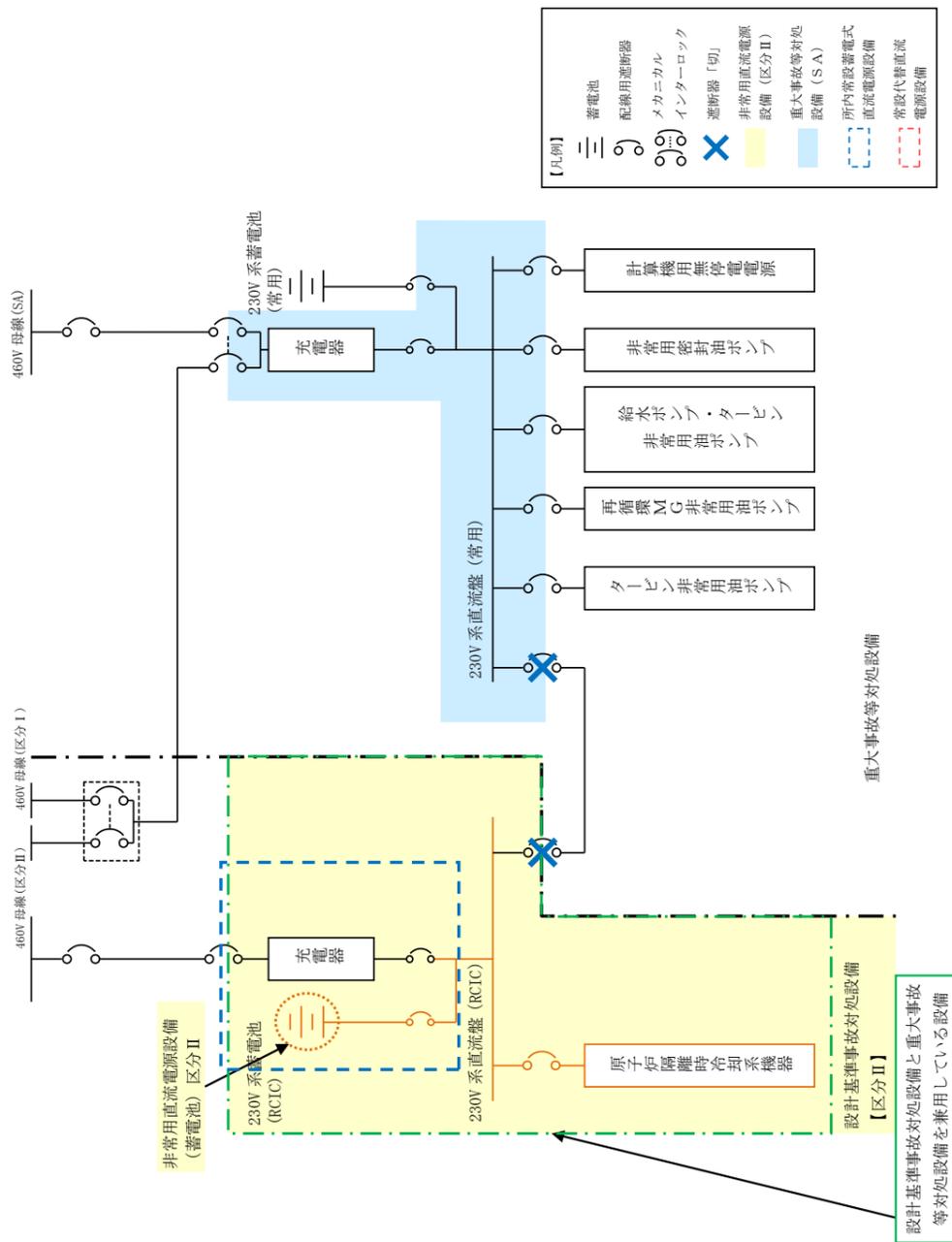


図 57-3-12 所内蓄電式直流電源設備系統図(6号炉)
(全交流動力電源喪失 19 時間後～24 時間後)

・設備の相違



・設備の相違

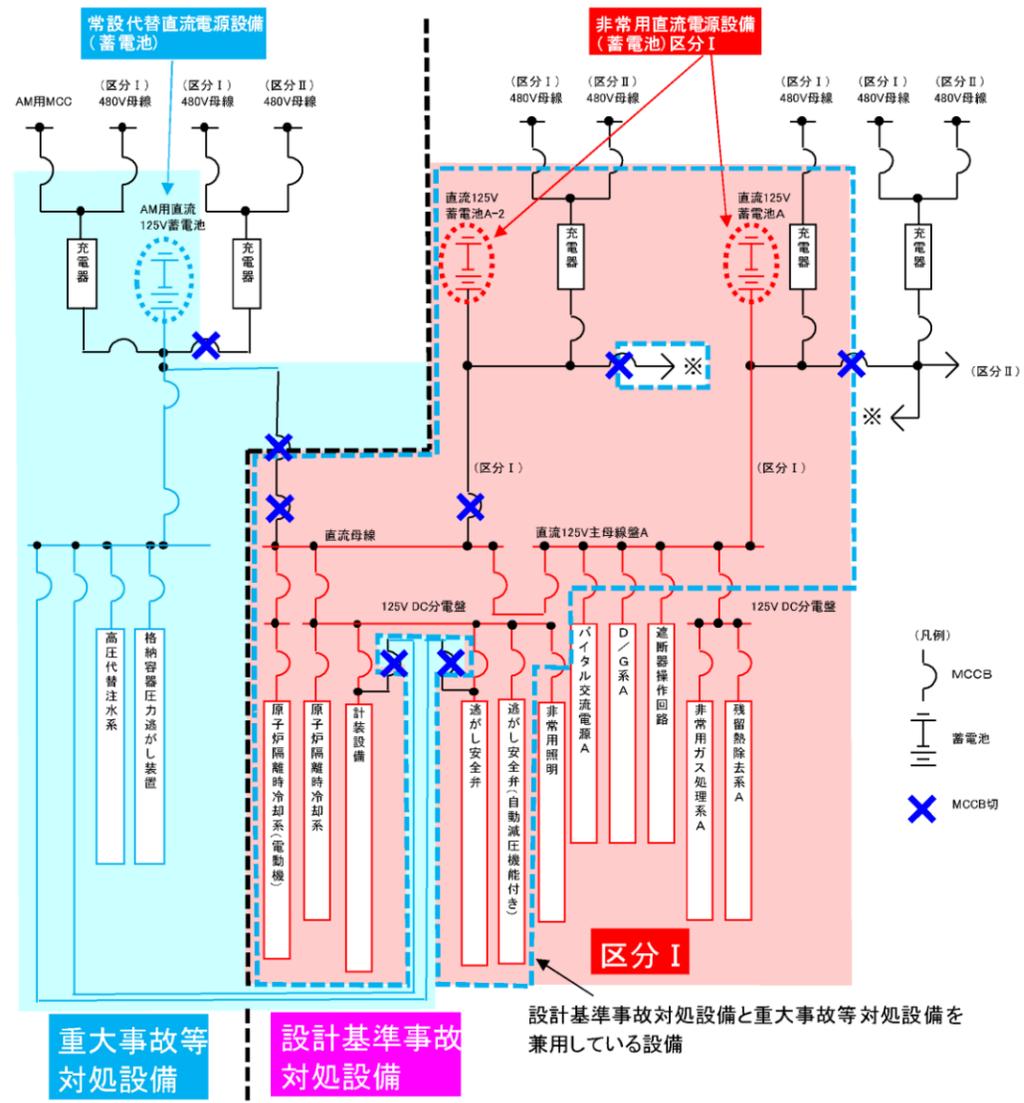


図 57-3-13 所内蓄電式直流電源設備系統図 (7号炉)
(全交流動力電源喪失直後~8時間後)

・設備の相違

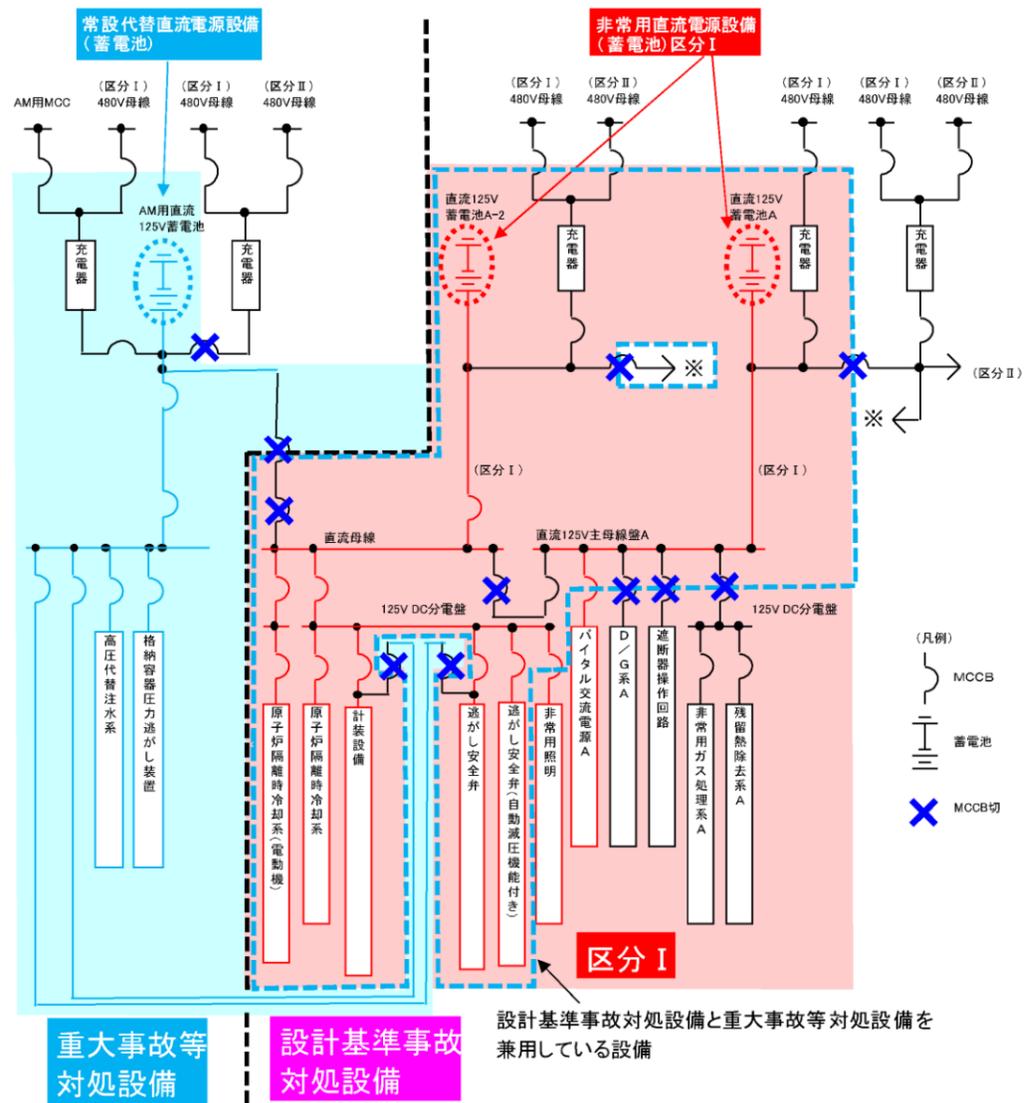


図 57-3-14 所内蓄電式直流電源設備系統図 (7号炉)
(全交流動力電源喪失 8 時間後～19 時間後)

・設備の相違

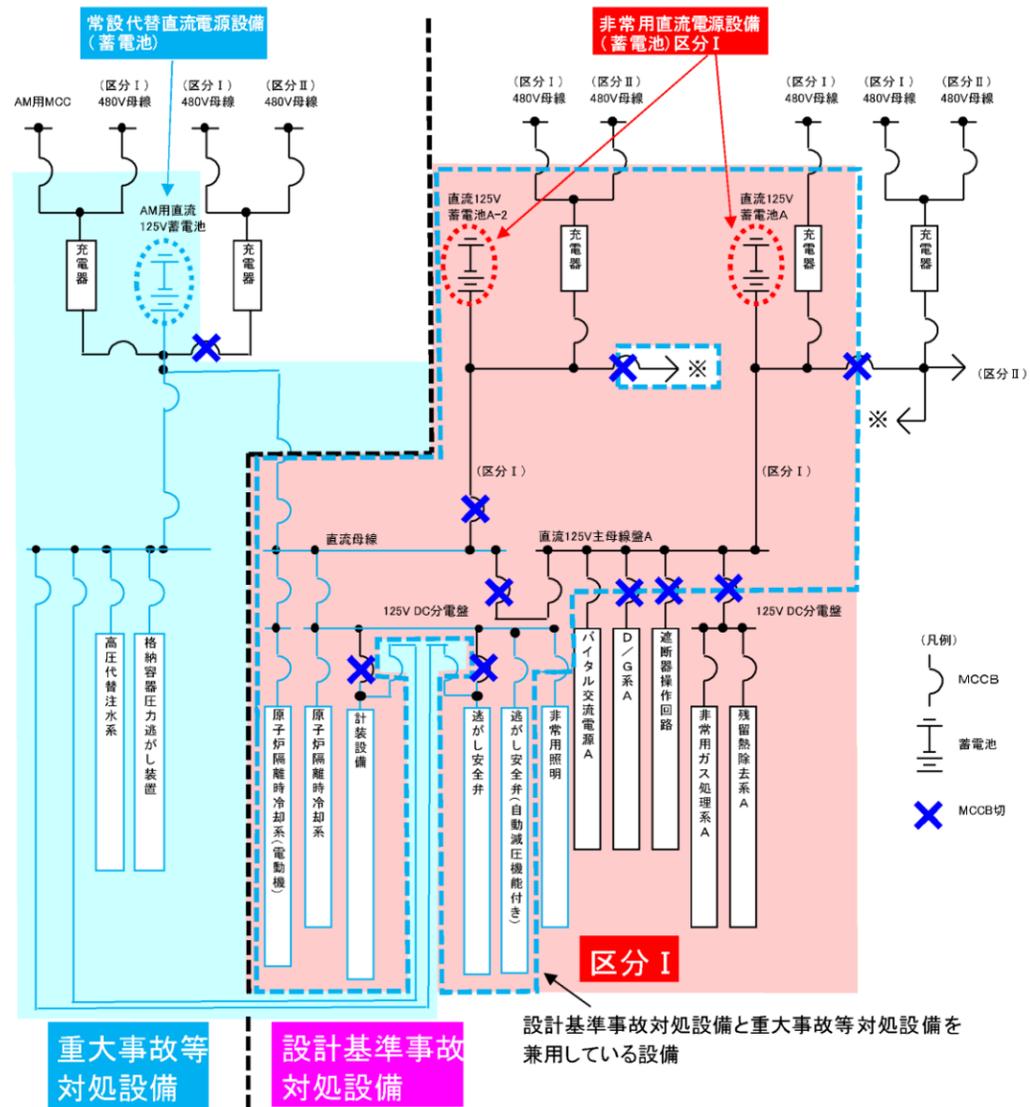


図 57-3-15 所内蓄電式直流電源設備系統図 (7号炉)
(全交流動力電源喪失 19 時間後～24 時間後)

・設備の相違

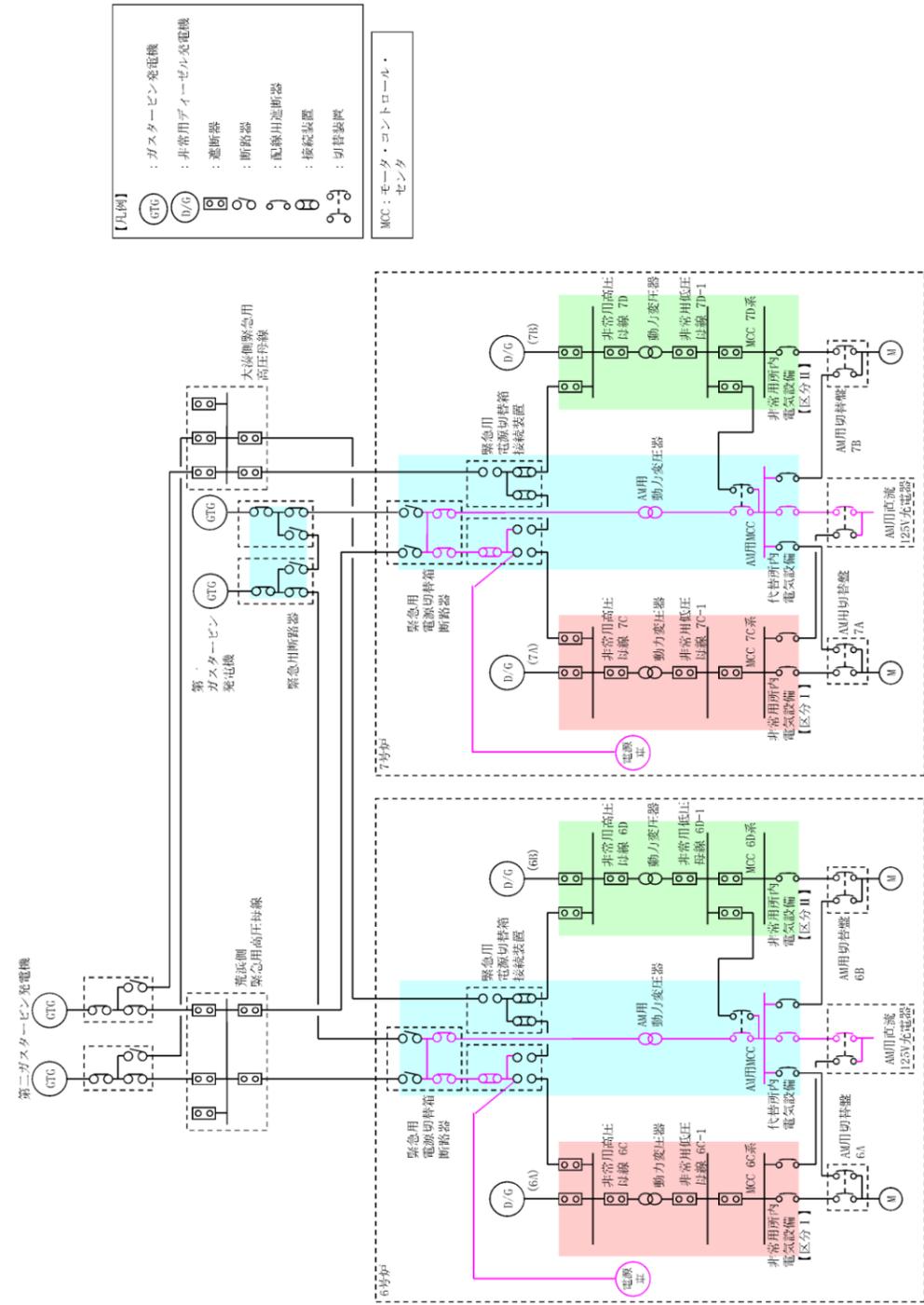
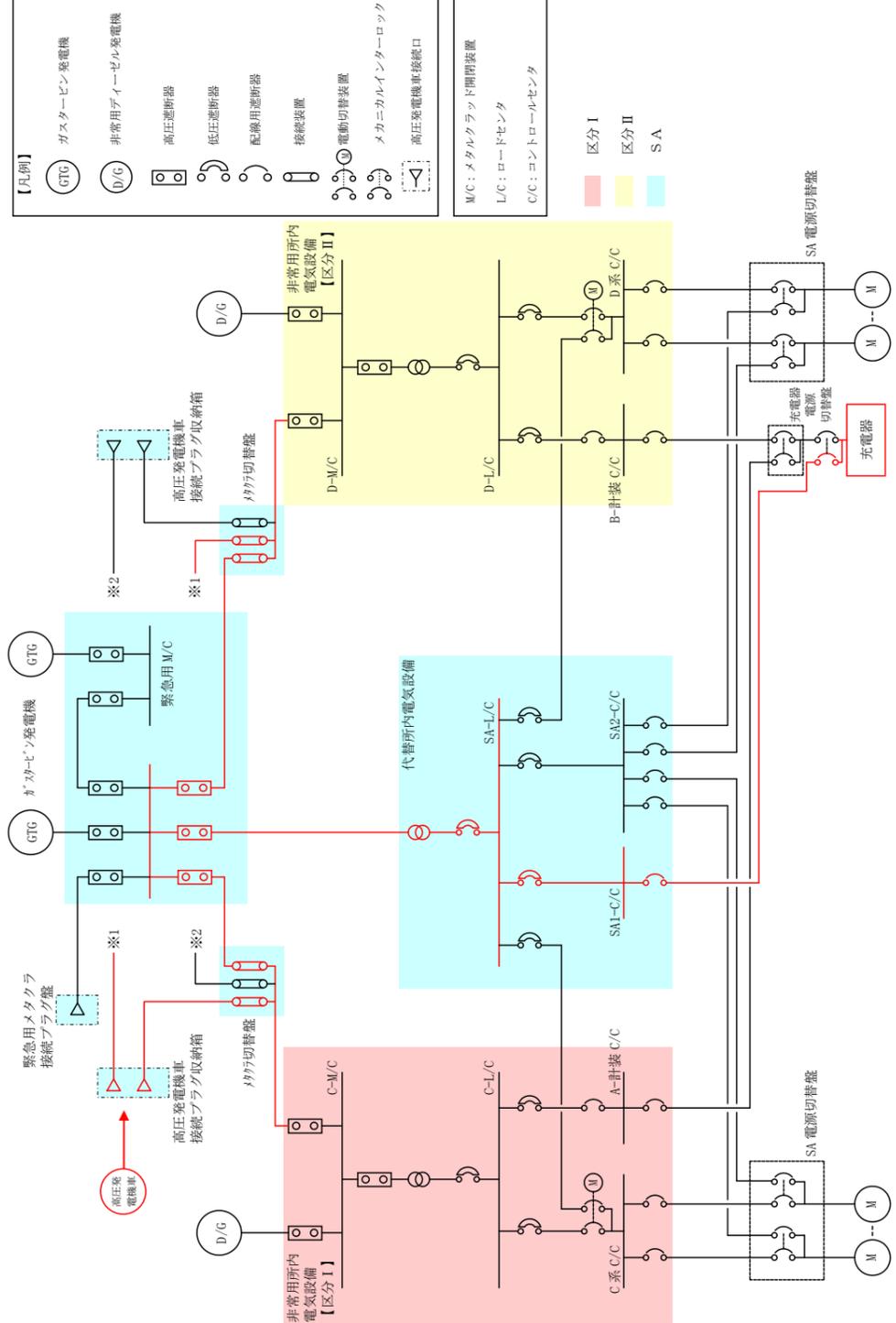


図 57-3-16 可搬型直流電源設備系統図
(電源車～緊急用電源切替箱接続装置～AM用直流125V充電器)

【凡例】
 ○GTG : ガスタービン発電機
 ○D/G : 非常用ディーゼル発電機
 ○ : 遮断器
 ○ : 断路器
 ○ : 配線用遮断器
 ○ : 接続装置
 ○ : 切替装置
 MCC : モータ・コントロール・センタ



第 57-3-16 図 可搬型直流電源設備系統図
(高圧発電機車～高圧発電機車接続プラグ収納箱(原子炉建物西側)～充電器(B1-115V系充電器(SA), SA用115V系充電器, 230V系充電器(常用))

【凡例】
 ○GTG : ガスタービン発電機
 ○D/G : 非常用ディーゼル発電機
 ○ : 高圧遮断器
 ○ : 低圧遮断器
 ○ : 配線用遮断器
 ○ : 接続装置
 ○ : 電動切替装置
 ○ : メカニカルインターロック
 ○ : 高圧発電機車接続口
 MCC : メタルクラッド開閉装置
 L/C : ロードセンタ
 C/C : コントロールセンタ
 区分 I (Red)
 区分 II (Yellow)
 SA (Cyan)

・設備の相違

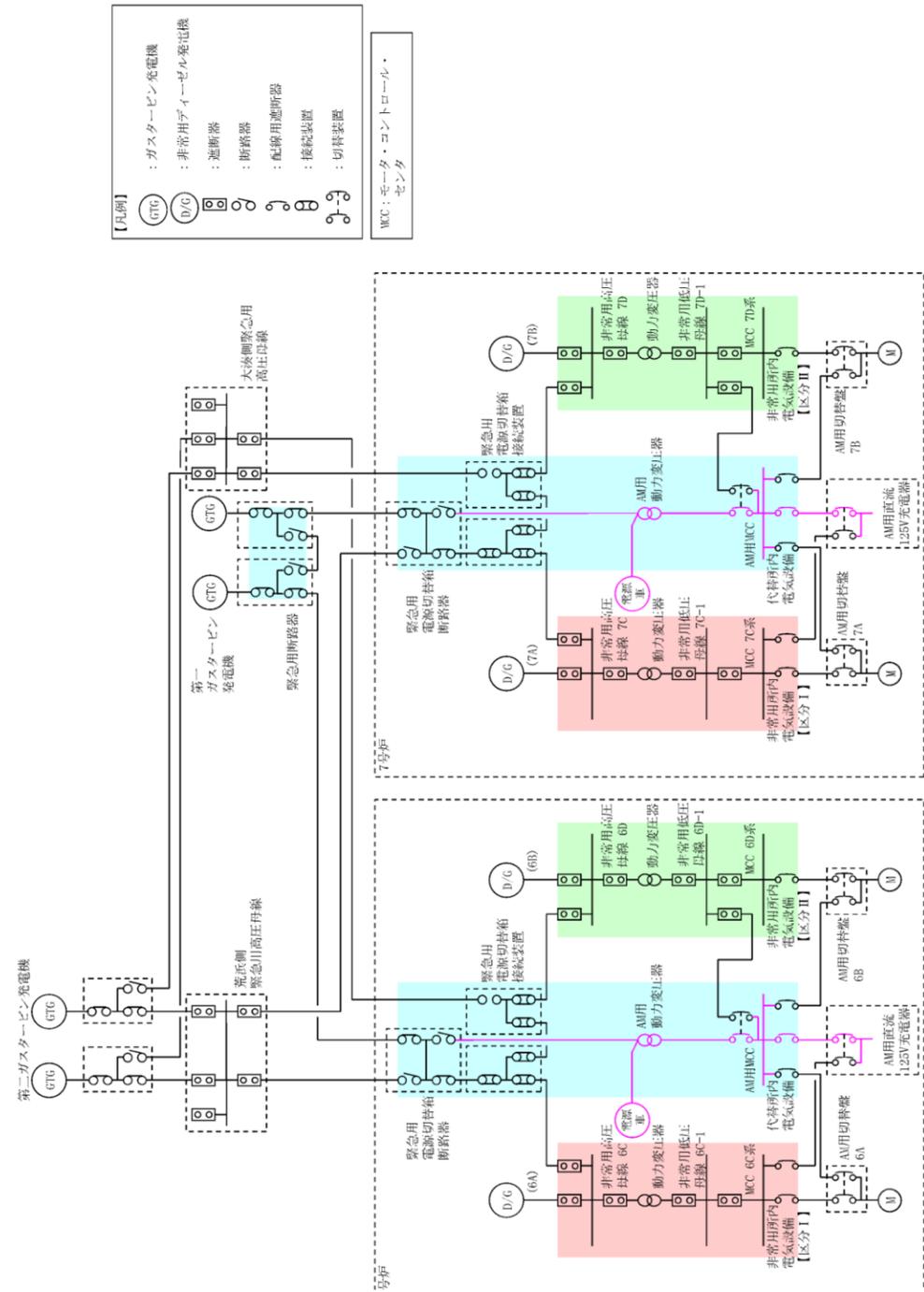
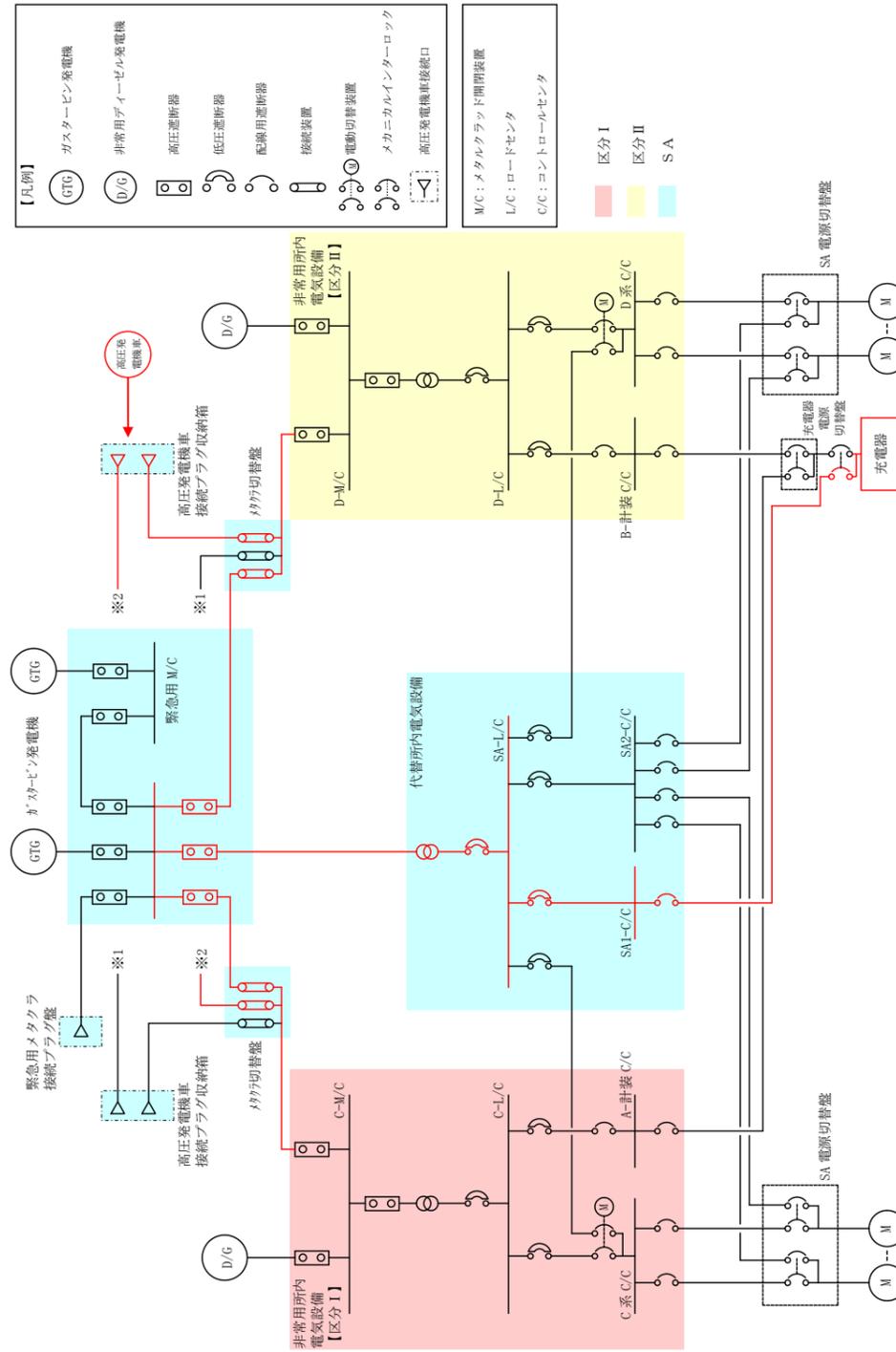
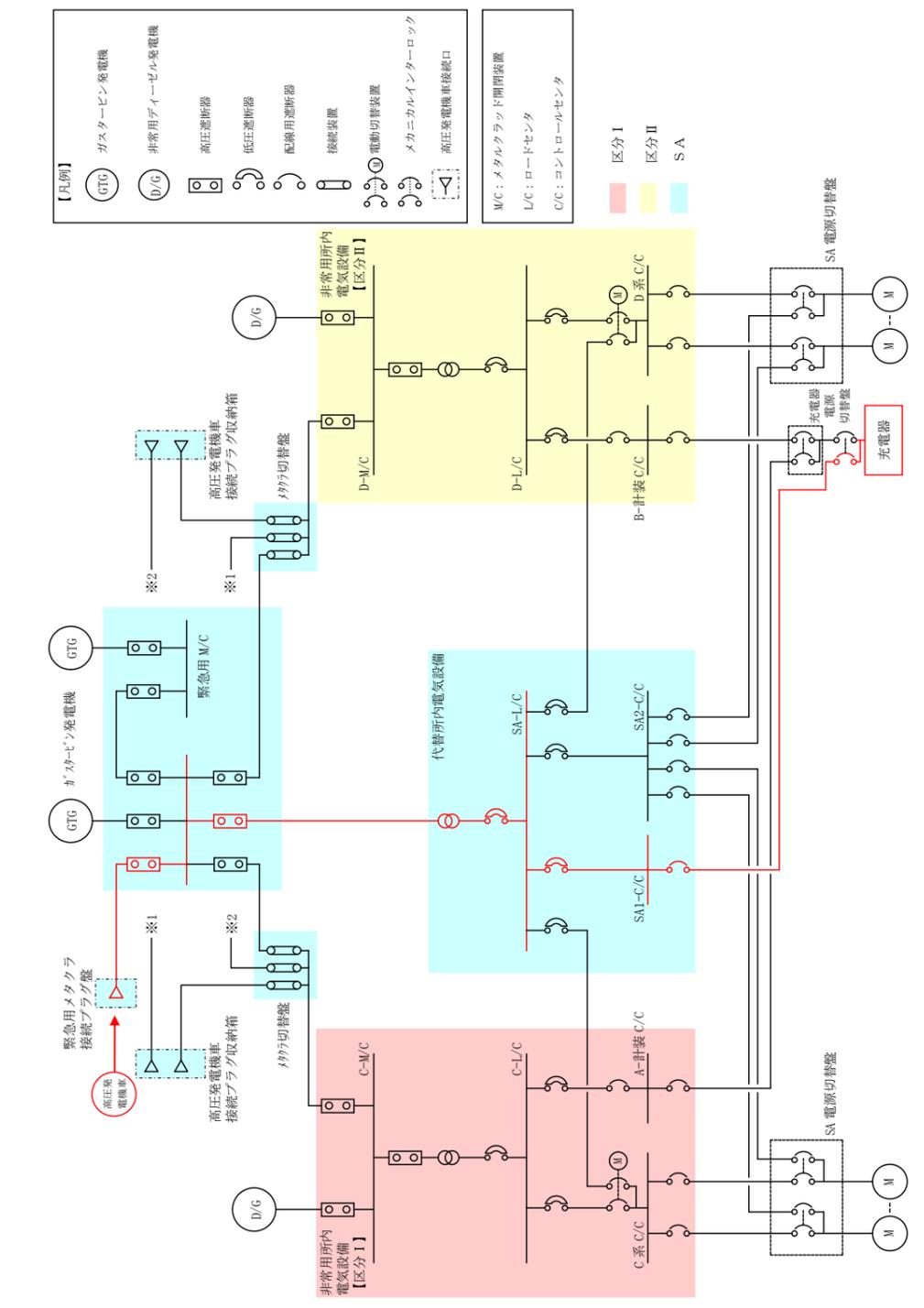


図 57-3-17 可搬型直流電源設備系統図
 (電源車～AM用動力変圧器～AM用直流 125V 充電器)



第 57-3-17 図 可搬型直流電源設備系統図
 (高圧発電機車～高圧発電機車接続プラグ収納箱 (原子炉建物南側) ～
 充電器 (B 1-115V 系充電器 (SA), SA用 115V 系充電器, 230V 系充電器 (常用))

・設備の相違



第 57-3-18 図 可搬型直流電源設備系統図
 (高圧発電機車～緊急用メタクラ接続プラグ盤～
 充電器 (B 1-115V 系充電器 (SA), SA 用 115V 系充電器, 230V 系充電器 (常用))

・設備の相違

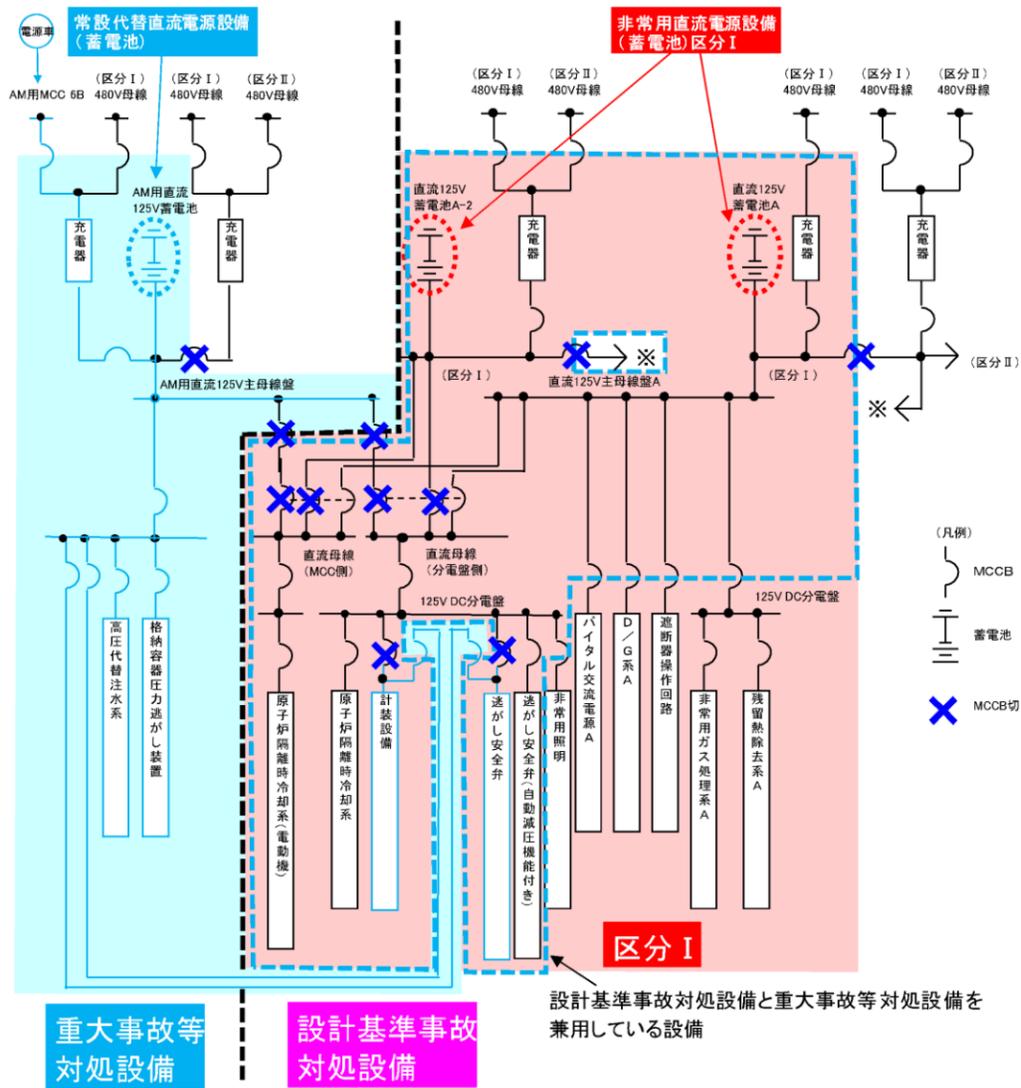
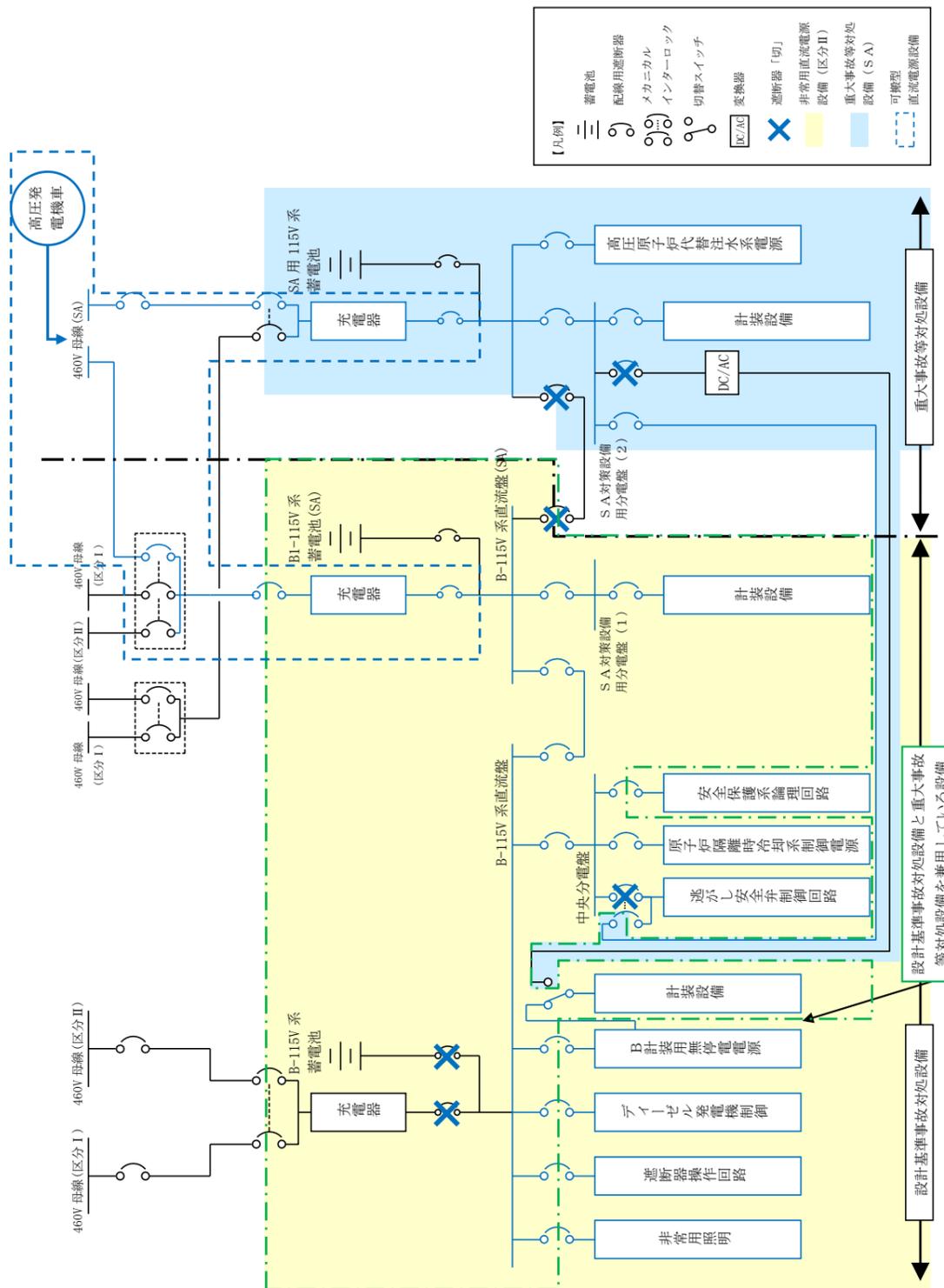


図 57-3-18 可搬型直流電源設備系統図(直流系統)(6号炉)



第 57-3-19 図 可搬型直流電源設備系統図 (直流 115V 系統)

・設備の相違

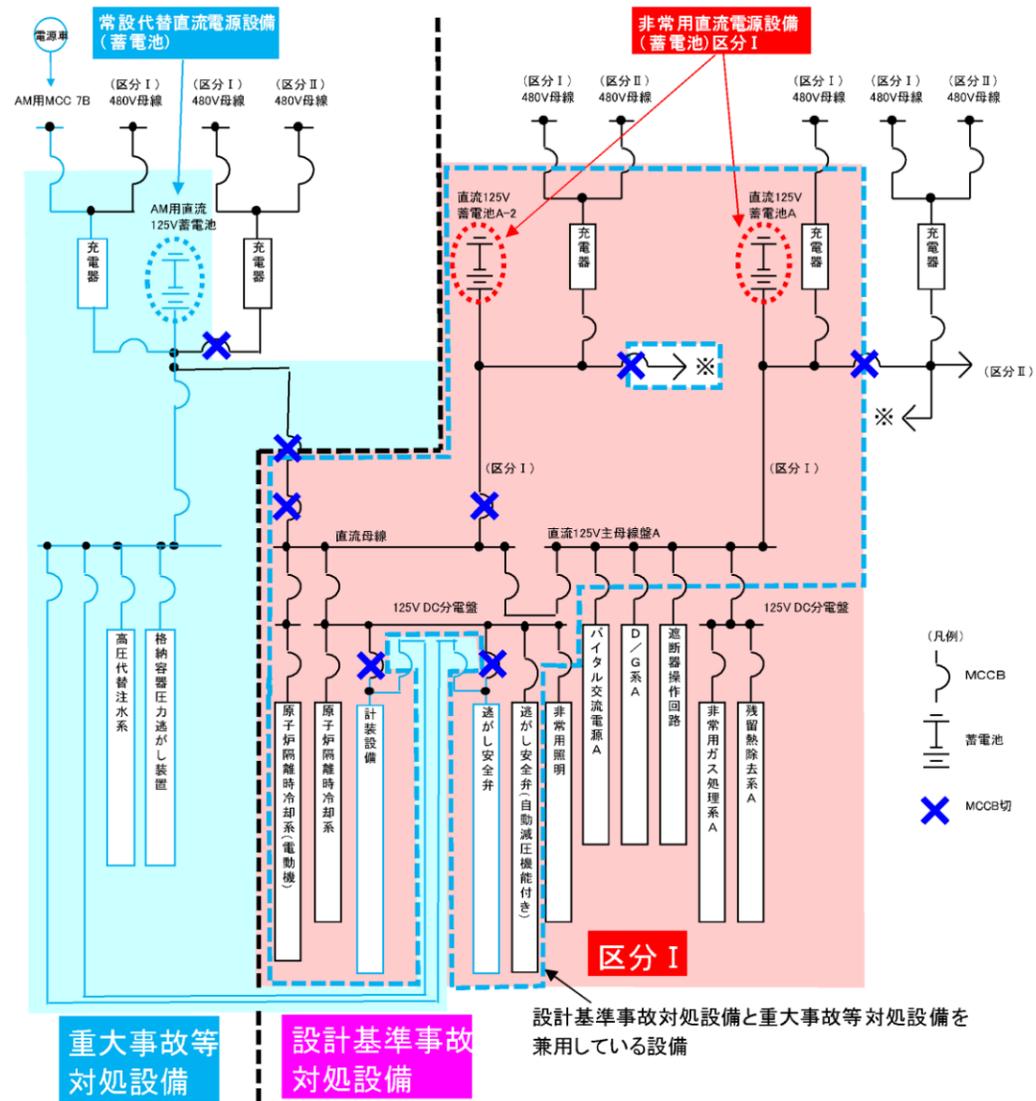
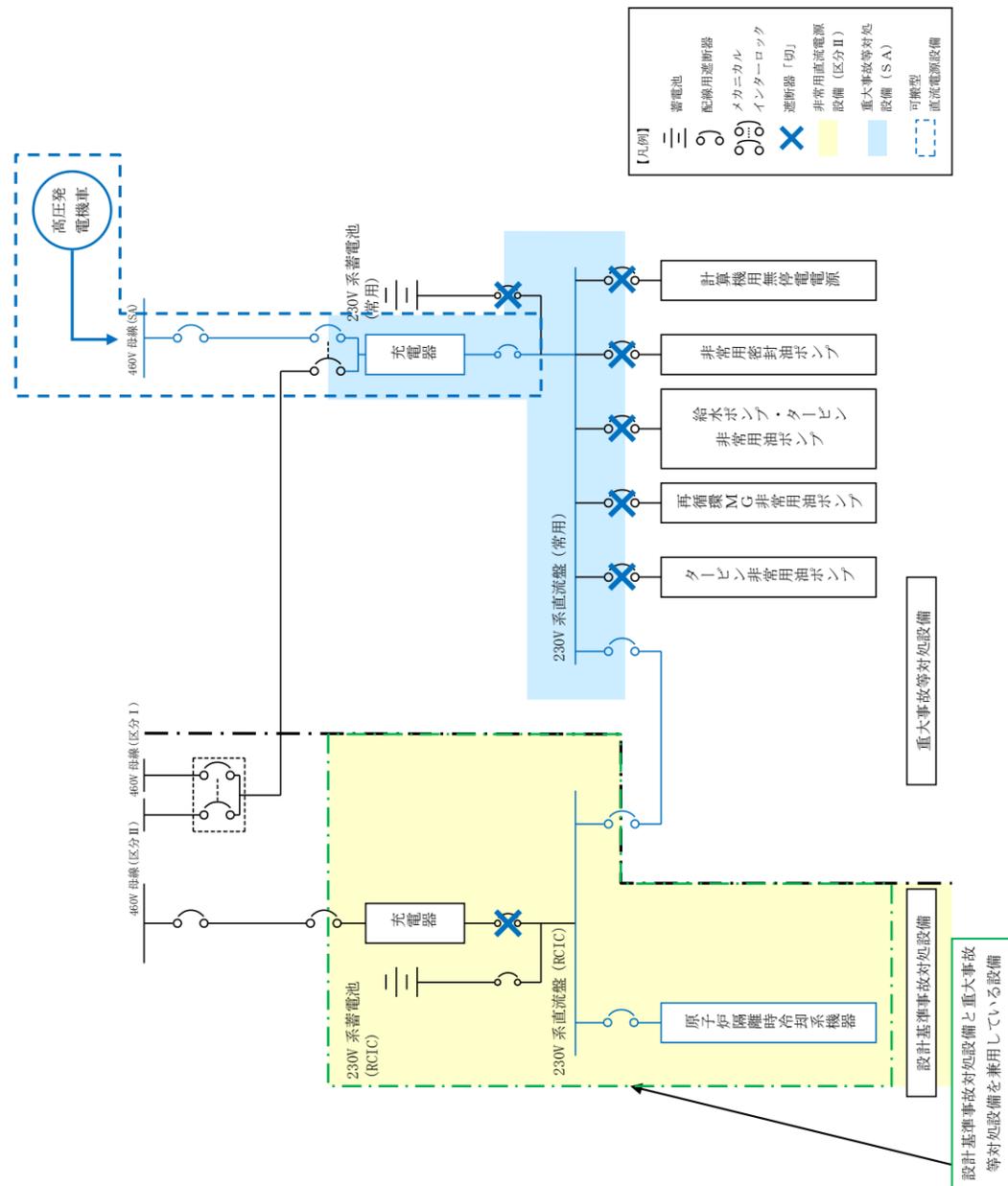
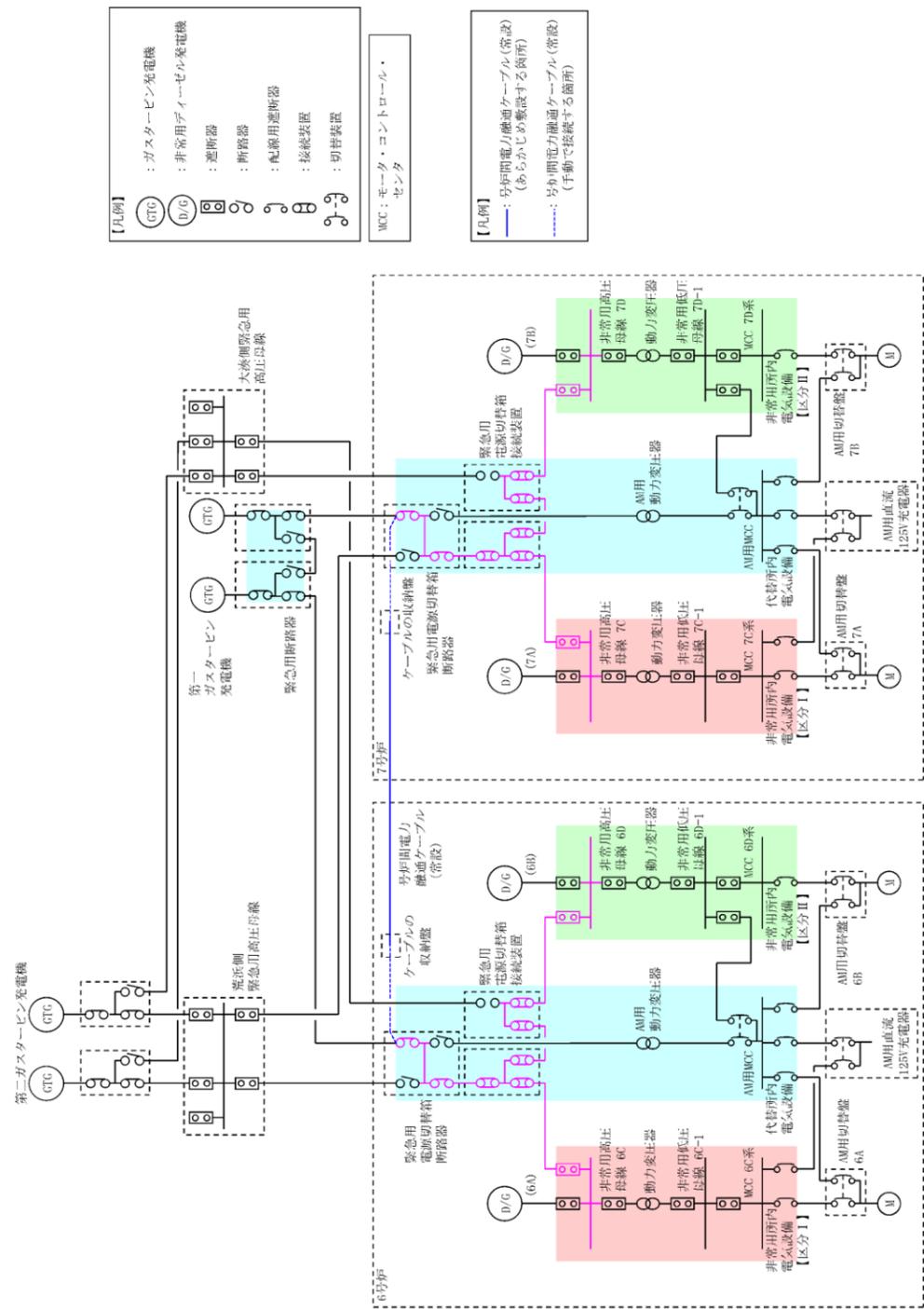


図 57-3-19 可搬型直流電源設備系統図(直流系統) (7号炉)

・設備の相違



・設備の相違



・設備の相違
複数設置号炉ではないため自主設備として整理

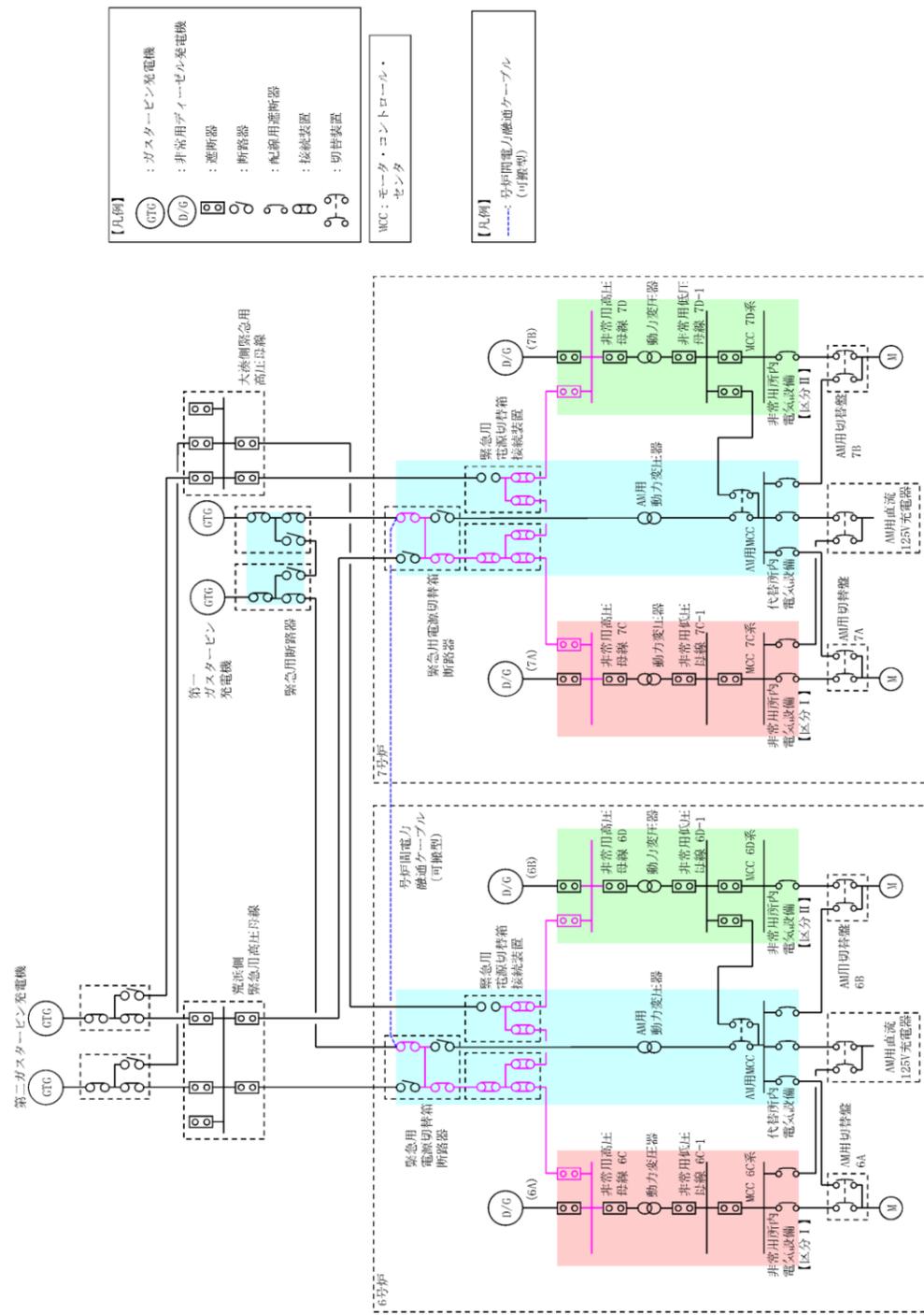


図 57-3-21 号炉間電力融通電気設備系統図
(号炉間電力融通ケーブル(可搬型))

・設備の相違
複数設置号炉ではないため自主設備として整理

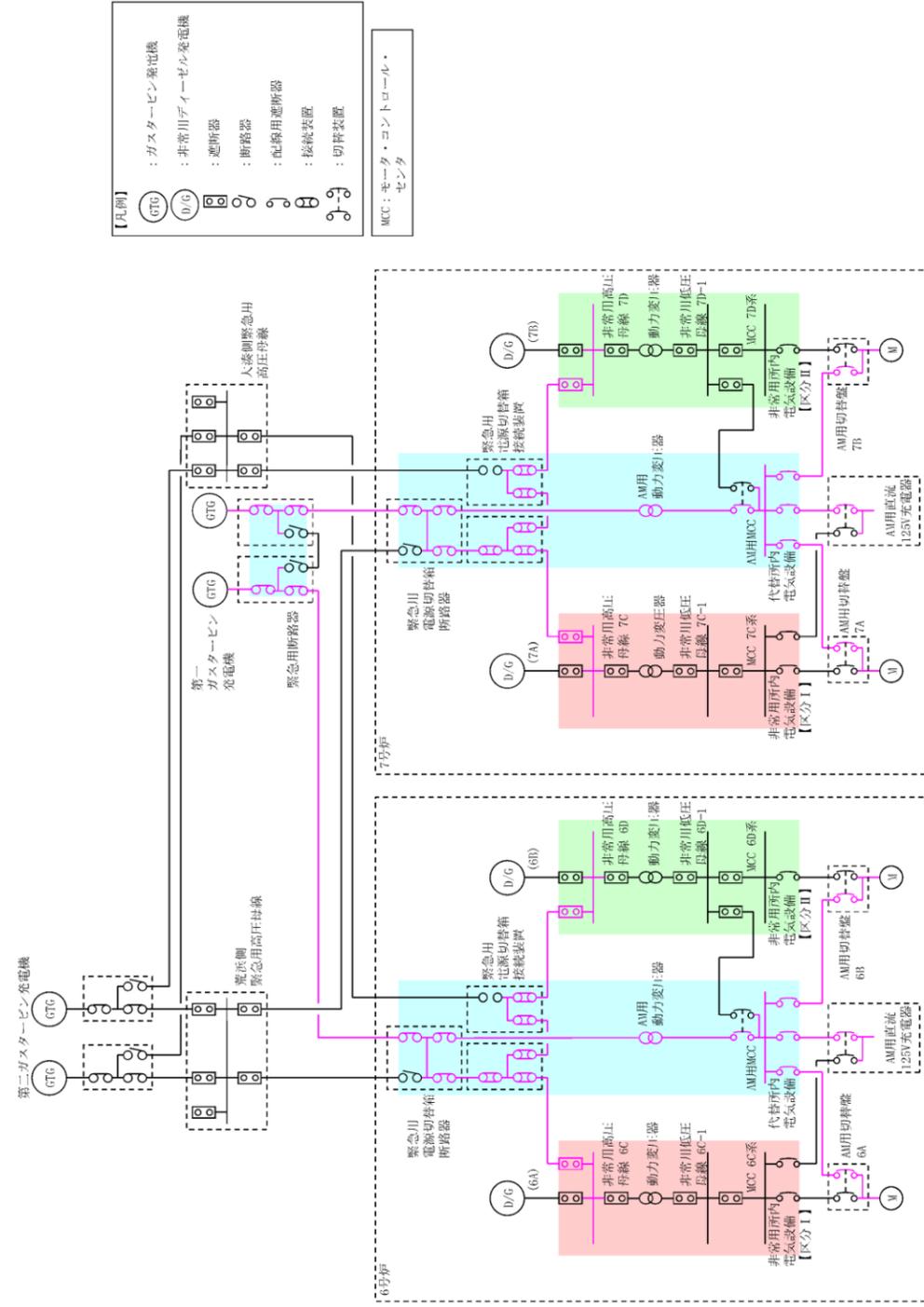
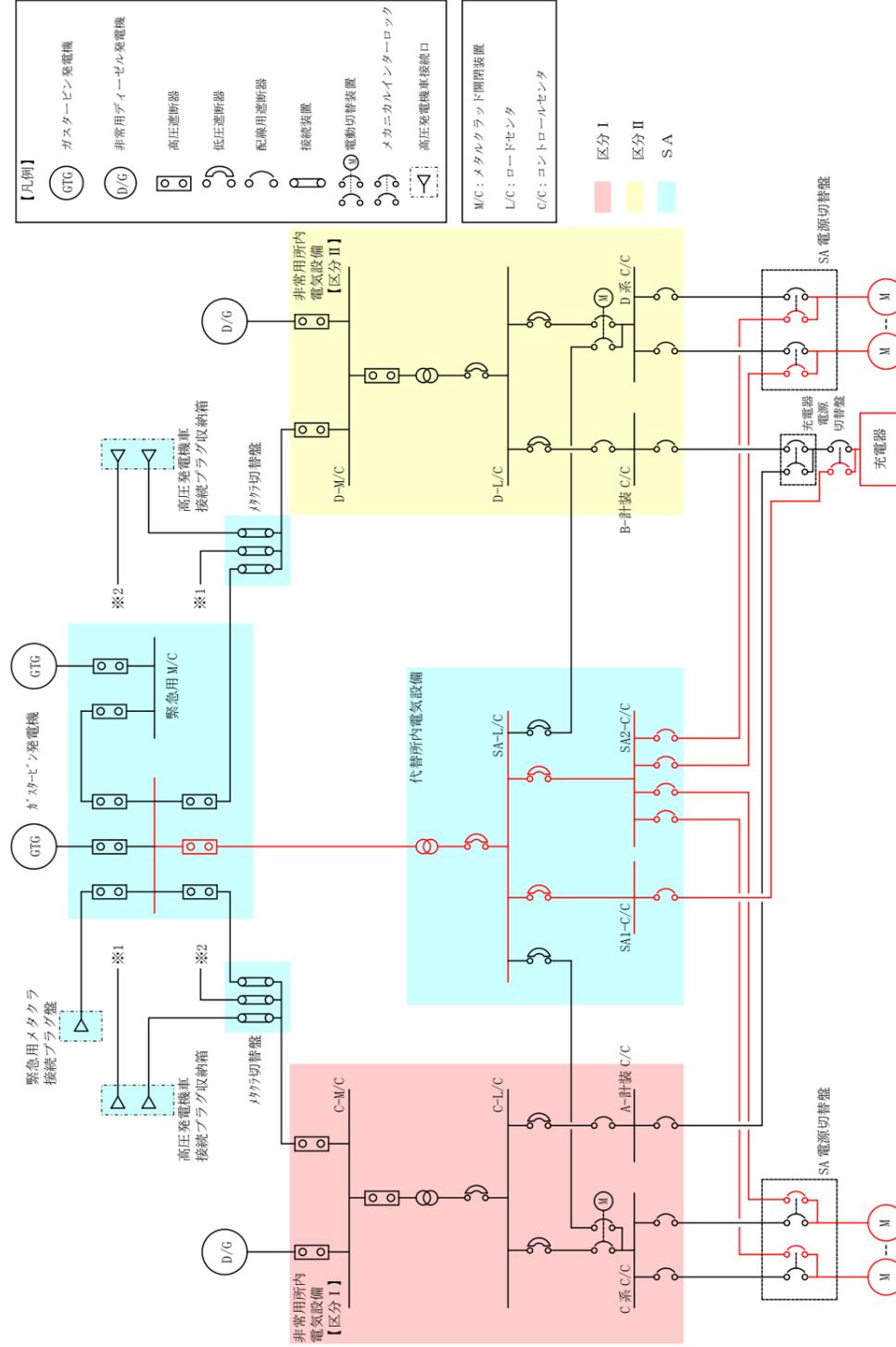


図 57-3-22 代替所内電気設備系統図



第 57-3-21 図 代替所内電気設備系統図

・設備の相違

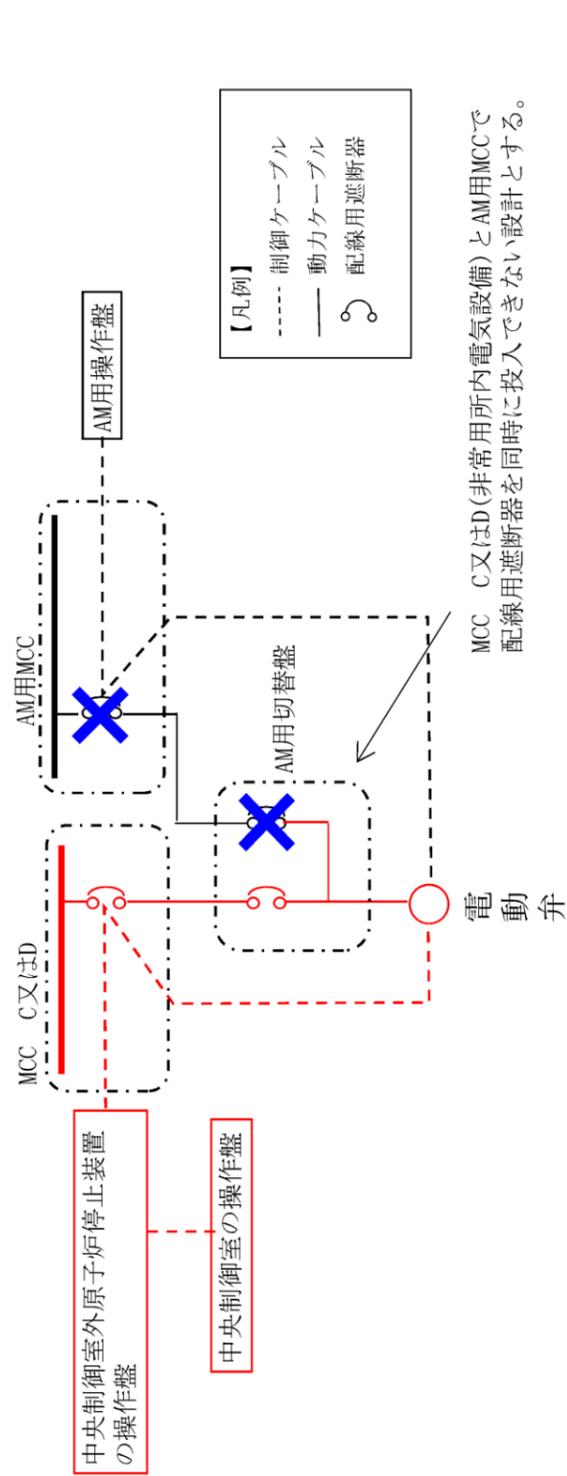
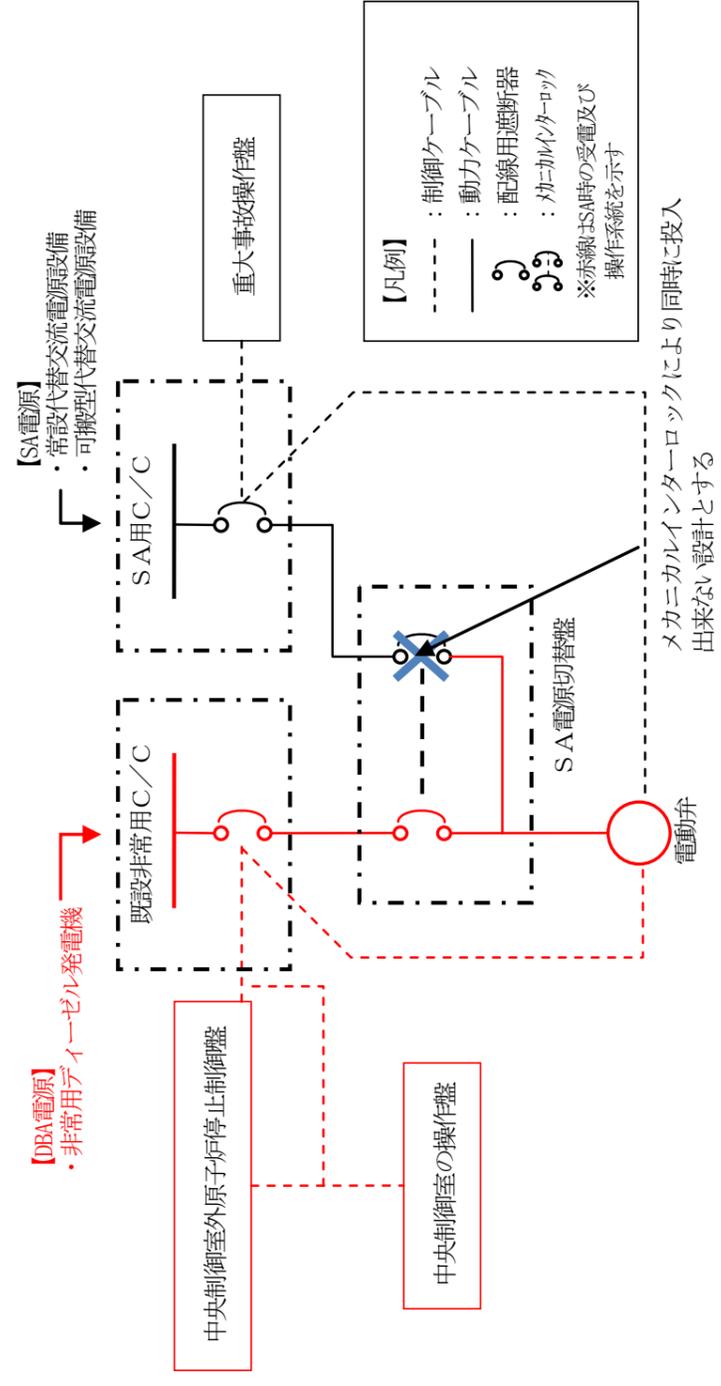
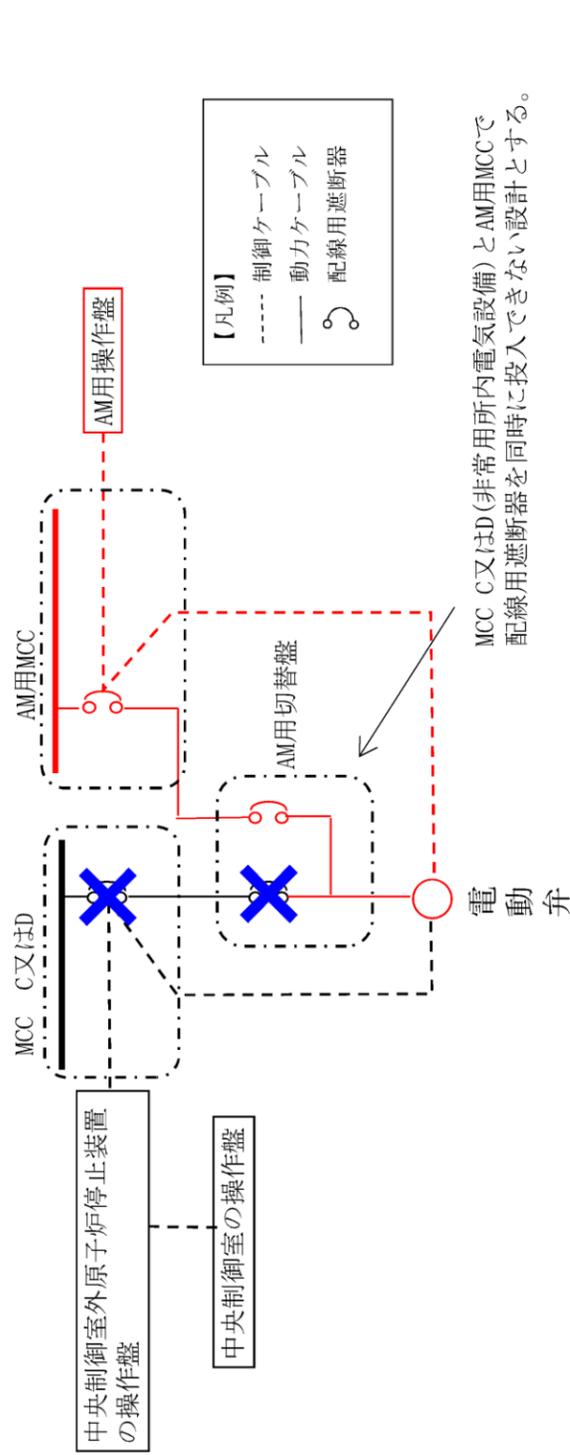


図 57-3-23 AM 用切替盤, AM 用操作盤系統図(MCCC 又は D から電源供給時)



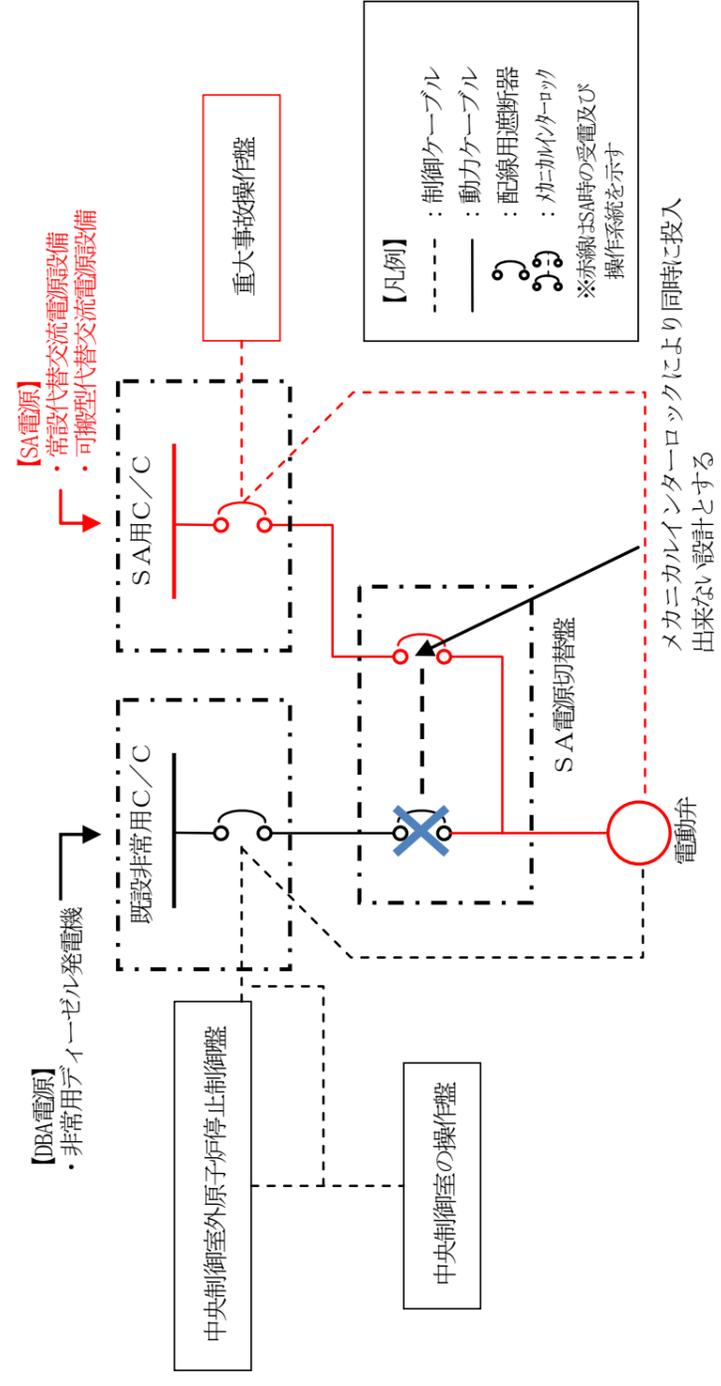
第 57-3-22 図 代替所内電気設備制御回路系統図
 (既設非常用C/Cからの電源供給時)

・設備の相違



MCC : モーター・コントロール・センタ

図 57-3-24AM 用切替盤, AM 用操作盤系統図 (AM 用 MCC から電源供給時)



第 57-3-23 図 代替所内電気設備制御回路系統図 (SA用C/Cからの電源供給時)

・設備の相違

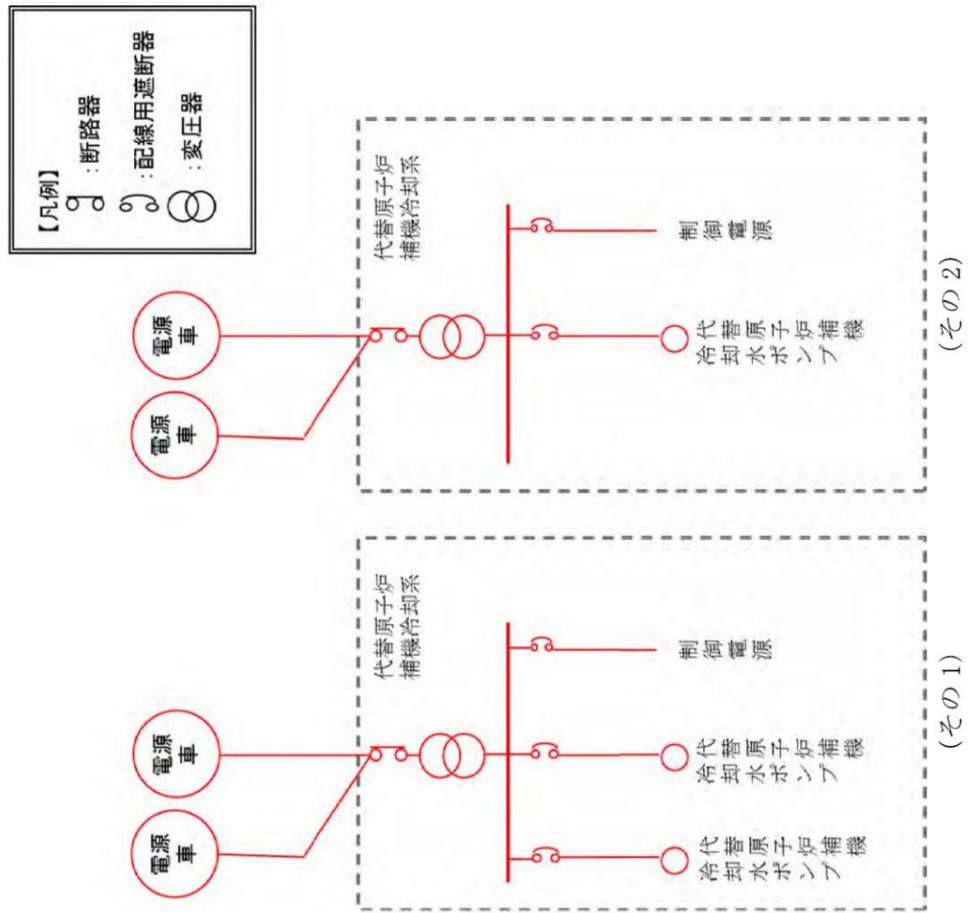


図 57-3-25 代替原子炉補機冷却系系統図

・運用の相違
 原子炉補機代替冷却系に対してガスタービン発電機で電源供給する

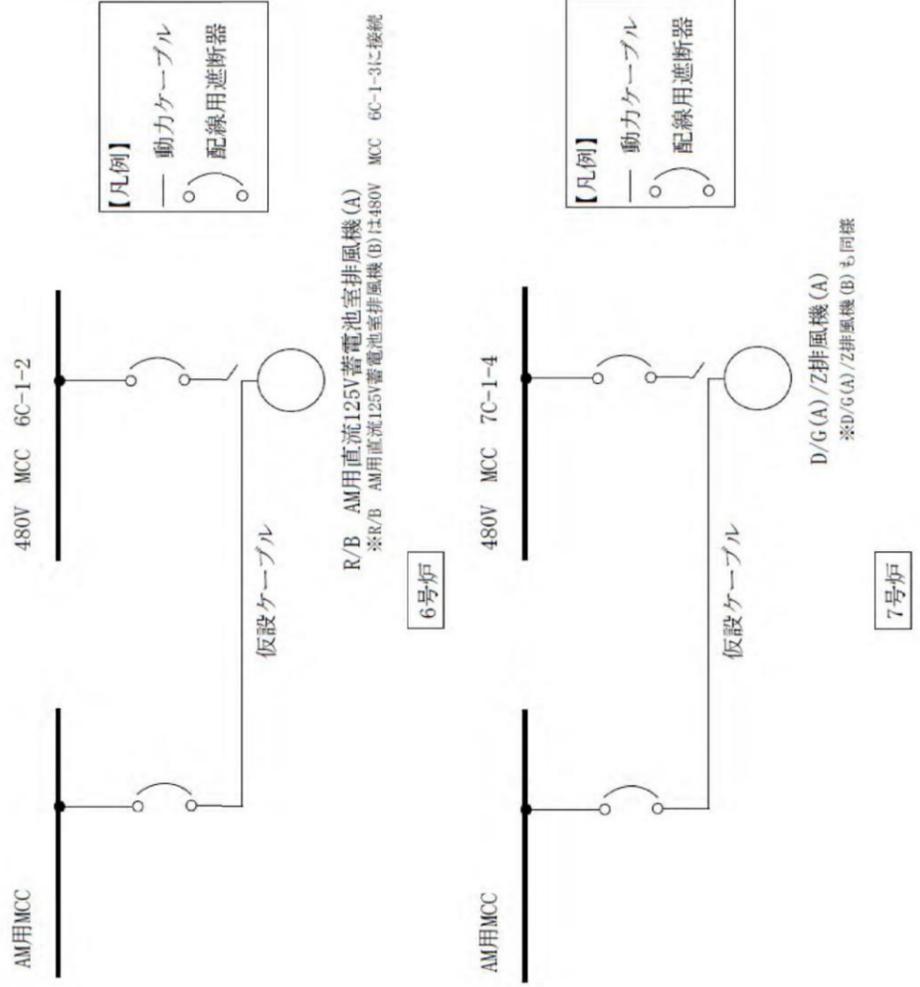


図 57-3-26 蓄電池室空調機系統図(AM用MCCから電源供給時)

・設備の相違

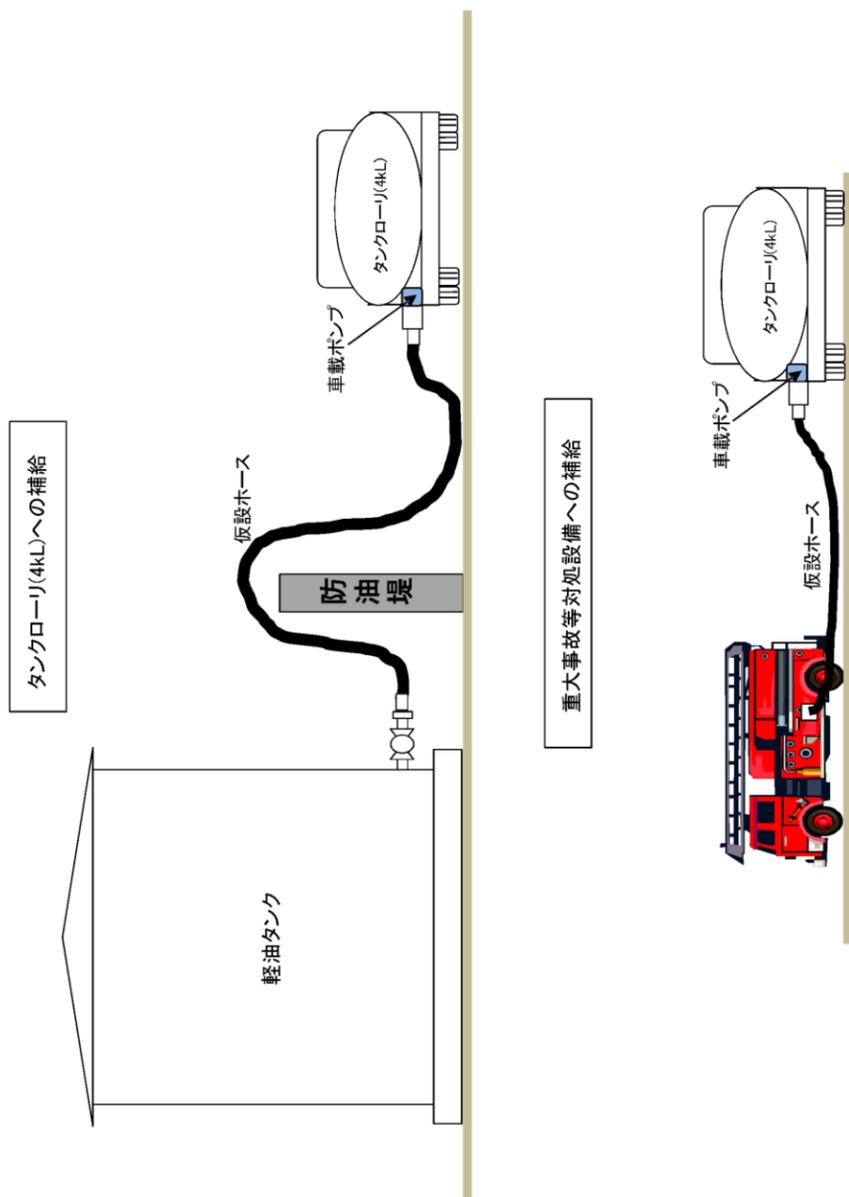
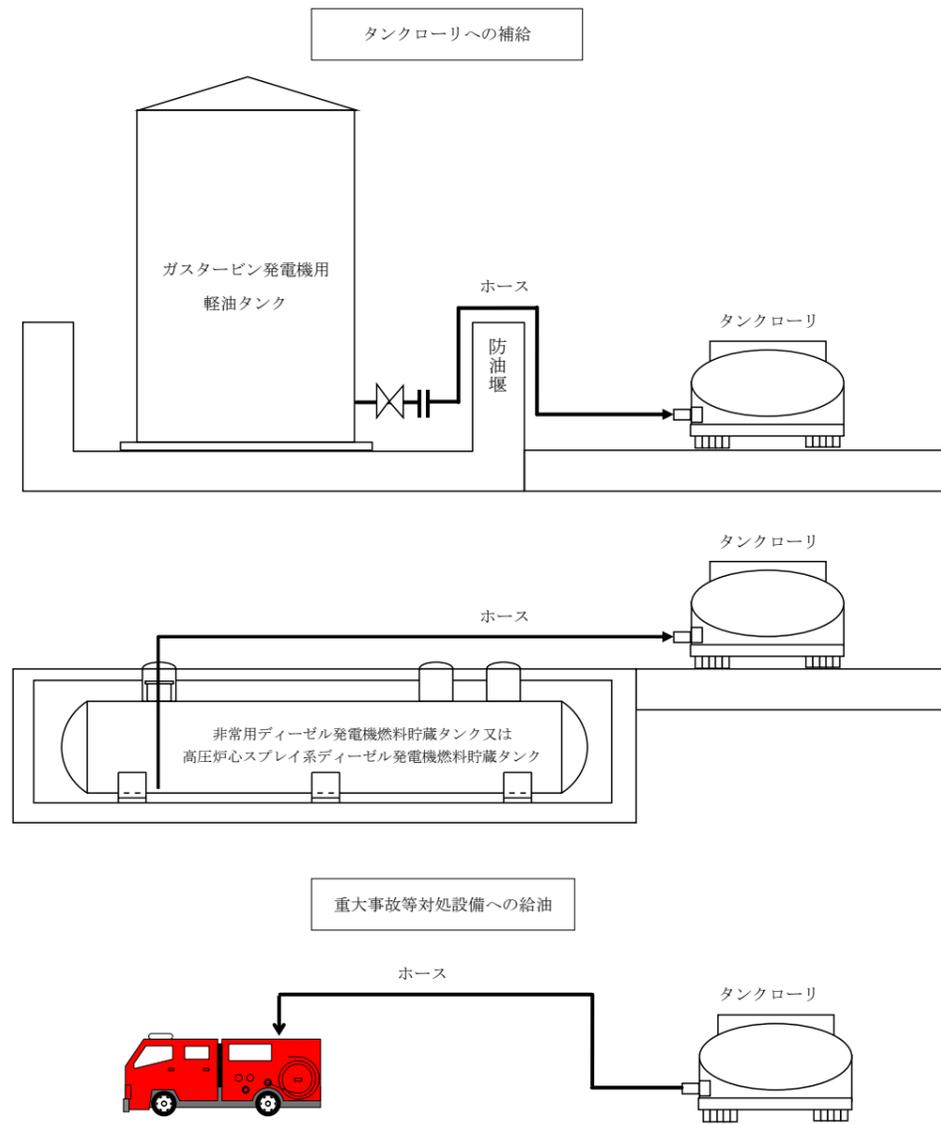


図 57-3-27 燃料補給設備系統図



第 57-3-24 図 燃料補給設備系統図

・設備の相違

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
57-4 試験及び検査	57-4 試験及び検査	

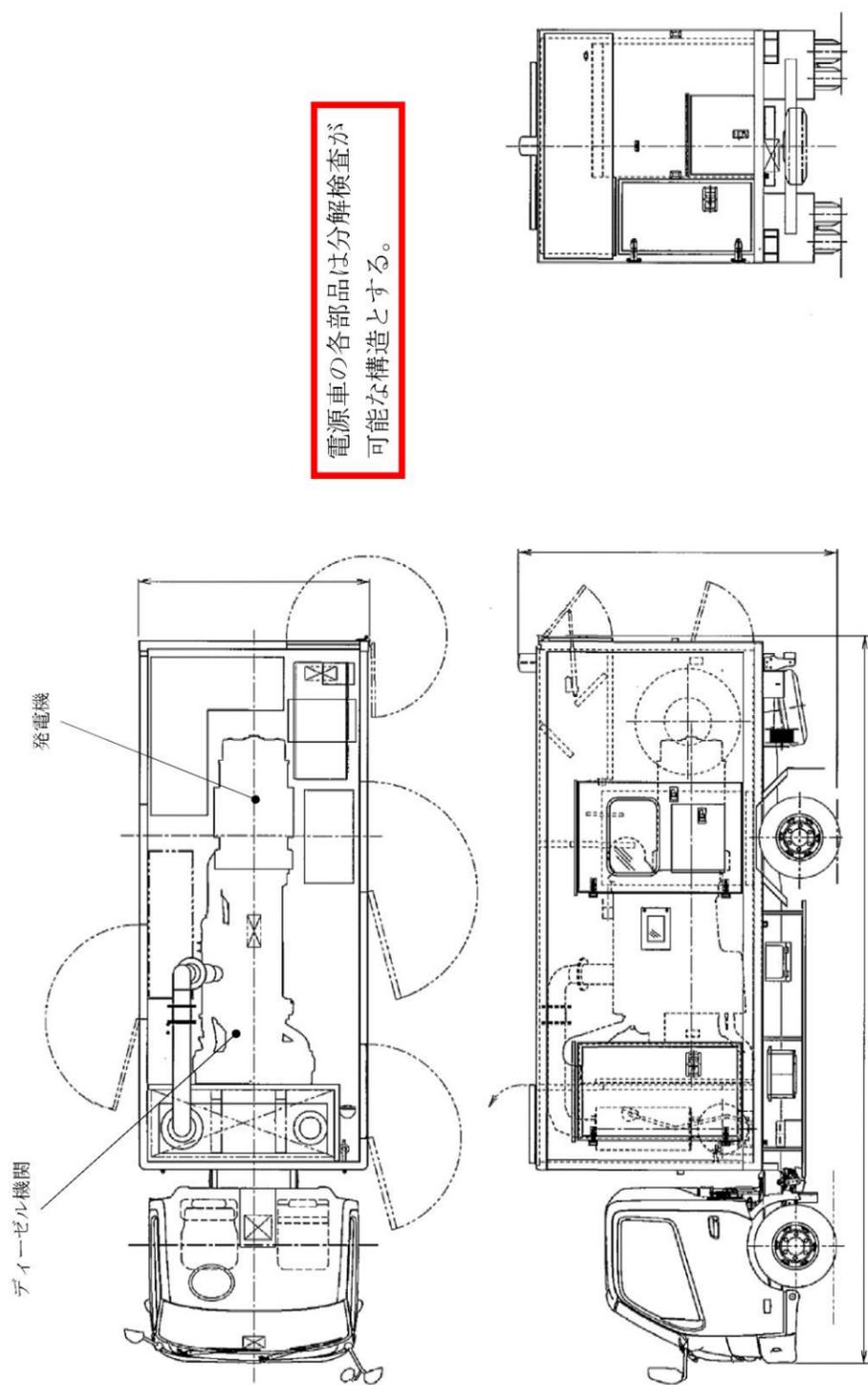
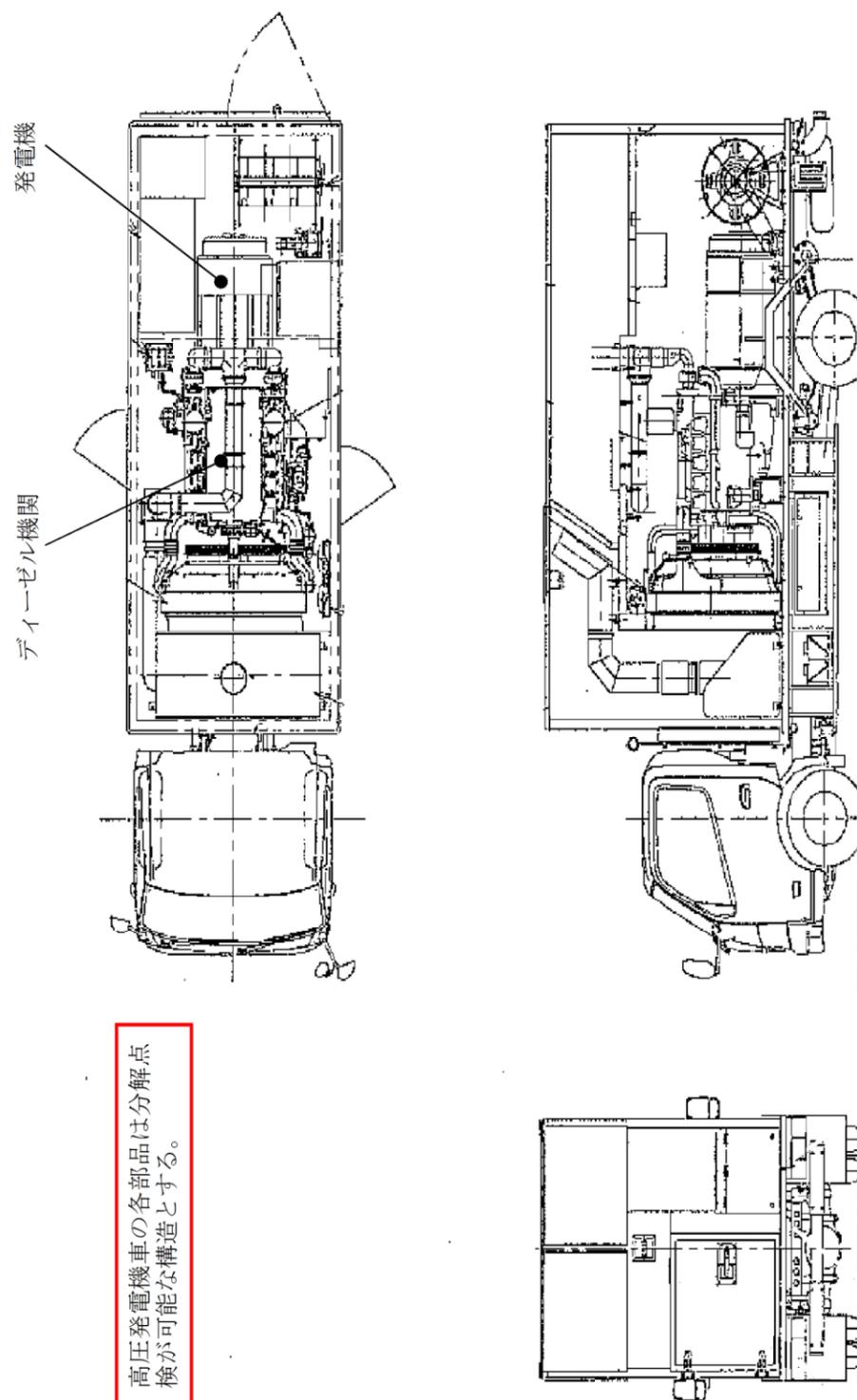
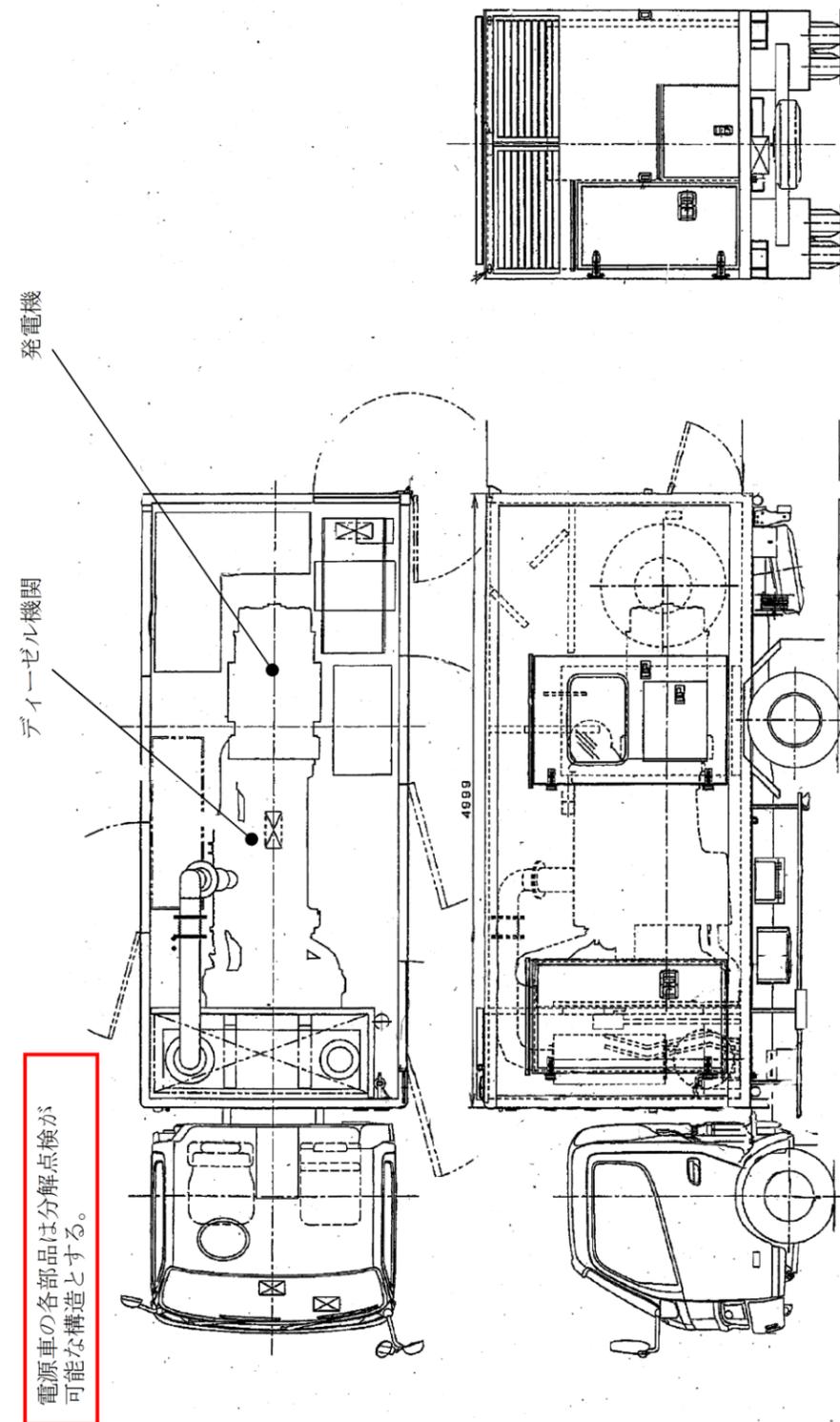


図 57-4-1 電源車構造図



第 57-4-1 図 高圧発電機車構造図

・設備の相違



第 57-4-2 図 高圧発電機車構造図

・設備の相違

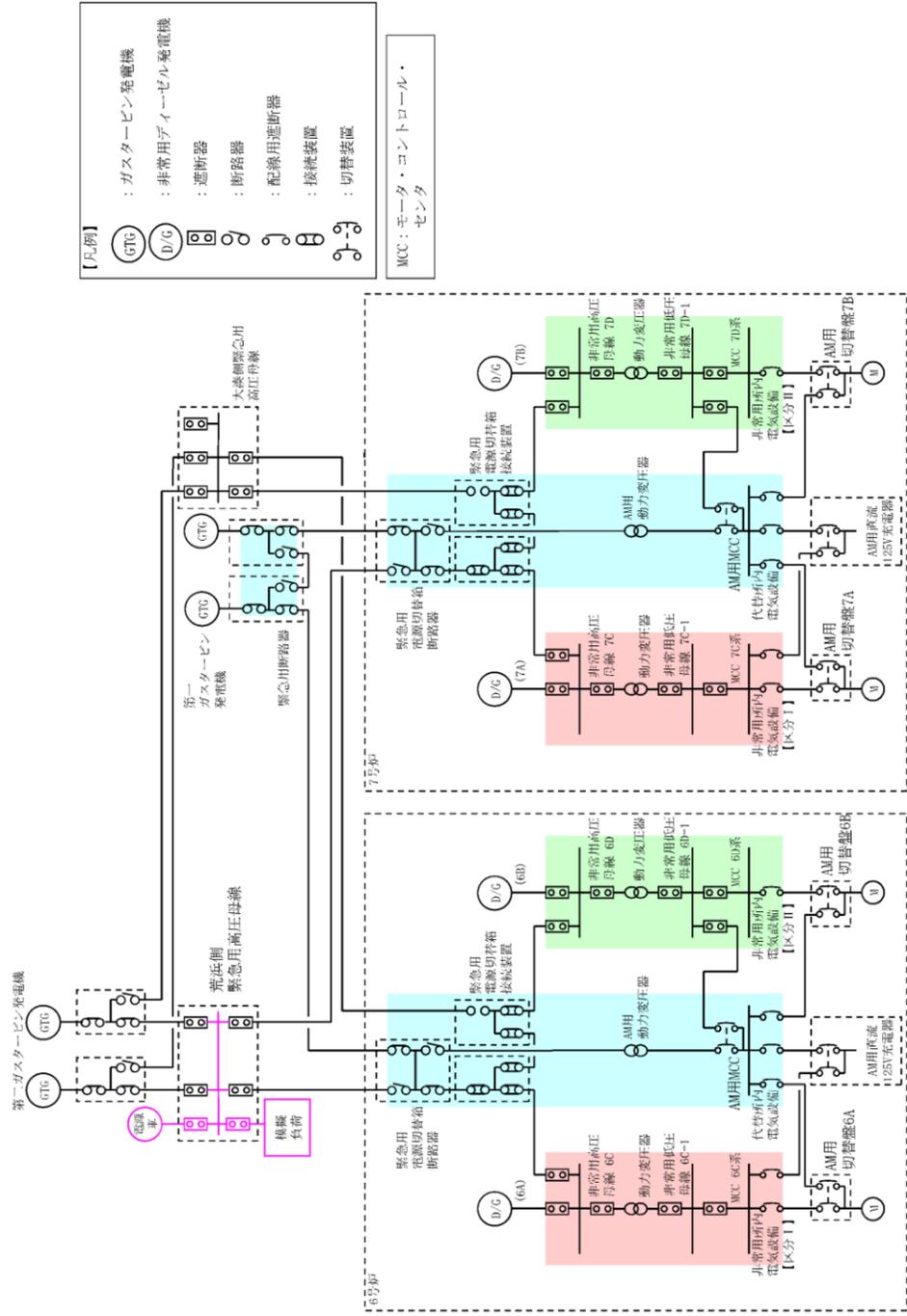
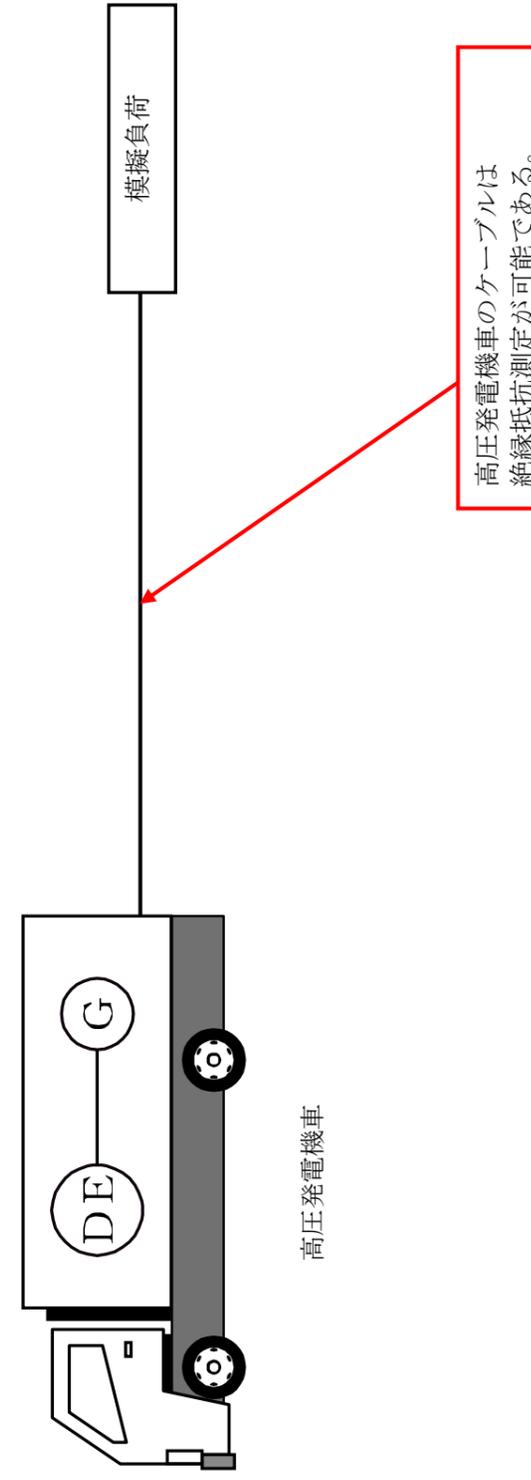


図 57-4-2 電源車試験系統図



第 57-4-3 図 高压発電機車試験系統図

・設備の相違

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p data-bbox="261 342 474 369">添付書類三 保全計画</p> <p data-bbox="468 470 893 695">柏崎刈羽原子力発電所 第6号機 保全計画 (第10保全サイクル)</p> <hr data-bbox="195 747 1187 779"/>		<p data-bbox="2436 212 2591 239">・設備の相違</p>

・設備の相違

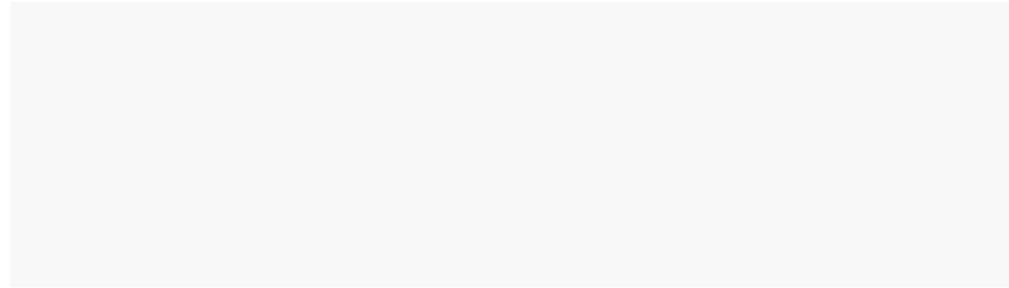
柏崎刈羽原子力発電所第6号機 点検計画

機器又は系統名	実機数(機号名)	保全の重要度	点検及び試験・検査の項目	保全方式または頻度	検査名	備考 ()内は適用する設備取替技術
非常用ディーゼル機関(A) 軽油タンク		A	燃焼点検	10C		定検停止中
非常用ディーゼル機関(B) 軽油タンク		A	燃焼点検	10C		定検停止中
直流電源系	直流電源機 1式 ・直流125V充電機 6A, 6B, 6C, 6D ・125V蓄電池(A系) 全数60個 ・125V蓄電池(B系) 全数60個 ・125V蓄電池(C系) 全数60個 ・125V蓄電池(D系) 全数60個	1	機能・性能試験		直流電源系機能検査	定検停止中
	直流125V充電機6A	1	燃焼点検	0.5Y		
	直流125V充電機6B	1	燃焼点検	3.9M		定検停止中
	直流125V充電機6C	1	燃焼点検	0.5Y		
	直流125V充電機6D	1	燃焼点検	3.9M		定検停止中
	直流125V充電機6A	1	燃焼点検	0.5Y		
	直流125V充電機6B	1	燃焼点検	3.9M		定検停止中
	直流125V充電機6C	1	燃焼点検	0.5Y		
	直流125V充電機6D	1	燃焼点検	3.9M		定検停止中
	直流125Vパワーモーター6A, 6B, 6C, 6D	1	燃焼点検	5.2M		定検停止中
	直流125Vモーター6A, 6B, 6C, 6D	1	燃焼点検	4C		定検停止中 (※外機点検 6M)
無停電電源装置	バイタル交流電源装置 6A 1式	1	燃焼点検	2C		定検停止中
			機能・性能試験	2C	無停電電源装置点検	定検停止中
	バイタル交流電源装置 6B 1式	1	燃焼点検	2C		定検停止中
			機能・性能試験	2C	無停電電源装置点検	定検停止中
	バイタル交流電源装置 6C 1式	1	燃焼点検	2C		定検停止中
			機能・性能試験	2C	無停電電源装置点検	定検停止中
	バイタル交流電源装置 6D 1式	1	燃焼点検	2C		定検停止中
			機能・性能試験	2C	無停電電源装置点検	定検停止中
計器	計器 1式 (総合負荷, 保安検定関係, 特別種別電力計)	L, 2, 3	燃焼点検			定検停止中
	継電器 1式	1	燃焼点検	1C, 4C		定検停止中
	主変圧機中性点接地回路 1式	1	燃焼点検	1C		定検停止中
			特性試験	1C	直流機励磁特性確認検査(その6(電気機器分))	定検停止中
電動機	電動機リモトルク 1式	L, 2, 3	燃焼点検	1C		定検停止中
主変圧機	主変圧機 1式	L, C	外観点検, 絶縁抵抗測定	2C, 6Y		定検停止中
			燃焼点検	1C, 6Y		定検停止中
遮断停止系	遮断停止系操作回路	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中
	機室熱除去系操作回路A系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中
	機室熱除去系操作回路B系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中
	高圧炉心注水系操作回路A系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中
	原子炉補給冷却水操作回路A系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中
	原子炉補給冷却水操作回路B系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中
	原子炉補給冷却水操作回路C系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中
	原子炉補給冷却水操作回路D系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中
	可溶性ガス濃度制御系操作回路A系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中
	可溶性ガス濃度制御系操作回路B系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中
	非常系電源設備操作回路C系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中
	非常系電源設備操作回路D系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中
補助ボイラー(4C)	補助ボイラー(4C)	2	燃焼点検	2.5M※		中補助ボイラー設置の運転開始による変更
			非破壊試験	B	補助ボイラー点検	
			特性試験	B		
			漏えい試験	B	補助ボイラー点検	
			保安装置試験	B	補助ボイラー試験	
			負荷試験	B	補助ボイラー試験	

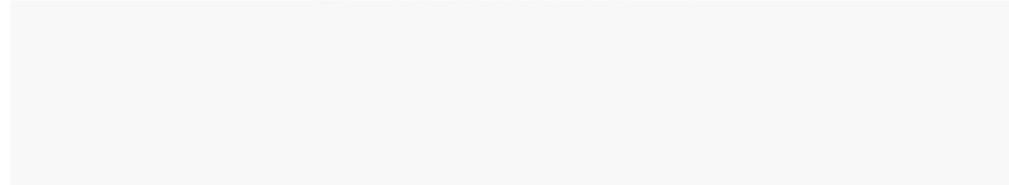
柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017.12.20版)

島根原子力発電所 2号炉

備考



柏崎刈羽原子力発電所
第7号機
保全計画
(第10保全サイクル)

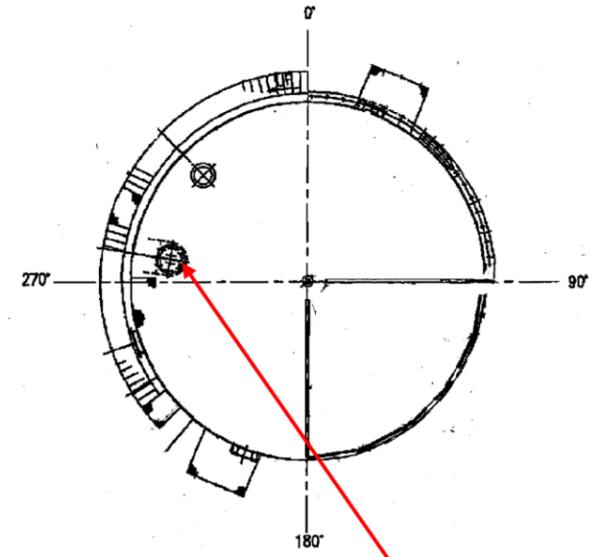


・設備の相違

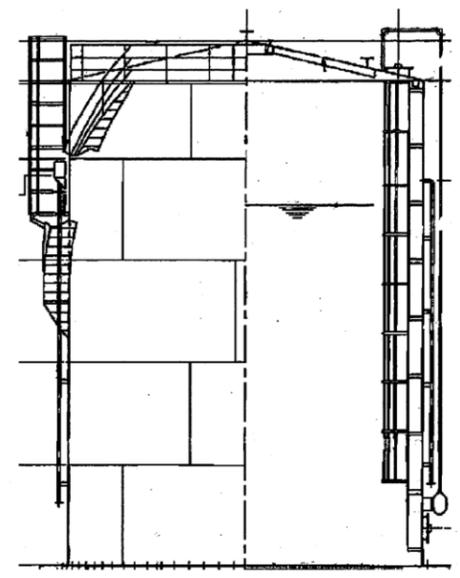
・設備の相違

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 点検計画

機種又は系統名	実機名(機種名)	検査の 重要度	点検及び試験・検査 の項目	検査方式 または規定	点検の 実施計画	計画 実施時期 (年度)	検査名	備 考 ()内は適用する設備の相違	
	非常用ディーゼル機関 (C) クランク駆動弁 3台	1	分解点検	130M	○	—	—	点検停止中	
			機能・性能試験	B	○	—	非常用ディーゼル機関検査(その1)	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (A) 潤滑装置	1	分解点検	6.5M	—	8回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.45の反映	
			検査点検 (潤滑油交換)	1.3M	○	9回	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (B) 潤滑装置	1	分解点検	6.5M	○	6回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.45の反映	
			検査点検 (潤滑油交換)	1.3M	—	9回	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (C) 潤滑装置	1	分解点検	6.5M	—	7回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.45の反映	
			検査点検 (潤滑油交換)	1.3M	○	9回	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (A) 非常用停止装置 1式	1	分解点検	6.5M	—	8回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.45の反映	
			機能・性能試験	B	—	8回	—	非常用ディーゼル機関検査(その1)	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (B) 非常用停止装置 1式	1	分解点検	6.5M	○	6回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.45の反映	
			機能・性能試験	B	○	6回	—	非常用ディーゼル機関検査(その1)	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (C) 非常用停止装置 1式	1	分解点検	6.5M	—	7回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.45の反映	
			機能・性能試験	B	—	7回	—	非常用ディーゼル機関検査(その1)	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (A) プロセス制御 1式	A, L, 3	特性試験	1C 又は1.3M	○	9回	—	非常用ディーゼル機関検査(その3)	点検停止中
			検査点検	1C 又は1.3M	○	9回	—	非常用ディーゼル機関検査(その3)	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (B) プロセス制御 1式	A, L, 3	特性試験	1C 又は1.3M	○	9回	—	非常用ディーゼル機関検査(その3)	点検停止中
			検査点検	1C 又は1.3M	○	9回	—	非常用ディーゼル機関検査(その3)	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (A) 燃料付燃焼室フィルタ	1	分解点検	130M	—	8回	—	点検停止中	
			機能・性能試験 (フィルタ分解清掃)	1.30M	—	9回	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (B) 燃料付燃焼室フィルタ	1	分解点検	130M	—	9回	—	点検停止中	
			機能・性能試験 (フィルタ分解清掃)	1.30M	○	—	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (C) 燃料付燃焼室フィルタ	1	分解点検	130M	○	—	—	点検停止中	
			機能・性能試験 (フィルタ分解清掃)	1.30M	○	—	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (A) (B) (C) クランク駆動 1式	1	分解点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中	
			検査点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (B) 燃料弁 各18台 (全数)	1	分解点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中	
			検査点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (C) 燃料弁 各18台 (全数)	1	分解点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中	
			検査点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (A) 燃料弁 各18台 (全数)	1	分解点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中	
			検査点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (B) 燃料弁 各18台 (全数)	1	分解点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中	
			検査点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (C) 燃料弁 各18台 (全数)	1	分解点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中	
			検査点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (A) 燃料電線弁, 停止電線弁 3台	1.2	分解点検	9.2M	○	6回	—	点検停止中	
			検査点検	9.2M	○	6回	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (B) 燃料電線弁, 停止電線弁 3台	1.2	分解点検	9.2M	○	6回	—	点検停止中	
			検査点検	9.2M	○	6回	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (C) 燃料電線弁, 停止電線弁 3台	1.2	分解点検	9.2M	○	6回	—	点検停止中	
			検査点検	9.2M	○	6回	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (A) 回転計	1	分解点検	6.5M	—	8回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.47の反映	
			検査点検	6.5M	—	8回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.47の反映	
	非常用ディーゼル機関 (B) 回転計	1	分解点検	6.5M	—	8回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.47の反映	
			検査点検	6.5M	—	8回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.47の反映	
	非常用ディーゼル機関 (C) 回転計	1	分解点検	6.5M	—	8回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.47の反映	
			検査点検	6.5M	—	8回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.47の反映	
	非常用ディーゼル機関 (A) (B) (C) 付帯装置 1式	1	検査点検	1C	○	9回	—	点検停止中	
			分解点検	6.5M	—	8回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.48の反映	
	燃料移送ポンプ (A)	1	分解点検	6.5M	—	8回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.48の反映	
			検査点検	4C	—	9回	—	点検停止中	
	燃料移送ポンプ (B)	1	分解点検	6.5M	○	6回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.48の反映	
			検査点検	4C	○	6回	—	点検停止中	
	燃料移送ポンプ (C)	1	分解点検	6.5M	—	8回	—	点検停止中 検査の有効性評価No.48の反映	
			検査点検	4C	—	7回	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (A) 軽油タンク	A	検査点検	10C	—	8回	—	点検停止中	
			分解点検	10C	—	8回	—	点検停止中	
	非常用ディーゼル機関 (B) 軽油タンク	A	検査点検	10C	—	8回	—	点検停止中	
			分解点検	10C	—	8回	—	点検停止中	
非常用電源系	非常用電源系 1式 ・交流120V単相 7A, 7B, 7C, 7D ・120V単相電圧 (A系) 容量800W ・120V単相電圧 (B系) 容量800W ・120V単相電圧 (C系) 容量800W ・120V単相電圧 (D系) 容量800W ・交流120V単相電圧7A	1	機能・性能試験	1C	○	9回	—	非常用電源系検査	点検停止中
			検査点検	0.5Y	○	2011年度	—	—	



マンホールを設けているため、
内部確認が可能である。



第 57-4-4 図 ガスタービン発電機用軽油タンク構造図

・設備の相違

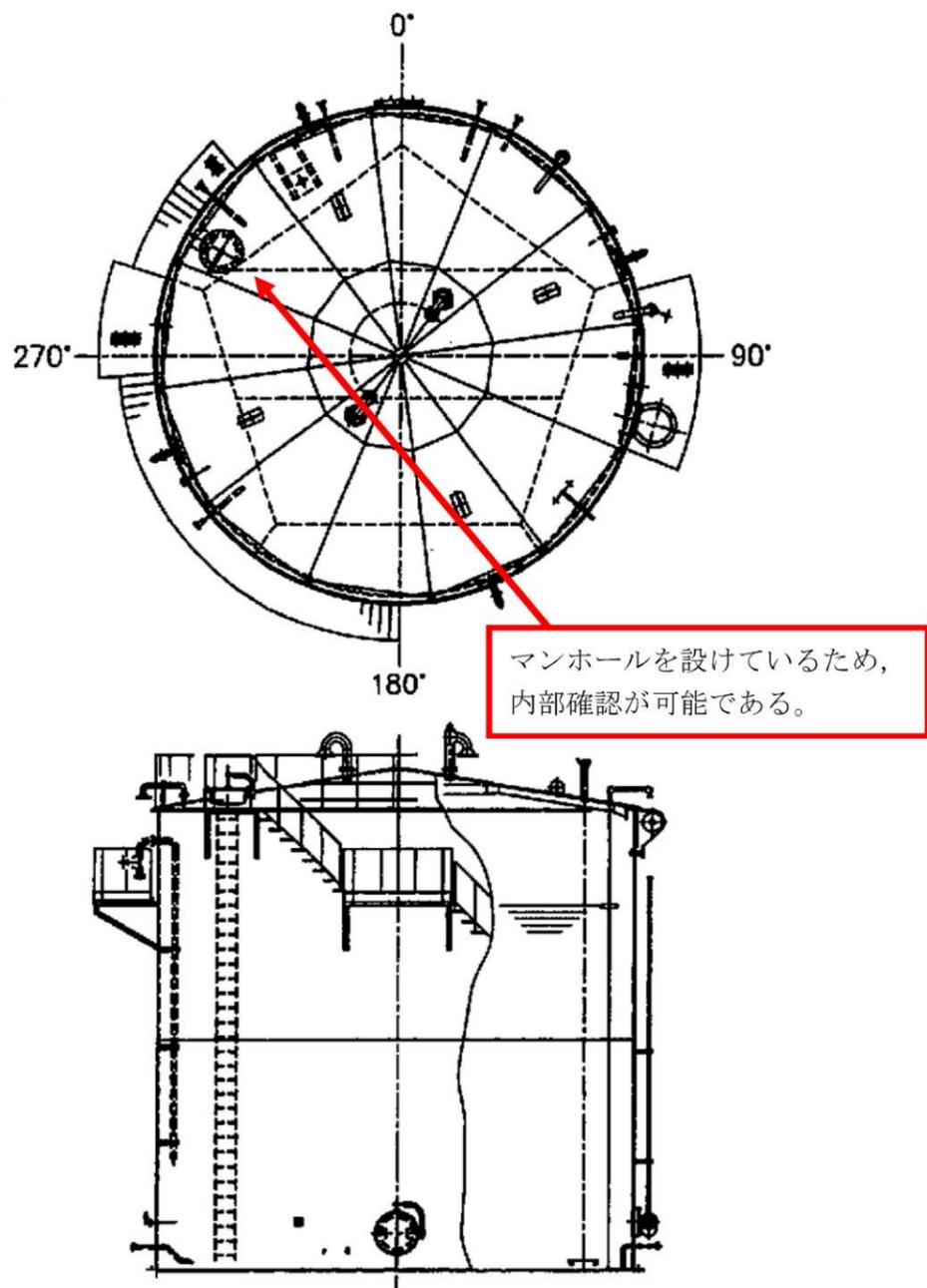
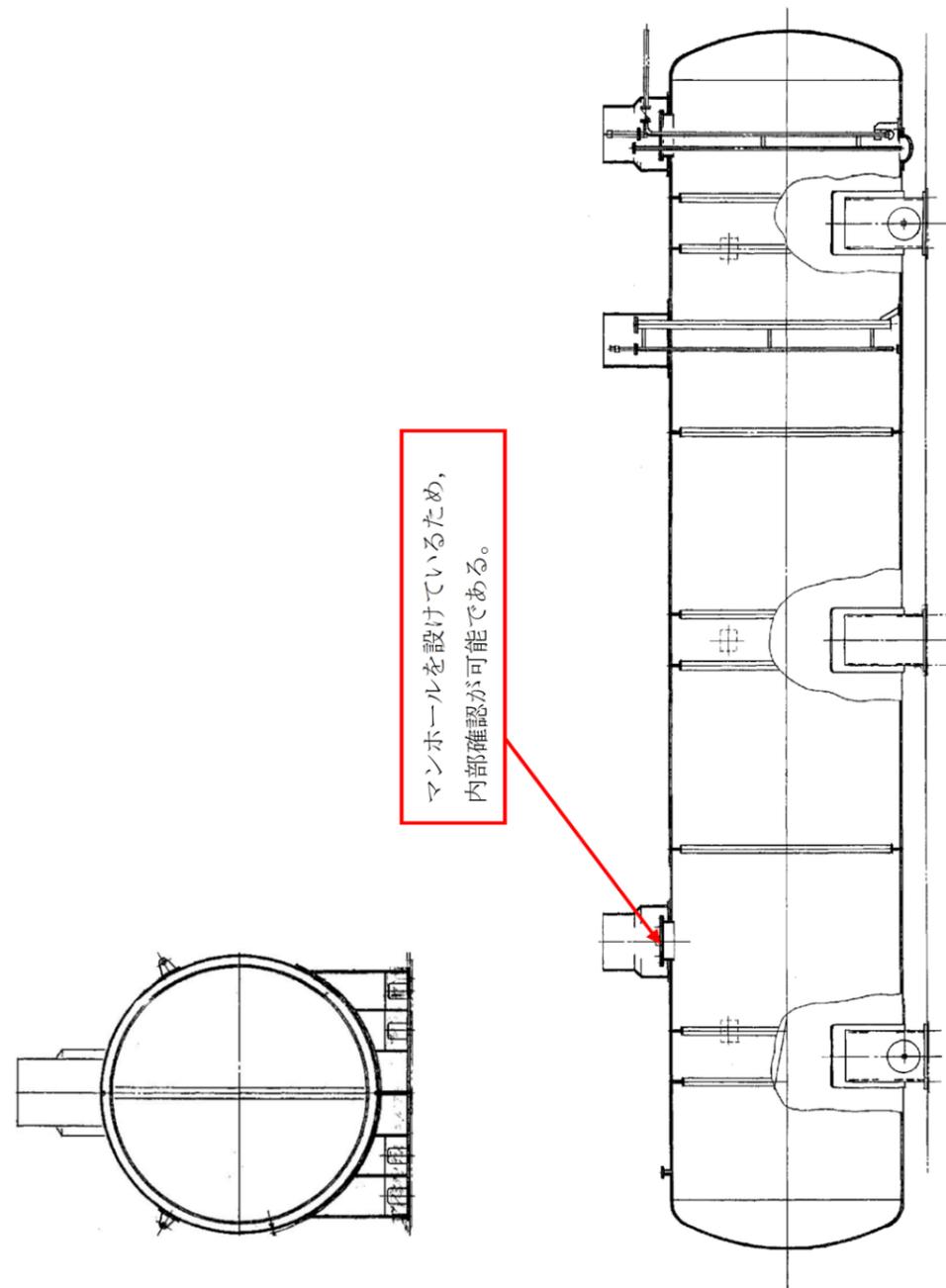
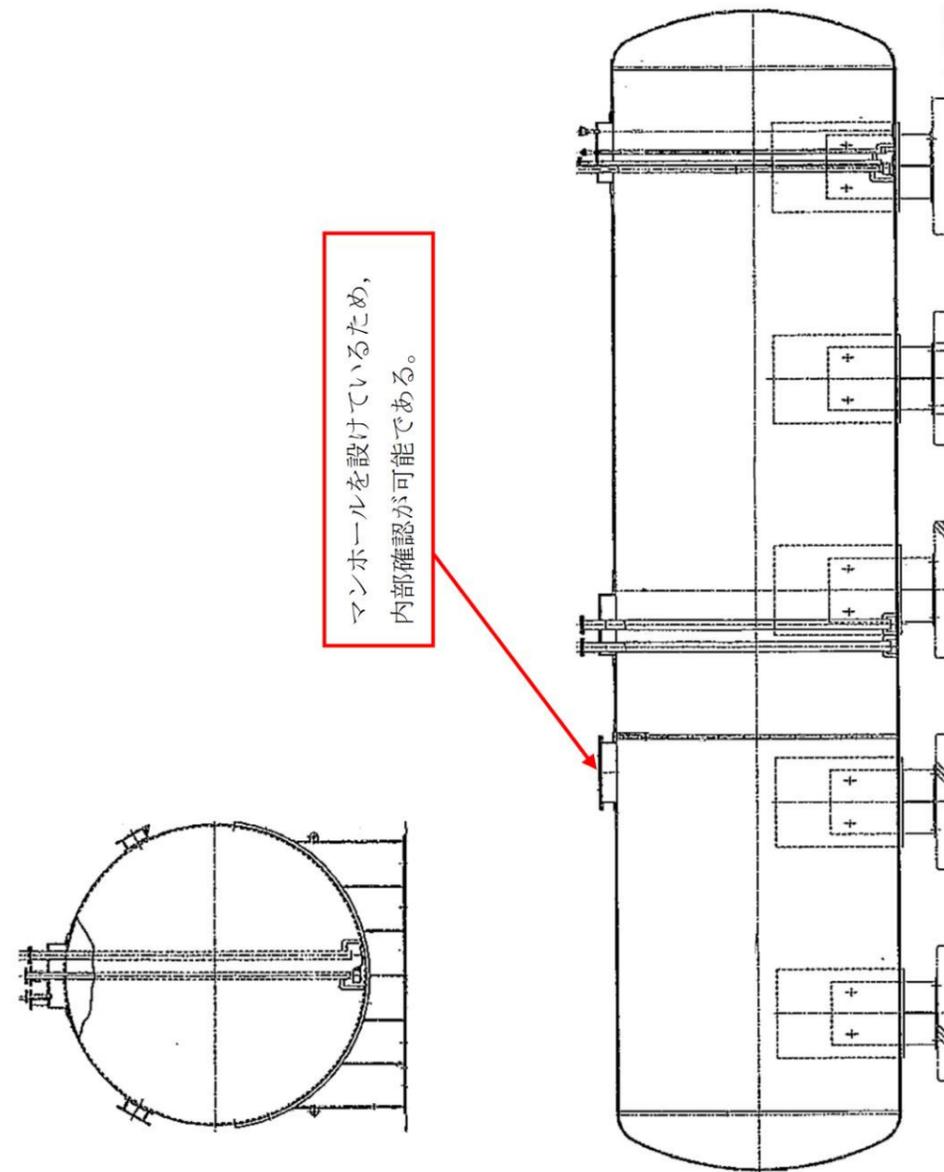


図 57-4-4 軽油タンク構造図



第 57-4-5 図 非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク及び
 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク構造図
 (A-ディーゼル燃料貯蔵タンク, HPCS-ディーゼル燃料貯蔵タンク)

・設備の相違



第57-4-6図 非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク構造図
(B-ディーゼル燃料貯蔵タンク)

・設備の相違

マンホールを設けているため、内部確認が可能である。

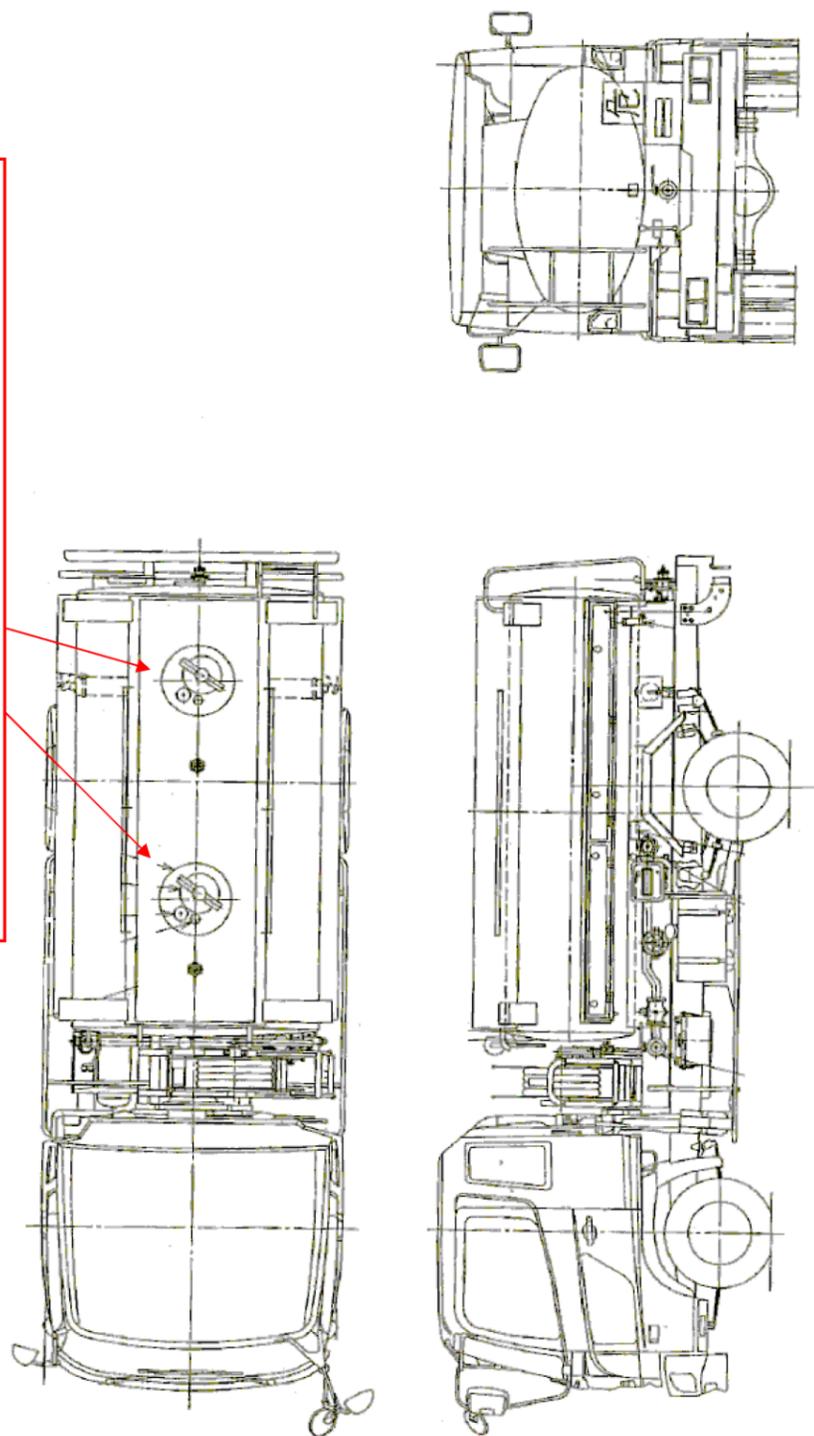
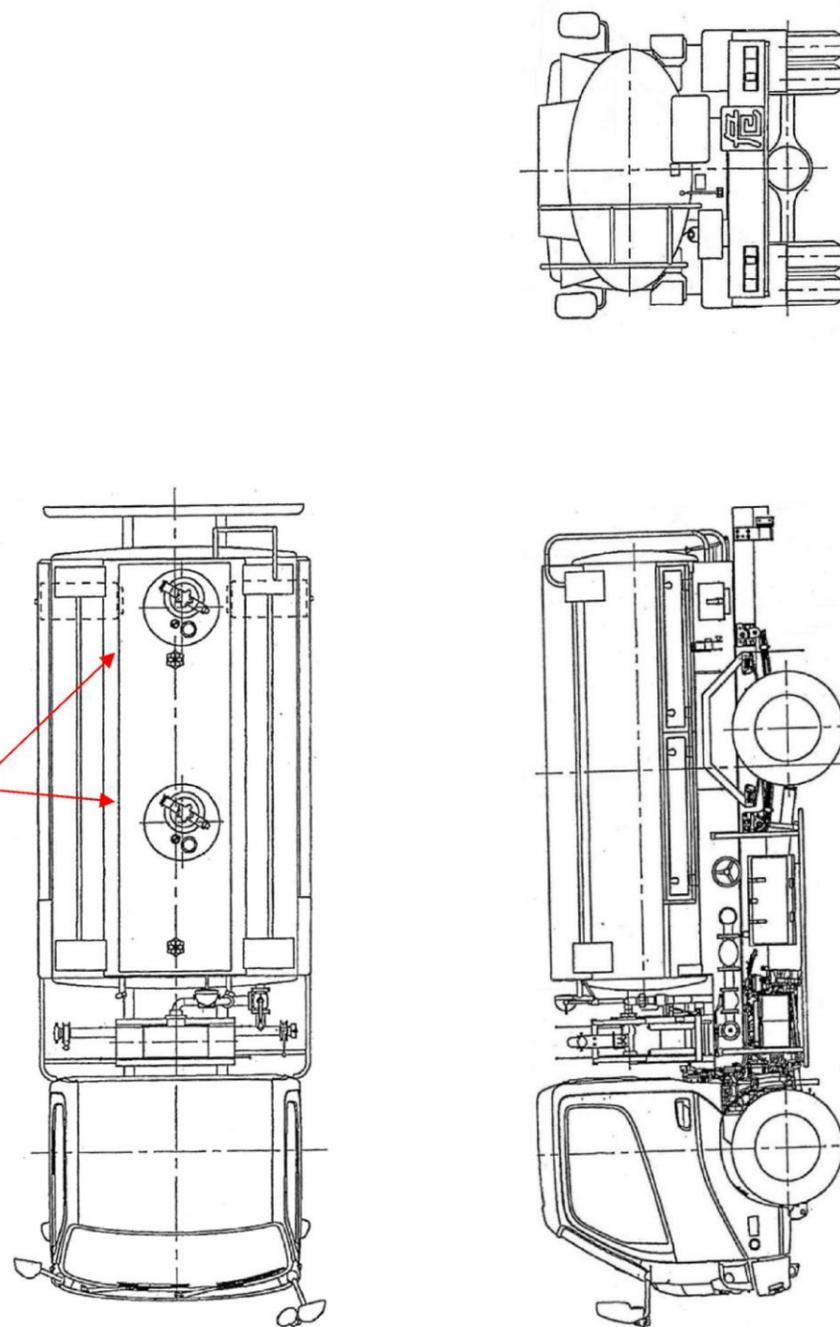


図 57-4-5 タンクローリ (4k L) 構造図

マンホールを設けているため、内部確認が可能である。



第 57-4-7 図 タンクローリ構造

・設備の相違

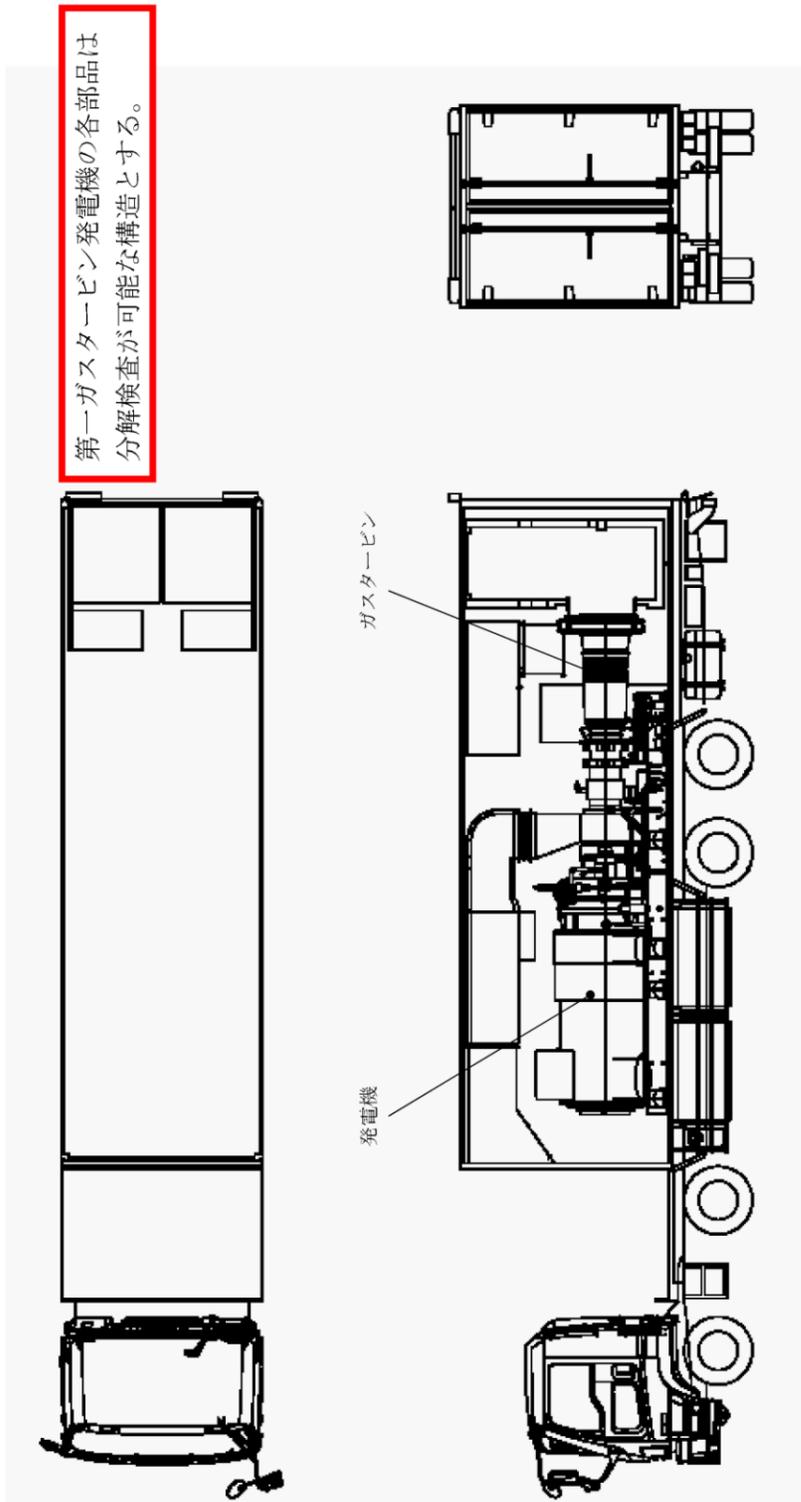
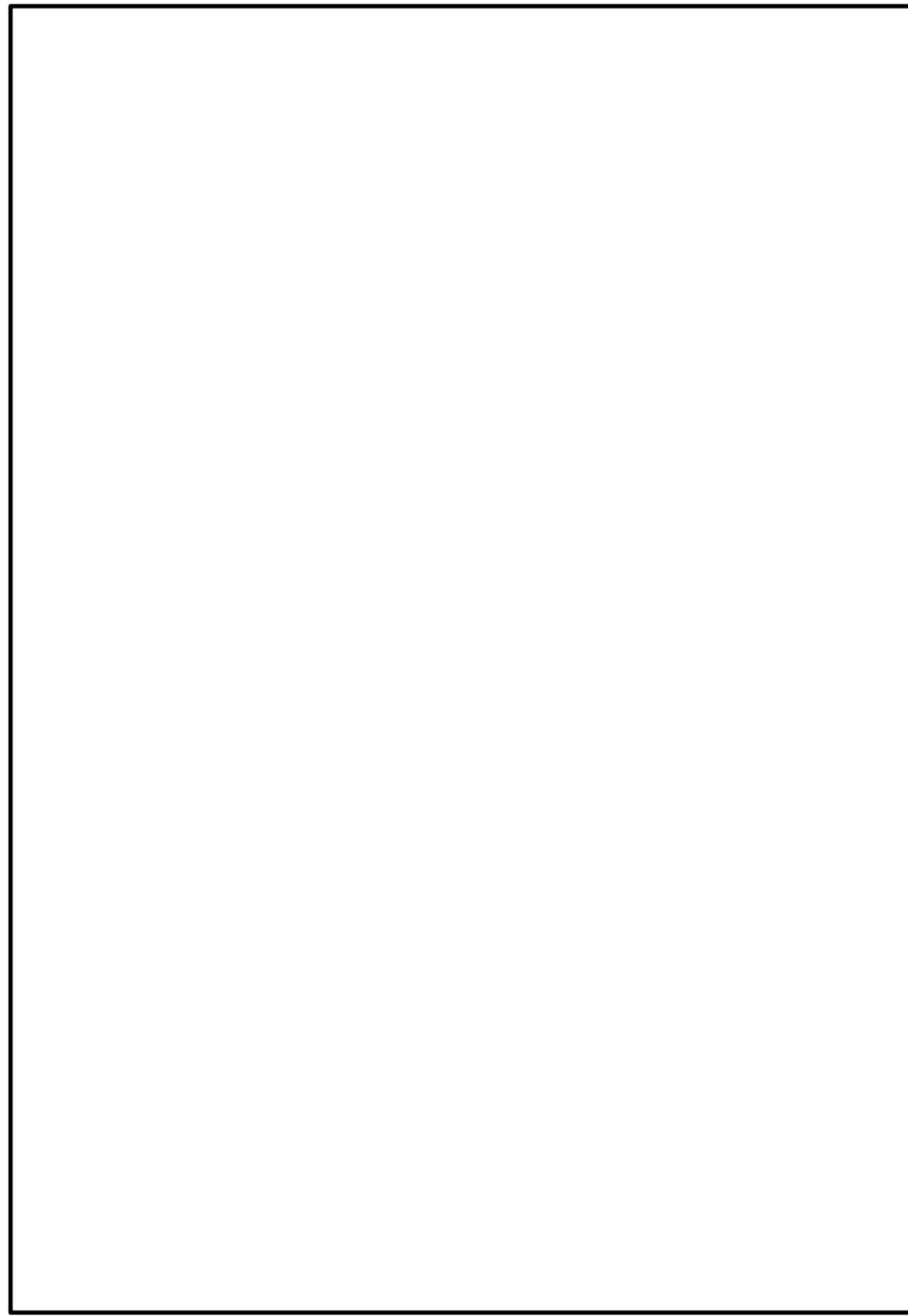


図 57-4-6 第一ガスタービン発電機（発電機車）構造図



第 57-4-8 図 ガスタービン発電機構造図

第一ガスタービン発電機の各部品は分解検査が可能な構造とする。

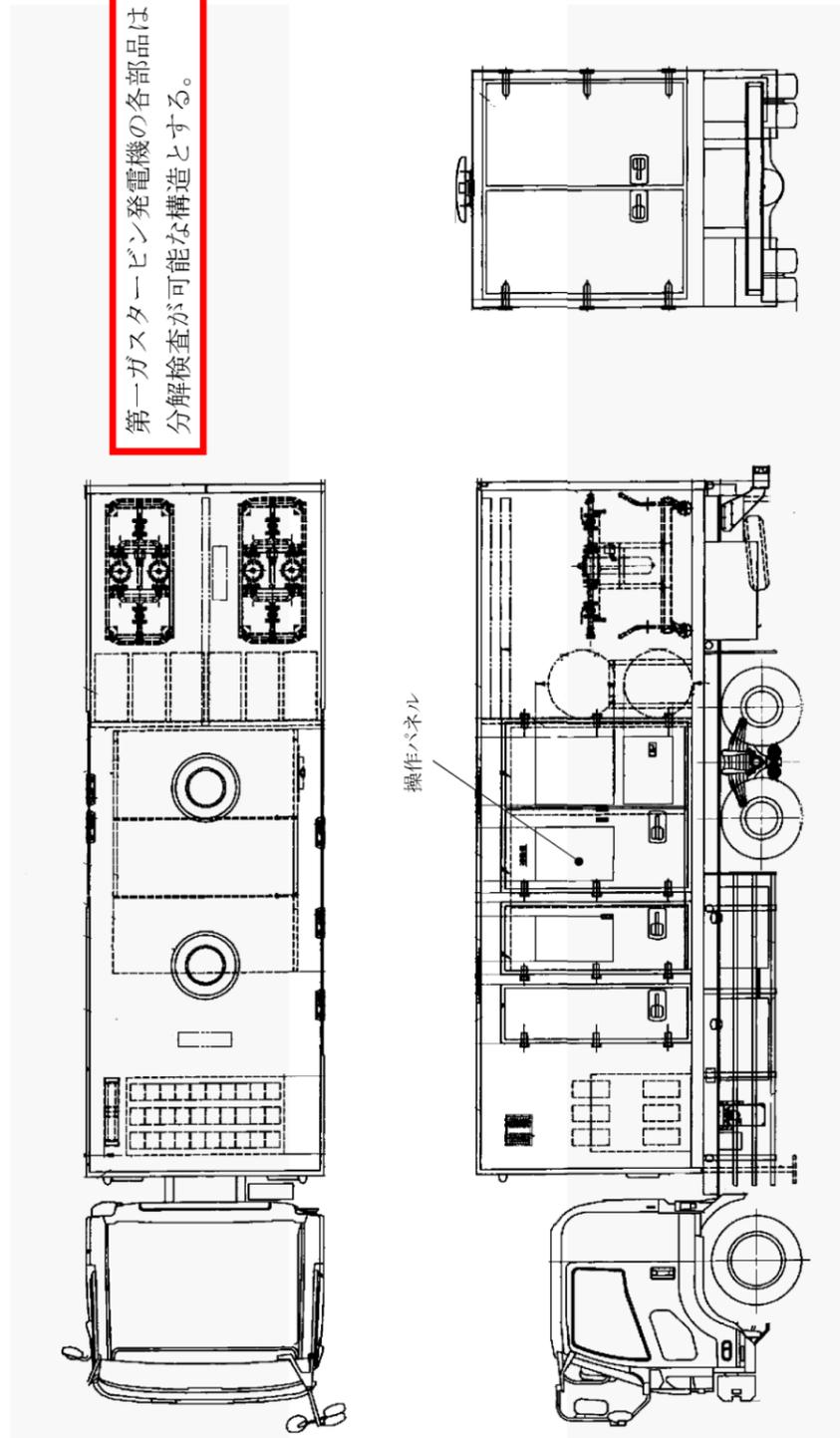


図 57-4-7 第一ガスタービン発電機 (制御車) 構造図

・設備の相違

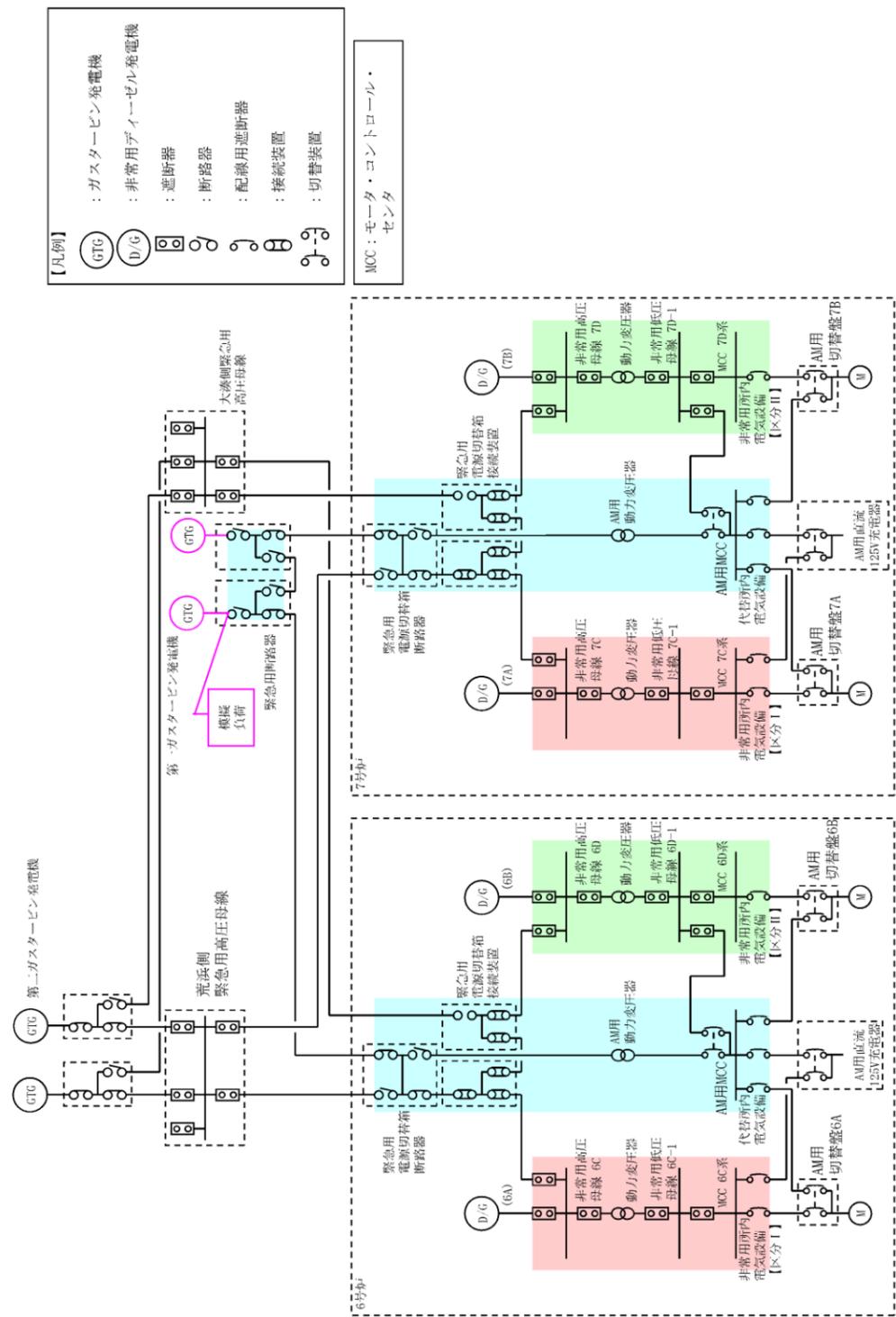
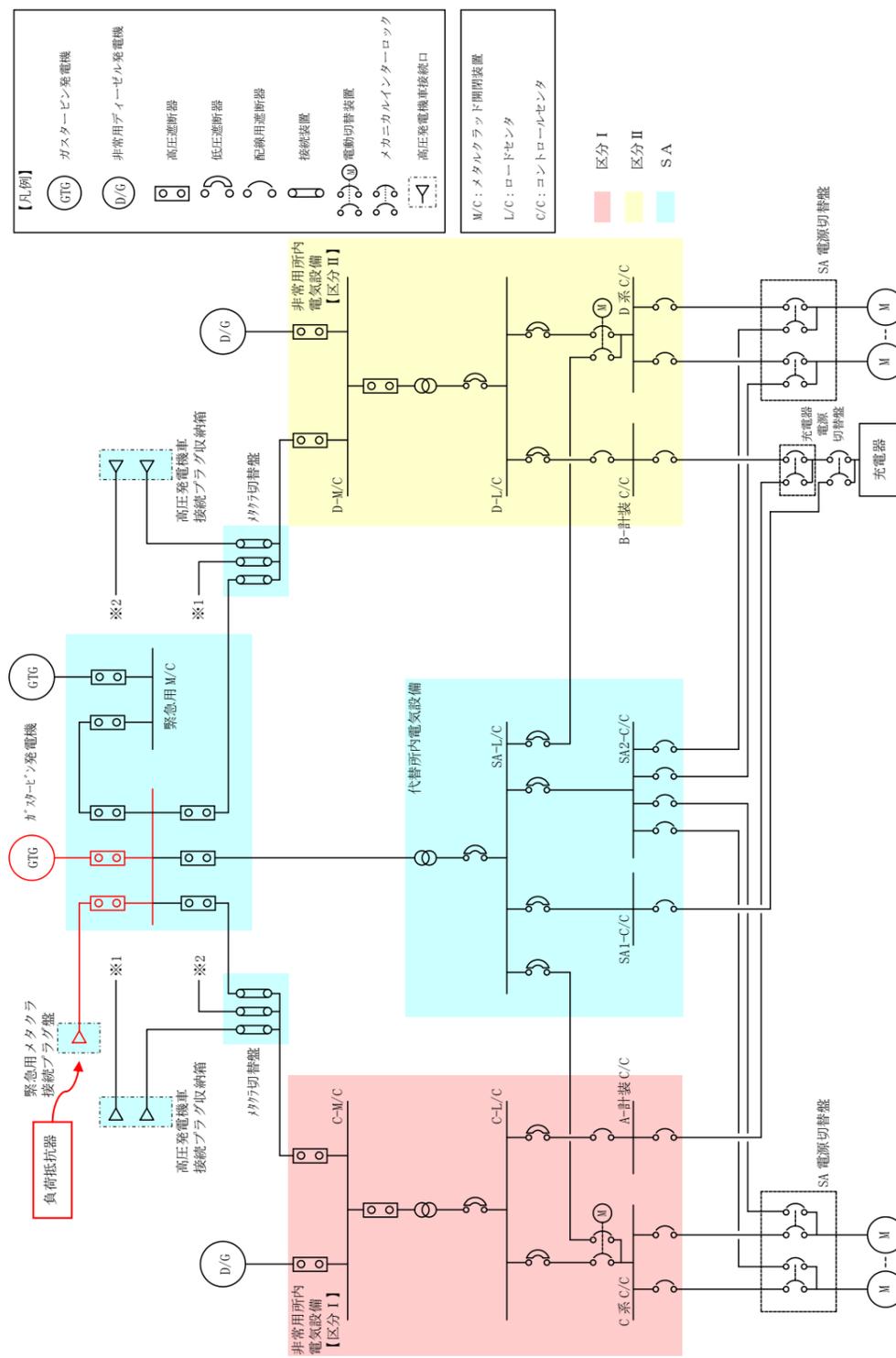


図 57-4-8 第一ガスタービン発電機試験系統図



第 57-4-9 図 ガスタービン発電機試験系統図

・設備の相違

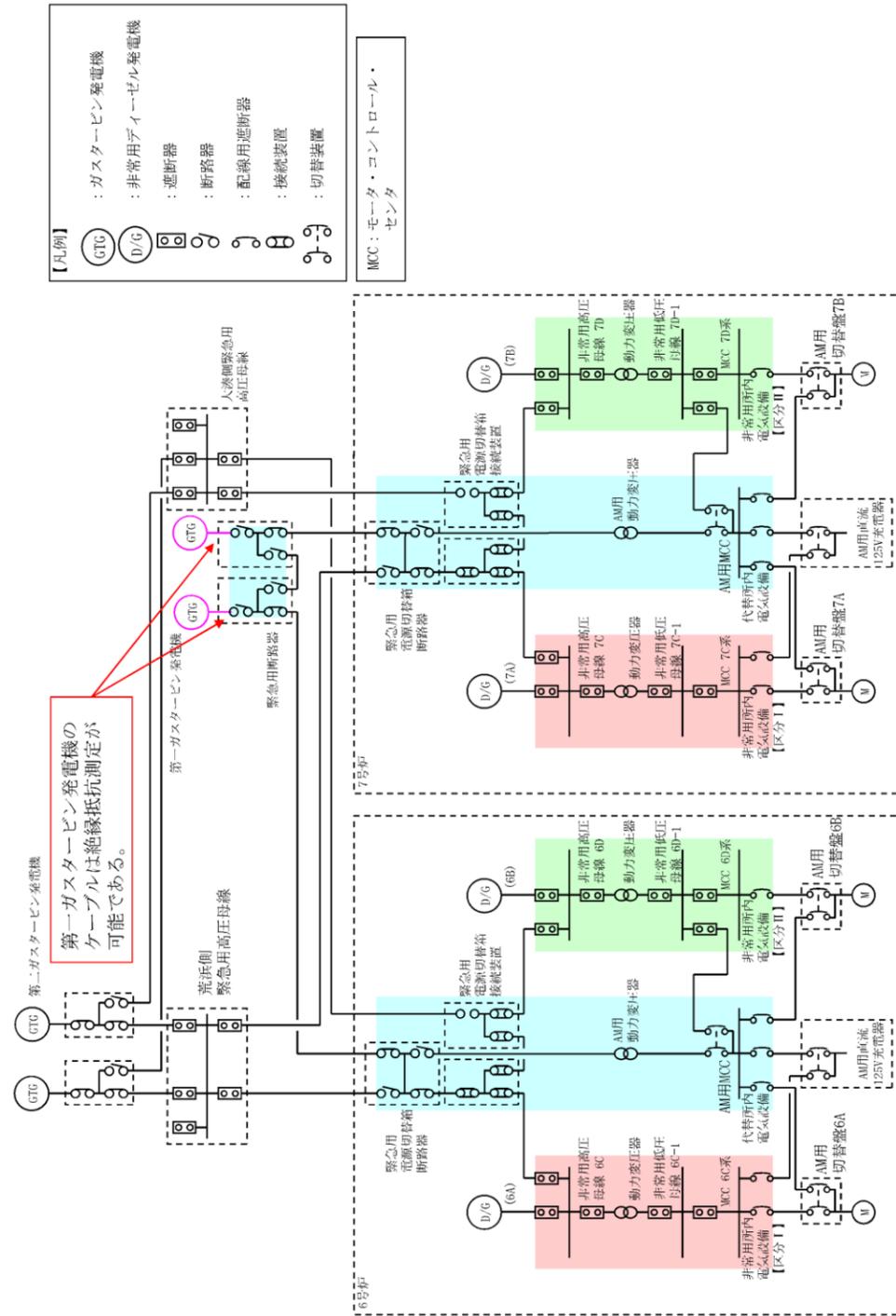
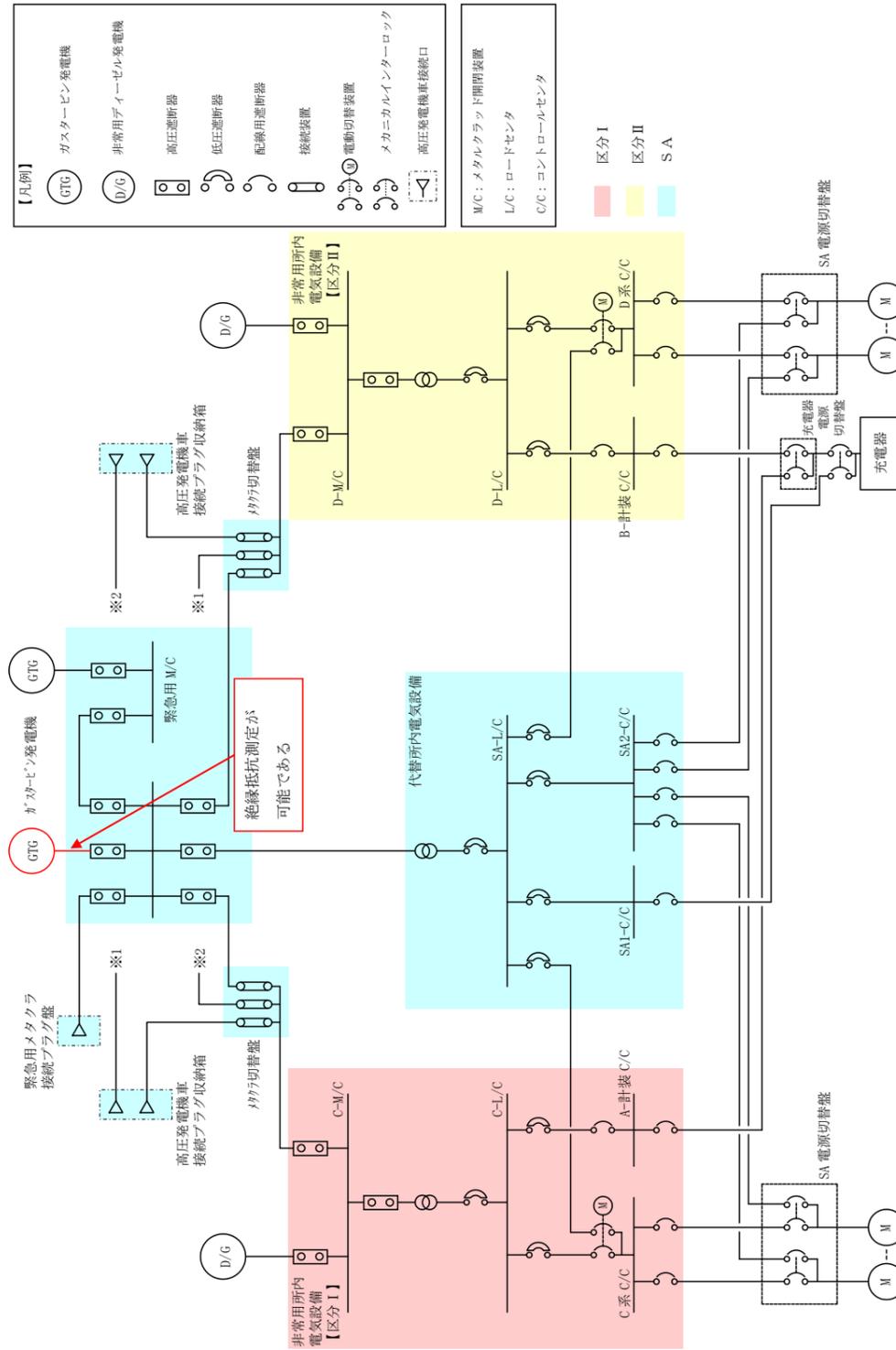


図 57-4-9 第一ガスタービン発電機用ケーブル試験系統図



第 57-4-10 図 ガスタービン発電機試験系統図

・設備の相違

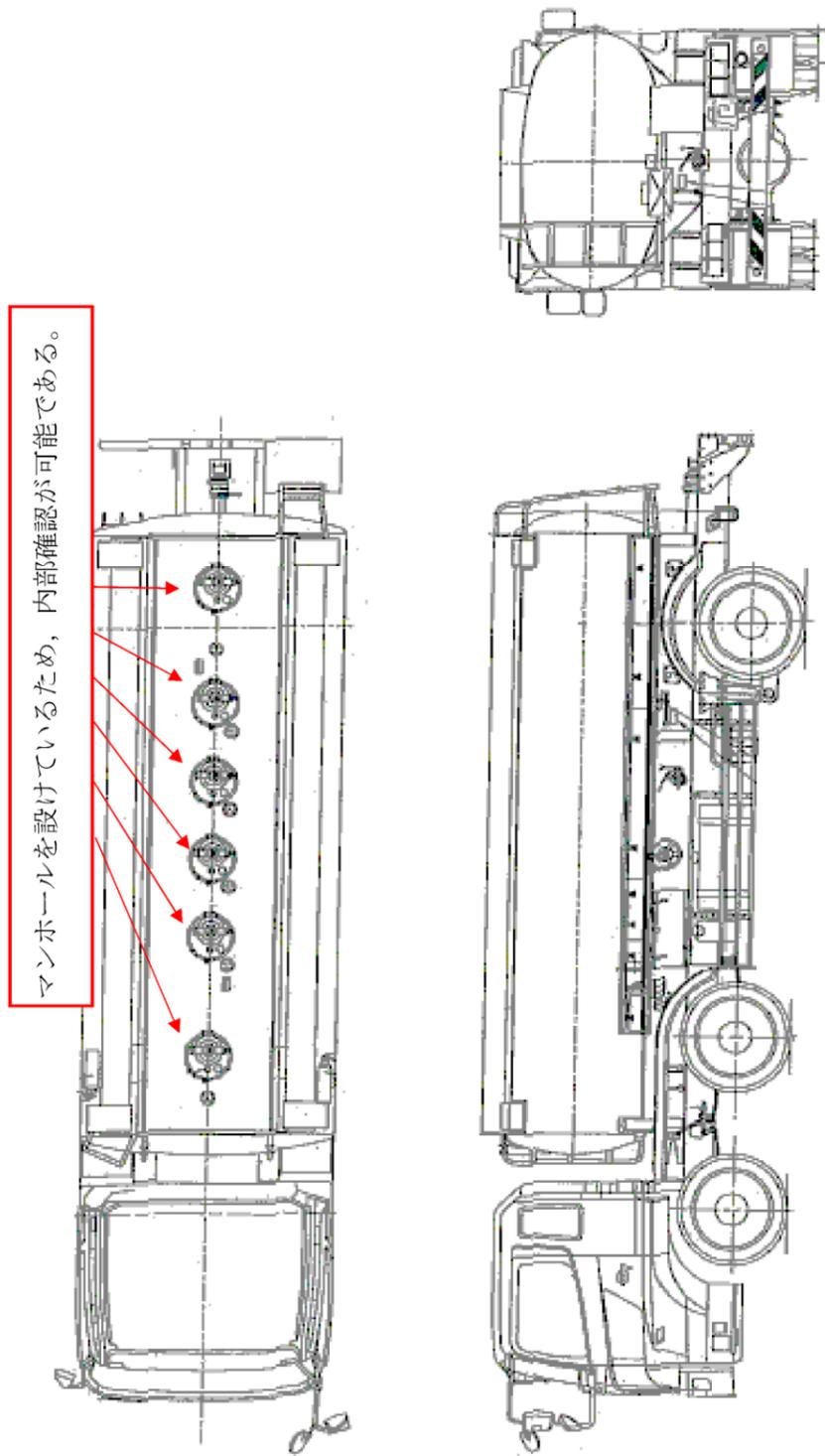


図 57-4-10 タンクローリ (16k L) 構造図

・設備の相違

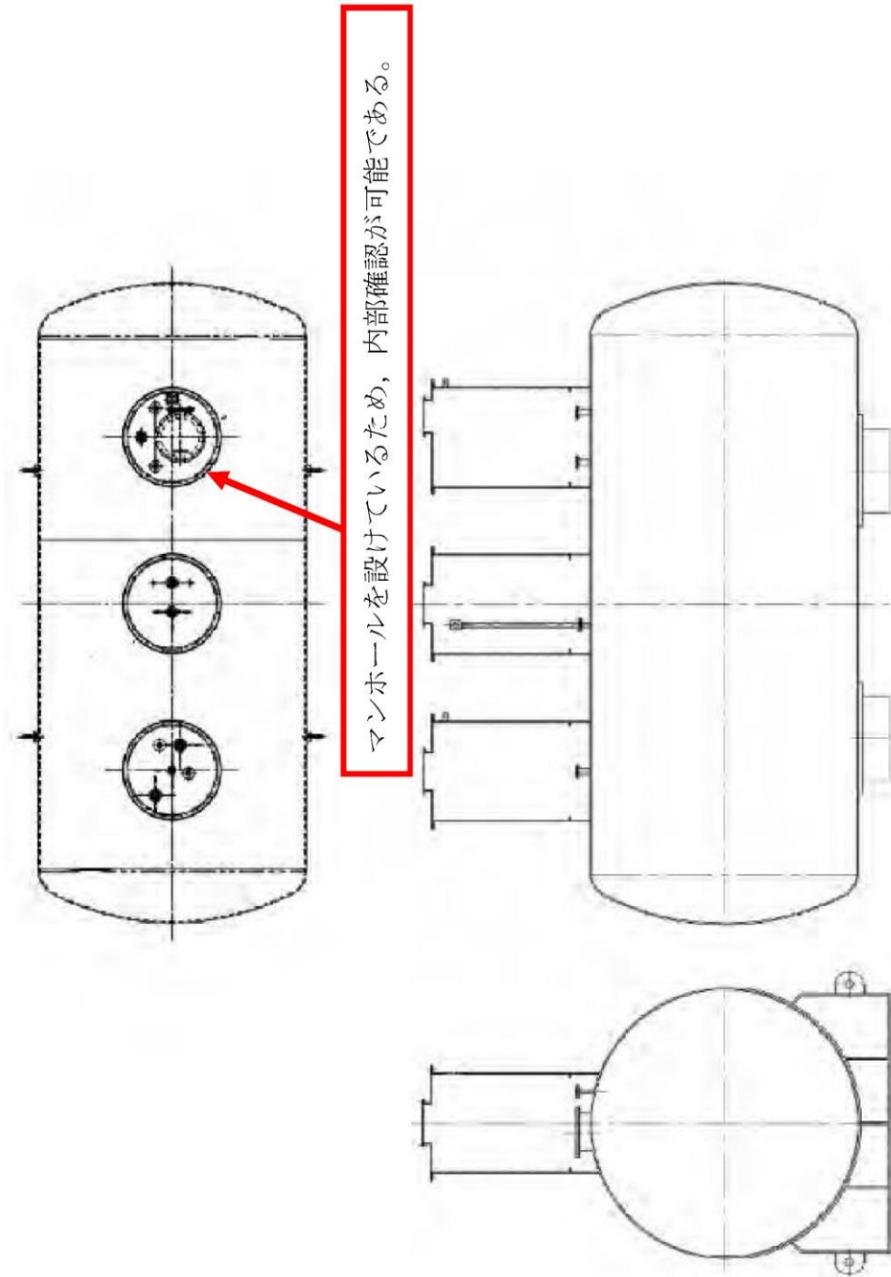
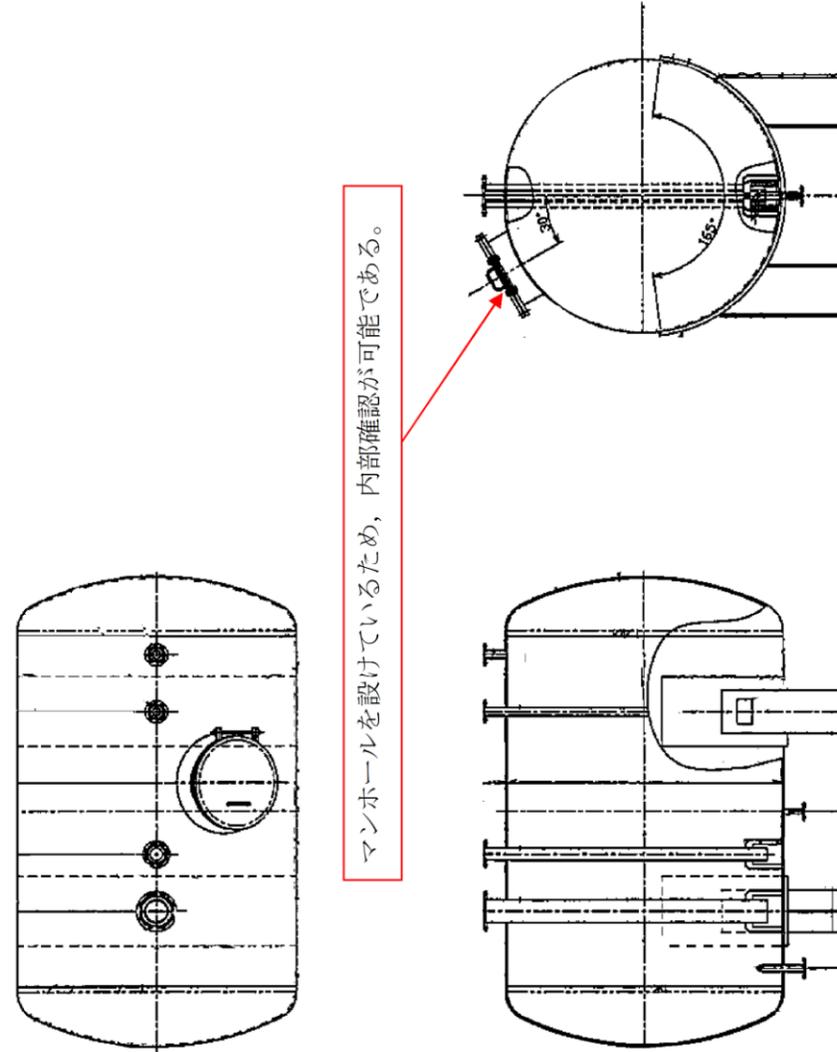


図 57-4-11 第一ガスタービン発電機用燃料タンク構造図



第 57-4-11 図 ガスタービン発電機用サービスタンク構造図

・設備の相違

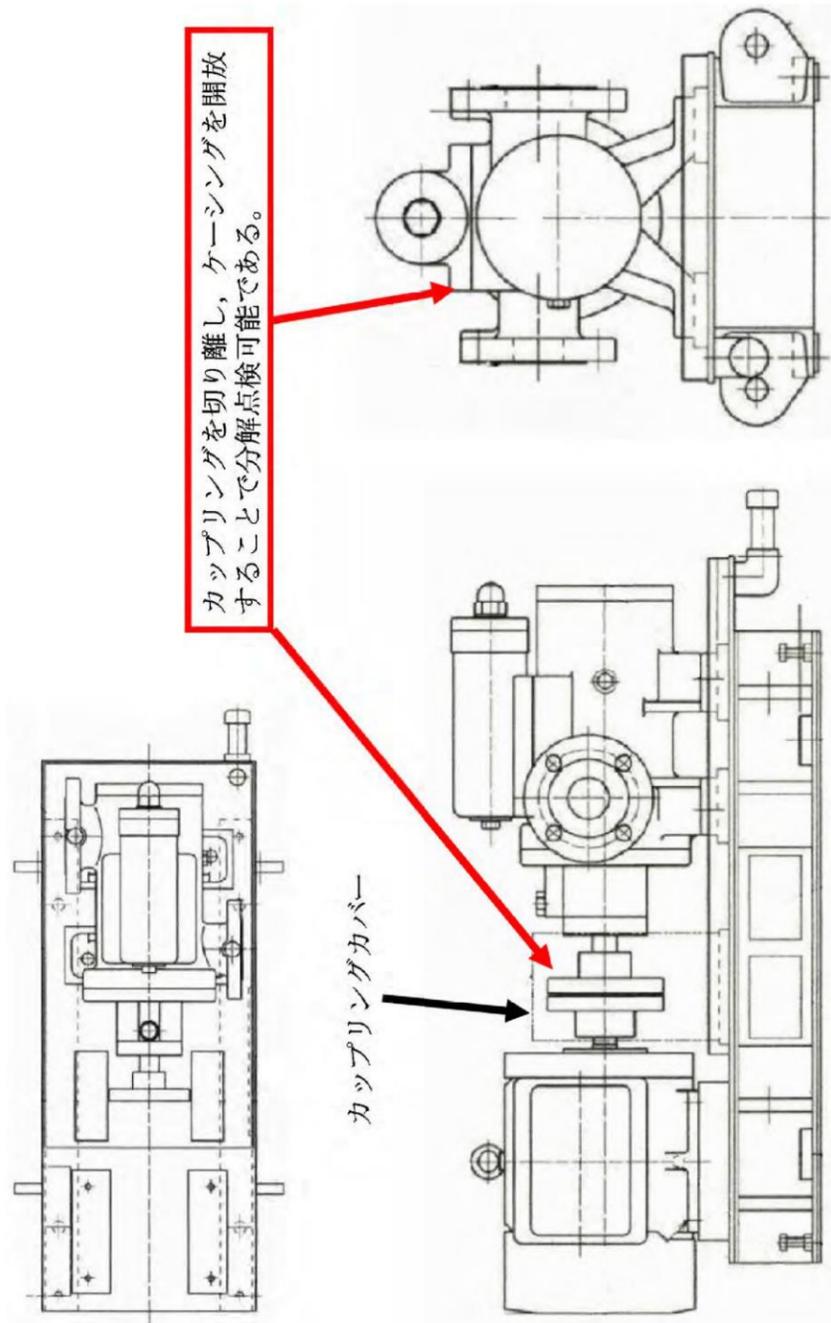
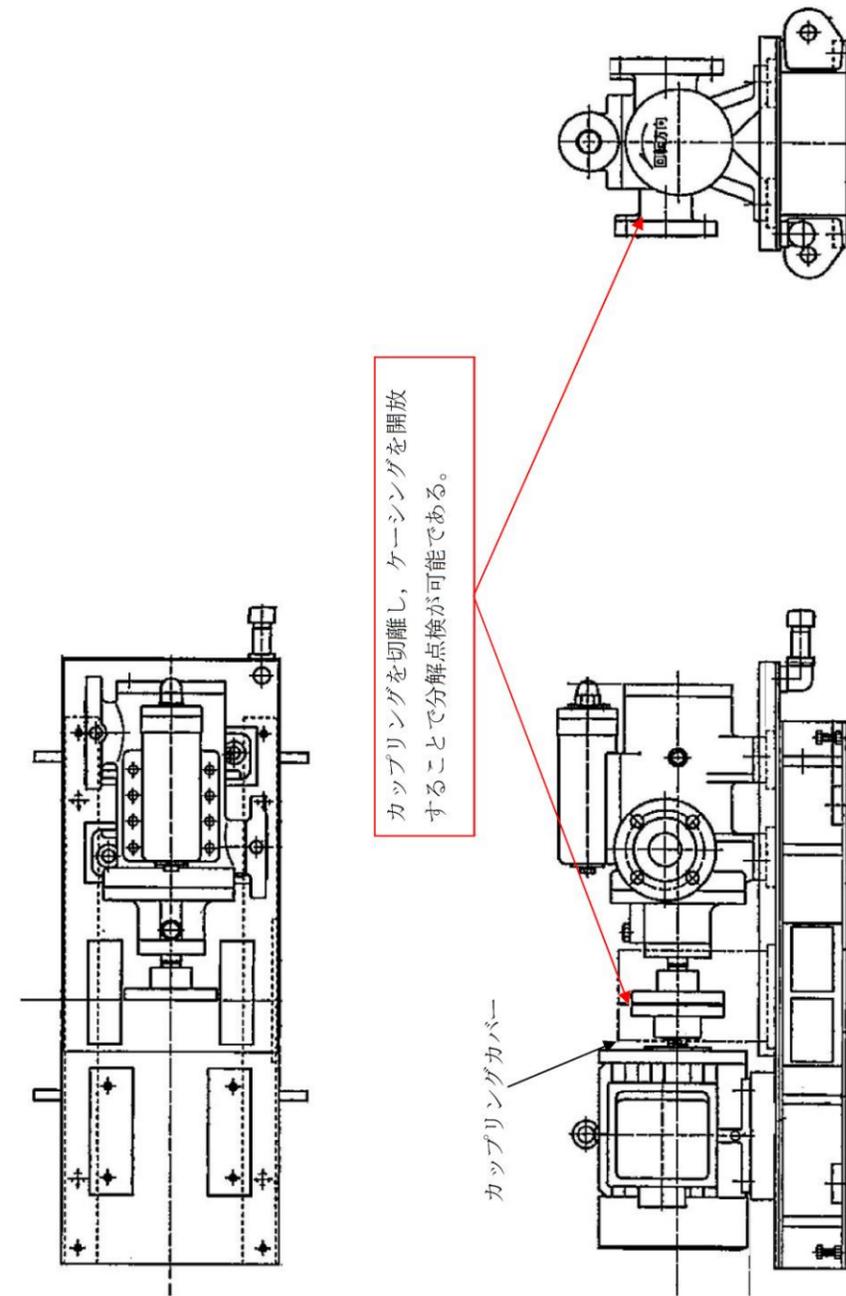


図 57-4-12 第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ構造図



第 57-4-12 図 ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ構造図

・設備の相違

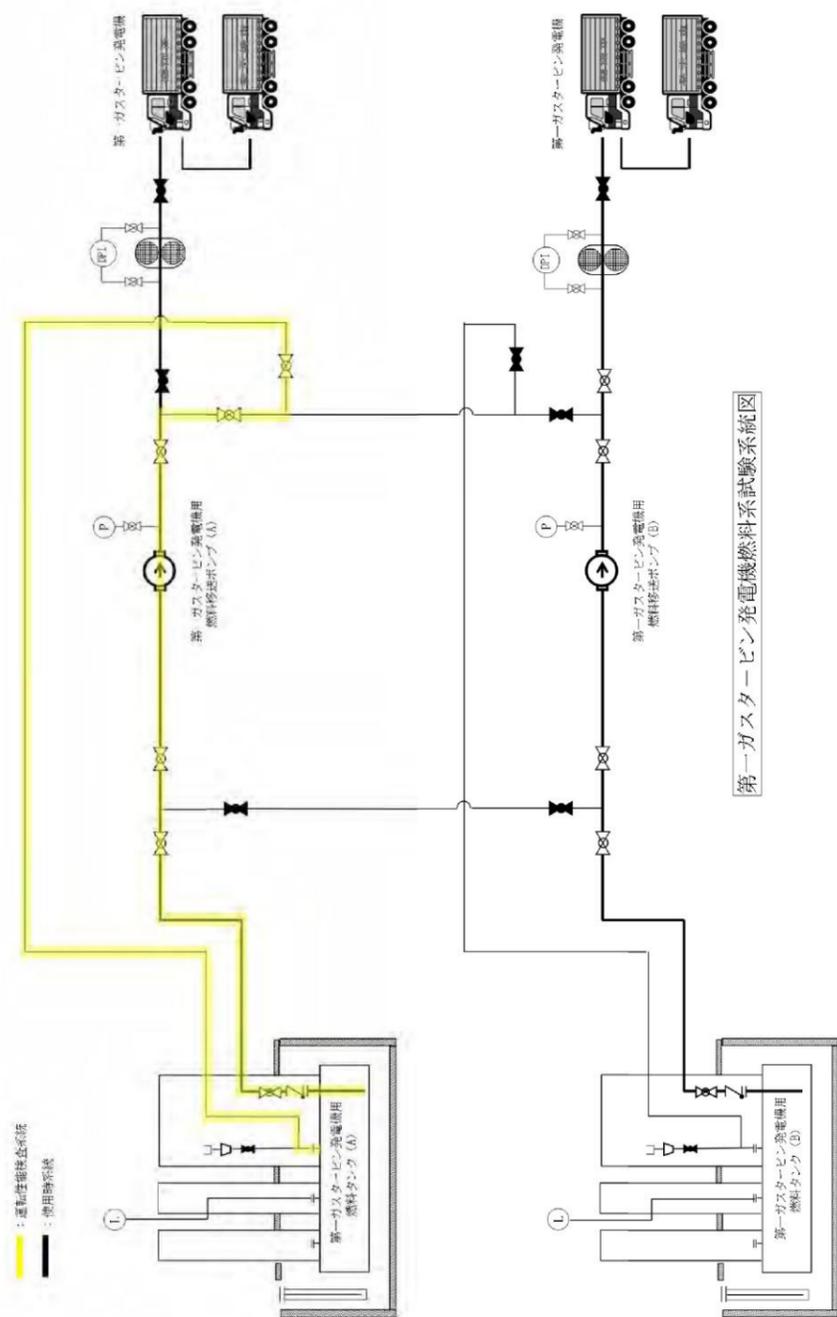
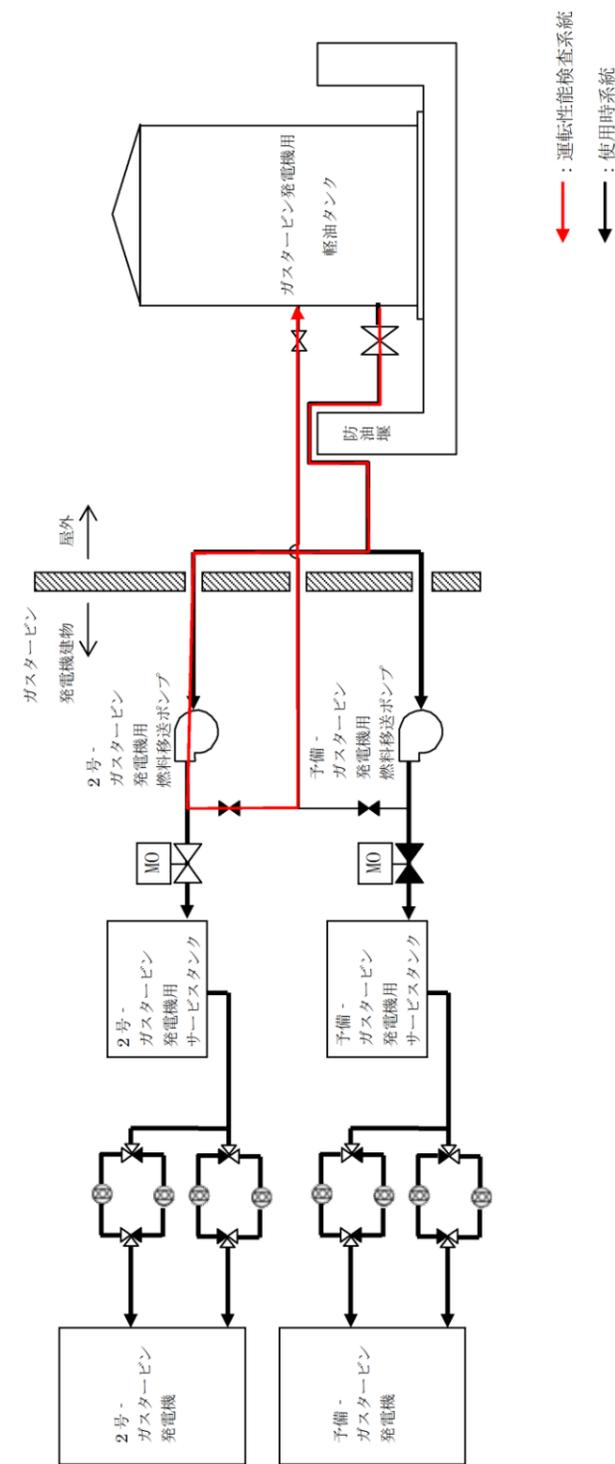


図 57-4-13 第一ガスタービン発電機燃料系統試験系統図



第 57-4-13 図 ガスタービン発電機燃料系統試験系統図

・設備の相違

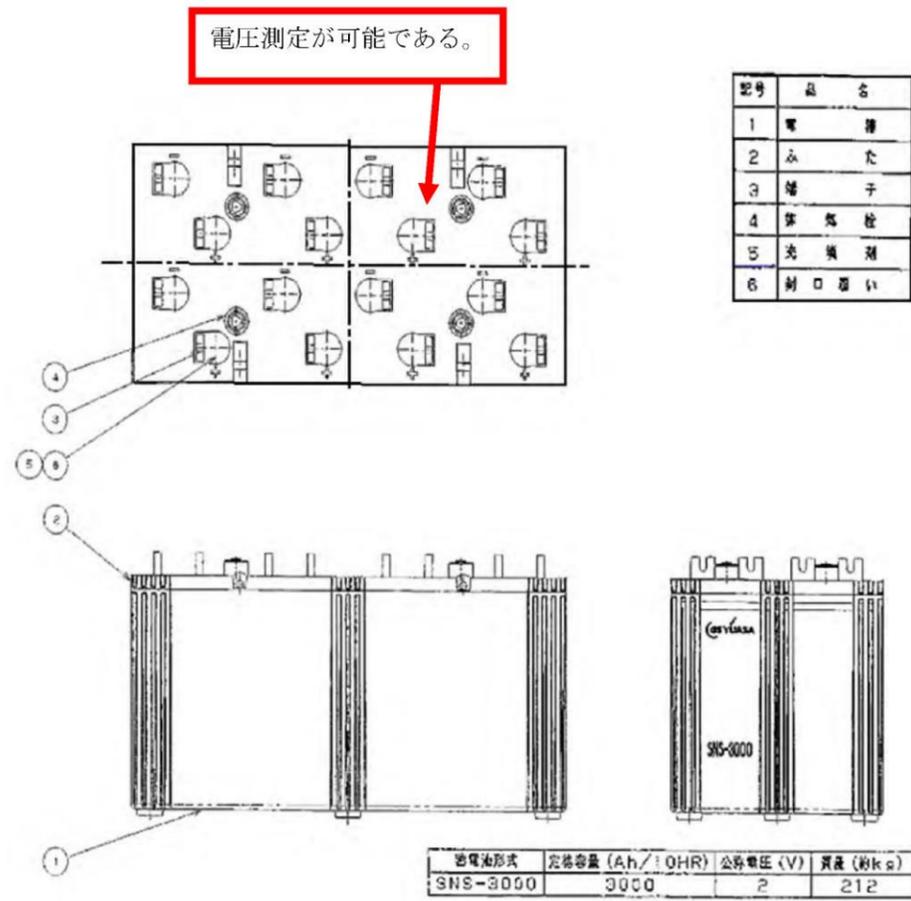
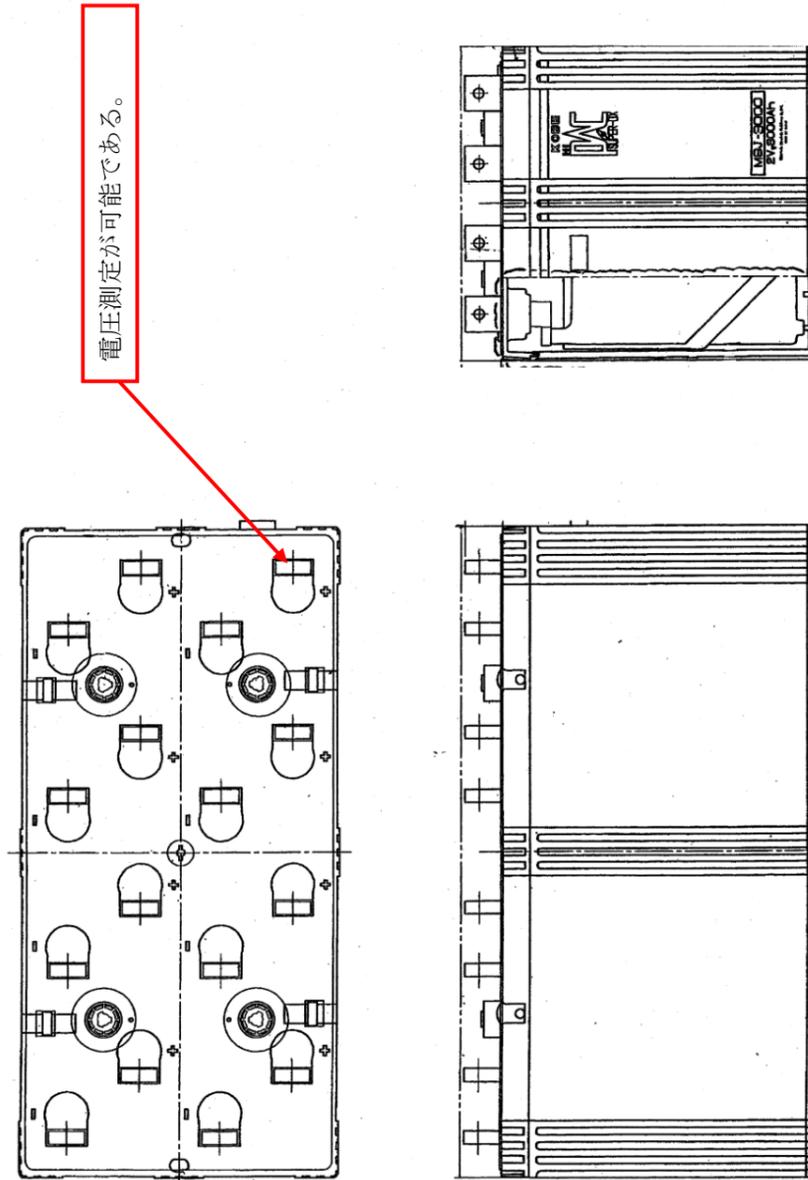


図 57-4-14 直流 125V 蓄電池 6A 構造図



第 57-4-14 図 B-115V系蓄電池構造図

・設備の相違

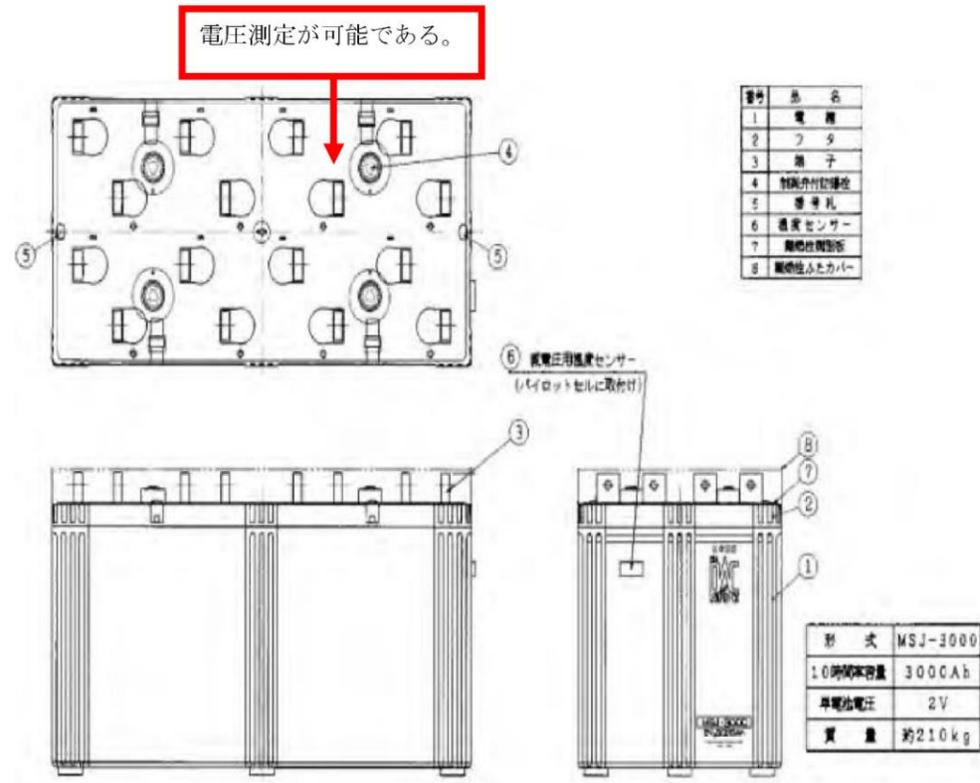
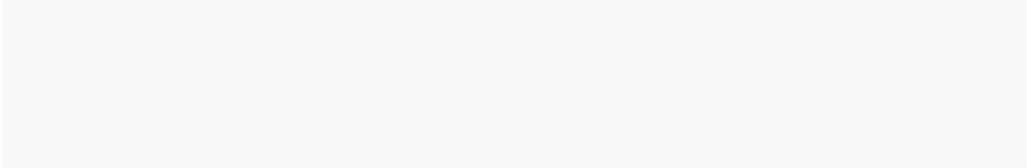


図 57-4-15 直流 125V 蓄電池 7A 構造図

・設備の相違

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p data-bbox="290 394 507 422">添付書類三 保全計画</p> <p data-bbox="498 520 923 737">柏崎刈羽原子力発電所 第6号機 保全計画 (第10保全サイクル)</p> 		<p data-bbox="2436 216 2594 243">・設備の相違</p>

・設備の相違

柏崎刈羽原子力発電所第6号機 点検計画

機器又は系統名	実施数(機器名)	保全の重要度	点検及び試験・検査の項目	保全方式または頻度	検査名	備考 () 内は適用する設備影響範囲	
非常用ディーゼル機関 (A)	軽油タンク	A	点検点検	10C	-	定検停止中	
	軽油タンク	A	点検点検	10C	-	定検停止中	
蒸気発電機	蒸気発電機 1式 ・高圧125V充電機 6A, 6B, 6C, 6D ・125V充電電池 (A系) 全数60個 ・125V充電電池 (B系) 全数60個 ・125V充電電池 (C系) 全数60個 ・125V充電電池 (D系) 全数60個	1	機能・性能試験	1C	蒸気発電機機能検査	定検停止中	
	高圧125V充電機6A	1	点検点検	0, 5Y	-	-	
	高圧125V充電機6B	1	点検点検	39M	-	定検停止中	
	高圧125V充電機6C	1	点検点検	0, 5Y	-	-	
	高圧125V充電機6D	1	点検点検	39M	-	定検停止中	
	高圧125V充電機6A, 6B, 6C, 6D	1	点検点検	0, 5Y	-	-	
	高圧125V充電機6A, 6B, 6C, 6D	1	点検点検	39M	-	定検停止中	
	高圧125V充電機6A, 6B, 6C, 6D	1	点検点検	0, 5Y	-	-	
	高圧125V充電機6A, 6B, 6C, 6D	1	点検点検	39M	-	定検停止中	
	高圧125V充電機6A, 6B, 6C, 6D	1	点検点検	0, 5Y	-	-	
	高圧125V充電機6A, 6B, 6C, 6D	1	点検点検	39M	-	定検停止中	
	高圧125V充電機6A, 6B, 6C, 6D	1	点検点検	0, 5Y	-	-	
	高圧125V充電機6A, 6B, 6C, 6D	1	点検点検	39M	-	定検停止中	
	高圧125V充電機6A, 6B, 6C, 6D	1	点検点検	0, 5Y	-	-	
新停電装置	バイタル交流電圧装置 6A 1式	1	機能・性能試験	2C	新停電装置設置試験	定検停止中	
	バイタル交流電圧装置 6B 1式	1	機能・性能試験	2C	新停電装置設置試験	定検停止中	
	バイタル交流電圧装置 6C 1式	1	機能・性能試験	2C	新停電装置設置試験	定検停止中	
	バイタル交流電圧装置 6D 1式	1	機能・性能試験	2C	新停電装置設置試験	定検停止中	
計器	計器 1式 (総合負荷, 保安規定関係, 特別継電電力計)	1,2,3	機能点検	1C	-	定検停止中	
	継電器 1式	1	機能点検	1C, 4C	-	定検停止中	
	主変圧機用保護回路 1式	1	機能点検	1C	監視機能健全性確認検査 (その6 (電圧機部分))	定検停止中	
電動機	電動機リミッタ 1式	1,2,3	機能点検	1C	-	定検停止中	
主要制御盤	主要制御盤 1式	1,C	外観点検, 絶縁抵抗測定	2C, 6Y	-	定検停止中	
	主要制御盤 1式	1	機能点検	1C, 6Y	-	定検停止中	
遮断停止系	遮断停止系操作回路	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中	
	遮断停止系操作回路A系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中	
	遮断停止系操作回路B系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中	
	高圧炉心日本系操作回路B系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中	
	炉子伊勢橋内知海水系操作回路A系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中	
	炉子伊勢橋内知海水系操作回路B系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中	
	炉子伊勢橋内知海水系操作回路C系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中	
	炉子伊勢橋内知海水系操作回路D系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中	
	可燃性ガス濃度制御系操作回路A系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中	
	可燃性ガス濃度制御系操作回路B系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中	
	高圧系電源の遮断停止回路C系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中	
	高圧系電源の遮断停止回路D系	A	機能・性能試験	2C	遮断停止系機能検査	定検停止中	
	補助ボイラー (4C)	補助ボイラー (4C)	3	点検点検	2.5M	補助ボイラー-異常検査	分属ボイラー設備の運転監視による管理
		開閉試験	B	開閉試験	B	補助ボイラー-異常検査	
特性試験		B	特性試験	B	-		
漏えい試験		B	漏えい試験	B	補助ボイラー-異常検査		
負荷試験		B	負荷試験	B	補助ボイラー-異常検査		

直流 125V 蓄電池 6A-2

本資料には、東京電力株式会社またはその他の企業の秘密情報が含まれている可能性があります。当社の許可なく本資料の複製物を作成すること、本資料の内容を本来の目的以外に使用すること、ならびに第三者に開示、公開する行為を禁止します。

東京電力株式会社



東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所 第6号機
 第10保全サイクル定期事業者検査要領書

平成24年 8月22日 (改訂2)

設 備 名 : 非常用予備発電装置
 検 査 名 : 直流電源系機能検査
 要領書番号 : K6-10-60-B-運

・設備の相違

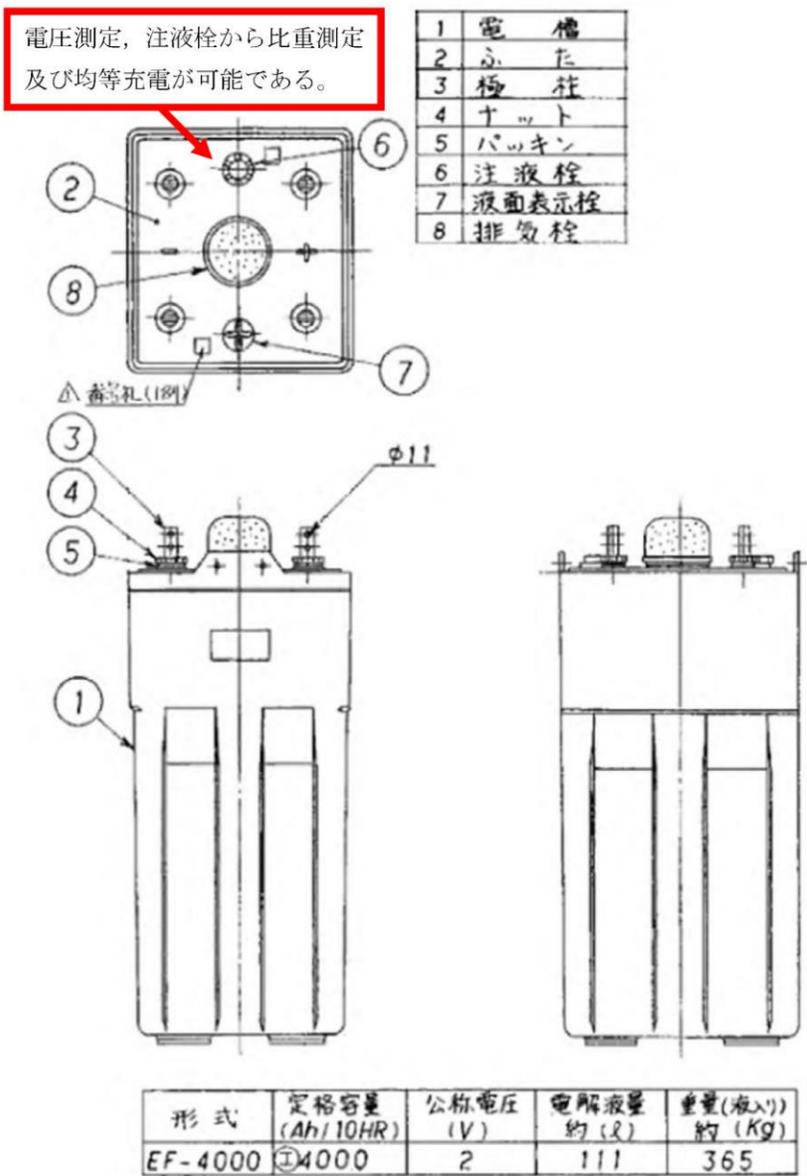
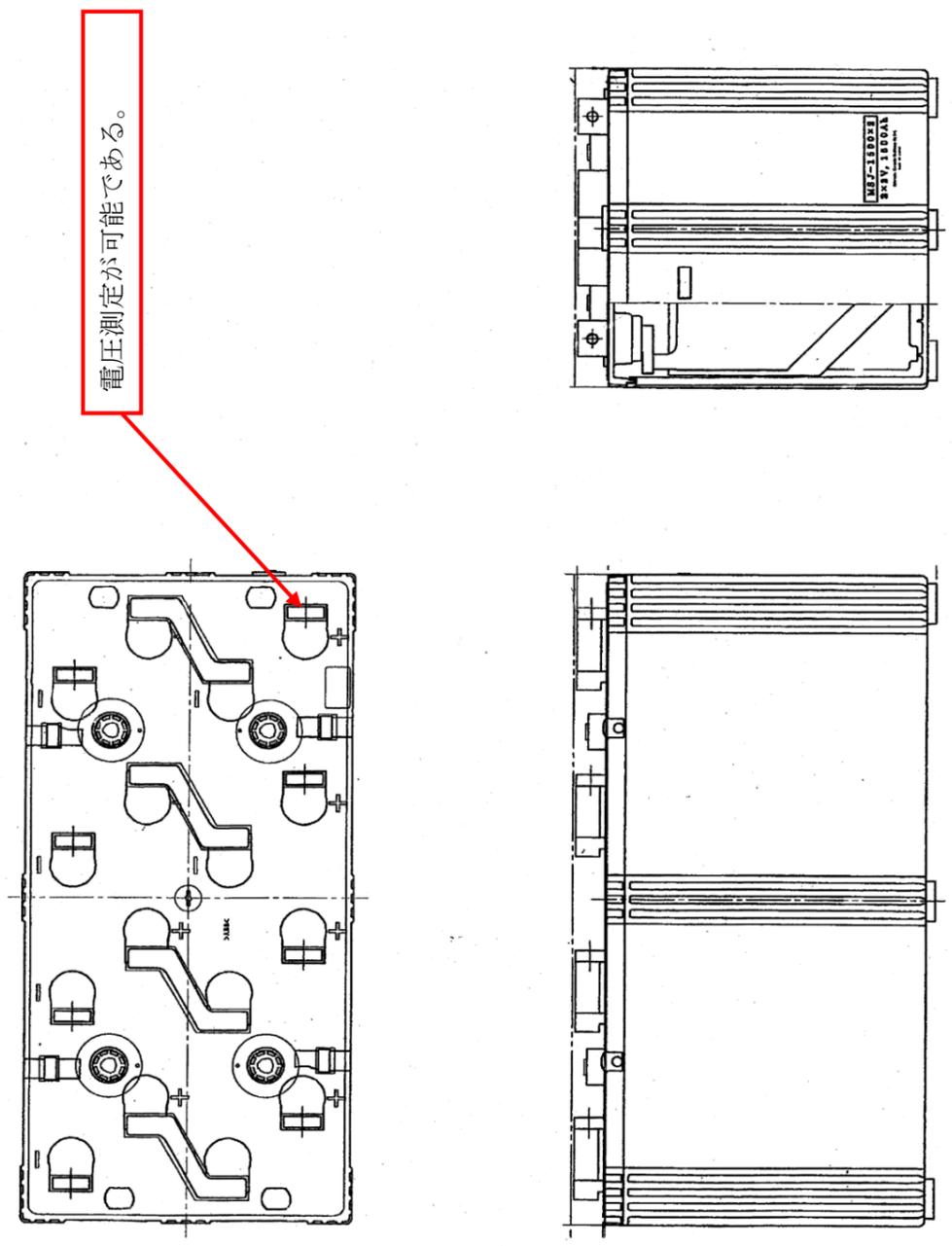


図 57-4-16 直流 125V 蓄電池 6A-2 構造図



第 57-4-15 図 B1-115V系蓄電池 (SA) 構造図

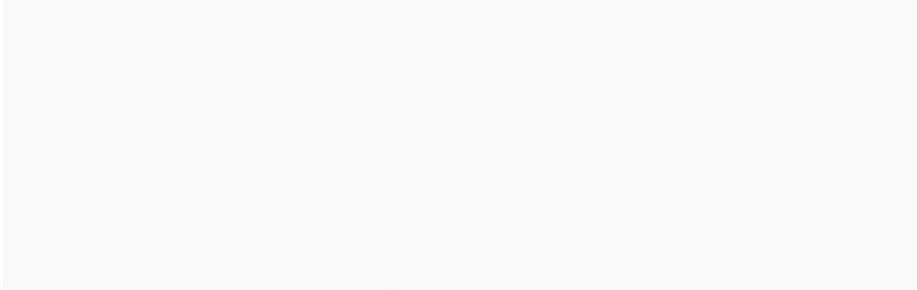
・設備の相違

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)

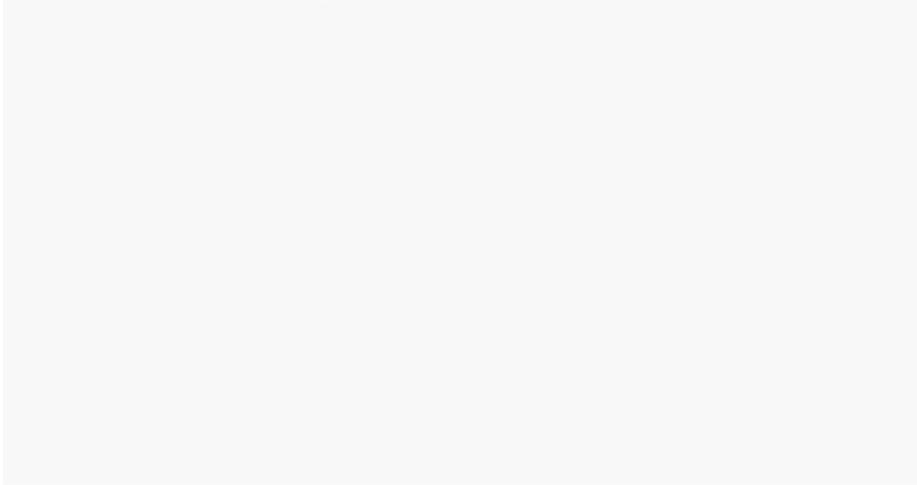
島根原子力発電所 2号炉

備考

・設備の相違



柏崎刈羽原子力発電所
第7号機
保全計画
(第10保全サイクル)



・設備の相違

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 点検計画

機器又は系統名	実施部 (機種名)	保全の重要度	点検及び試験、検査の項目	保全方式または検査	点検の頻度	計画実施年(定検回数)	検査名	備考 ()内は適用する設備群番号
非常用ディーゼル機関 (C) フランク保安心室 5世	非常用ディーゼル機関 (C) フランク保安心室 5世	1	分岐点検	1.30M	○	—	—	点検停止中
			機能、性能試験	B	○	—	非常用ディーゼル機関検査 (その1)	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (A) 潤滑装置	1	分岐点検	0.5M	—	8回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 45の反映
			検査点検 (潤滑油交換)	1.3M	○	9回	—	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (B) 潤滑装置	1	分岐点検	0.5M	○	8回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 45の反映
			検査点検 (潤滑油交換)	1.3M	—	9回	—	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (C) 潤滑装置	1	分岐点検	0.5M	—	7回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 45の反映
			検査点検 (潤滑油交換)	1.3M	○	9回	—	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (A) 非常用停止装置 1式	1	分岐点検	0.5M	—	8回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 45の反映
			機能、性能試験	B	—	8回	非常用ディーゼル機関検査 (その1)	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (B) 非常用停止装置 1式	1	分岐点検	0.5M	○	8回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 45の反映
			機能、性能試験	B	○	8回	非常用ディーゼル機関検査 (その1)	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (C) 非常用停止装置 1式	1	分岐点検	0.5M	—	7回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 45の反映
			機能、性能試験	B	—	7回	非常用ディーゼル機関検査 (その1)	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (A) プロセス計器 1式	A, L, 3	特性試験	1C 又は1.3M	○	9回	非常用ディーゼル機関検査 (その3)	点検停止中
			特性試験	1C 又は1.3M	○	9回	非常用ディーゼル機関検査 (その3)	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (B) プロセス計器 1式	A, L, 3	特性試験	1C 又は1.3M	○	9回	非常用ディーゼル機関検査 (その3)	点検停止中
			特性試験	1C 又は1.3M	○	9回	非常用ディーゼル機関検査 (その3)	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (C) プロセス計器 1式	A, L, 3	特性試験	1C 又は1.3M	○	9回	非常用ディーゼル機関検査 (その3)	点検停止中
			特性試験	1C 又は1.3M	○	9回	非常用ディーゼル機関検査 (その3)	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (A) 潤滑付機庫前フィルタ	1	分岐点検	1.30M	—	8回	—	点検停止中
			潤滑付機庫前フィルタ	1.30M	—	9回	—	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (B) 潤滑付機庫前フィルタ	1	分岐点検	1.30M	—	9回	—	点検停止中
			潤滑付機庫前フィルタ	1.30M	○	—	—	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (C) 潤滑付機庫前フィルタ	1	分岐点検	1.30M	○	—	—	点検停止中
			潤滑付機庫前フィルタ	1.30M	○	—	—	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (A) (B) (C) フランク室 1式	1	分岐点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中
			分岐点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (A) 燃料弁 各18台 (全数)	1	分岐点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中
			分岐点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (B) 燃料弁 各18台 (全数)	1	分岐点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中
			分岐点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (C) 燃料弁 各18台 (全数)	1	分岐点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中
			分岐点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (A) 起動弁 各18台 (全数)	1	分岐点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中
			分岐点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (B) 起動弁 各18台 (全数)	1	分岐点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中
			分岐点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中
	非常用ディーゼル機関 (C) 起動弁 各18台 (全数)	1	分岐点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中
			分岐点検	1.3M	○	9回	—	点検停止中
非常用ディーゼル機関 (A) 起動電機弁、停止電機弁 3世	1.2	分岐点検	0.2M	○	8回	—	点検停止中	
		分岐点検	0.2M	○	8回	—	点検停止中	
非常用ディーゼル機関 (B) 起動電機弁、停止電機弁 3世	1.2	分岐点検	0.2M	○	8回	—	点検停止中	
		分岐点検	0.2M	○	8回	—	点検停止中	
非常用ディーゼル機関 (C) 起動電機弁、停止電機弁 3世	1.2	分岐点検	0.2M	○	8回	—	点検停止中	
		分岐点検	0.2M	○	8回	—	点検停止中	
非常用ディーゼル機関 (A) 回転計	1	分岐点検	0.5M	—	8回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 47の反映	
		分岐点検	0.5M	—	8回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 47の反映	
非常用ディーゼル機関 (B) 回転計	1	分岐点検	0.5M	—	8回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 47の反映	
		分岐点検	0.5M	—	8回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 47の反映	
非常用ディーゼル機関 (C) 回転計	1	分岐点検	0.5M	—	8回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 47の反映	
		分岐点検	0.5M	—	8回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 47の反映	
非常用ディーゼル機関 (A) (B) (C) 付帯設備 1式	1	検査点検	1C	○	9回	—	点検停止中	
		検査点検	0.5M	—	8回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 49の反映	
燃料移送ポンプ (A) 電動機	3	分岐点検	4C	—	9回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 49の反映	
		分岐点検	0.5M	○	8回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 49の反映	
燃料移送ポンプ (B) 電動機	3	分岐点検	4C	—	7回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 49の反映	
		分岐点検	0.5M	—	8回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 49の反映	
燃料移送ポンプ (C) 電動機	3	分岐点検	4C	—	7回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 49の反映	
		分岐点検	0.5M	—	8回	—	点検停止中 保全の有効性評価No. 49の反映	
非常用ディーゼル機関 (A) 軽油タンク	3	検査点検	1.0C	—	8回	—	点検停止中	
		検査点検	1.0C	—	8回	—	点検停止中	
非常用ディーゼル機関 (B) 軽油タンク	3	検査点検	1.0C	—	8回	—	点検停止中	
		検査点検	1.0C	—	8回	—	点検停止中	
非常用ディーゼル機関 (C) 軽油タンク	3	検査点検	1.0C	—	8回	—	点検停止中	
		検査点検	1.0C	—	8回	—	点検停止中	
非常用ディーゼル機関 1式	1	機能、性能試験	1C	○	9回	—	点検停止中	
		検査点検	0.5V	○	2011年度	—	点検停止中	

・設備の相違

本資料には、東京電力株式会社またはその他の企業に関する情報が含まれている可能性があります。当社の許可なく本資料の複製物を作成すること、本資料の内容を本来の目的以外に使用すること、ならびに第三者に開示、公開する行為を禁止します。

東京電力株式会社

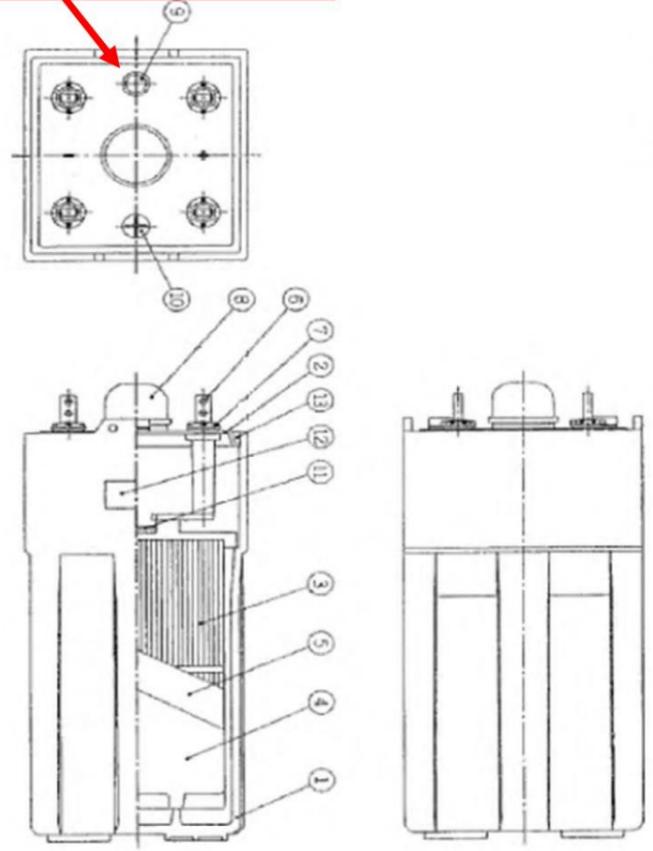


東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所 第7号機
 第10保全サイクル定期事業者検査要領書

平成23年6月7日

設備名：非常用予備発電装置
 検査名：直流電源系機能検査
 要領書番号：K7-10-60-B-運

電圧測定，注液口栓から比重測定
及び均等充電が可能である。



番号	品名
1	電 極
2	フ ッ ク
3	陽 極 板
4	陰 極 板
5	調 節 板
6	底 板 柱
7	極 柱 ナット
8	防 爆 羽 気 栓
9	注 液 口 栓
10	液 面 指 示 計
11	防 マ ツ 板
12	輪 号 丸
13	コンパウンド

形 式	CS-4000
10時間率容量	4000 Ah
重 量	約365kg
液 量	約251kg
液 量	約94.0ℓ

図 57-4-17 直流 125V 蓄電池 7A-2 構造図

・設備の相違

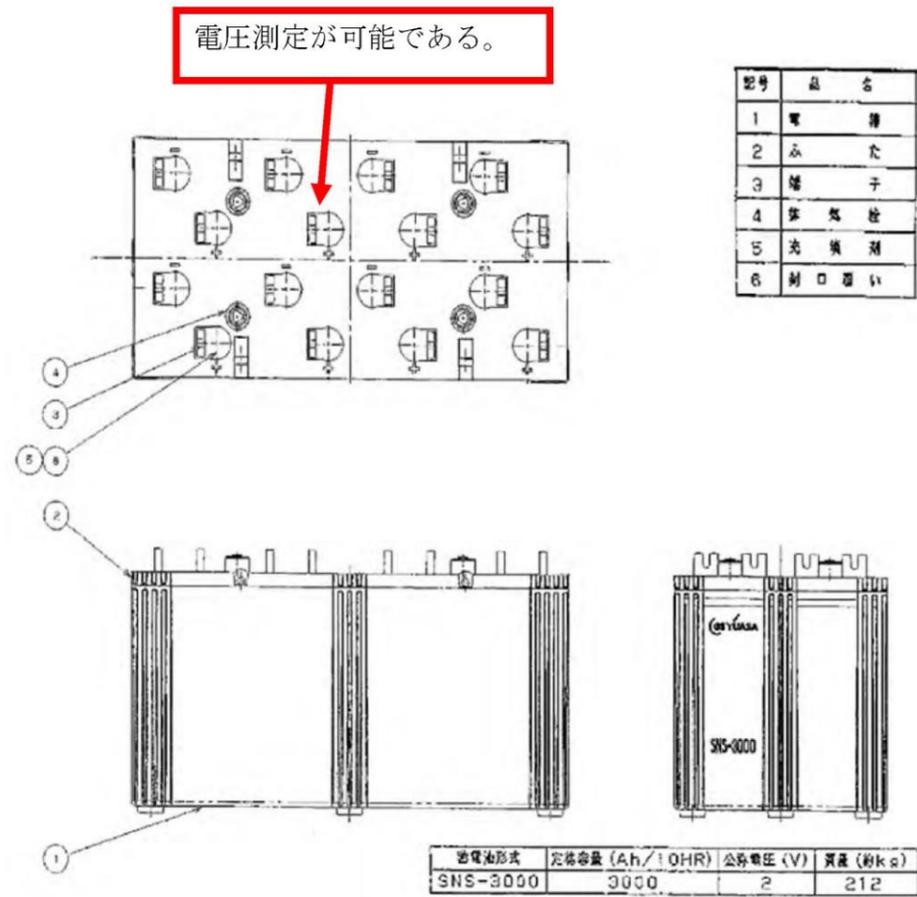
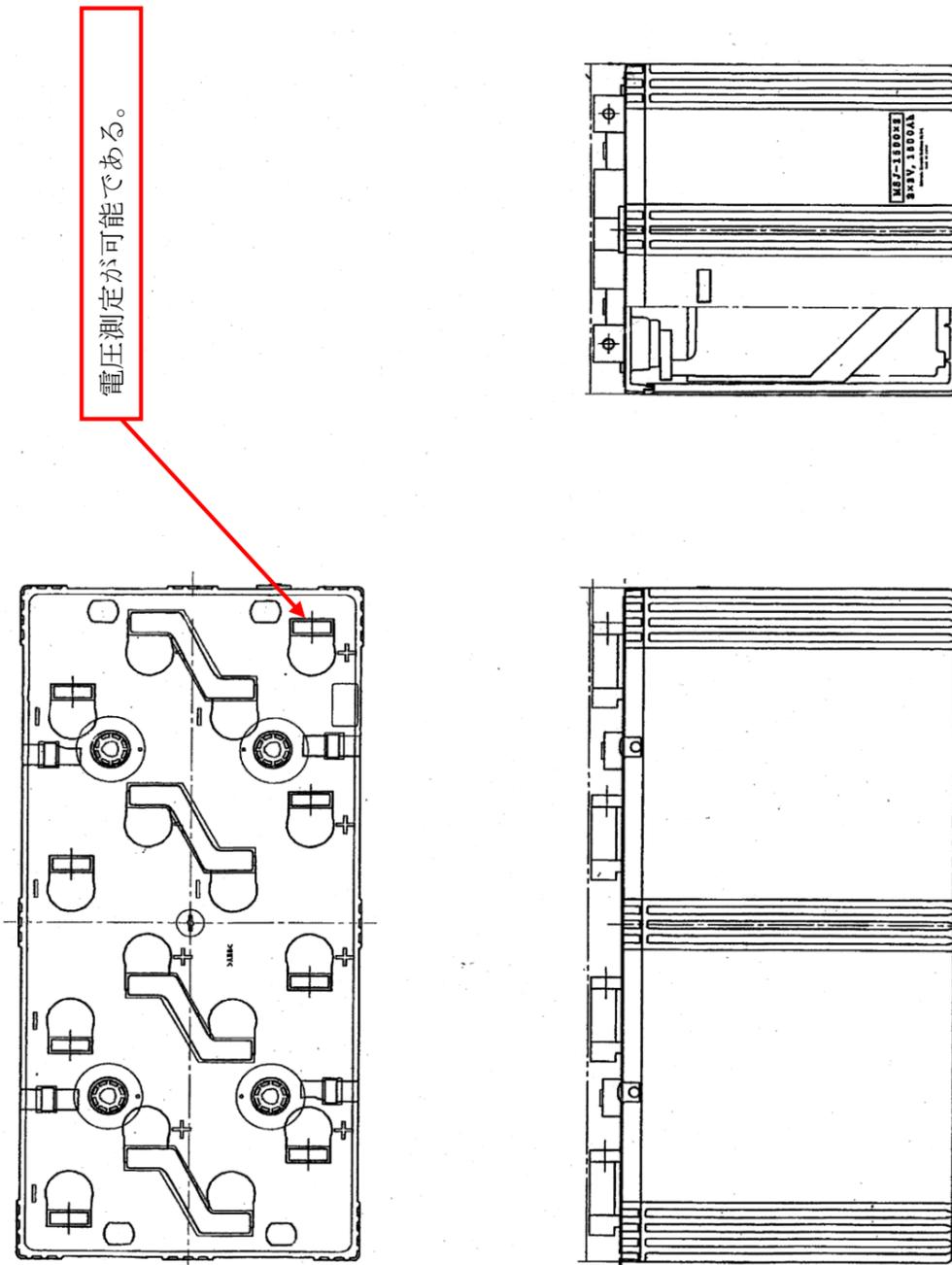


図 57-4-18 6号炉 AM用直流 125V 蓄電池構造図



第 57-4-16 図 SA用 115V系蓄電池構造図

・設備の相違

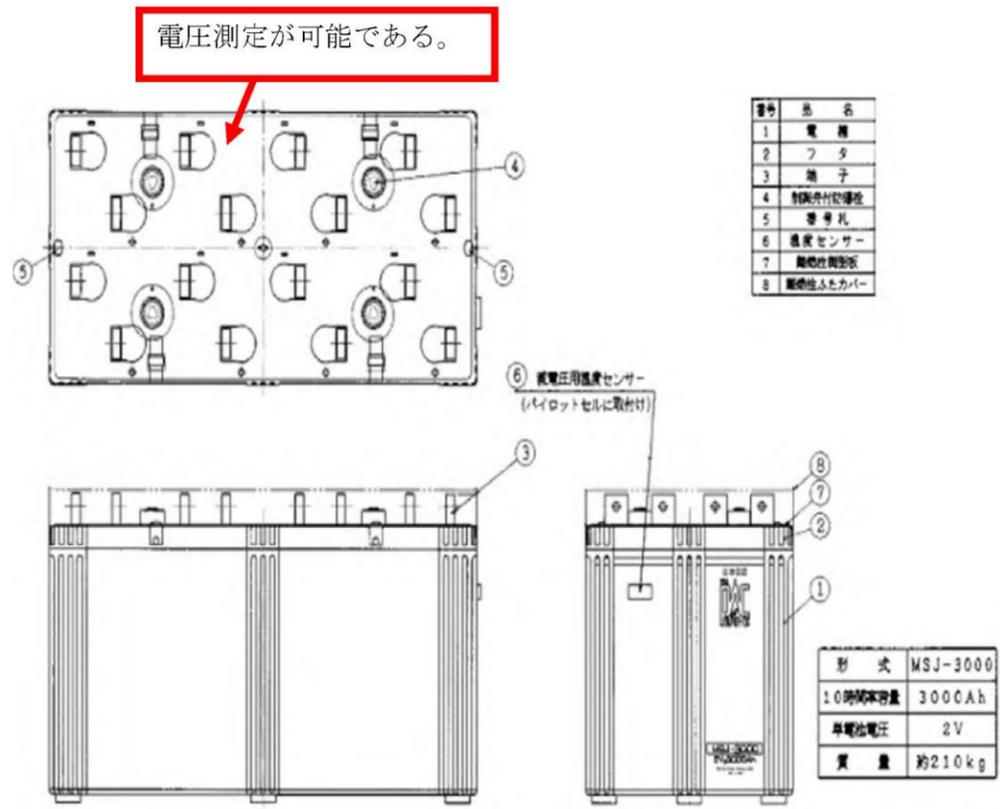
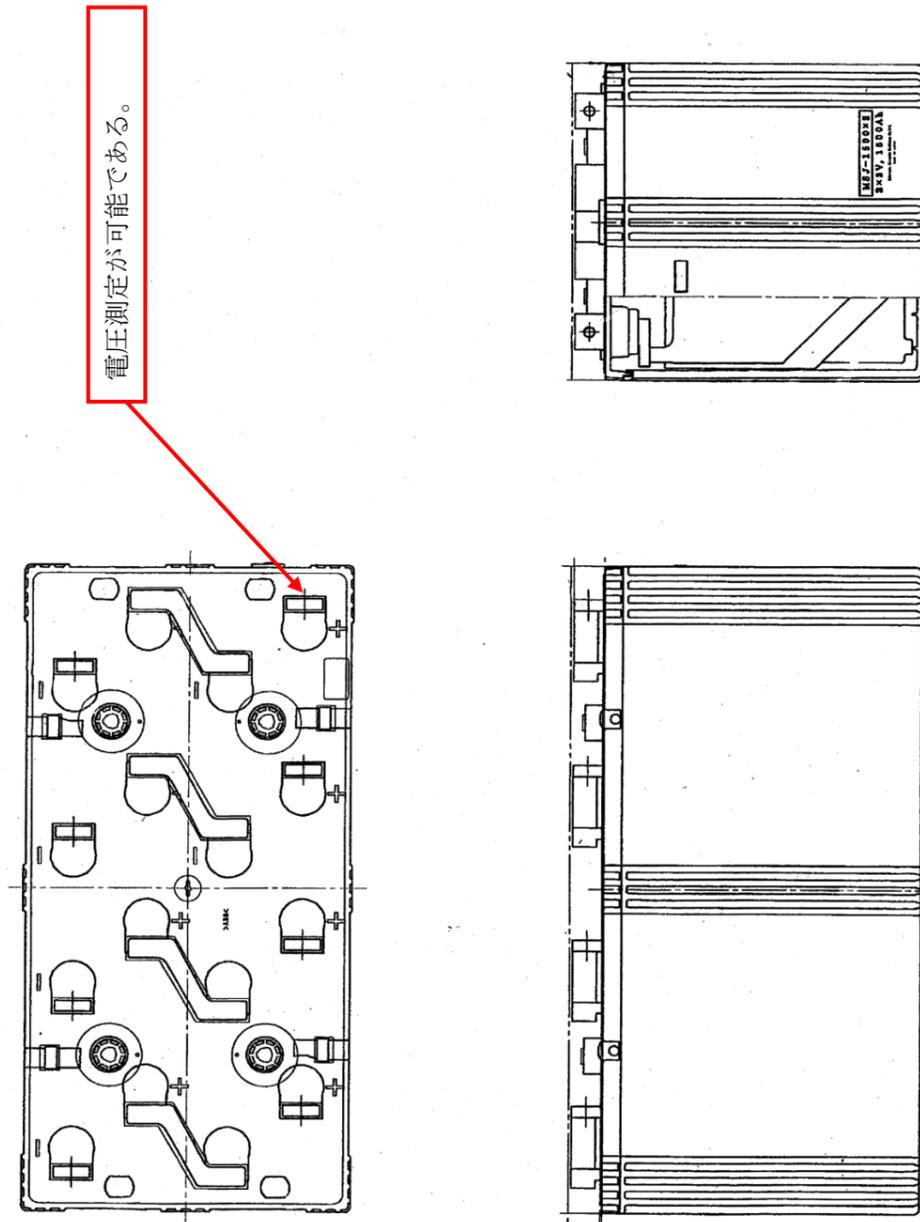


図 57-4-19 7号炉 AM用直流 125V 蓄電池構造図

・設備の相違



第57-4-17図 230V系蓄電池 (RCIC) 構造図

・設備の相違

島根原子力発電所2号機 点検計画表

系統/キスト	機器番号	機器名称	保全重要度	点検項目No.	点検項目/キスト	保全方式/キスト	保全周期	保全周期単位
系統/キスト 所内電気設備系(SES)	2-2267-1B	B-115V系蓄電池	高	1	外観点検	TBM.定検	1C	1C
				2	【定】外観検査	TBM.定検	10C	10C
				3	機能・性能試験-1	TBM.定検	1C	1C
				4	【定】機能・性能検査	TBM.定検	1C	1C
				5	機能・性能試験-2	TBM.定検	1C	1C
系統/キスト 所内電気設備系(SES)	2-2267B	B-115V系充電器	高	1	外観点検	TBM.定検	1C	1C
				2	【定】外観検査	TBM.定検	10C	10C
				3	機能・性能試験-1	TBM.定検	1C	1C
				4	【定】機能・性能検査	TBM.定検	1C	1C
				5	消耗品取替-1	TBM.定検	8Y	8Y
				6	消耗品取替-2	TBM.定検	8Y	8Y
				7	特性試験(校正・調整)	TBM.定検	13M	13M
				8	特性試験(絶縁抵抗測定)	TBM.定検	1C	1C
				9	特性試験(漏れ電流測定)	TBM.定検	5C	5C
				10	機能・性能試験-2	TBM.定検	1C	1C
系統/キスト 所内電気設備系(SES)	2-2267E-1	230V系蓄電池	高	1	外観点検	TBM.定検	1C	1C
				2	【定】外観検査	TBM.定検	10C	10C
				3	機能・性能試験-1	TBM.定検	1C	1C
				4	【定】機能・性能検査	TBM.定検	1C	1C
				5	機能・性能試験-2	TBM.定検	1C	1C
系統/キスト 所内電気設備系(SES)	2-2267E	230V系充電器	高	1	外観点検	TBM.定検	1C	1C
				2	【定】外観検査	TBM.定検	10C	10C
				3	機能・性能試験-1	TBM.定検	1C	1C
				4	【定】機能・性能検査	TBM.定検	1C	1C
				5	消耗品取替-1	TBM.定検	8Y	8Y
				6	消耗品取替-2	TBM.定検	8Y	8Y
				7	特性試験(校正・調整)	TBM.定検	13M	13M
				8	特性試験(絶縁抵抗測定)	TBM.定検	1C	1C
				9	特性試験(漏れ電流測定)	TBM.定検	5C	5C
				10	機能・性能試験-2	TBM.定検	1C	1C

・設備の相違

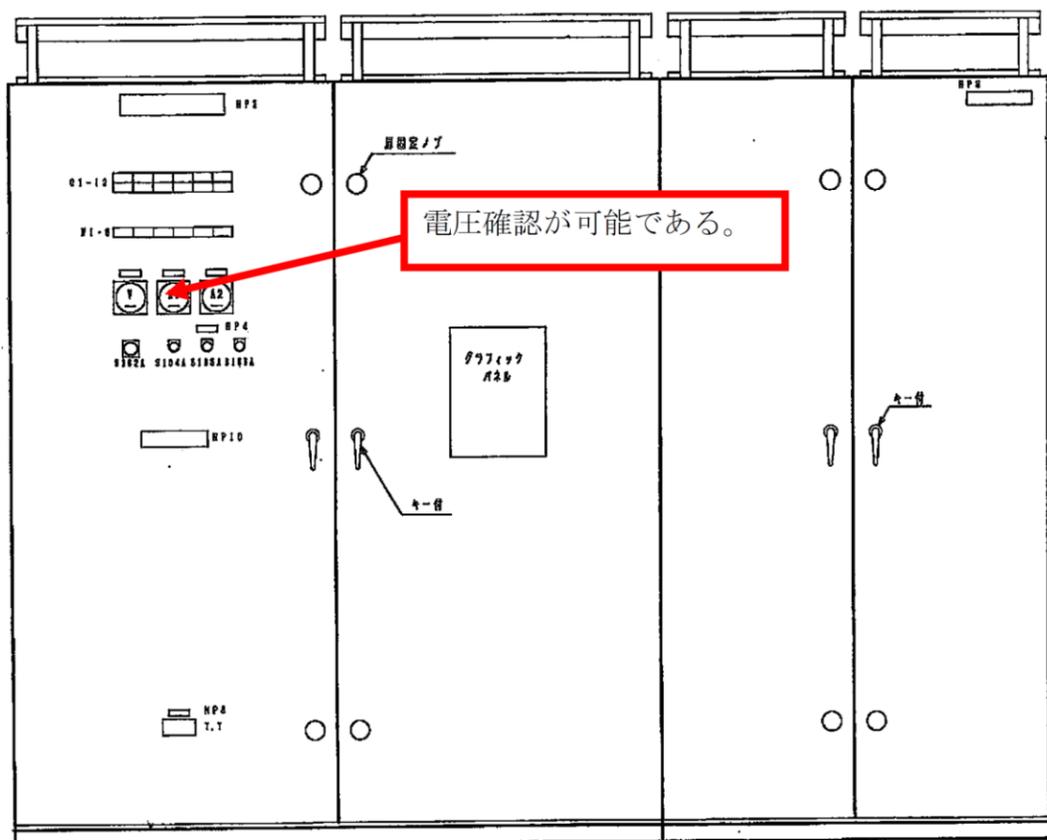
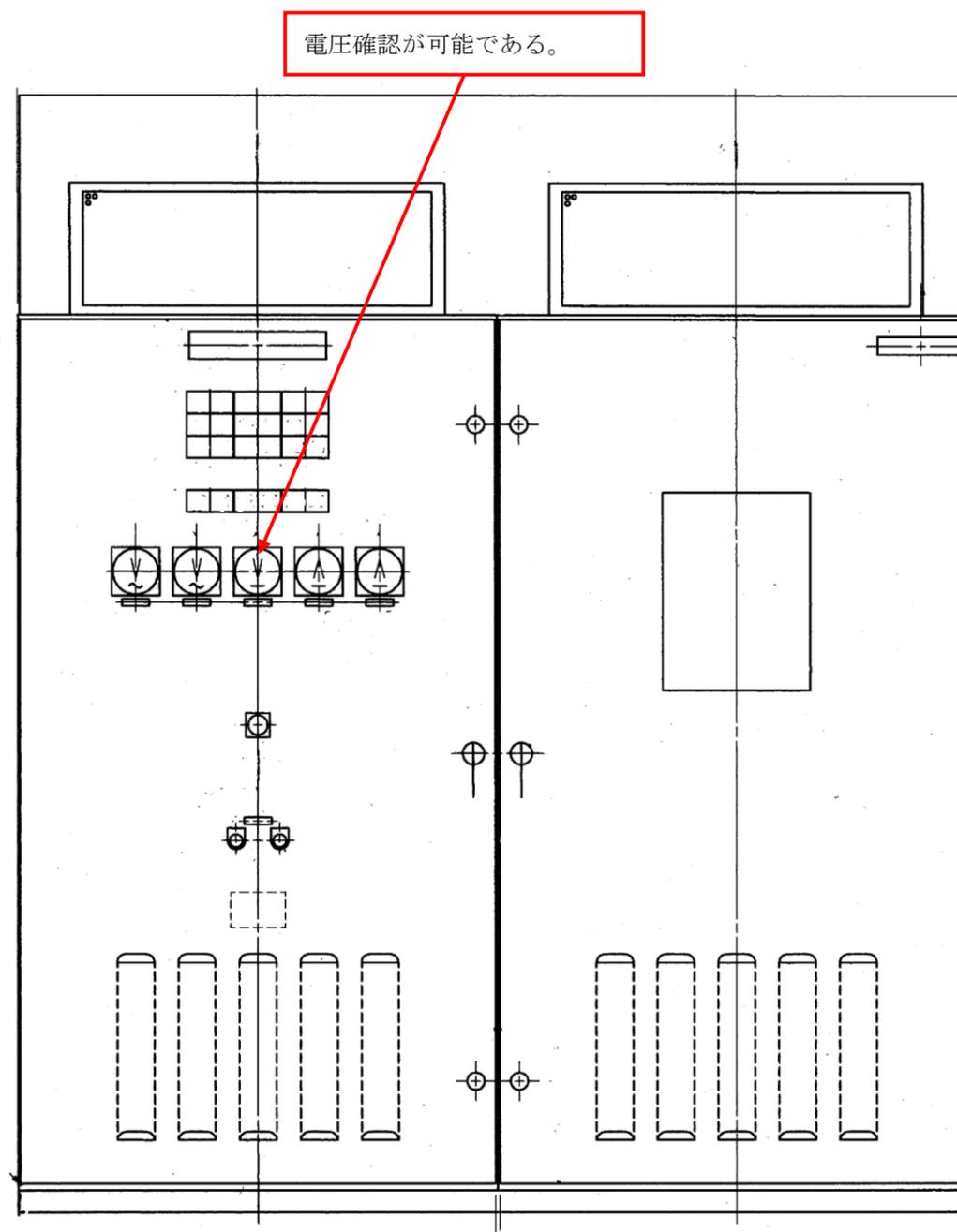


図 57-4-20 直流 125V 充電器 6A 構造図



第 57-4-18 図 B-115V系充電器構造図

・設備の相違

絶縁抵抗測定が可能である。

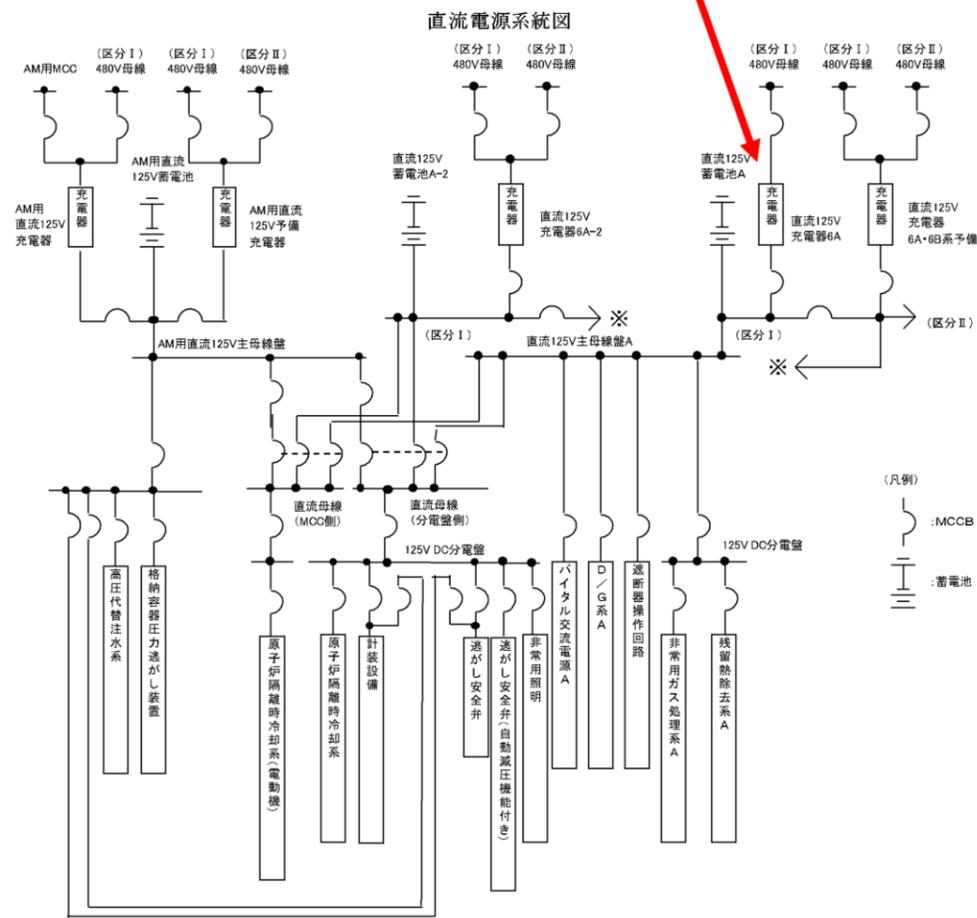
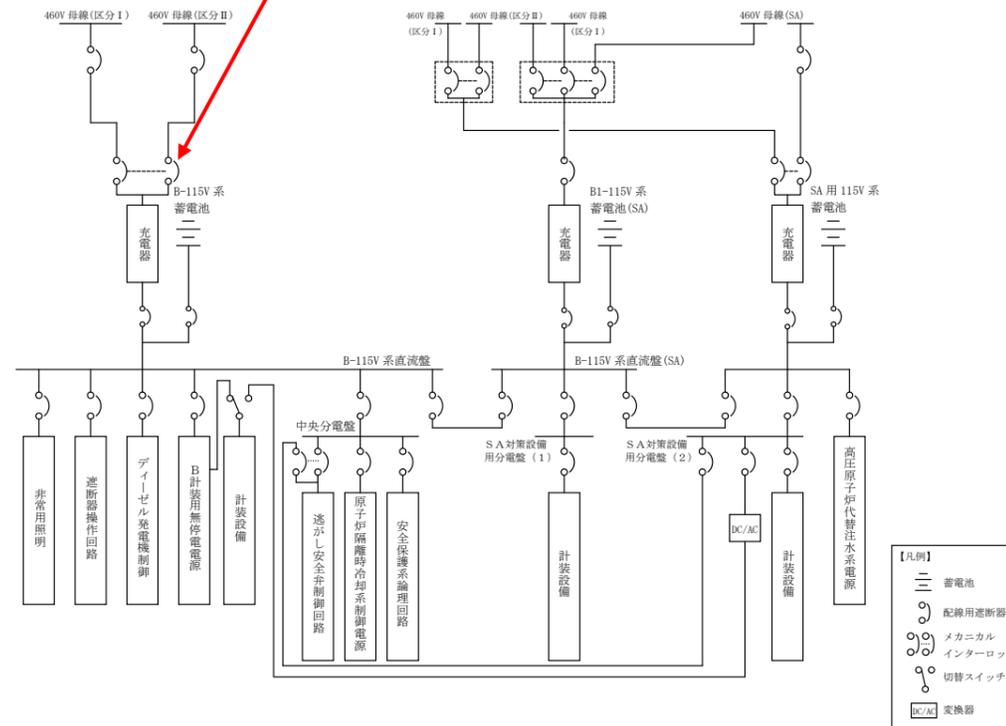


図 57-4-21 6号炉直流125V充電器A試験系統図

絶縁抵抗測定が可能である。



第 57-4-19 図 B-115V系充電器試験系統図

• 設備の相違

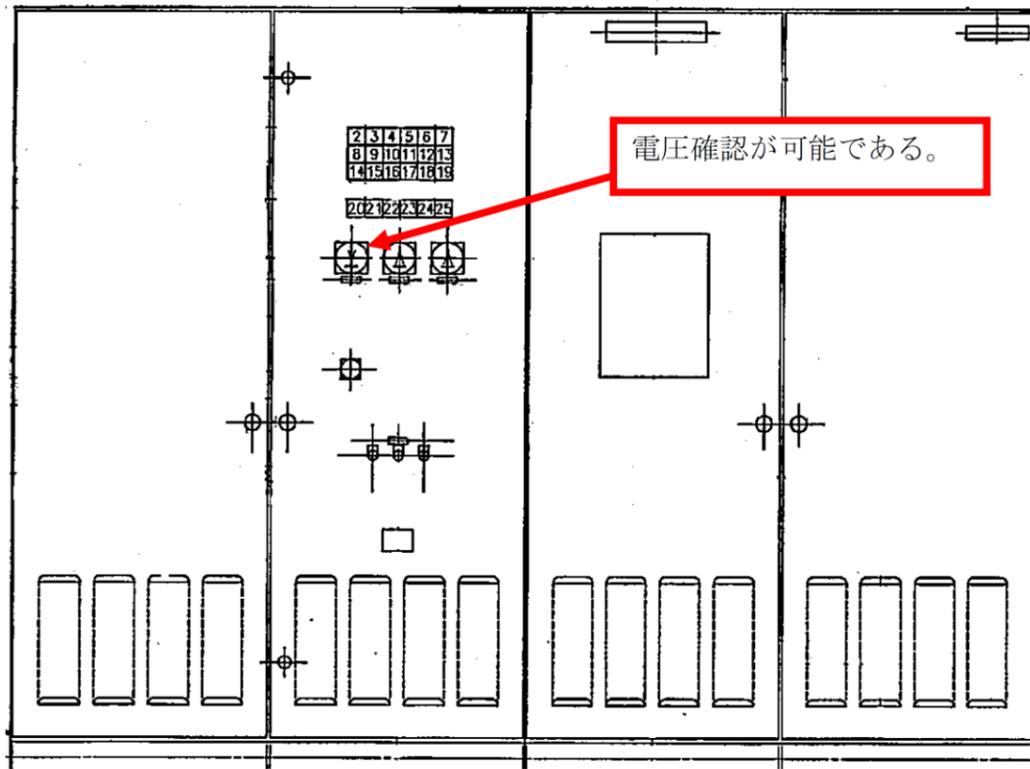


図 57-4-22 直流 125V 充電器 7A 構造図

・設備の相違

絶縁抵抗測定が可能である。

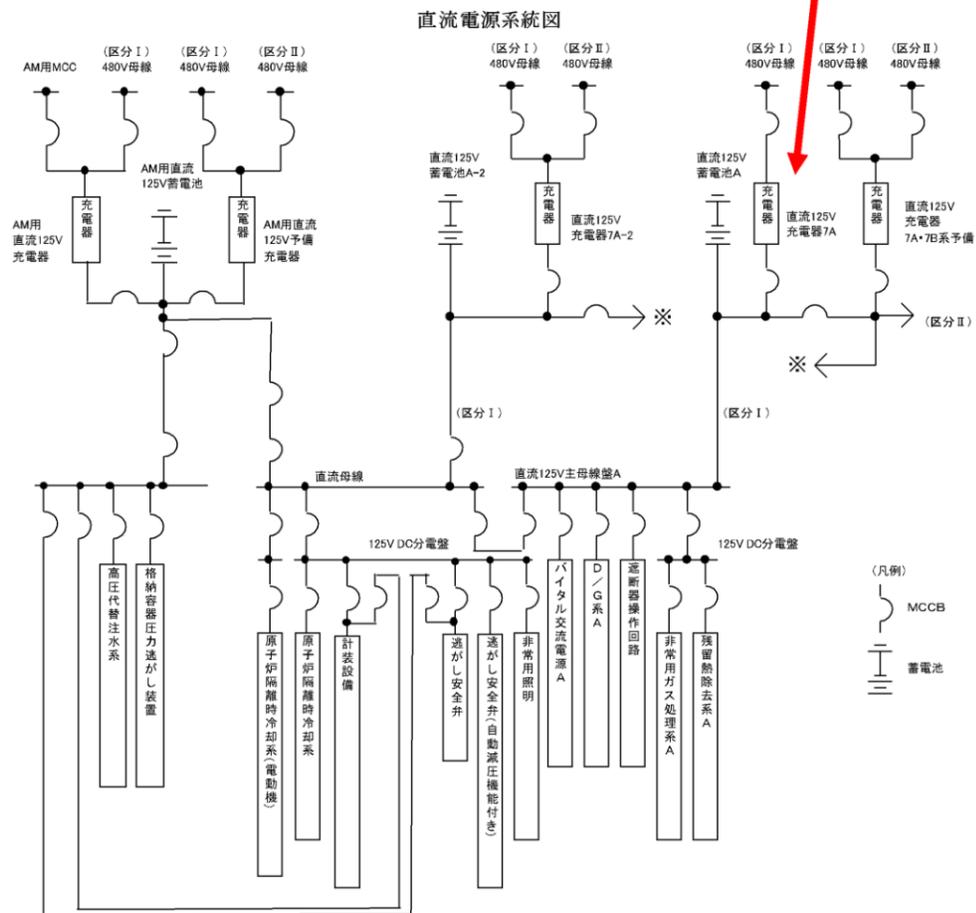


図 57-4-23 7号炉直流 125V 充電器 A 試験系統図

・設備の相違

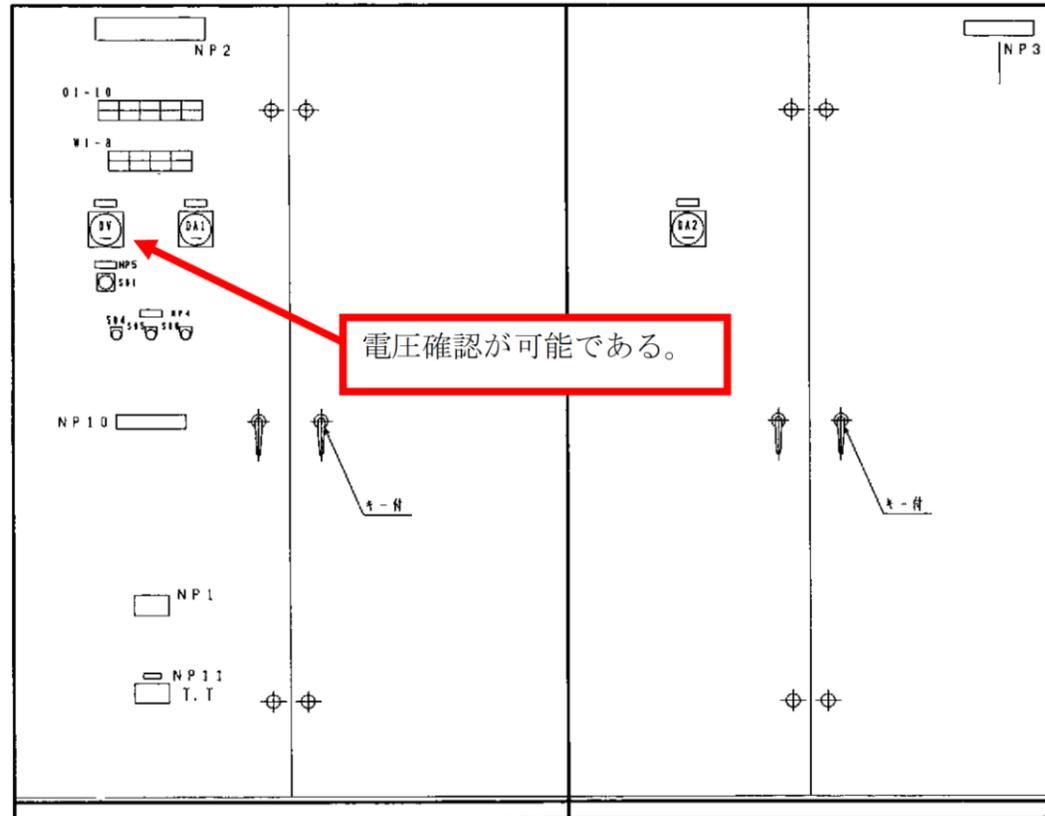
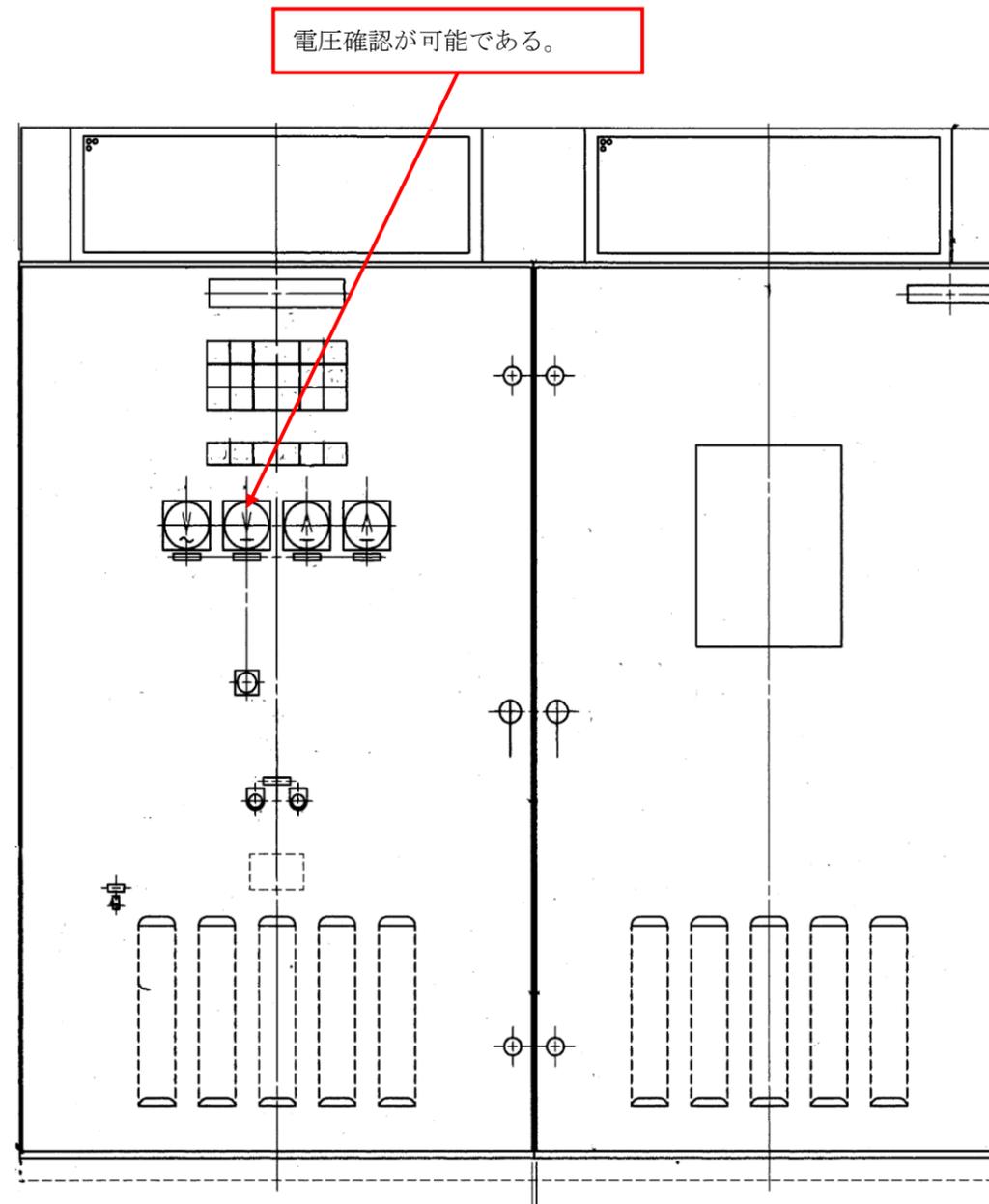


図 57-4-24 直流 125V 充電器 6A-2 構造図



第 57-4-20 図 B1-115V系充電器 (SA) 構造図

・設備の相違

絶縁抵抗測定が可能である。

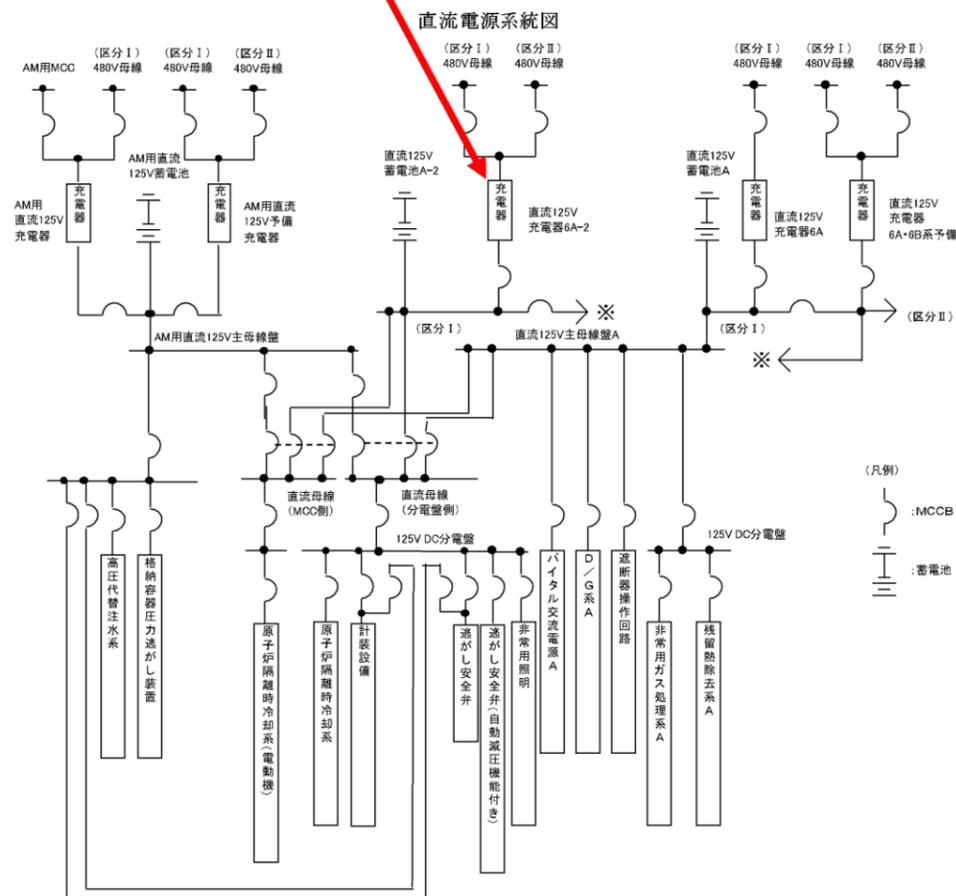
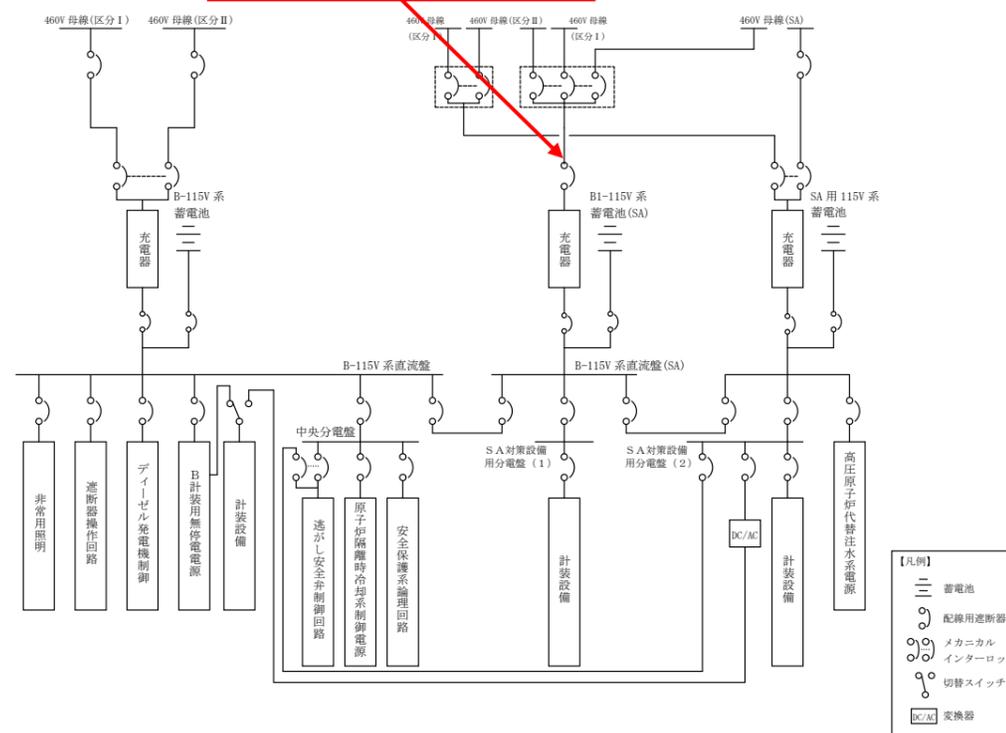


図 57-4-25 6号炉直流 125V 充電器 A-2 試験系統図

絶縁抵抗測定が可能である。



第 57-4-21 図 B 1 - 1 1 5 V系充電器 (SA) 試験系統図

• 設備の相違

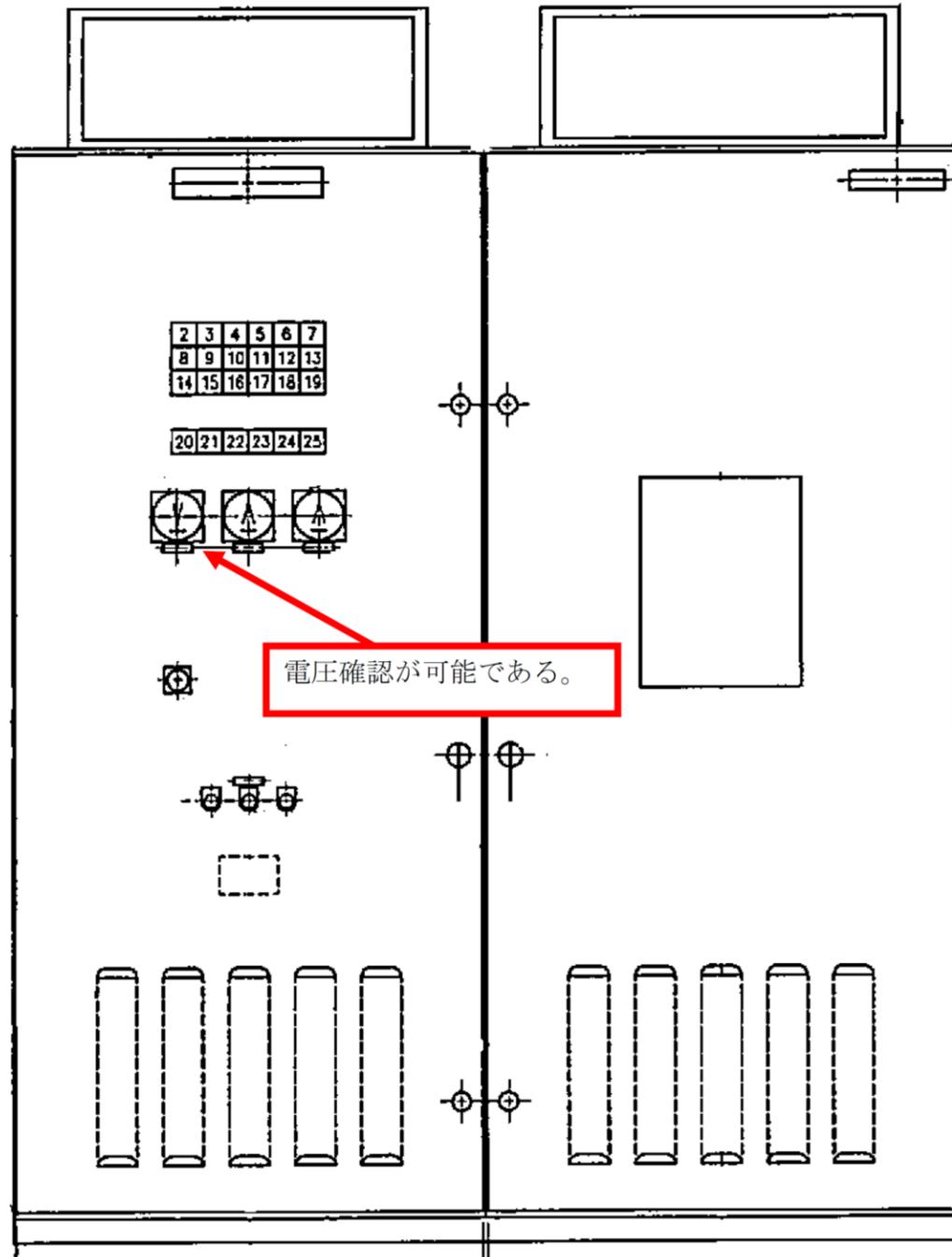


図 57-4-26 直流 125V 充電器 7A-2 構造図

・設備の相違

絶縁抵抗測定が可能である。

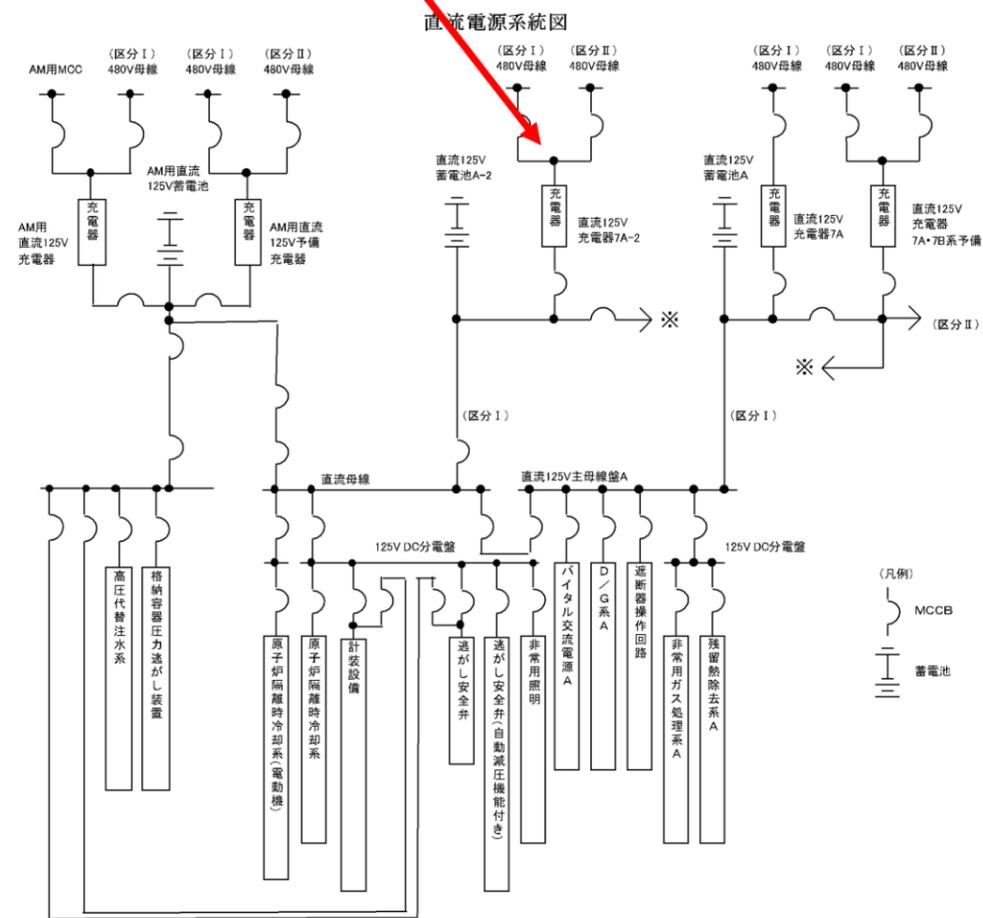


図 57-4-27 7号炉直流 125V 充電器 A-2 試験系統図

・設備の相違

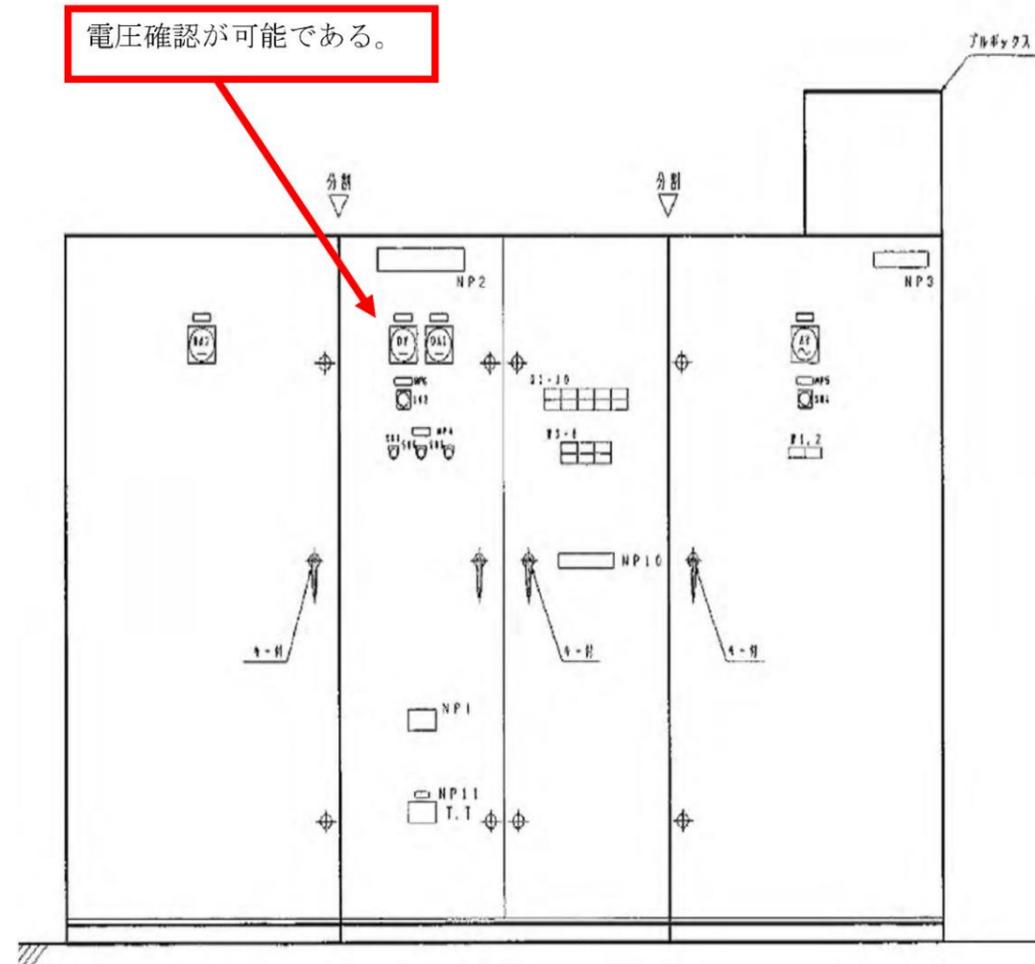
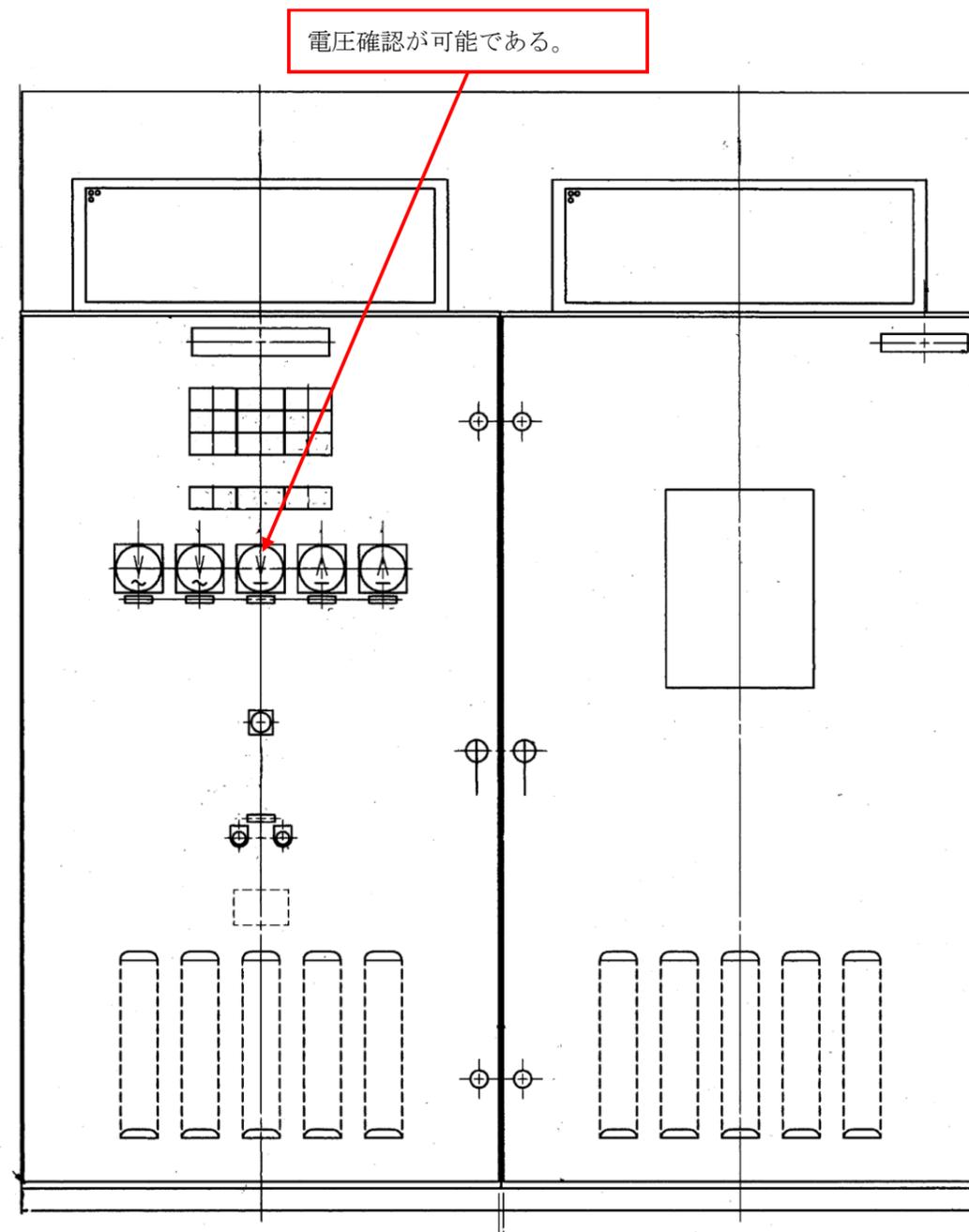


図 57-4-28 6号炉 AM用直流 125V 充電器構造図



第 57-4-22 図 SA用 115V 系充電器構造図

・設備の相違

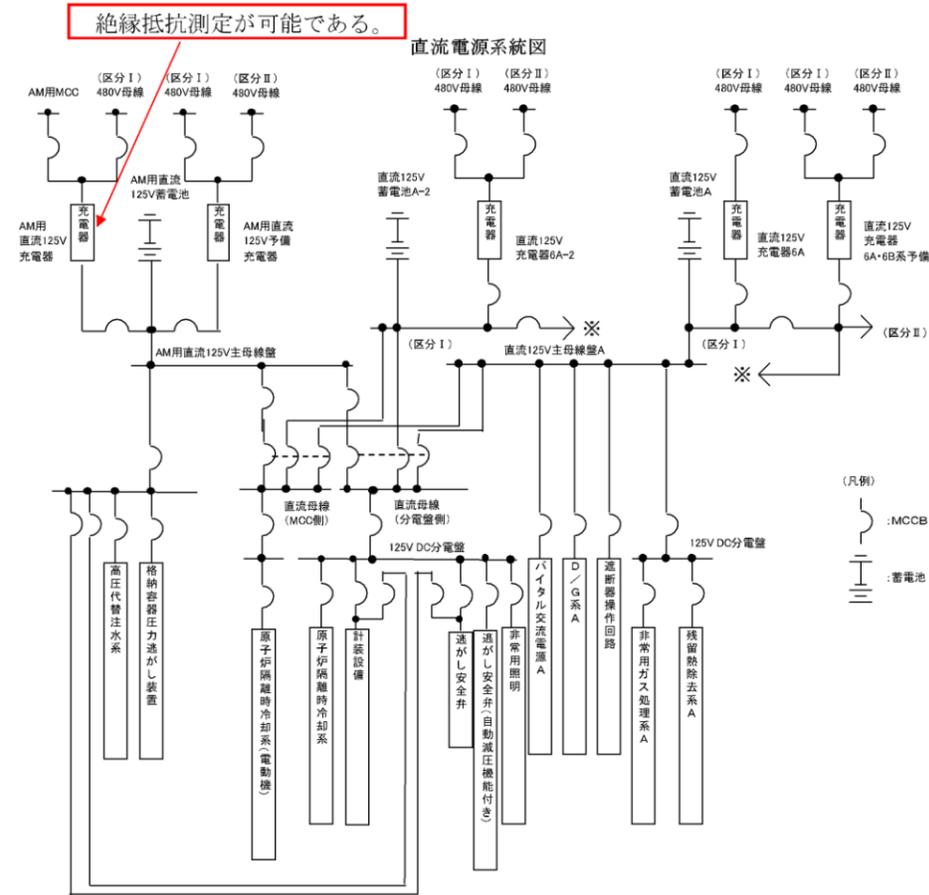
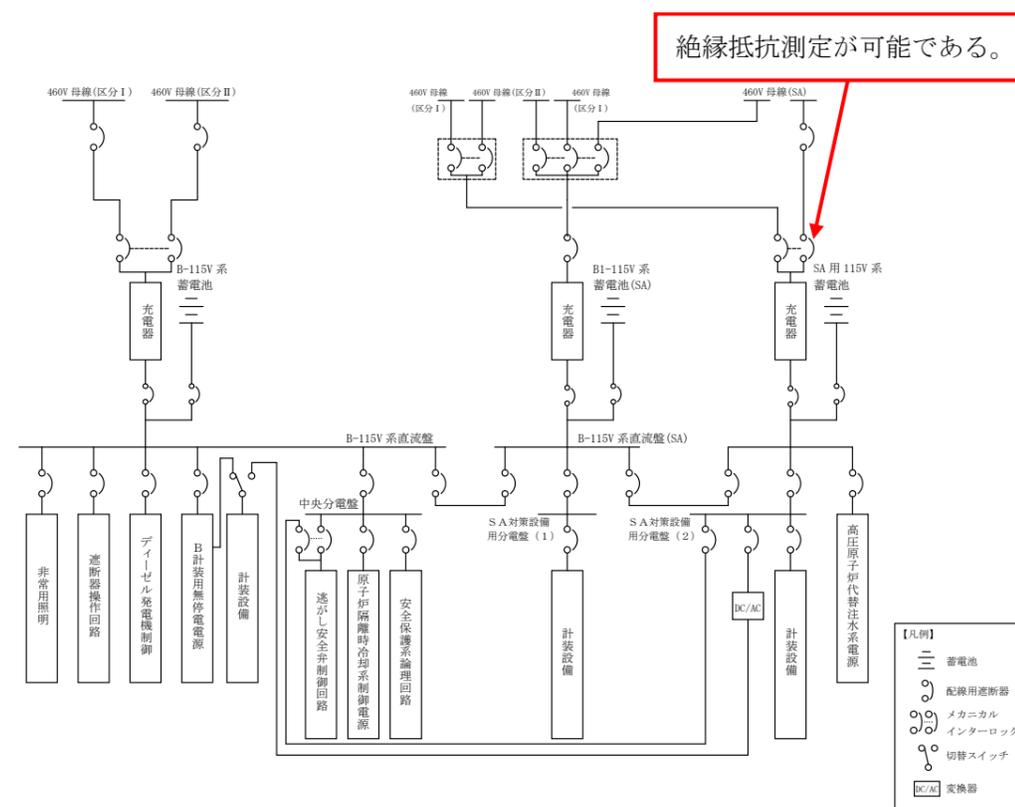


図 57-4-29 6号炉 AM用直流 125V 充電器試験系統図



第 57-4-23 図 SA用 115V系充電器 (SA) 試験系統図

・設備の相違

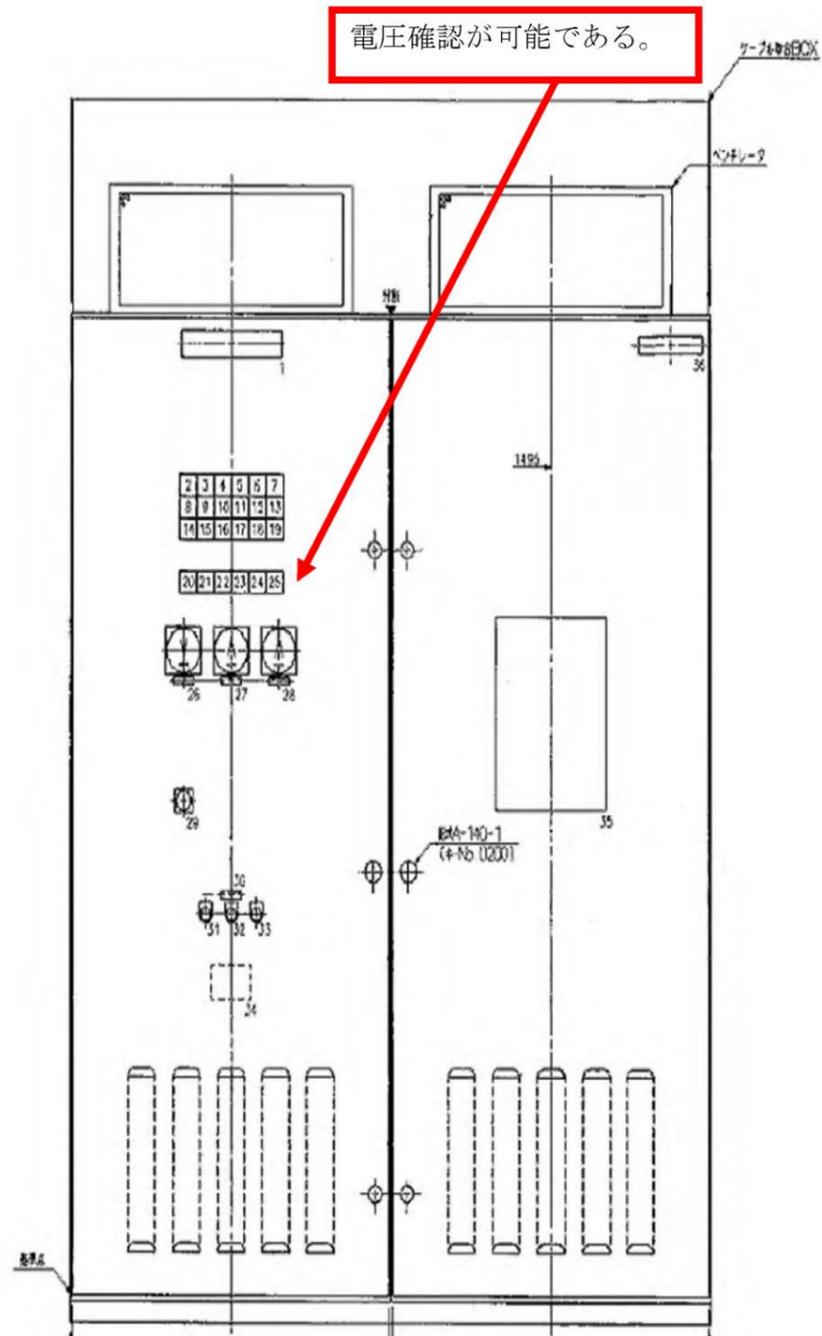


図 57-4-30 7号炉 AM用直流 125V 充電器構造図

・設備の相違

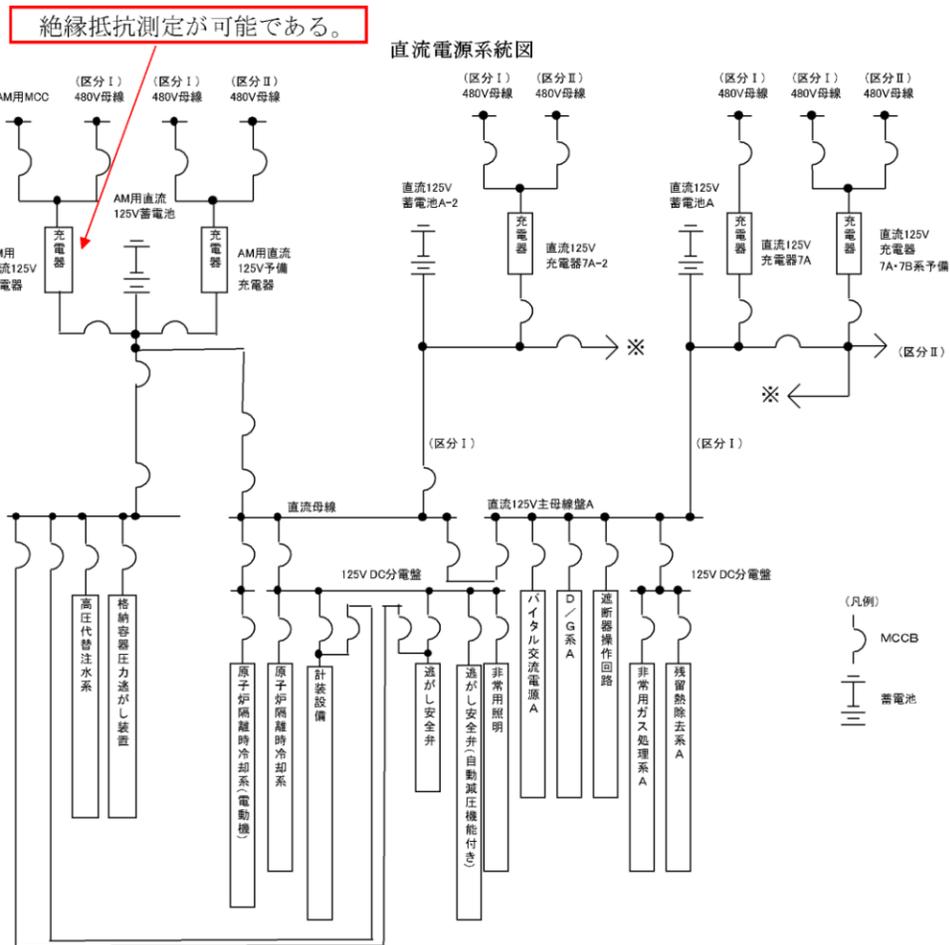
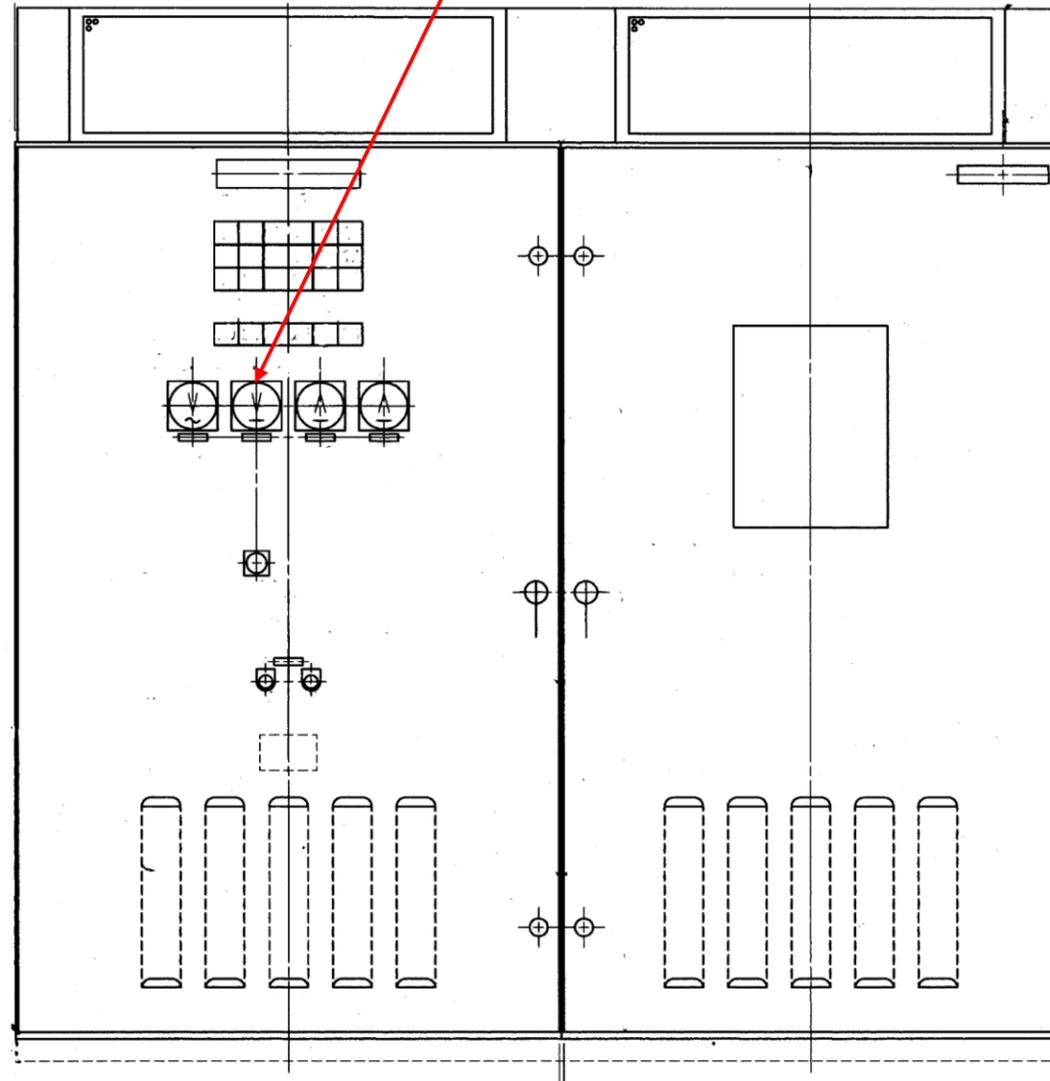


図 57-4-31 7号炉 AM用直流 125V 充電器試験系統図

・設備の相違

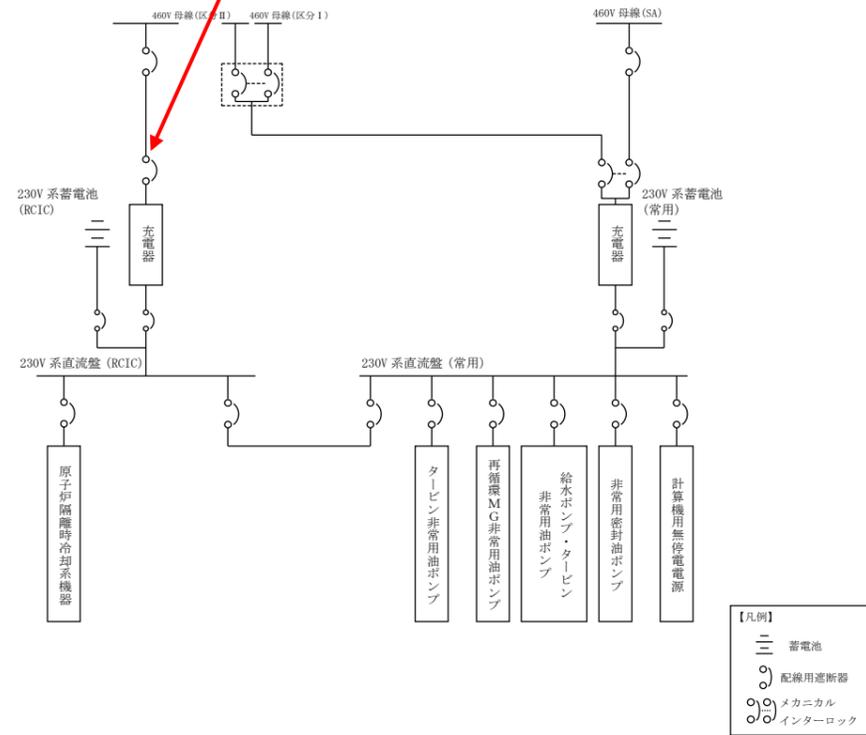
電圧確認が可能である。



第 57-4-24 図 230V系充電器 (RCIC) 構造図

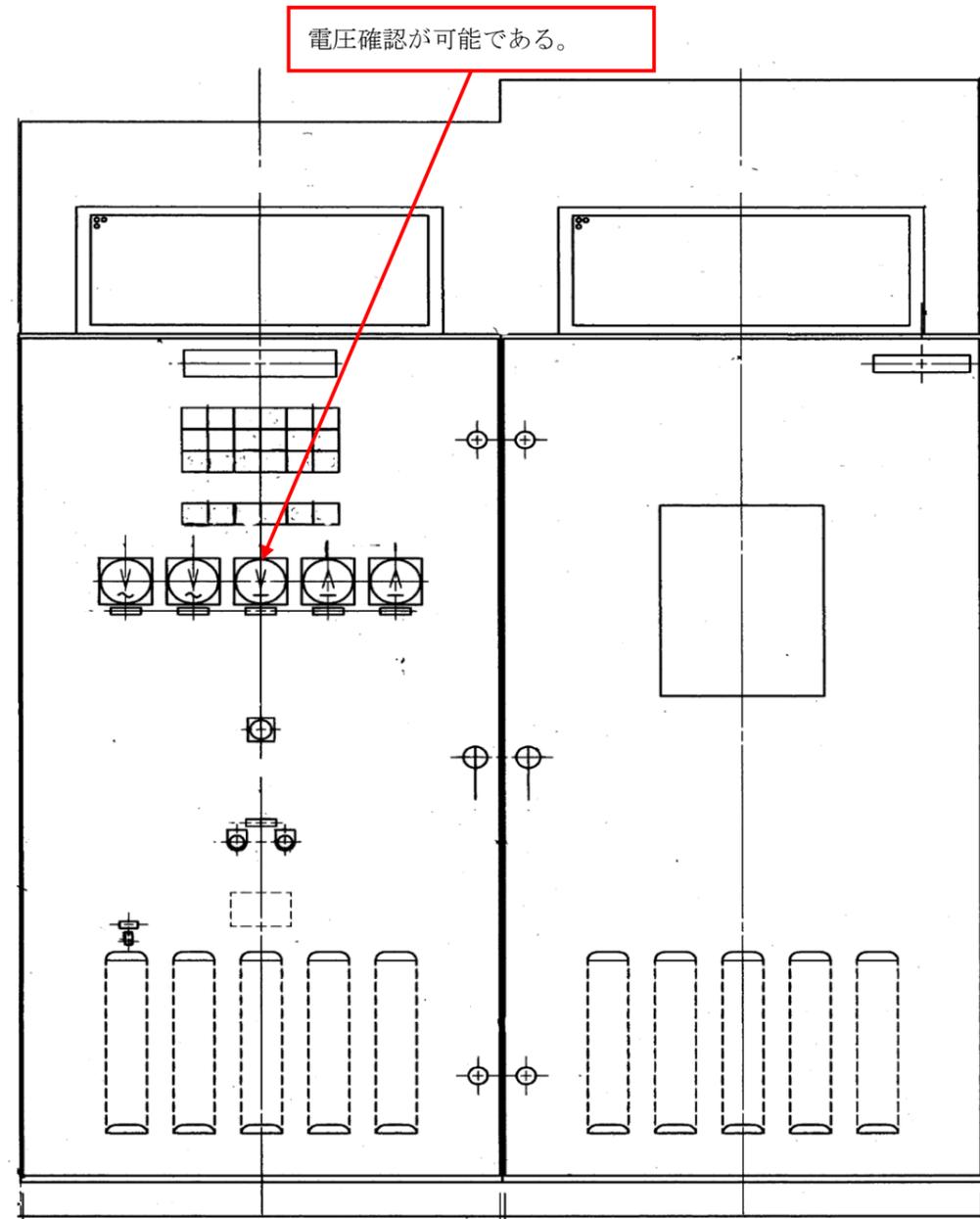
・設備の相違

絶縁抵抗測定が可能である。



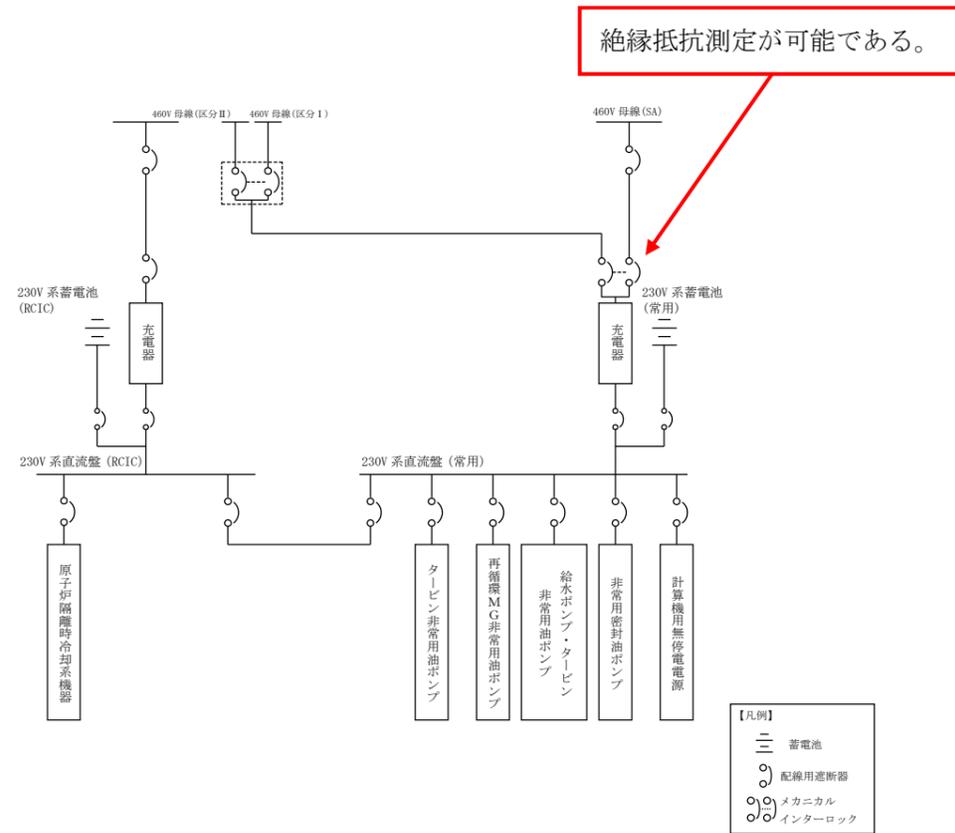
第 57-4-25 図 230V系充電器 (RCIC) 試験系統図

・設備の相違



第 57-4-26 図 230V系充電器 (常用) 構造図

・設備の相違



第 57-4-27 図 230V 系充電器 (常用) 試験系統図

・設備の相違

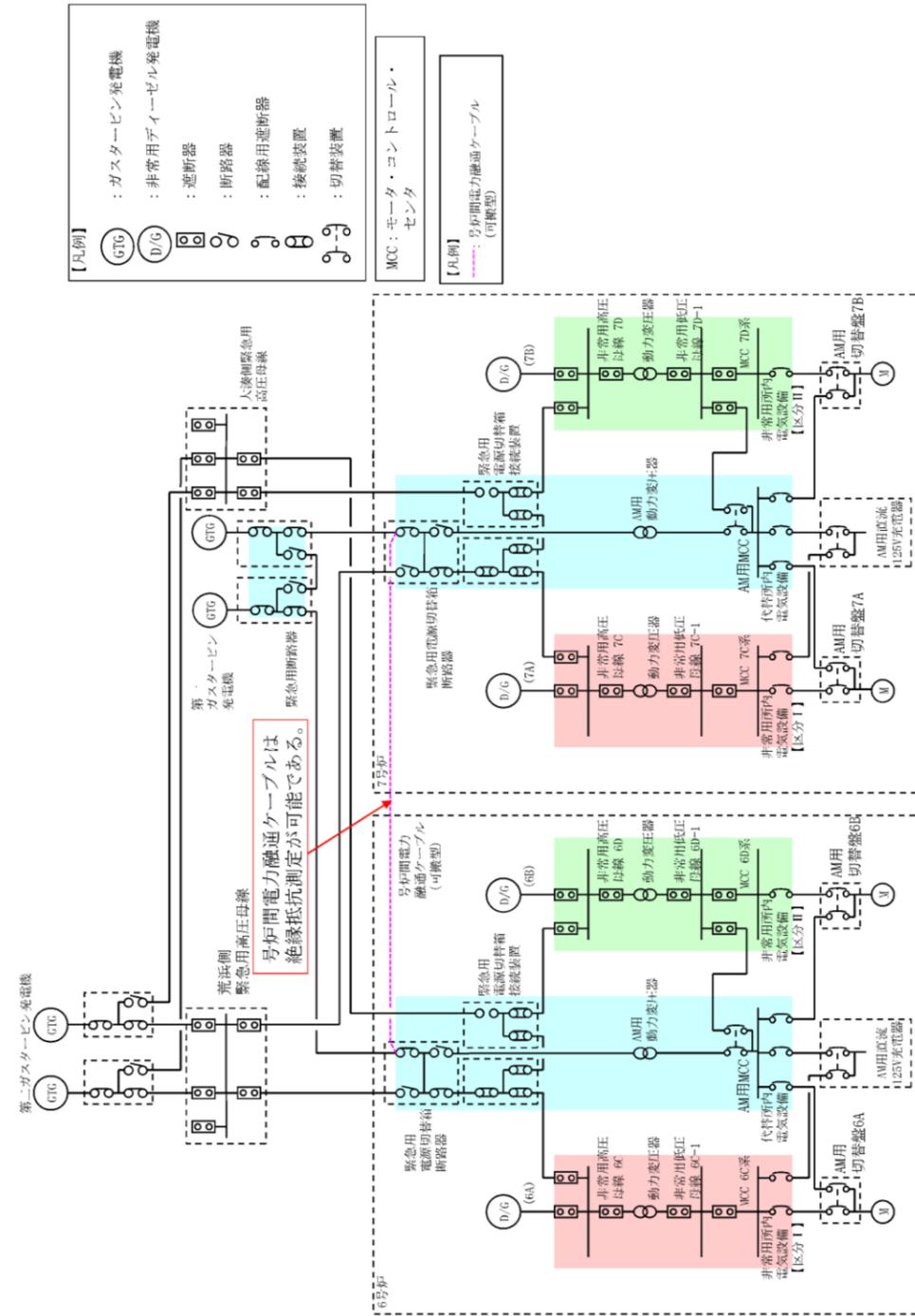


図 57-4-33 号炉間電力融通ケーブル試験系統図
(号炉間電力融通ケーブル (可搬型))

・設備の相違

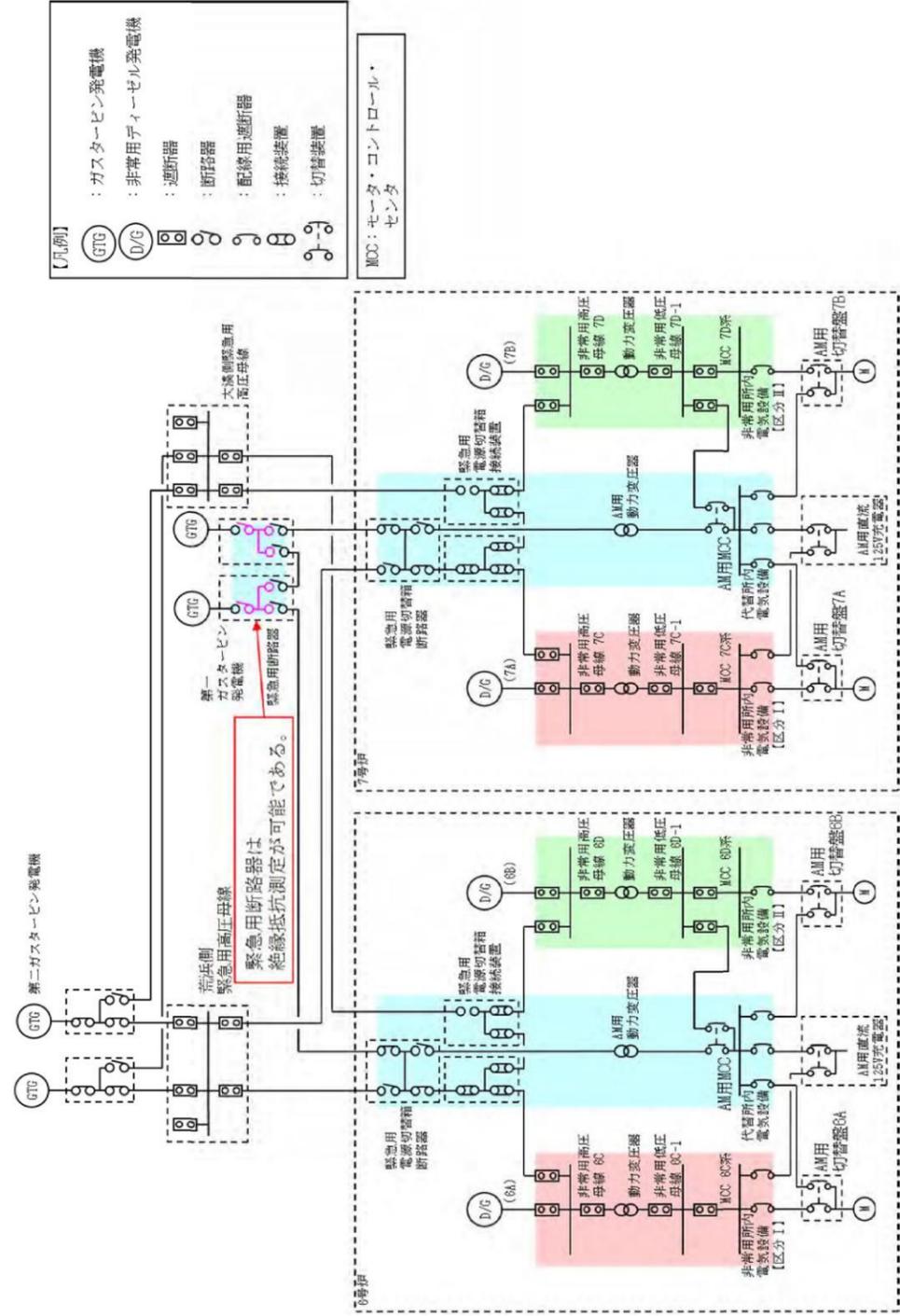
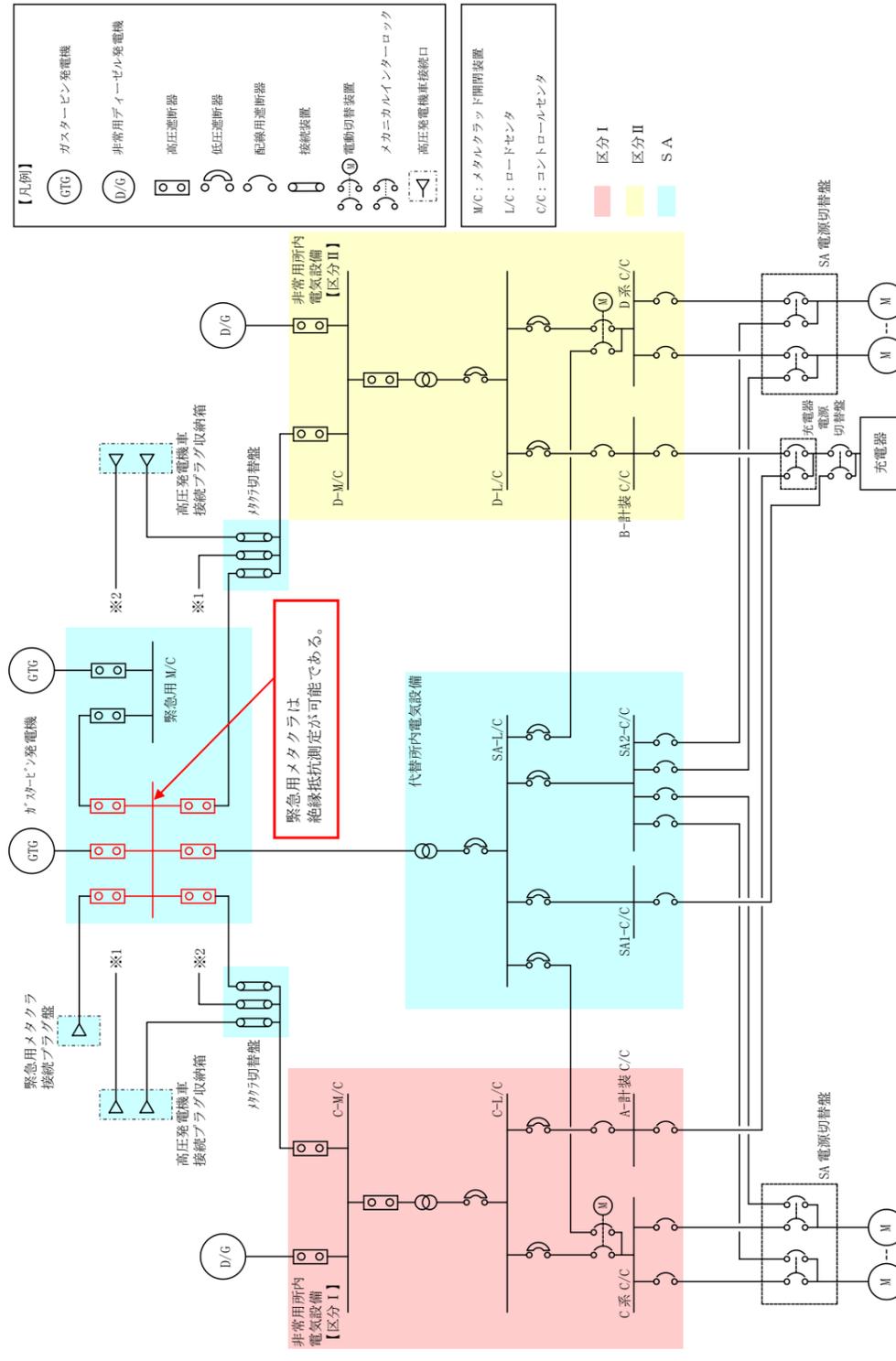


図 57-4-34 緊急用断路器試験系統図



第 57-4-28 図 緊急用メタクラ試験系統図

・設備の相違

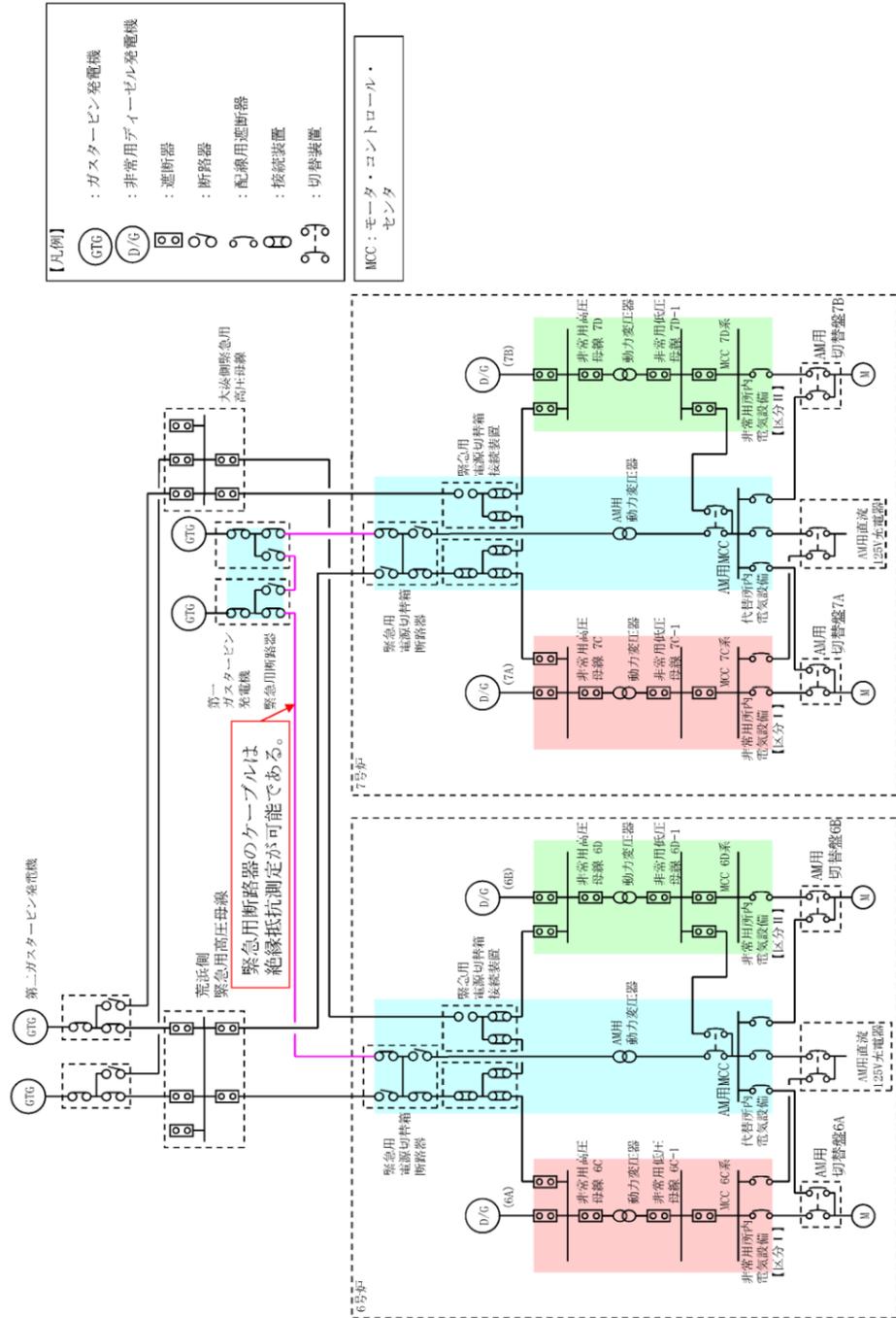
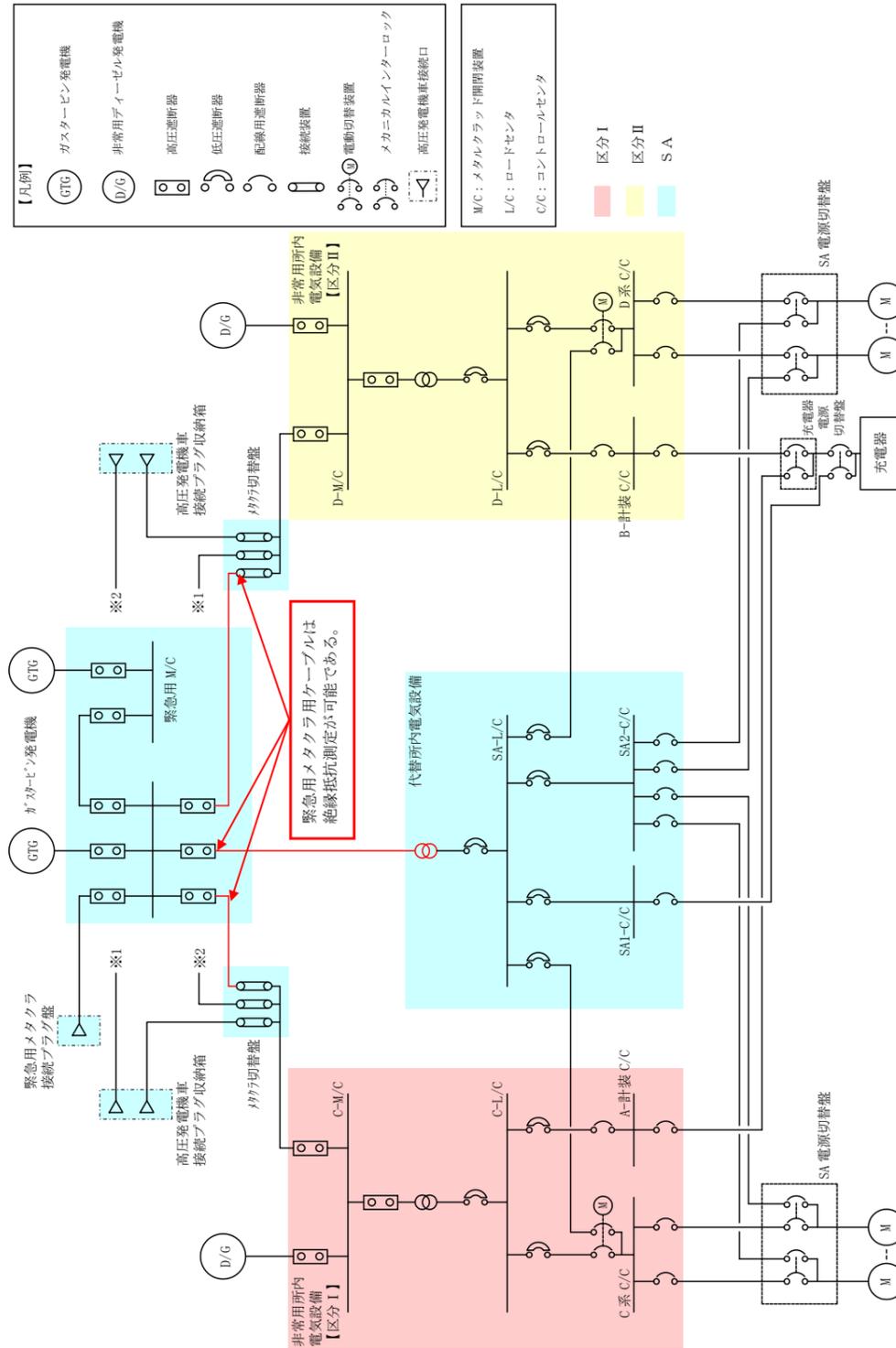


図 57-4-35 緊急用断路器用ケーブル試験系統図



第 57-4-29 図 緊急用メタクラ用ケーブル試験系統図

・設備の相違

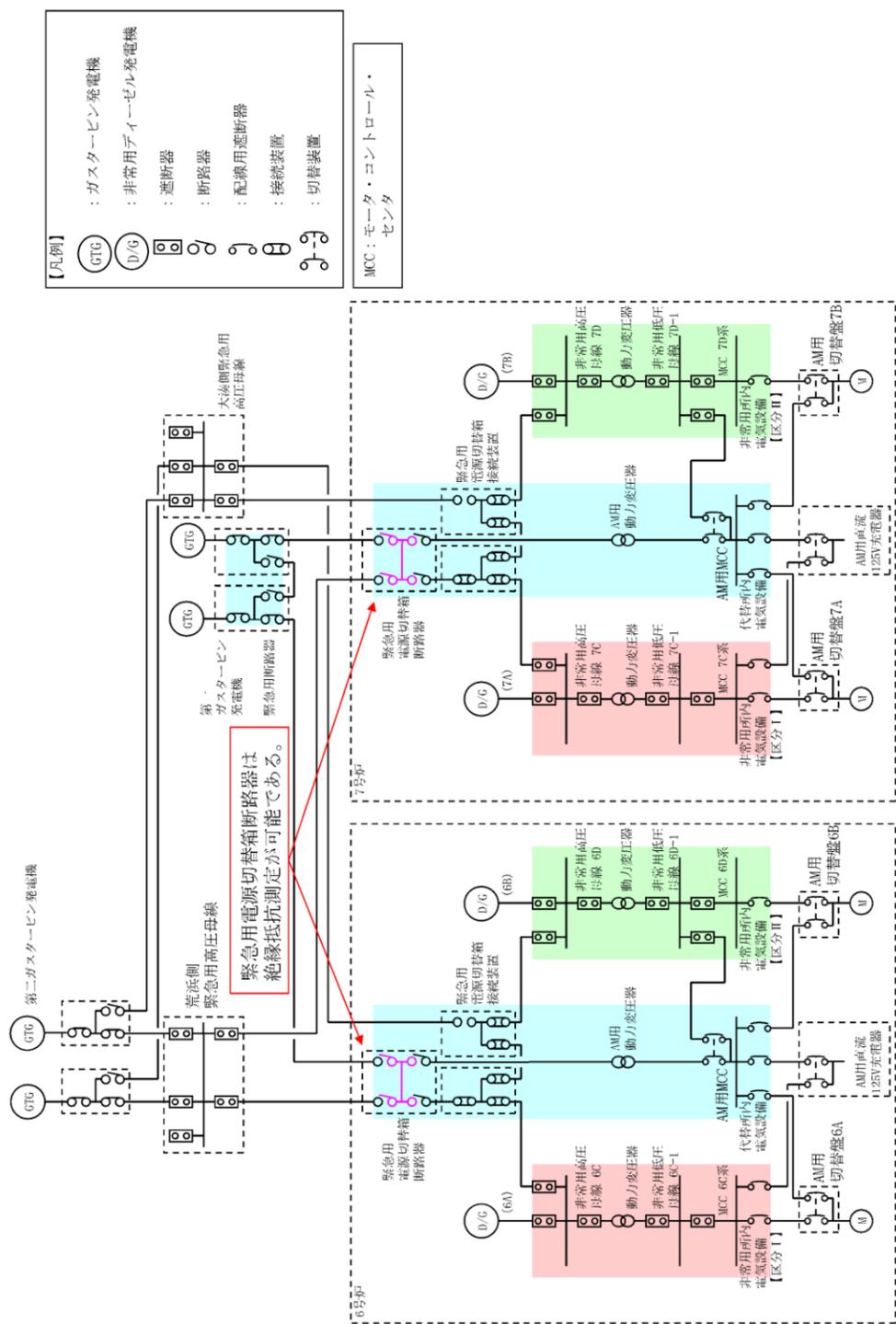
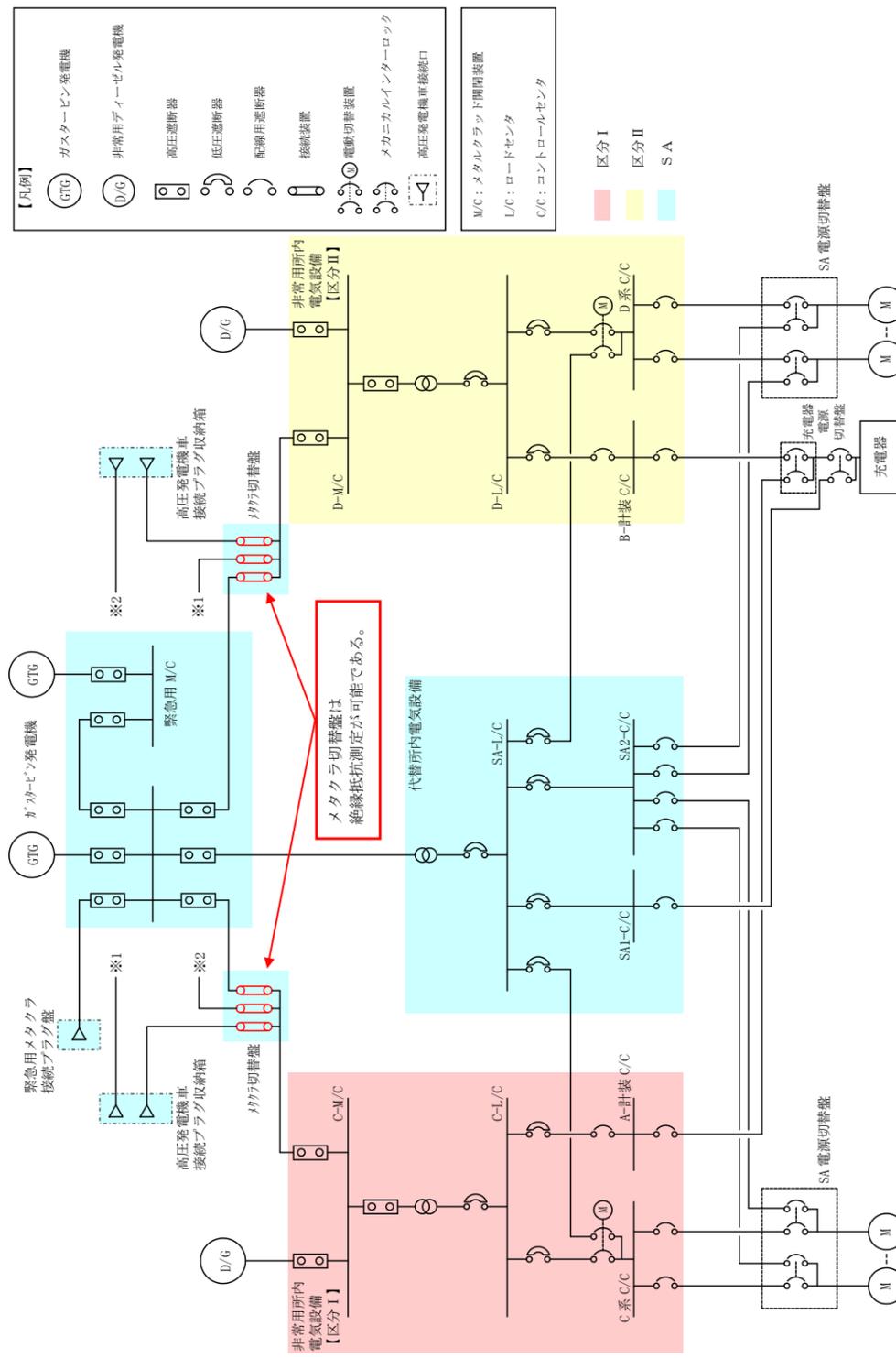
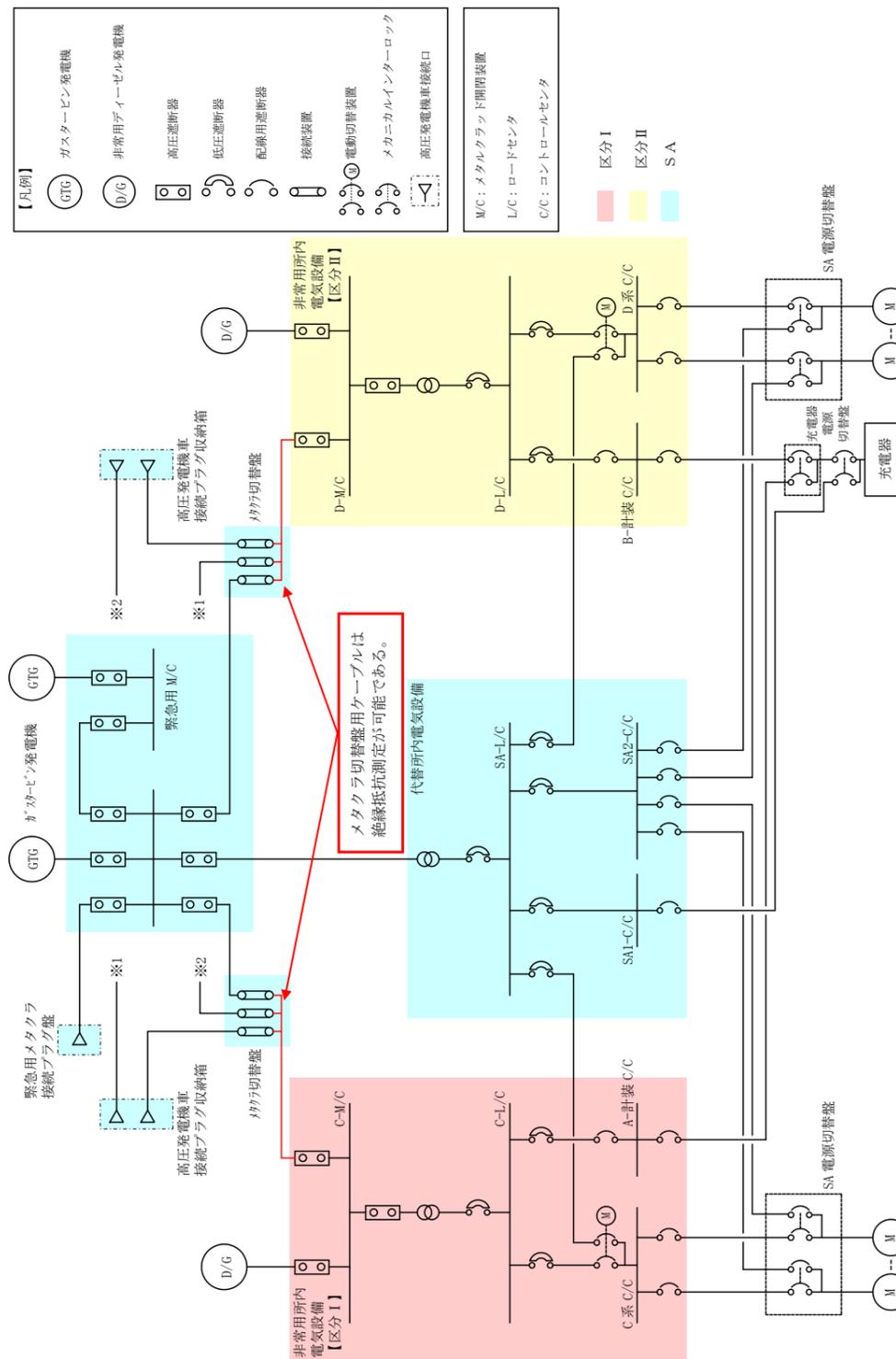


図 57-4-36 緊急用電源切替箱断路器試験系統図



第 57-4-30 図 メタクラ切替盤試験系統図

・設備の相違



第 57-4-31 図 メタクラ切替盤用ケーブル試験系統図

• 設備の相違

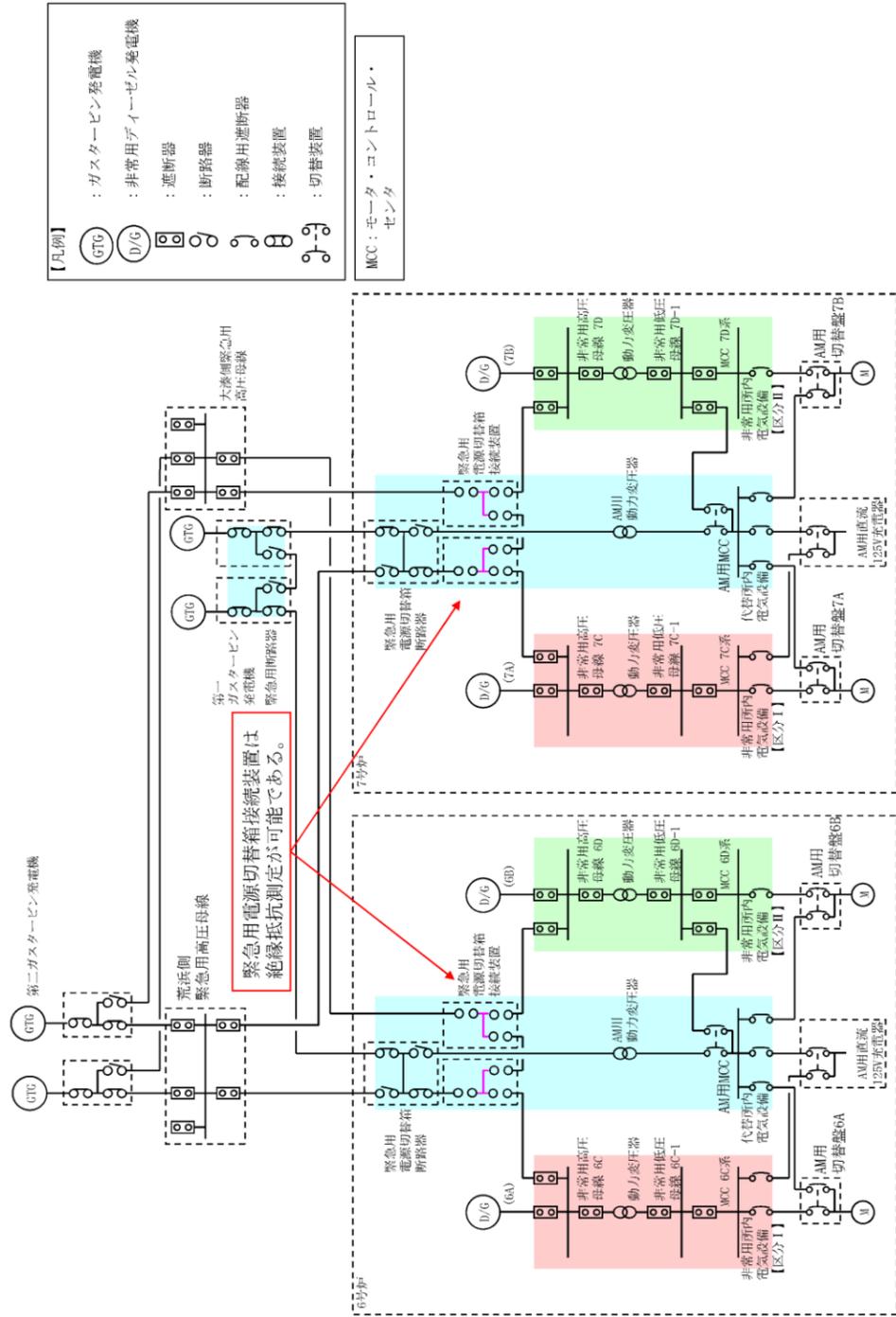
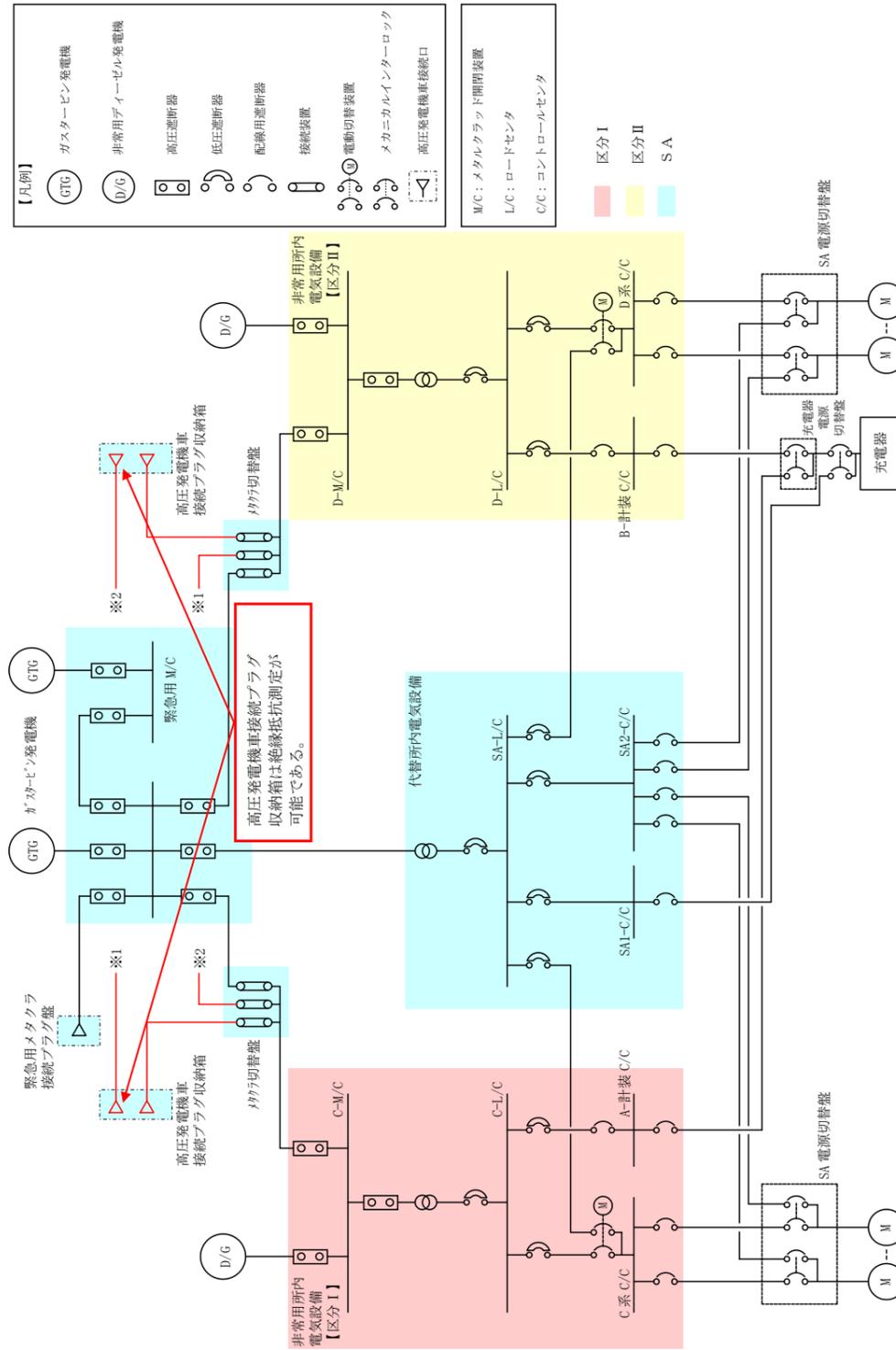
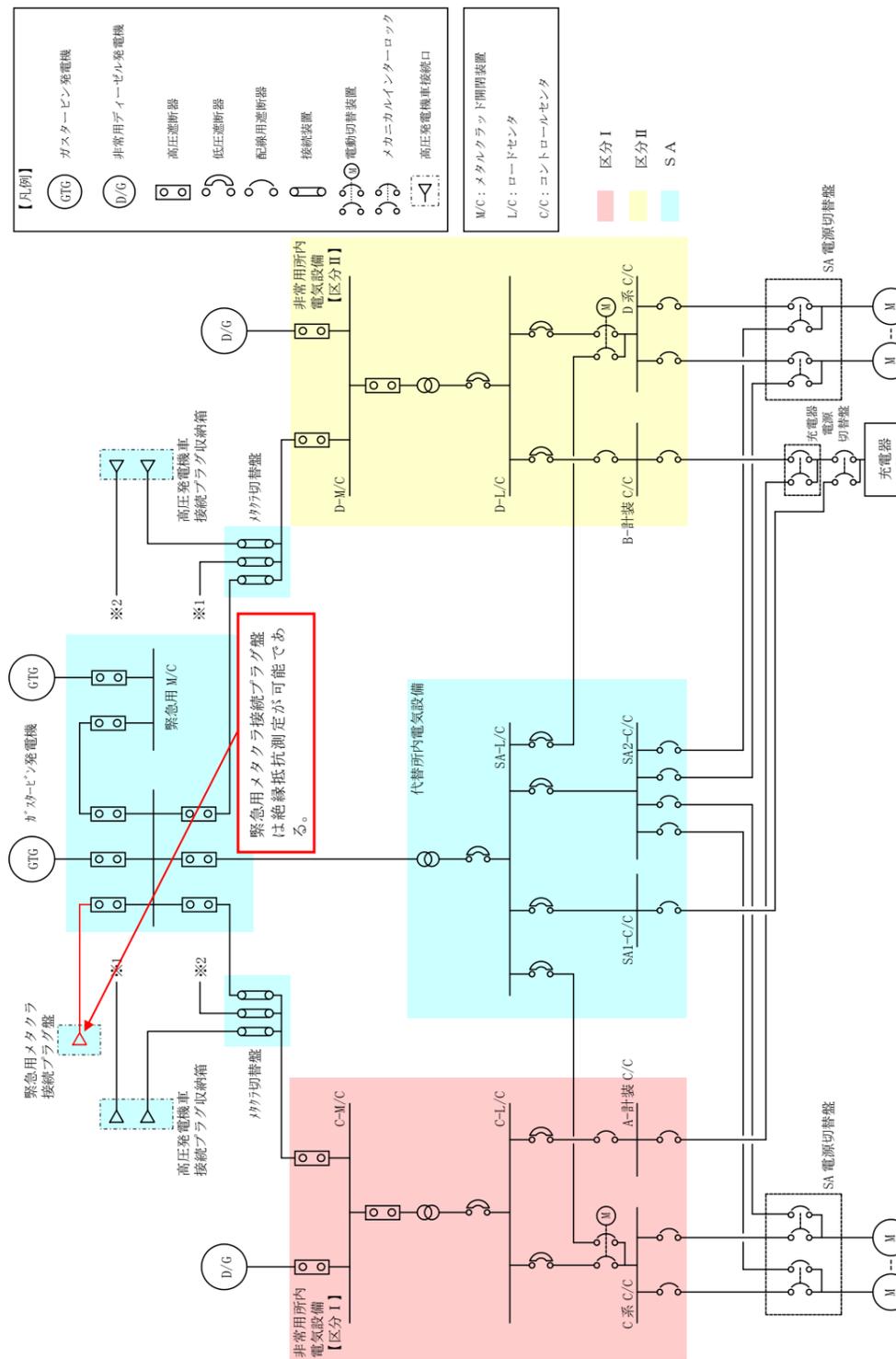


図 57-4-37 緊急用電源切替箱接続装置試験系統図



第 57-4-32 図 高圧発電機車接続プラグ収納箱試験系統図

・設備の相違



第57-4-33図 緊急用メタクラ接続プラグ盤試験系統図

・設備の相違

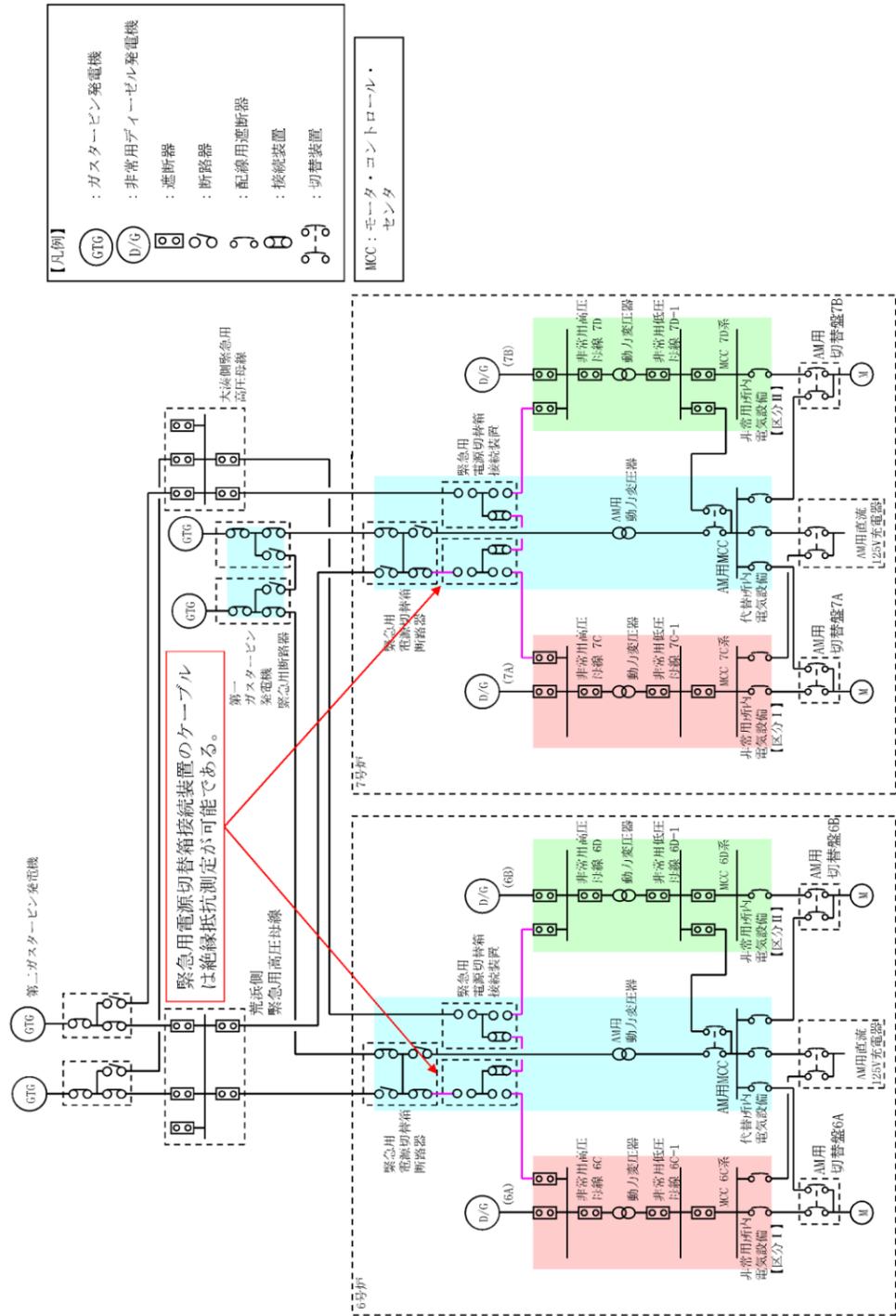


図 57-4-38 緊急用電源切替箱接続装置用ケーブル試験系統図

・設備の相違

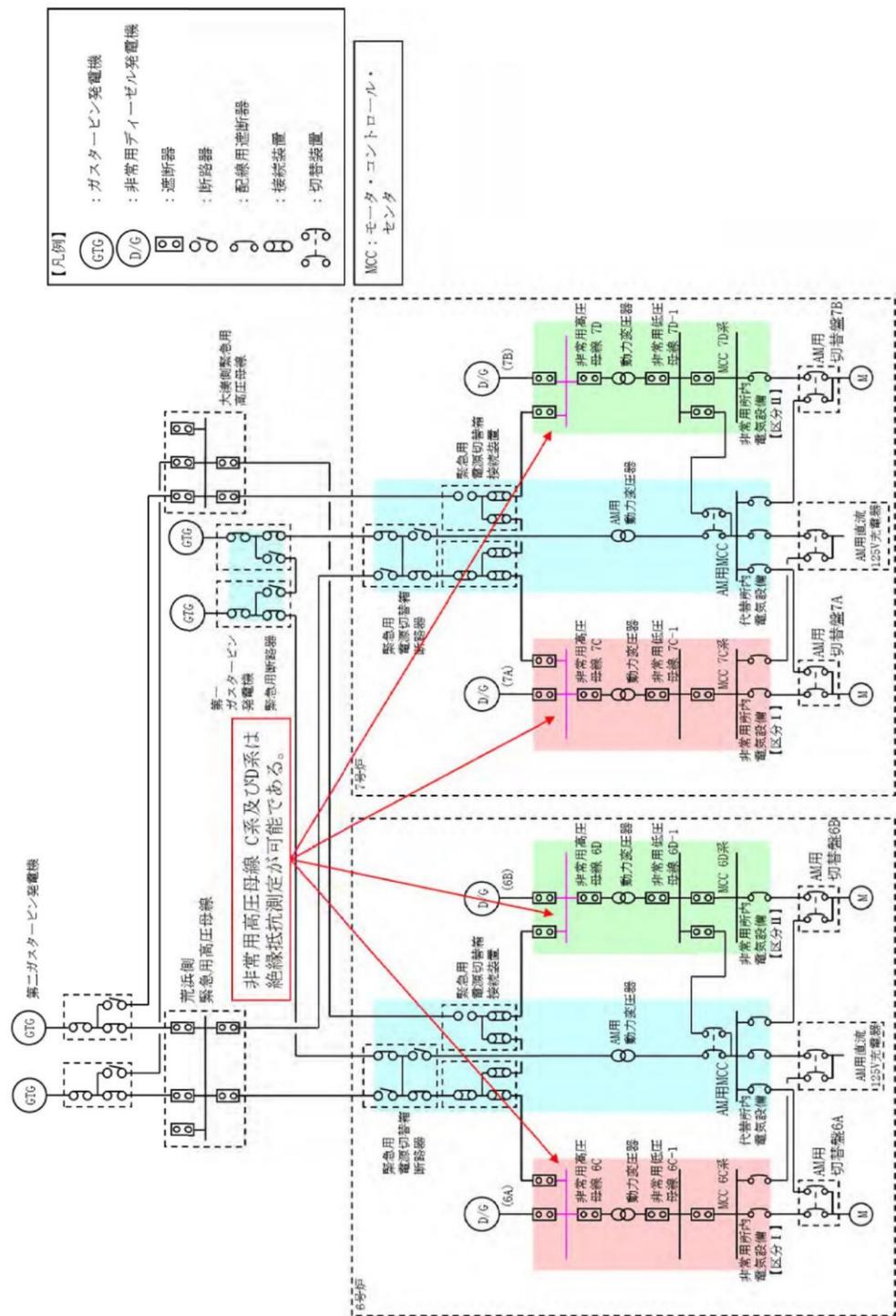


図 57-4-39 非常用高圧母線 C系及びD系試験系統図

・設備の相違

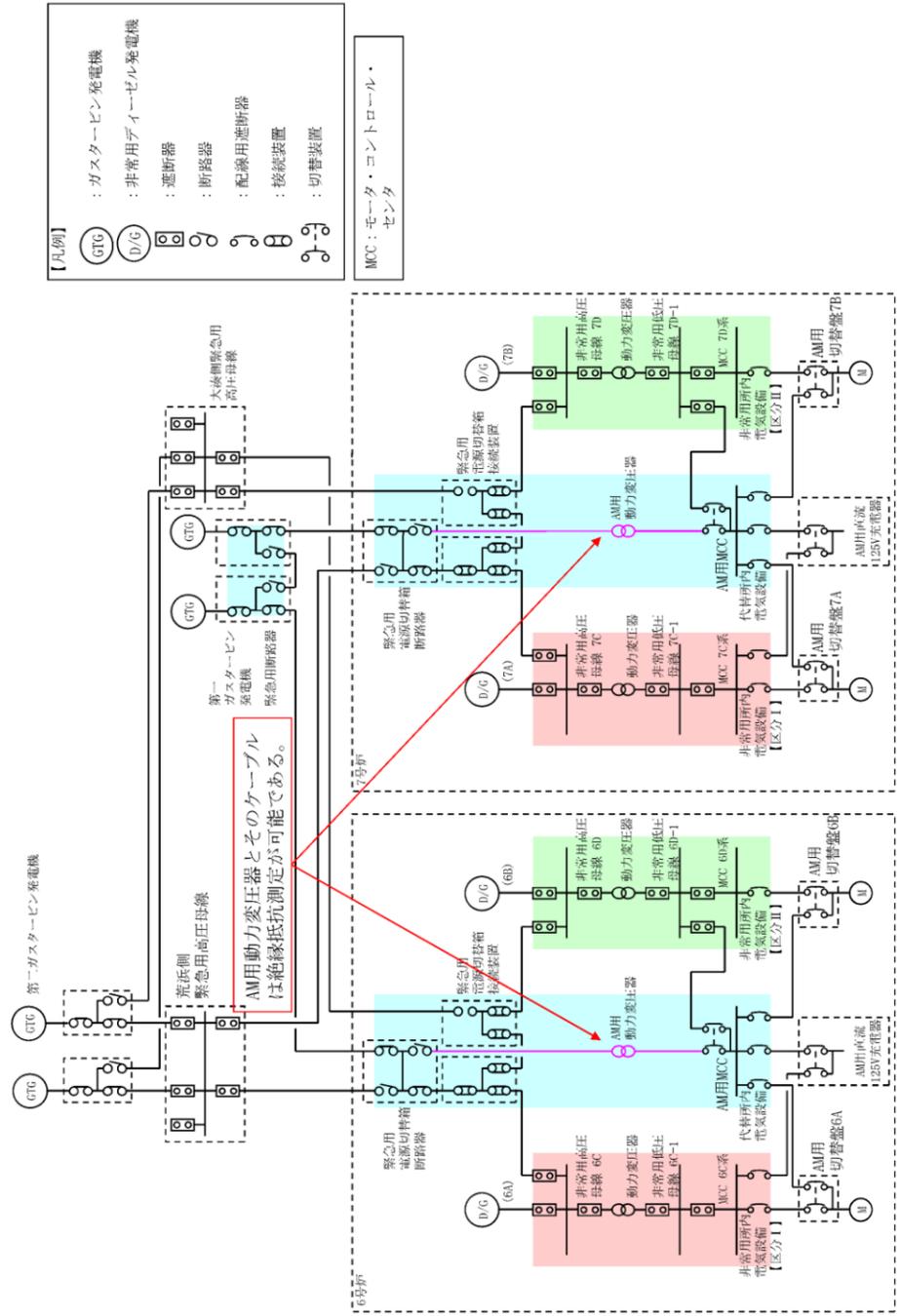
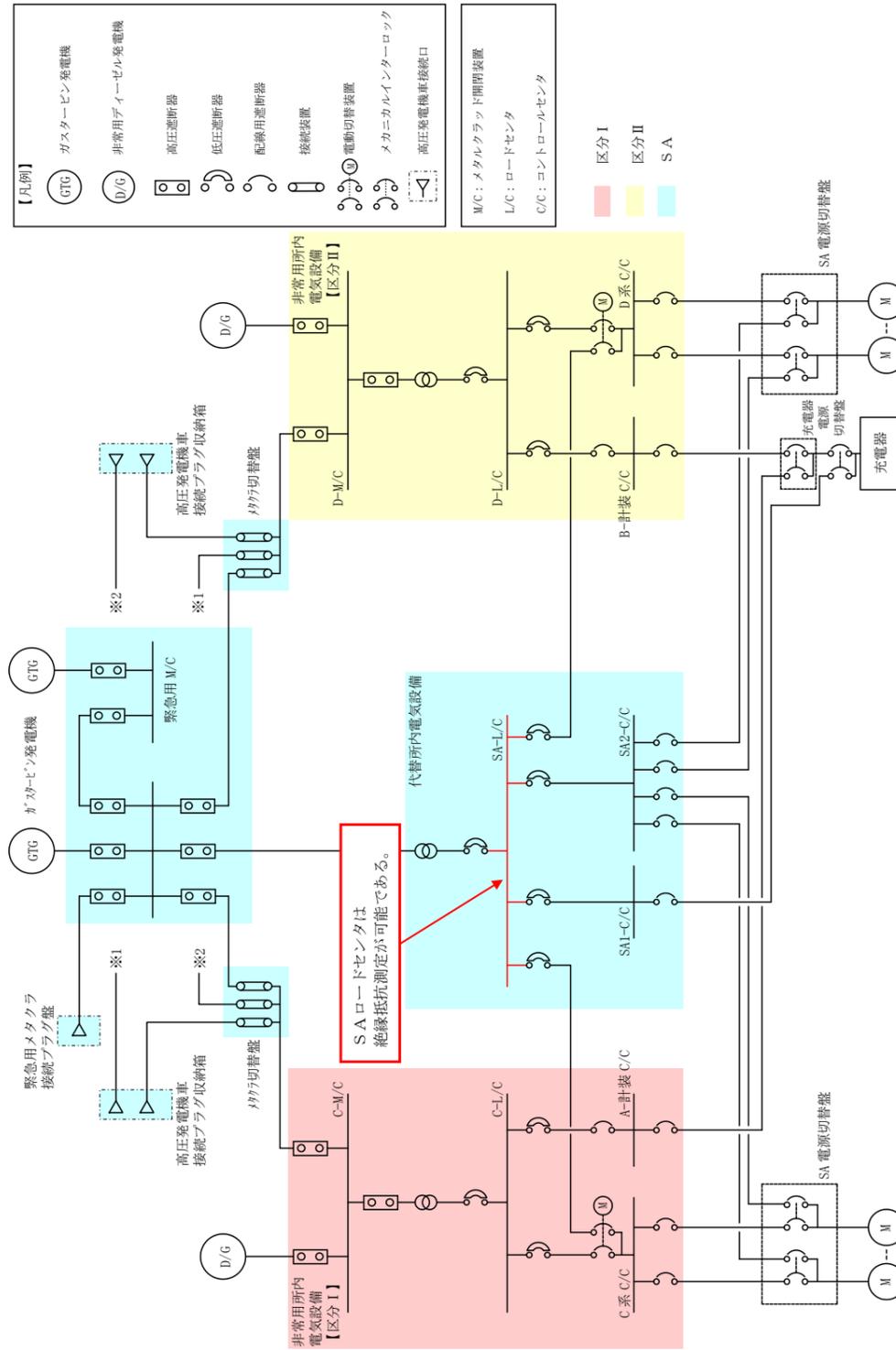


図 57-4-40 AM用動力変圧器試験系統図



第 57-4-34 図 SAロードセンタ試験系統図

・設備の相違

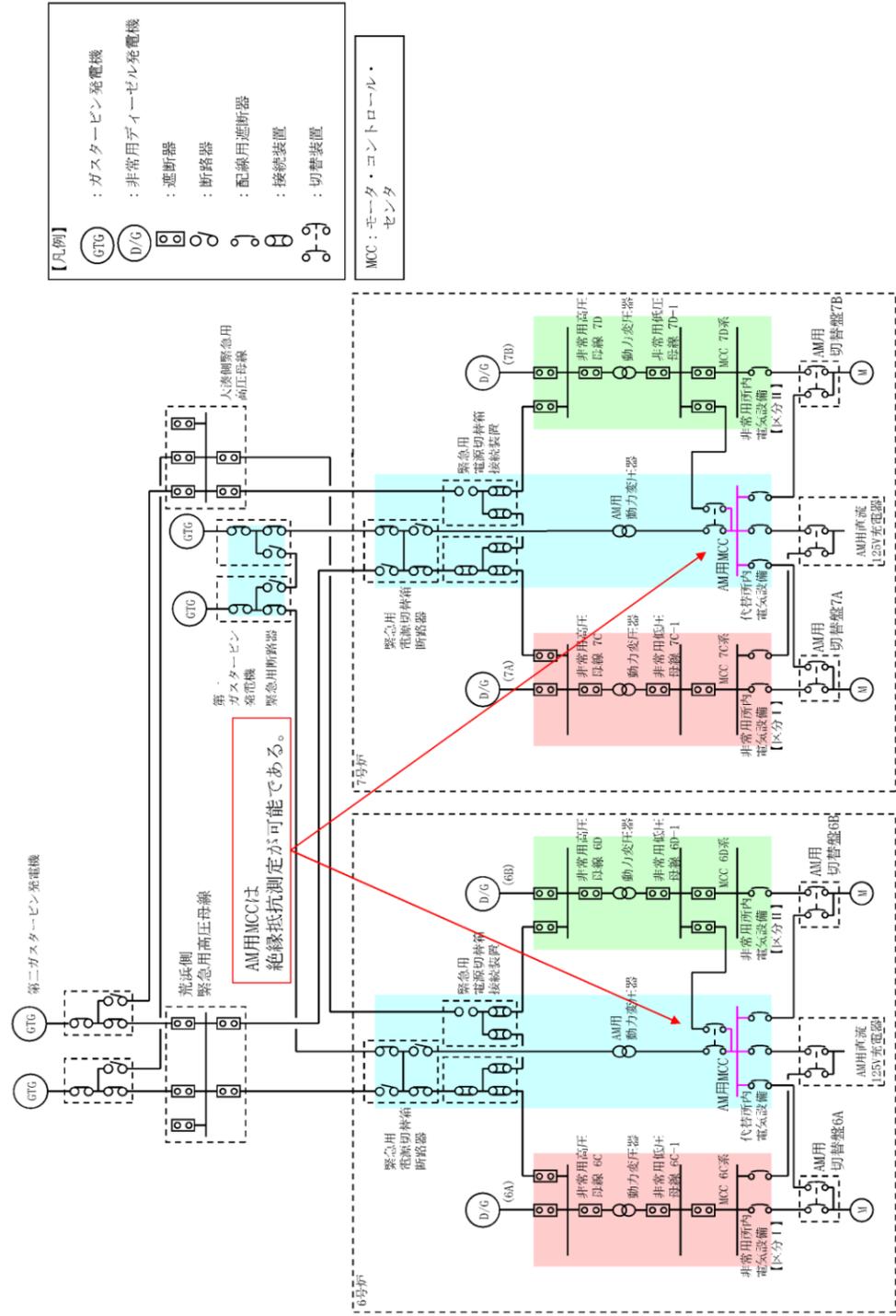
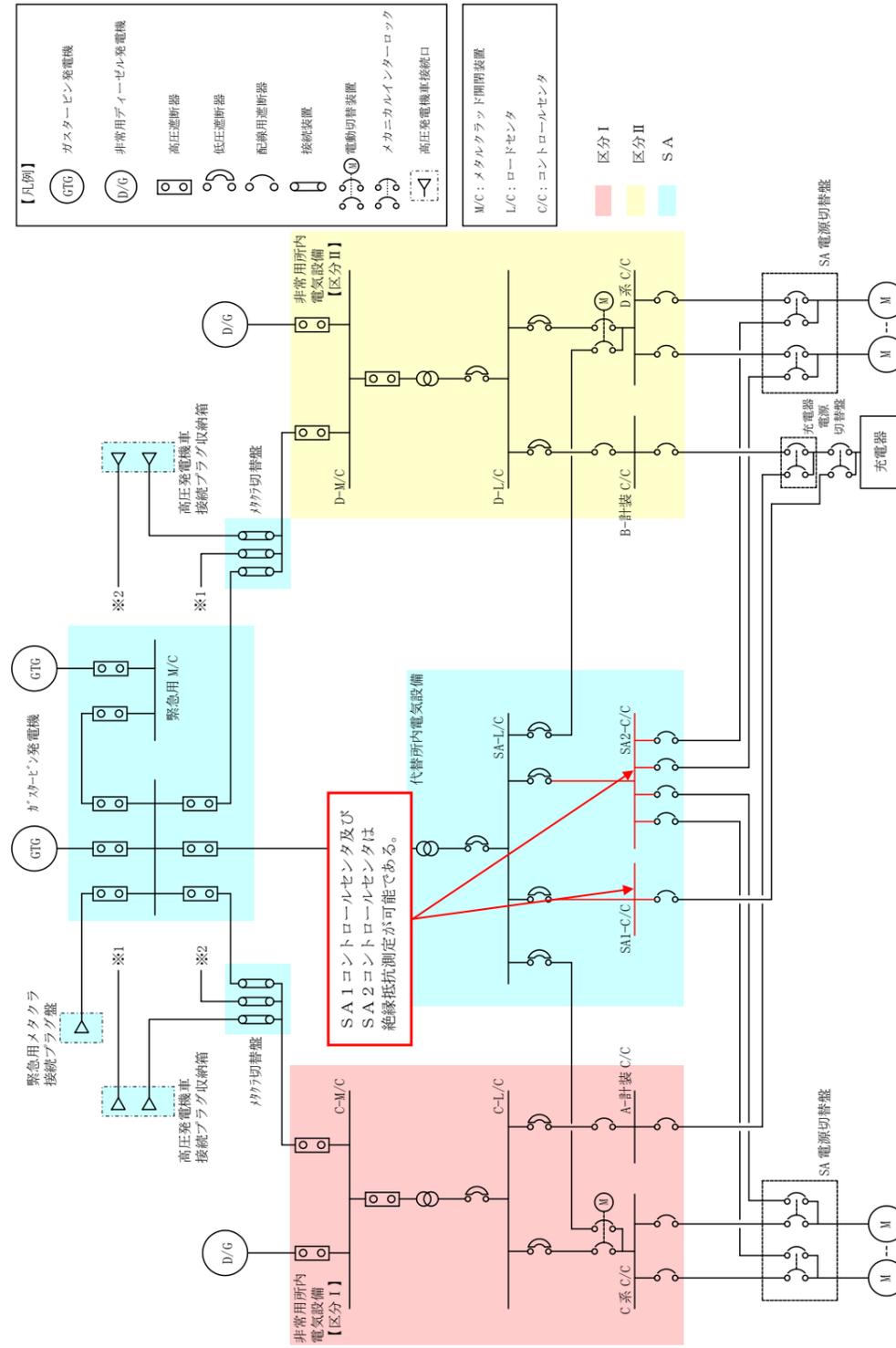
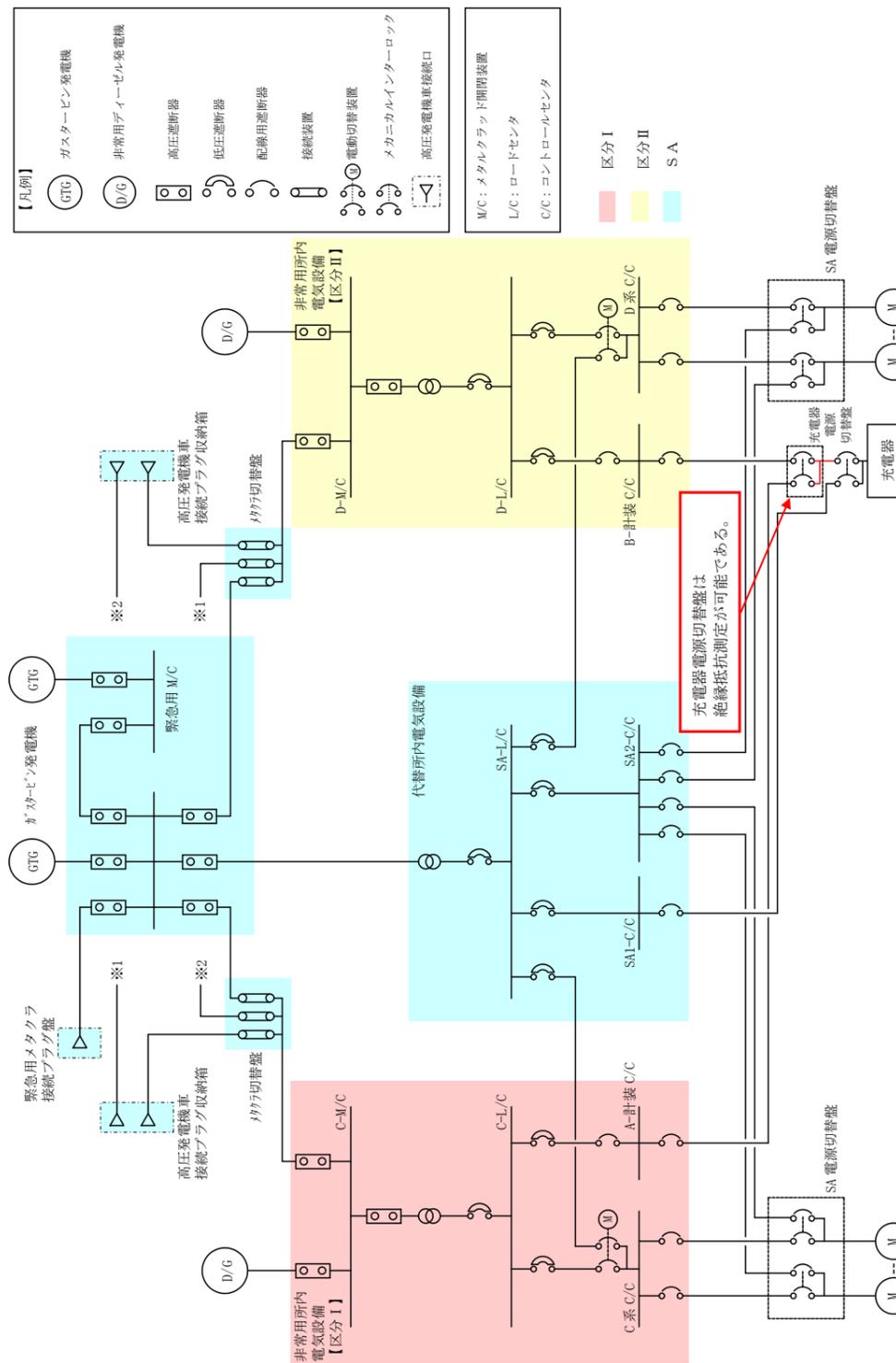


図 57-4-41 AM 用 MCC 試験系統図



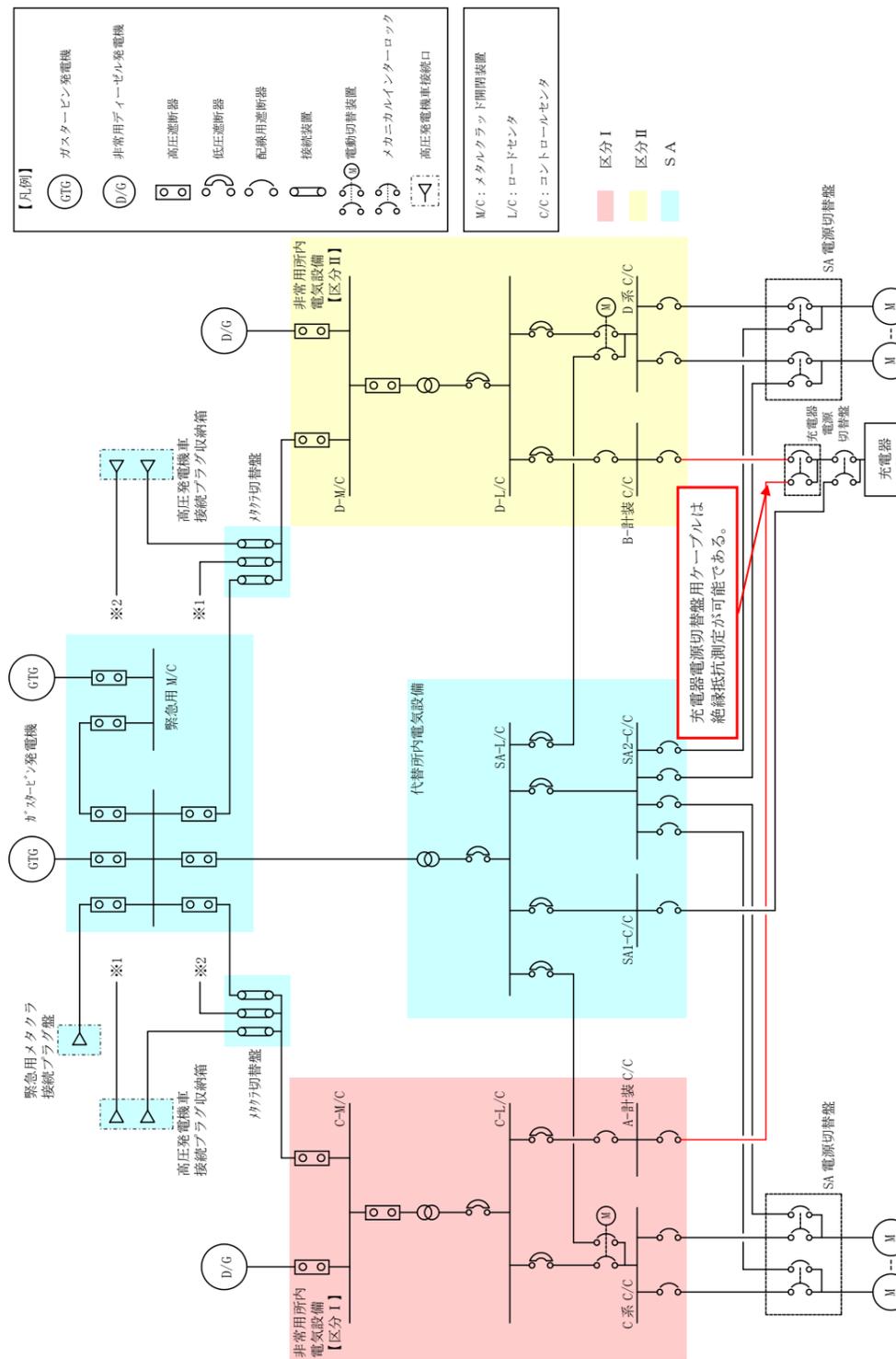
第 57-4-35 図 SA1コントロールセンタ及びSA2コントロールセンタ試験系統図

・設備の相違



第 57-4-36 図 充電器電源切替盤試験系統図

・設備の相違



第57-4-37図 充電器電源切替盤用ケーブル試験系統図

・設備の相違

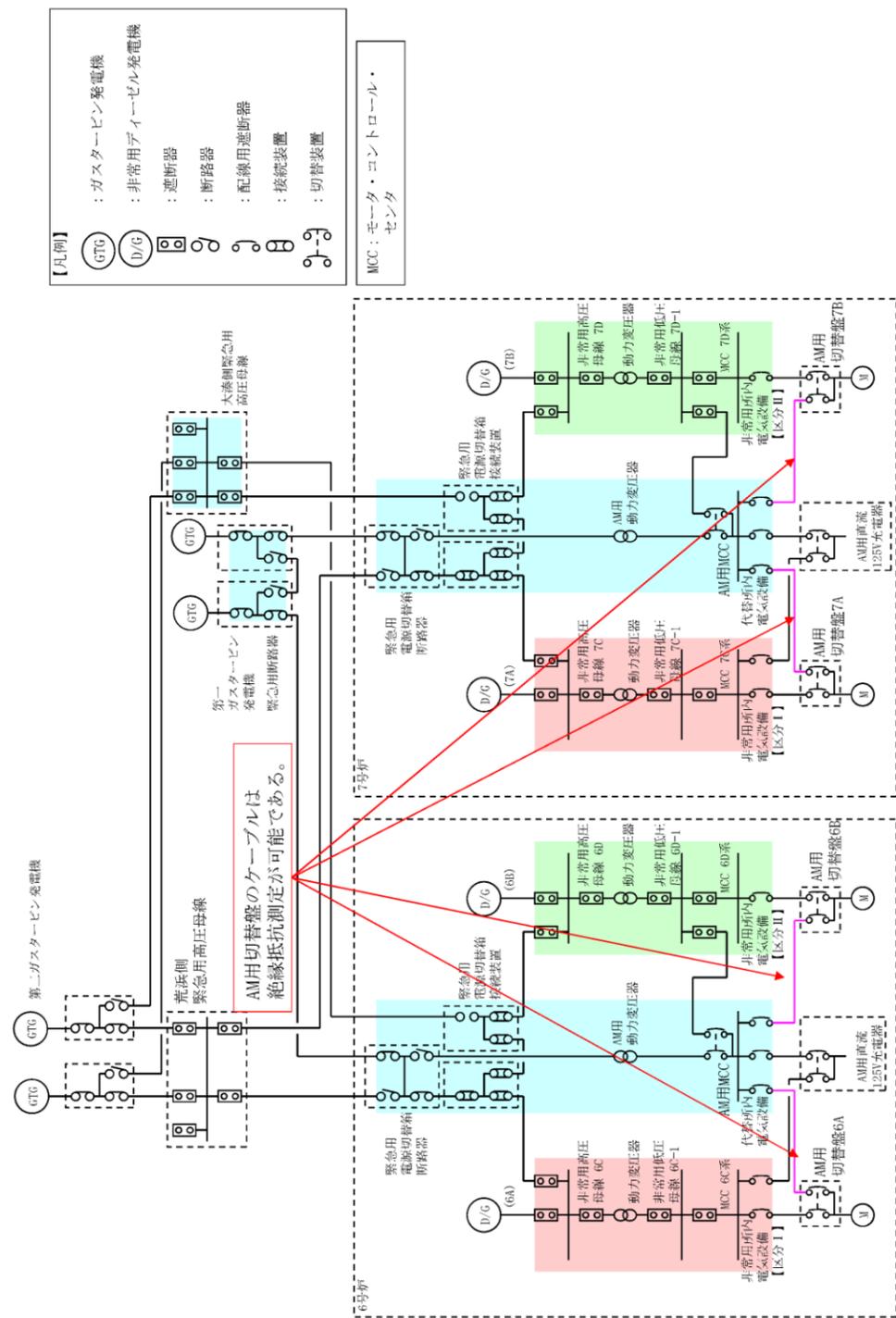
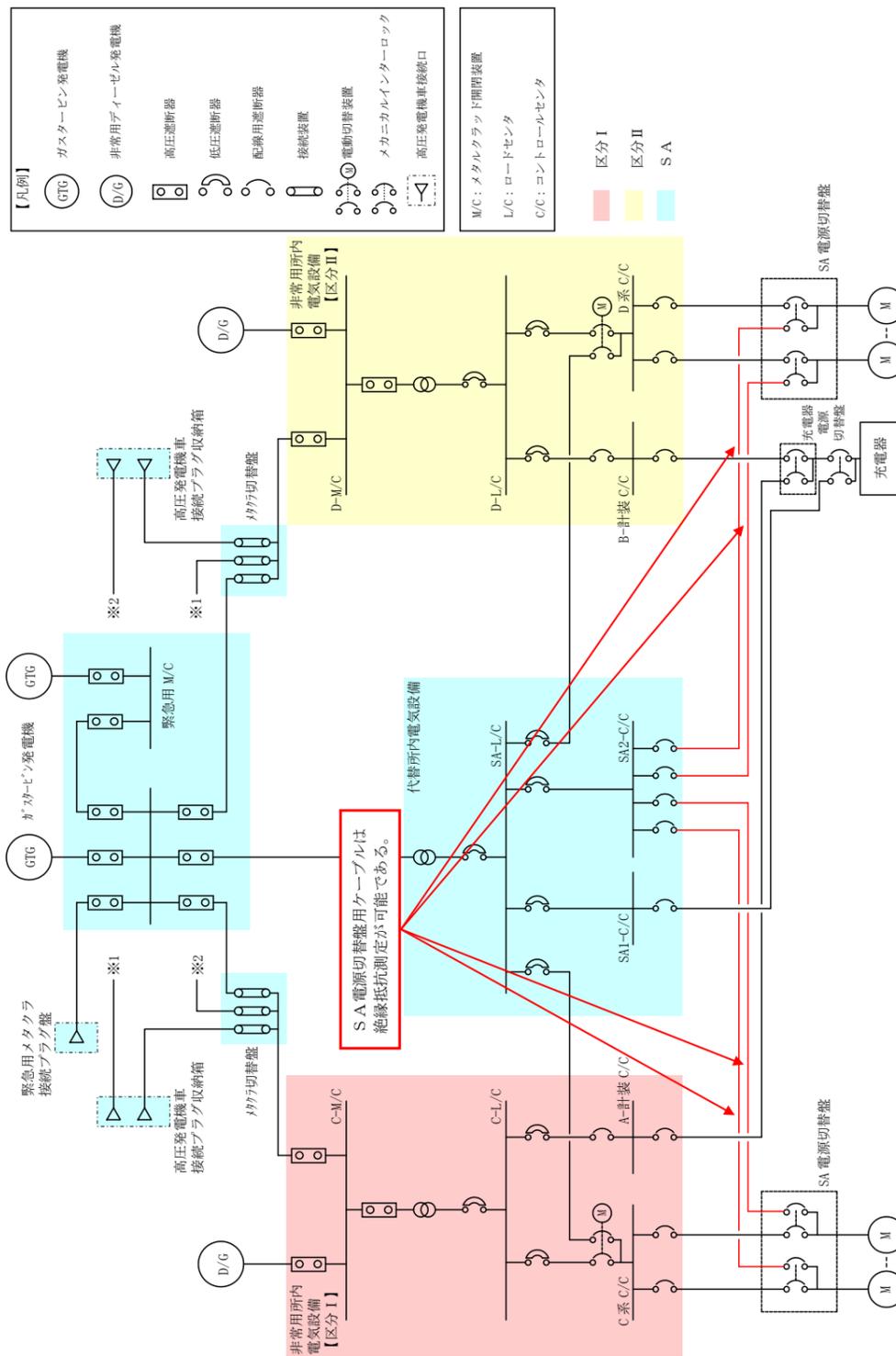
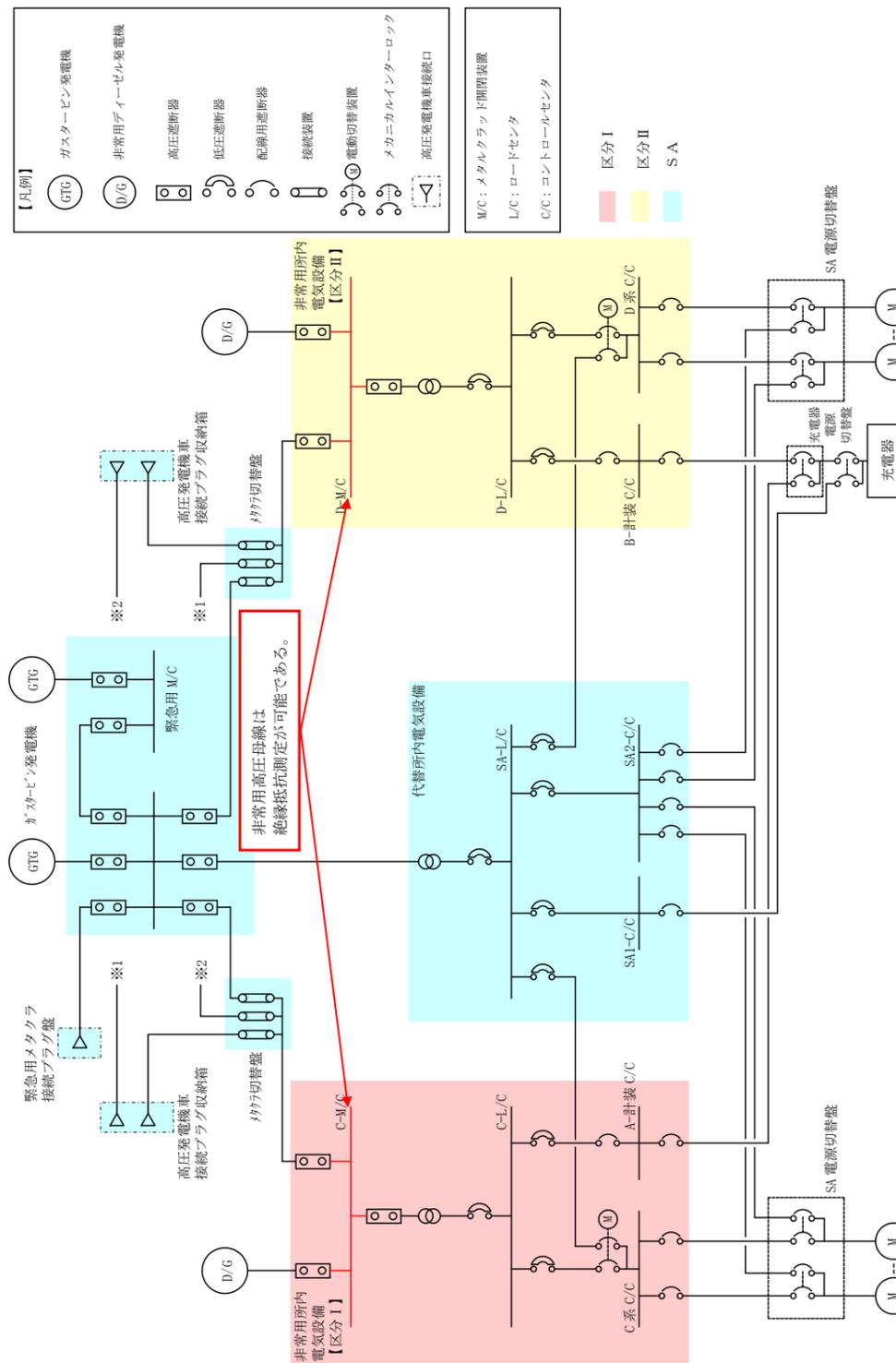


図 57-4-43 AM用切替盤用ケーブル試験系統図



第 57-4-39 図 SA電源切替盤用ケーブル試験系統図

・設備の相違



第 57-4-40 図 非常用高圧母線試験系統図

・設備の相違

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
57-5 容量設定根拠	57-5 容量設定根拠	

・設備の相違

名称		電源車(6号及び7号炉共用)
台数	台	8 (予備1)
容量	kVA/個	約 500

【設定根拠】

設計基準事故対処設備の電源が喪失（全交流動力電源喪失）した場合、重大事故等に対処するために必要な電力を供給するために電源車を配備する。

1. 容量

電源車の容量は、以下の①～③について必要な負荷を基に設定する。

- ①代替原子炉補機冷却系への給電
- ②第一ガスタービン発電機が使用不能の場合のバックアップ給電
- ③代替所内電気設備から AM 用直流 125V 充電器を経由し、直流負荷への給電

- ① 代替原子炉補機冷却系に必要となる負荷は以下のとおり、最大負荷約 441kW(その1)、約 710kW(その2)及び連続最大負荷約 221kW(6号炉)、約 201kW(7号炉)である。したがって、電源車2台分を必要容量(800kW=500kVA×力率0.8×2台)とする。

	その1	その2
代替原子炉補機冷却水ポンプ 容量	110kW (330kW)	200kW (709kW)
代替原子炉補機冷却水ポンプ 個数	2	1
制御電源	1kW	1kW
合計（連続最大負荷） （最大負荷）	約 221kW (441kW)	約 201kW (710kW)

- ② 第一ガスタービン発電機が使用不能の場合、代替低圧注水系にて炉心の冠水を実施するために必要となる負荷は以下のとおり、最大負荷約 734kW(6号炉)、約 754kW(7号炉)及び連続最大負荷約 699kW(6号炉)、約 728kW(7号炉)である。したがって、電源車2台分を必要容量(800kW=500kVA×力率0.8×2台)とする。

	6号炉	7号炉
直流 125V 充電器盤 A	約 94kW	約 94kW
直流 125V 充電器盤 A-2	約 56kW	約 56kW
AM 用直流 125V 充電器盤	約 41kW	約 41kW
直流 125V 充電器盤 B	約 98kW	約 98kW
交流 120V 中央制御室計測用分電盤 A, B	約 12kW	約 6kW
非常用照明	約 100kW	約 100kW
復水移送ポンプ	55kW	55kW
復水移送ポンプ	55kW	55kW
燃料プール冷却浄化ポンプ (起動時)	90kW (181kW)	110kW (192kW)
その他必要な負荷	約 98kW	約 113kW
合計（連続最大負荷） （最大負荷）	約 699kW (約 734kW)	約 728kW (約 754kW)

- ③ ②項において AM 用直流 125V 充電器盤へ給電するため、②項に包含される。

名称		高圧発電機車
台数	台	6 (予備1)
容量	kVA/台	500

【設定根拠】

設計基準事故対処設備の電源が喪失（全交流動力電源喪失）した場合、重大事故等に対処するために必要な電力を供給するために高圧発電機車を配備する。

1. 容量

- ①ガスタービン発電機が使用不能の場合のバックアップ電源
- ②代替所内電気設備から、常設充電器（B1-115V系充電器（SA）、SA用115V系充電器、230V系充電器（常用））を経由し、直流負荷への給電

- ① ガスタービン発電機が使用不能の場合のバックアップ電源として使用する場合に必要となる負荷は以下のとおり、最大負荷約 790kW 及び連続最大負荷約 590kW である。したがって、十分余裕を有する高圧発電機車3台分を必要容量(1,200kW=500kVA×力率0.8×3台)とする。

名称	負荷容量 (kW)
通信連絡設備	約 8
計装用無停電電源装置	約 36
B-115V系充電器	約 48
B1-115V系充電器（SA）	約 24
SA用115V系充電器	約 24
230V系充電器（RCIC）	約 48
230V系充電器（常用）	約 48
B-非常用ガス処理系排風機	約 22
B-中央制御室非常用再循環送風機	約 30
B-中央制御室送風機	約 180
電源内蔵型照明電源盤 ^{※1}	約 30
原子炉建物燃料取替階ブローアウト パネル閉止装置 ^{※2}	約 15
その他	約 77
連続最大合計負荷 （最大負荷）	約 590kW (約 790kW)

【設 定 根 拠】(続き)

※1 : LED ライト (三脚タイプ) , プラントパラメータ監視装置(中央制御室待避室)を含む。

※2 : ブローアウトパネル閉止装置の状態監視を含む。

② ①項において充電器 (B 1 -115V 系充電器 (S A) , S A用 115V 系充電器, 230V 系充電器 (常用)) へ給電するため, ①項に包含される。

名称	軽油タンク(6号及び7号炉共用)	
個数	—	1(予備3)
容量	kL/基	約550
最高使用圧力	kPa[gage]	静水頭
最高使用温度	℃	66

【設定根拠】

軽油タンクは、重大事故等時において、同時にその機能を発揮することを要求される重大事故等対処設備が、7日間連続運転する場合に必要な燃料を保有する。

1. 容量

設置許可基準規則第三章(重大事故等対処施設)において配備を要求される設備のうち、燃料補給を必要とする設備は以下のとおり。

条文	重大事故等対処設備
46条	可搬型代替直流電源設備*
47条	可搬型代替注水ポンプ(A-2級)
48条	可搬型代替交流電源設備*, 大容量送水車(熱交換器ユニット用)
50条	可搬型代替交流電源設備*, 大容量送水車(熱交換器ユニット用)
51条	可搬型代替注水ポンプ(A-2級)
52条	大容量送水車(熱交換器ユニット用)
54条	可搬型代替注水ポンプ(A-1級), 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)
55条	大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)
56条	可搬型代替注水ポンプ(A-2級), 大容量送水車(海水取水用)
57条	常設代替交流電源設備, 可搬型代替交流電源設備*, 可搬型代替直流電源設備*
60条	モニタリング・ポスト用発電機
61条	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備

※: 500kVA 電源車(以下, 電源車と称す)

軽油タンクの容量は、6号及び7号炉の同時被災を想定し、重大事故等時において、同時にその機能を発揮することを要求される重大事故等対処設備が、7日間(168時間)の連続運転にて消費する燃料消費量を基に設定する。

名称	ガスタービン発電機用軽油タンク	
個数	—	1
容量	m ³ /個	約560
最高使用圧力	MPa	静水頭
最高使用温度	℃	66

【設定根拠】

ガスタービン発電機用軽油タンクは、重大事故等対処時において、同時にその機能を発揮することを要求される重大事故等対処設備が、7日間連続運転する場合に必要な燃料を保有する。

1. 容量

設置許可基準規則第三章(重大事故等対処施設)において配備を要求される設備のうち、燃料補給を必要とする設備は以下のとおりである。

条文	重大事故等対処設備
46条	高圧発電機車
47条	大量送水車
48条	大型送水ポンプ車, 可搬式窒素供給装置
49条	大量送水車
50条	大型送水ポンプ車, 可搬式窒素供給装置
51条	大量送水車
52条	可搬式窒素供給装置
54条	大量送水車, 大型送水ポンプ車
55条	大型送水ポンプ車
56条	大量送水車
57条	ガスタービン発電機, 高圧発電機車
61条	緊急時対策所用発電機

・設備の相違

使用機器	①台数 (台) ※2	②燃料消費率 (kL/h) ※3	①×②燃料消費量 (kL/168 時間)
可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)	8		
電源車	4		
第一ガスタービン発電機※1	2		
モニタリング・ポスト用発電機	3		
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用 可搬型電源設備	1		
大容量送水車 (熱交換器ユニット用)	2		
計			472.4

※1：第一ガスタービン発電機用燃料タンクの容量は保守的に考慮せず評価
 ※2：6号及び7号炉の2プラントで必要となる台数
 ※3：大容量送水車の燃料消費率は取水用ポンプと送水用ポンプの燃料消費率の合計

以上のとおり、6号及び7号炉で使用する設備に対して、7日間連続運転した場合の必要容量は472.4kLであるが、軽油タンク容量約550kLの内数であることから、軽油タンクの容量は約550kLとする。なお、上記のとおり軽油タンクは6号及び7号炉で計4基設置されていることから、軽油は合計で2,200kL保有しており、必要量に対して十分な余裕を有している。

【参考】

可搬型代替注水ポンプ (A-1 級) 及び可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) (54 条) 並びに大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) (55 条) は上記設備と同時に使用するものではないが、各設備が7日間連続運転した場合の燃料消費量は以下のとおり、472.4kL以下となることから、軽油タンクの必要容量は472.4kLとなる。

使用機器	①台数 (台) ※1	②燃料消費率 (kL/h) ※2	①×②燃料消費量 (kL/168 時間)
可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)	2		
可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)	6		
大容量送水車 (原子炉 建屋放水設備用)	1		
計			57.6

※1：6号及び7号炉の2プラントで必要となる台数
 ※2：大容量送水車の燃料消費率は取水用ポンプと送水用ポンプの燃料消費率の合計

2. 最高使用圧力の設定根拠

軽油タンクの最高使用圧力は、軽油タンクが開放型タンクであることから静水頭とする。

3. 最高使用温度の設定根拠

軽油タンクの最高使用温度は、設計基準対象施設としての軽油タンクと同じく66℃とする。

【設定根拠】(続き)

ガスタービン発電機用軽油タンクの容量は、重大事故等対処時において、同時にその機能を発揮することを要求される重大事故等対処設備が、7日間(168時間)の連続運転にて消費する燃料を基に設定する。

なお、緊急時対策所用発電機(61条)については、ガスタービン発電機用軽油タンクを燃料源としていないため、ガスタービン発電機用軽油タンクの容量の算定には含めていない。

また、高圧発電機車については、同時にその機能を発揮することを想定していないため、ガスタービン発電機用軽油タンクの容量の算定には含めていない。

使用機器	①台数 (台) ※2	②燃料消費率 (m ³ /h)	①×②×168 時間 燃料消費量 (m ³ /168 時間)
大量送水車	1		
ガスタービン発電機※1	1		
大型送水ポンプ車	1		
可搬式窒素供給装置	1		
計			420.4

※1：ガスタービン発電機用サービスタンクの容量は保守的に考慮せず評価
 ※2：島根2号炉で必要となる台数
 ※3：大量送水車の燃料消費率は取水用ポンプと送水用ポンプの燃料消費率の合計

以上のとおり、使用する設備に対して、7日間(168時間)連続運転した場合の必要燃料量は420.4m³であり、それ以上の容量として、ガスタービン発電機用軽油タンクの容量は約560m³とする。

【設定根拠】(続き)

【参考】

設置許可基準規則第三章(重大事故等対処施設)において配備を要求される設備であって燃料補給を必要とする設備のうち、高圧発電機車(46, 57条)、可搬式窒素供給装置(48条)、大型送水ポンプ車(54, 55条)、大量送水車(47, 54, 56条)は上記設備と同時に使用するものではない。仮に、各設備が7日間(168時間)連続運転した場合の燃料消費量は以下のとおり190.3m³となり、上記設備における必要燃料量420.4m³を下回る。

使用機器	①台数 (台) ※1	②燃料消費率 (m ³ /h)	①×②×168時間 燃料消費量 (m ³ /168時間)
高圧発電機車	3		
大型送水ポンプ車	2		
大量送水車	2		
可搬式窒素供給装置	1		
計			190.3

※1：島根2号炉で必要となる台数

※2：高圧発電機車は2種類あり、それぞれの燃料消費率が と であることから、燃料消費率が高い方を用いて算出

※3：大量送水車の燃料消費率は取水用ポンプと送水用ポンプの燃料消費率の合計

2. 最高使用圧力の設定根拠

ガスタービン発電機用軽油タンクの最高使用圧力は、開放型タンクであることから静水頭とする。

3. 最高使用温度の設定根拠

ガスタービン発電機用軽油タンクの最高使用温度は、屋外環境の最高温度(約40℃)を上回る温度として、66℃とする。

名 称		非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク
個 数	—	2 (A-ディーゼル燃料貯蔵タンク) 3 (B-ディーゼル燃料貯蔵タンク) 1 (HPCS-ディーゼル燃料貯蔵タンク)
容 量	m3/個	約 170 約 100 約 170
最高使用圧力	MPa	静水頭
最高使用温度	℃	40

【設 定 根 拠】

非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク及び高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク（以下「ディーゼル燃料貯蔵タンク」という。）は、重大事故等対処時において、同時にその機能を発揮することを要求される重大事故等対処設備が、7日間連続運転する場合に必要なとなる燃料を保有する。

1. 容量

設置許可基準規則第三章（重大事故等対処施設）において配備を要求される設備のうち、燃料補給を必要とする設備は以下のとおりである。

条文	重大事故等対処設備
46条	高圧発電機車
47条	大量送水車
48条	大型送水ポンプ車，可搬式窒素供給装置
49条	大量送水車
50条	大型送水ポンプ車，可搬式窒素供給装置
51条	大量送水車
52条	可搬式窒素供給装置
54条	大量送水車，大型送水ポンプ車
55条	大型送水ポンプ車
56条	大量送水車
57条	ガスタービン発電機，高圧発電機車
61条	緊急時対策所用発電機

・設備の相違

【設定根拠】(続き)

ディーゼル燃料貯蔵タンクの容量は、重大事故等対処時において、同時にその機能を発揮することを要求される重大事故等対処設備、非常用ディーゼル発電機及び高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機が、7日間(168時間)の連続運転にて消費する燃料を基に設定する。

なお、ガスタービン発電機(57条)緊急時対策所用発電機(61条)については、ディーゼル燃料貯蔵タンクを燃料源としていないため、ディーゼル燃料貯蔵タンクの容量の算定には含めていない。

また、高圧発電機車、大型送水ポンプ車及び可搬式窒素供給装置については、同時にその機能を発揮することを想定していないため、ディーゼル燃料貯蔵タンクの容量の算定には含めていない。

使用機器	①台数 (台) ※2	②燃料消費率 (m ³ /h)	①×②×168時間 燃料消費量 (m ³ /168時間)
大量送水車	1		
非常用ディーゼル発電機※1	2		
高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機※1	1		
計			710.5

※1：ディーゼル燃料タンクの容量は保守的に考慮せず評価

※2：島根2号炉で必要となる台数

※3：大量送水車の燃料消費率は取水用ポンプと送水用ポンプの燃料消費率の合計

以上のとおり、使用する設備に対して、7日間(168時間)連続運転した場合の必要燃料量は710.5m³であり、それ以上の容量として、ディーゼル燃料貯蔵タンクの容量は合計約810m³とする。

【設定根拠】(続き)

【参考】

設置許可基準規則第三章(重大事故等対処施設)において配備を要求される設備であって燃料補給を必要とする設備のうち、高圧発電機車(46, 57条)、可搬式窒素供給装置(48, 50, 52条)、大型送水ポンプ車(48, 50, 54, 55条)、大量送水車(47, 51, 56条)は上記設備と同時に使用するものではない。仮に、各設備が7日間(168時間)連続運転した場合の燃料消費量は以下のとおり190.3m³となり、上記設備における必要燃料量710.5m³を下回る。

使用機器	①台数 (台) ※1	②燃料消費率 (m ³ /h)	①×②×168時間 燃料消費量 (m ³ /168時間)
高圧発電機車	3		
大型送水ポンプ車	2		
大量送水車	2		
可搬式窒素供給装置	1		
計			190.3

※1：島根2号炉で必要となる台数

※2：高圧発電機車は2種類あり、それぞれの燃料消費率が と であることから、燃料消費率が高い方を用いて算出

※3：大量送水車の燃料消費率は取水用ポンプと送水用ポンプの燃料消費率の合計

2. 最高使用圧力の設定根拠

ディーゼル燃料貯蔵タンクの最高使用圧力は、開放型タンクであることから静水頭とする。

3. 最高使用温度の設定根拠

ディーゼル燃料貯蔵タンクの最高使用温度は、屋外環境の最高温度(約40℃)を踏まえて40℃とする。

名称		タンクローリ(4kL) (6号及び7号炉共用)
個数	台	3 (予備1台)
容量	kL/台	約4.0
最高使用圧力	kPa[gage]	24
最高使用温度	℃	40
【設定根拠】 タンクローリ(4kL)は、重大事故等対処時に、電源車、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)、大容量送水車(熱交換器ユニット用)、モニタリング・ポスト用発電機、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備に燃料を補給する。なお、軽油タンクの容量根拠書と同様に、重大事故等時において、同時にその機能を発揮することを要求される重大事故等対処設備に対して燃料補給を行うことを想定する。		
1. 容量 タンクローリ(4kL)の容量は、以下のとおり、最短で2時間に1回、電源車、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)、大容量送水車(熱交換器ユニット用)、モニタリング・ポスト用発電機、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備へ燃料補給が必要となる。		
[タンクローリA] ○ 電源車への給油頻度： n_{d1} <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>		
○ 大容量送水車(熱交換器ユニット用)への給油頻度： n_{ds} <div style="border: 1px solid black; height: 80px; width: 100%;"></div>		
[タンクローリB] ○ 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)への給油頻度： n_r <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>		
[タンクローリC] ○ モニタリング・ポスト用発電機への給油頻度： n_M <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>		
○ 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備への給油頻度： n_h <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div>		

名称			タンクローリ
個数	—		1 (予備1)
容量	m ³ /台		約3.0
最高使用圧力	kPa		24kPa
最高使用温度	℃		40
【設定根拠】 タンクローリは、重大事故等対処時に大量送水車、大型送水ポンプ車、可搬式窒素供給装置、高圧発電機車に燃料を補給する。なお、ガスタービン発電機用軽油タンクの設定根拠と同様に、重大事故等対処時において、同時にその機能を発揮することを要求される重大事故等対処設備に対して燃料補給を想定する。			
1. 容量 タンクローリの容量は、以下のとおり大量送水車、大型送水ポンプ車、可搬式窒素供給装置に対して、最短で3時間に1回の燃料補給が必要となることから、その対応が可能となるように容量を設定する。			
○大量送水車への給油頻度： n_1 <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>			
○大型送水ポンプ車への給油頻度： n_2 <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div>			
○可搬式窒素供給装置への給油頻度： n_3 <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div>			

・設備の相違

タンクローリ(4kL)を用いて、電源車、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)、大容量送水車(熱交換器ユニット用)、モニタリング・ポスト用発電機、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備へ給油するためには、上記のとおり給油が必要となる。

電源車、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)、大容量送水車(熱交換器ユニット用)、モニタリング・ポスト用発電機、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備への燃料補給のシーケンスは以下のとおり、58~74分となり、2時間以内に納まることから、燃料を枯渇させることはない。

また、それぞれのシーケンスにおいて使用する軽油量からもタンクローリ(4kL)の容量は、必要量を満足している。

以上より、タンクローリ(4kL)の容量を4kLとする。

[タンクローリA(電源車、大容量送水車(熱交換器ユニット用)対応)シーケンス]

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	

【設定根拠】(続き)

大量送水車、大型送水ポンプ車、可搬式窒素供給装置の燃料が枯渇しないためには、上記のとおり最短で3時間に1回の頻度での給油が必要となる。

大量送水車、大型送水ポンプ車、可搬式窒素供給装置への給油シーケンスは以下のとおり85分となり、必要給油頻度である3時間以内に納まることから燃料を枯渇させることはない。

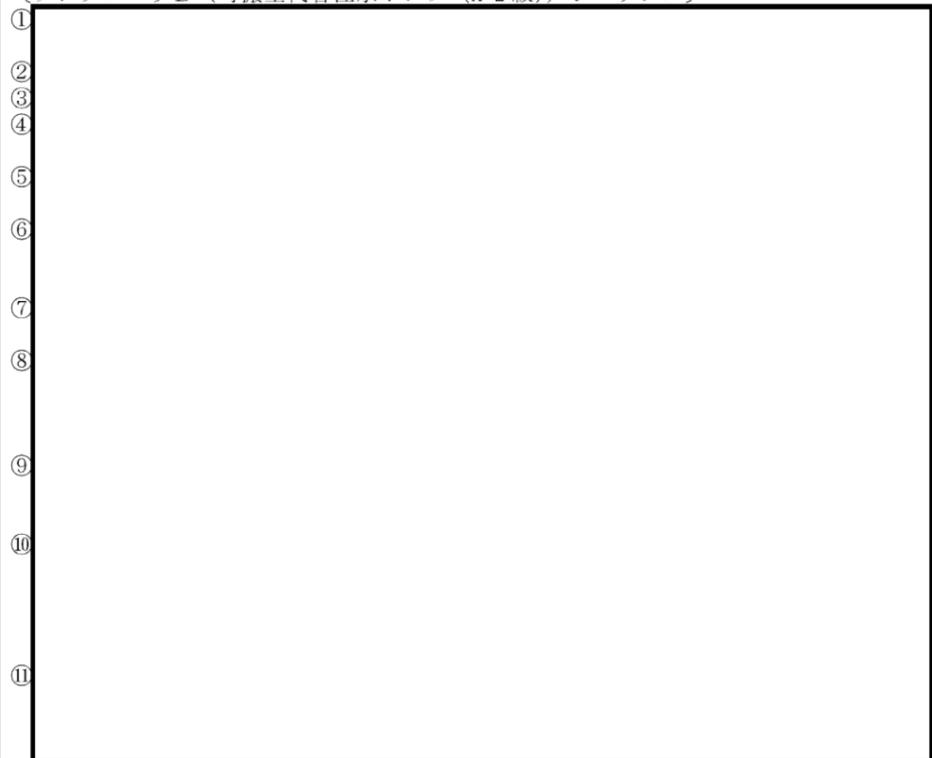
[ガスタービン発電機用軽油タンクから大量送水車、可搬式窒素供給装置、大型送水ポンプ車への給油シーケンス]

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	

合計必要時間：③+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩=85分 < 180分

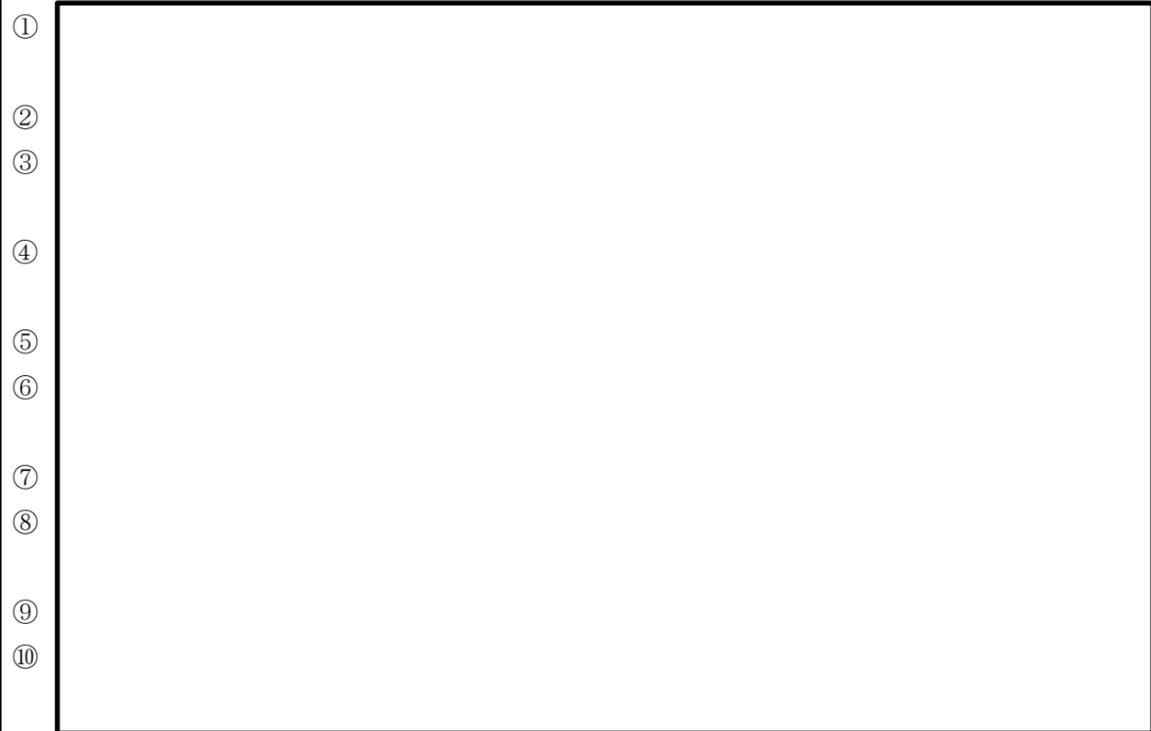
(軽油残量：)

[タンクローリB (可搬型代替注水ポンプ (A-2級)) シーケンス]



【設定根拠】(続き)

[ディーゼル燃料貯蔵タンクから大量送水車, 可搬式窒素供給装置, 大型送水ポンプ車への給油シーケンス]



合計必要時間 : ③+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩=81分 < 180分

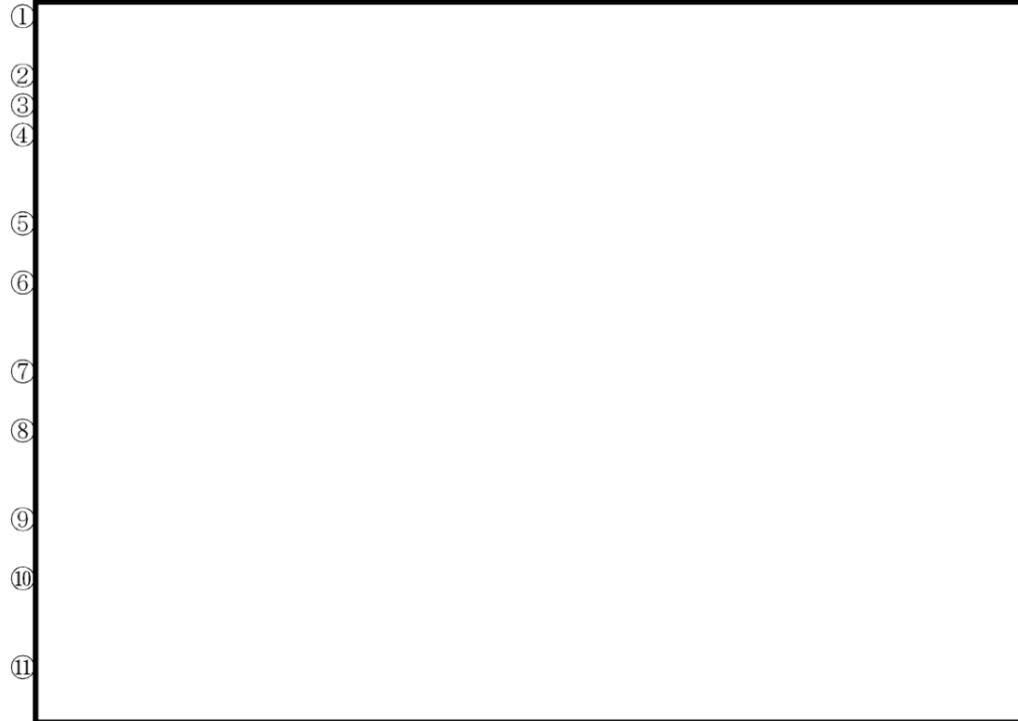
(軽油残量 :)

※各重大事故等対処設備へ1回目の給油を行うのは, プラント被災から5時間20分後までとなることから, 手順①~⑩をプラント被災から5時間20分後までに実施する。

2回目以降の給油では手順①②の作業は不要であり, 手順③~⑩の作業を繰り返す。

以上から, 必要給油頻度を満足し, シーケンスにおいて必要となる給油量 (1.735m³) を上回る容量として, タンクローリの容量は約3.0m³とする。

[タンクローリC (5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備, モニタリング・ポスト用発電機対応) シーケンス]



タンクローリA (電源車給油, 大容量送水車 (熱交換器ユニット用))
 合計必要時間
 ④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪=69分 < 120分
 (軽油残量:)

タンクローリB (可搬型代替注水ポンプ (A-2級) 給油)
 合計必要時間
 ④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪=58分 < 120分
 (軽油残量:)

タンクローリC (5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備, モニタリング・ポスト用発電機給油) 合計必要時間
 ④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪=74分 < 120分
 (軽油残量:)

※各重大事故等対処設備へ1回目の給油を行うのは, プラント被災から12時間後以降であることから, 手順①②③はプラント被災12時間後までに実施する。

以降, タンクローリ (4kL) A~Cは, 各々④以降の作業を繰り返し, タンクローリ (4kL) の貯蔵タンクが枯渇する場合は③を加え, それぞれを繰り返す。

【設定根拠】(続き)

2. 最高使用圧力の設定根拠

タンク内圧が上昇すると, $20 < \text{タンク内圧} \leq 24 \text{kPa [gage]}$ の範囲内で安全装置が作動し, 内圧の上昇が抑えられることから, 最高使用圧力は 24kPa [gage] とする。

3. 最高使用温度の設定根拠

タンクローリの最高使用温度は, 屋外環境の最高温度 (約 40°C) を踏まえて 40°C とする。

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<div data-bbox="172 262 1222 1879" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>2. 最高使用圧力の設定根拠 タンク内圧が上昇すると、$20 < \text{タンク内圧} \leq 24\text{kPa}$ [gage] の範囲内で安全装置が作動し、内圧の上昇が抑えられることから 24kPa [gage] とする。</p> <p>3. 最高使用温度の設定根拠 タンクローリ (4kL) の最高使用温度は、燃料である軽油の引火点が 45°C 以上であることを踏まえ、40°C とする。</p> </div>		

・設備の相違

名称		第一ガスタービン発電機 (6号及び7号炉共用)
台数	台	2
容量	kVA/台	約4,500 (連続定格: 約3,687.5)

【設定根拠】

第一ガスタービン発電機は、設計基準事故対処設備の電源が喪失時、重大事故等に対処するために必要な電力を供給できる設計とする。

第一ガスタービン発電機は6号及び7号炉それぞれで1台、合計2台を確保する設計とする。

1. 容量

最大所要負荷は、6号炉で約1,992kW、7号炉で約1,999kWである。また、連続最大負荷は、6号炉で約1649kW、7号炉で約1615kWである。

	6号炉	7号炉
直流125V充電器盤A	約94kW	約94kW
直流125V充電器盤A-2	約56kW	約56kW
AM用直流125V充電器盤	約41kW	約41kW
直流125V充電器盤B	約98kW	約98kW
交流120V中央制御室計測用分電盤A,B	約12kW	約6kW
非常用照明	約100kW	約100kW
中央制御室可搬型陽圧化空調機	3kW	3kW
復水移送ポンプ	55kW	55kW
復水移送ポンプ	55kW	55kW
残留熱除去系ポンプ (起動時)	540kW (973kW)	540kW (1034kW)
燃料プール冷却浄化ポンプ (起動時)	90kW (181kW)	110kW (192kW)
非常用ガス処理系排風機等*	約37kW	約20kW
その他必要な設備	約103kW	約116kW
その他不要な設備	約366kW	約321kW
合計(連続最大容量) (最大容量) 詳細: 57-9 参照	約1649kW (約1992kW)	約1615kW (約1999kW)

*非常用ガス処理系湿分除去装置、及び非常用ガス処理系フィルタ装置を含む。

したがって、発電機の出力は最大負荷である1,999kW(連続最大負荷: 1,615kW)に対し十分な余裕を有する最大容量3,600kW(連続定格: 2,950kW)とする。

名称		ガスタービン発電機	
台数	台	1 (予備1)	
容量	kVA/台	約6,000	

【設定根拠】

ガスタービン発電機は、設計基準事故対処設備の電源が喪失したことにより重大事故等が発生した場合において、重大事故等に対処するために必要な電力を供給できる設計とする。

1. 容量

ガスタービン発電機から電力を供給する「有効性評価で期待する負荷」に加え、「評価上期待していない不要負荷であるが、ガスタービン発電機の負荷として考慮する必要がある負荷」を抽出した結果、ガスタービン発電機の最大所要負荷は「全交流動力電源喪失(長期TB)」を想定するシナリオにおいて必要とされる電源容量(最大負荷 約4,360kW、連続最大負荷 約4,268kW)である。

起動順序	主要機器	負荷容量(kW)
①	ガスタービン発電機付帯設備	約111
②	充電器、非常用照明、非常用ガス処理系、モニタリング・ポスト他(自動投入負荷)	約877
③	B-原子炉補機冷却水ポンプ	約360
④	D-原子炉補機冷却水ポンプ	約360
⑤	B-原子炉補機海水ポンプ	約410
⑥	D-原子炉補機海水ポンプ	約410
⑦	C-残留熱除去ポンプ	約560
⑧	B-残留熱除去ポンプ	約560
⑨	B-中央制御室送風機	約180
⑩	B-中央制御室非常用再循環送風機	約30
⑪	B-中央制御室冷凍機	約300
⑫	B-燃料プール冷却水ポンプ	約110
連続最大合計負荷(最大負荷)		約4,268 (約4,360)

第一ガスタービン発電機の容量は以下の通り,約 4,500kVA (連続定格:約 3,687.5kVA) とする。

$$Q = P \div pf = 3,600 \div 0.8 = 4,500$$

(連続定格: $2,950 \div 0.8 = 3,687.5$)

Q : 発電機の容量 (kVA)

P : 発電機の最大容量 (kW) = 3,600 (連続定格: 2,950)

pf : 力率 = 0.80

【設定根拠】(続き)

したがって, 発電機の出力は最大所要負荷である約 4,360kW (連続最大負荷:約 4,268kW) に対し十分な余裕を有する約 4,800kW とする。

なお, 発電機の容量は以下のとおり, 約 6,000kVA とする。

$$Q \geq \frac{P}{pf} = \frac{4,800}{0.80} = 6,000$$

Q : 発電機の容量 (kVA)

P : 発電機の定格出力 (kW) = 4,800

pf : 力率 = 0.80

名称		第一ガスタービン発電機用燃料タンク
基数	基	2
容量	kL/基	約 50
最高使用圧力	kPa[gage]	静水頭
最高使用温度	℃	66

【設定根拠】

第一ガスタービン発電機用燃料タンクは、重大事故等対処時に第一ガスタービン発電機への燃料補給を円滑に行うために設置する。

1. 容量

第一ガスタービン発電機用燃料タンクの容量は、第一ガスタービン発電機 1 基の定格出力運転時の燃料消費量を基に設定する。(保守的に短時間定格出力 3,600kW にて算定)

軽油タンクからタンクローリを用いて燃料を開始するまでに 12 時間燃料補給可能な容量とする。

具体的には、12 時間燃料補給可能な容量は、以下のとおり、17.88kL となる。



以上より、第一ガスタービン発電機用燃料タンクの容量は 17.88 kL 以上である 50kL とする。

2. 最高使用圧力の設定根拠

第一ガスタービン発電機用燃料タンクの最高使用圧力は、第一ガスタービン発電機用燃料タンクが開放型タンクであることから静水頭とする。

3. 最高使用温度の設定根拠

第一ガスタービン発電機用燃料タンクの最高使用温度は、軽油温度約 30℃の余裕を考慮し、66℃とする。

・設備の相違

名称		第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ
台数	台	2
容量	m ³ /h/台	約 3.0
揚程	m	約 50
原動機出力	kW	約 1.5
最高使用圧力	MPa[gage]	0.95
最高使用温度	℃	66

【設定根拠】

第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプは、重大事故時に第一ガスタービン発電機用燃料タンクから第一ガスタービン発電機へ燃料を供給するために設置する。なお、第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプは供給系統1系列あたり、100%容量を1台設置する。

1. 容量の設定根拠

第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプの容量は、第一ガスタービン発電機1基の単位時間あたりの燃料最大消費量 を、第一ガスタービン発電機に供給) するため、それよりも容量の大きい約 49L/min (約 3.0m³/h) とする。

2. 揚程の設定根拠

第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプの必要となる揚程は、以下のとおり、5.2m である。

GL~ポンプ出口中心 :
 第一ガスタービン発電機用燃料タンク内径最深位置~GL :
 計 ≒ 5.2m

以上より、第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプの揚程は、5.2m を十分に上回る約 50m とする。

3. 原動機出力の設定根拠

上記に示す容量と揚程を満足するポンプの必要軸動力は以下のとおり 0.54kW となる。

$$P = (g \times \rho \times Q \times H) \div (60 \times \eta)$$

$$= \text{$$

$$= 0.54\text{kW}$$

P : 必要軸動力 (kW) g : 重力加速度 (m/s²)
 ρ : 比重 (-) Q : 吐出量 (m³/min)
 H : 全揚程 (m) η : ポンプ効率 (%)

上記の必要軸動力を満足する原動機を選定すると、原動機出力は約 1.5kW となる。よって、原動機として出力約 1.5kW の電動機を選定する。

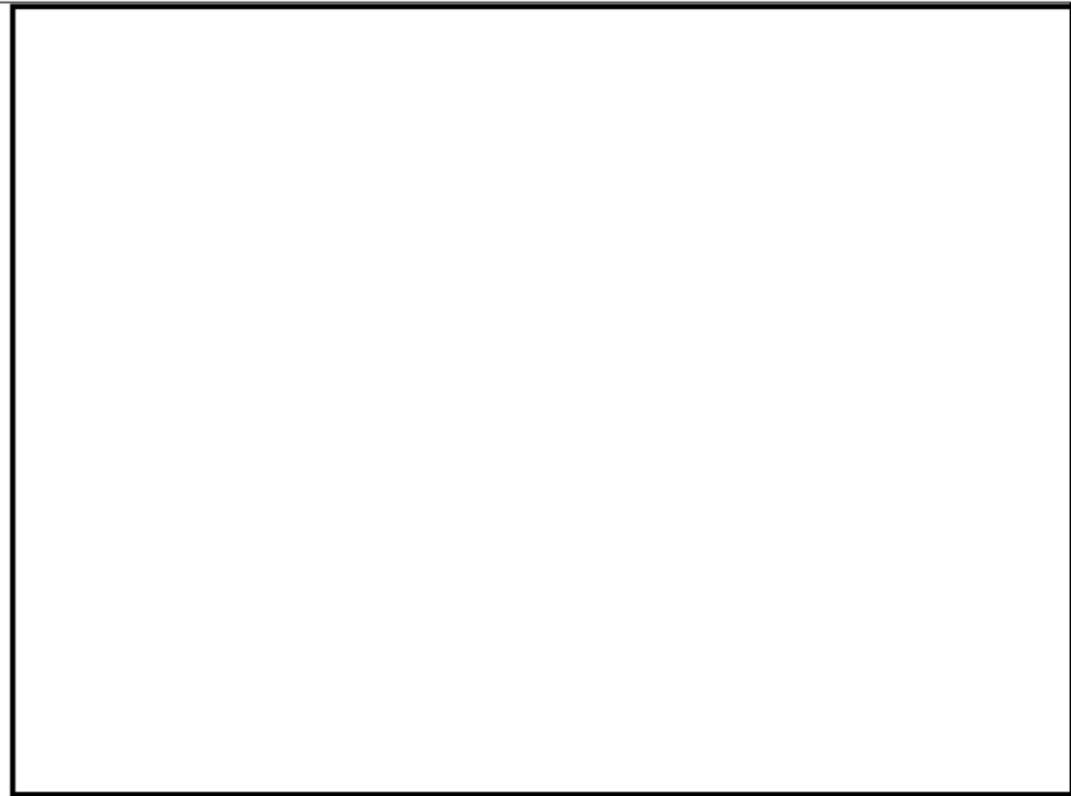


図 57-5-1 第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ性能曲線

2. 最高使用圧力の設定根拠

第一ガスタービン発電機用燃料ポンプの最高使用圧力は、ポンプ吐出圧 0.5MPa[gage]の余裕を考慮し、0.95MPa[gage]とする。

3. 最高使用温度の設定根拠

第一ガスタービン発電機用燃料ポンプの最高使用温度は、軽油温度約 30℃の余裕を考慮し、66℃とする。

名称		タンクローリ(16kL) (6号及び7号炉共用)
個数	台	1 (予備1)
容量	kL/台	約 16
最高使用圧力	kPa [gage]	24
最高使用温度	℃	40

【設定根拠】

タンクローリ(16kL)は、重大事故等対処時に、第一ガスタービン発電機用燃料タンクへ燃料を補給する。なお、軽油タンクの容量と同様に、重大事故等時において、同時にその機能を発揮することを要求される重大事故等対処設備に対して燃料補給を行うことを想定する。

なお、燃料補給に当たっては、6号及び7号炉共用第一ガスタービン発電機用燃料タンクの各々に燃料補給を行う。

1. 容量

タンクローリ(16kL)の容量は、以下のとおり、16時間に1回、第一ガスタービン発電機用燃料タンクへの燃料補給が必要となる。

○ 第一ガスタービン発電機用燃料タンクへの給油頻度：n_{G1}

タンクローリ(16kL)を用いて第一ガスタービン発電機用燃料タンクへ給油するためには、最大3回の給油が必要となり、上記のとおり、50時間÷3回≒16時間に1回の給油が必要となる。

第一ガスタービン発電機用燃料タンクへの燃料補給のシーケンスは以下のとおり、297分となり、16時間以内に納まることから、燃料を枯渇させることはない。

また、この燃料補給のシーケンスは1回あたりの給油量を16kLとしているため、タンクローリ(16kL)の容量を16kLとする。

〔第一ガスタービン発電機用燃料タンクへの給油 シーケンス〕

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	

名称		ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ
個数	—	1 (予備1)
容量	m ³ /h/個	約 4.0
吐出圧力	MPa	約 0.5
最高使用圧力	MPa	0.98
最高使用温度	℃	66
原動機出力	kW/個	約 3.7

【設定根拠】

ガスタービン発電機用燃料移送ポンプは、重大事故等対処時にガスタービン発電機用軽油タンクからガスタービン発電機へ燃料を供給するために設置する。なお、ガスタービン発電機用燃料移送ポンプは供給系統1系列あたり、100%容量を1台設置する。

1. 容量の設定根拠

ガスタービン発電機用燃料移送ポンプの容量は、ガスタービン発電機の1基の単位時間あたりの燃料最大消費量 をガスタービン発電機に供給するため、それよりも容量の大きい約 4.0m³/h とする。

2. 吐出圧力の設定根拠

ガスタービン発電機用燃料移送ポンプの必要となる吐出圧力は、以下のとおり、約 0.2MPa である。

① 供給源と移送先との差圧	:	
② 供給源から移送先までの静水頭	:	
③ 配管・機器圧力損失	:	
合計	:	約 0.2 MPa

以上より、ガスタービン発電機用燃料移送ポンプの吐出圧力は約 0.2 MPa を上回る圧力として、約 0.5MPa とする。

・設備の相違

○第一ガスタービン発電機用燃料タンクへの給油 合計必要時間
 ①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨=297分 < 16時間

以降、①③④⑤⑥⑦⑧⑨をそれぞれ必要回数繰り返す。

2. 最高使用圧力の設定根拠

タンク内圧が上昇すると、 $20 < \text{タンク内圧} \leq 24\text{kPa}$ [gage] の範囲内で安全装置が作動し、内圧の上昇が抑えられることから 24kPa [gage] とする。

3. 最高使用温度の設定根拠

タンクローリ (16kL) の最高使用温度は、燃料である軽油の引火点が 45°C 以上であることを踏まえ、 45°C とする。

【設定根拠】(続き)

3. 原動機出力の設定根拠

上記に示す容量と吐出圧力を満足するポンプの必要軸動力は以下のとおり 1.4kW となる。

$$P_u = \frac{10^3}{60} \times Q \times p$$

$$\eta = \frac{P_u}{P} \times 100$$

$$P = \frac{10^3 \times Q \times p}{60 \times \eta}$$

P_u : 水動力 (kW)

P : 軸動力 (kW)

Q : 容量 (m^3/min)

η : ポンプ効率(%)

p : 全圧力 (MPa)

(引用文献: 日本工業規格 J I S B 8 3 1 2 (2002)

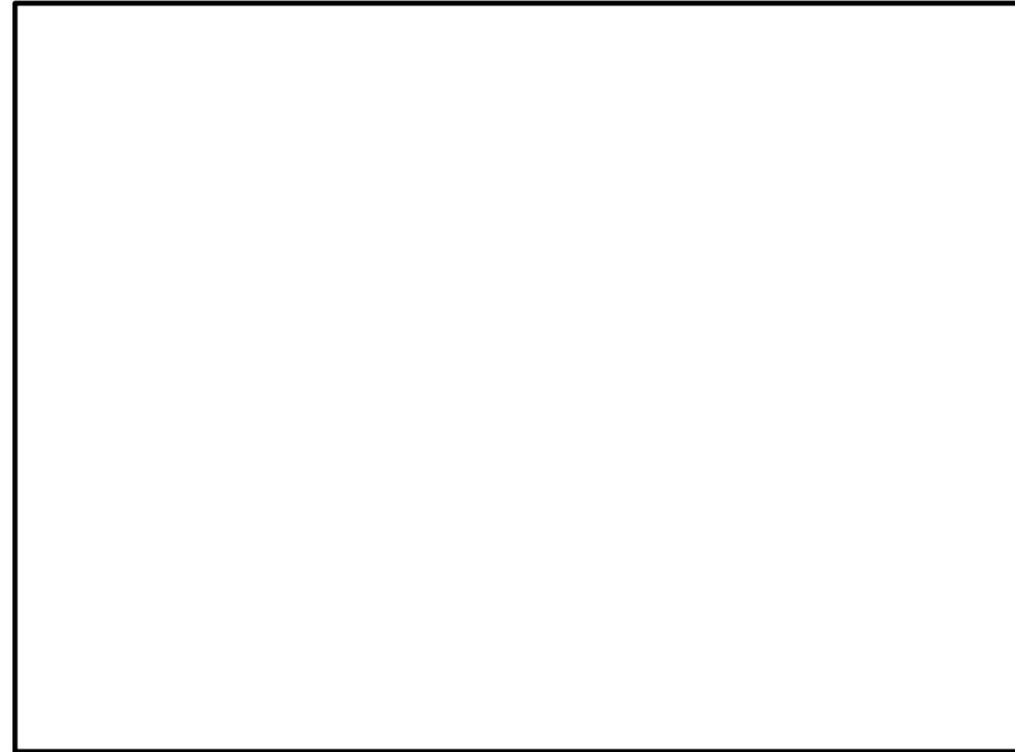
「歯車ポンプ及びねじポンプ—試験方法」)

ここで、

$$P = \boxed{} \approx 1.4\text{kW}$$

原動機出力は、必要軸動力 1.4kW を上回る出力として、約 3.7kW とする。

【設定根拠】(続き)



第 57-5-1 図 ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ性能曲線

4. 最高使用圧力の設定根拠

ガスタービン発電機用燃料移送ポンプの最高使用圧力は、ポンプ吐出圧力約 0.5MPa[gage]を上回る圧力として、0.98MPa[gage]とする。

5. 最高使用温度の設定根拠

ガスタービン発電機用燃料移送ポンプの最高使用温度は、屋外環境の最高温度(約 40℃)を上回る温度として、66℃とする。

名 称		<u>ガスタービン発電機用サービスタンク</u>	
個 数	—	1 (予備1)	
容 量	m ³ /個	約 7.9	
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭	
最 高 使 用 温 度	℃	66	

【設 定 根 拠】

ガスタービン発電機用サービスタンクは、重大事故等対処時にガスタービン発電機へ燃料を供給するために設置する。

1. 容量の設定根拠

ガスタービン発電機用サービスタンクの容量は、ガスタービン発電機 1 基の定格出力運転時の燃料消費率を基に、仮にガスタービン発電機用燃料移送ポンプや配管が故障した場合でも、タンクローリや仮設ホースによる補給が可能となる準備時間を考慮して、ガスタービン発電機が2時間以上連続して運転が可能となる容量とする。



以上より、ガスタービン発電機用サービスタンクの容量は、約 4.2 m³ 以上である 7.9m³ とする。

2. 最高使用圧力の設定根拠

ガスタービン発電機用サービスタンクの最高使用圧力は、開放型タンクであることから静水頭とする。

3. 最高使用温度の設定根拠

ガスタービン発電機用サービスタンクの最高使用温度は、屋外環境の最高温度 (約 40℃) を上回る温度として、66℃とする。

・設備の相違

・設備の相違

名称		所内蓄電式直流電源設備 (6号炉)
直流 125V 蓄電池 A	Ah	約 6,000
直流 125V 蓄電池 A-2	Ah	約 4,000
AM用直流 125V 蓄電池	Ah	約 3,000

【設定根拠】

直流 125V 蓄電池 6A, 直流 125V 蓄電池 6A-2, AM用直流 125V 蓄電池は, 設計基準事故対処設備の電源が喪失(全交流動力電源喪失)した場合, 負荷切り離しを行わずに 8 時間, その後, 必要な負荷以外を切り離して残り 16 時間の合計 24 時間にわたり必要な設備へ直流電源を供給できる設計とする。

1. 容量

各蓄電池の負荷は以下の通りとなる。

直流 125V 蓄電池 6A 負荷一覧表

負荷名称	0~1分	1~480分	480~720分
原子炉隔離時冷却系真空ポンプ	89	44.5	-
原子炉隔離時冷却系復水ポンプ	113	56.5	-
非常用ディーゼル発電機初期励磁 ^{※1}	220	-	-
遮断器操作回路 ^{※1}	(100)	-	-
その他の負荷	946	446	162
合計(A)	1,368	547	162

※1: 非常用ディーゼル発電機励磁と非常用高圧母線及び非常用低圧母線の遮断器操作回路は重なって操作されることがないため, 値の大きいほうのみを, 蓄電池容量計算上含める。

直流 125V 蓄電池 6A-2 負荷一覧表

負荷名称	480~481分	481~1,140分
原子炉隔離時冷却系真空ポンプ	89	44.5
原子炉隔離時冷却系復水ポンプ	113	56.5
その他の負荷	626	126
合計(A)	828	227

AM用直流 125V 蓄電池 (6号炉) 負荷一覧表

負荷名称	0~1,140分	1140~1,141分	1,141~1,440分
原子炉隔離時冷却系真空ポンプ	-	89	44.5
原子炉隔離時冷却系復水ポンプ	-	113	56.5
その他の負荷	28	654	154
合計(A)	28	856	255

名称		所内常設蓄電式直流電源設備
B-115V 系蓄電池	Ah	3,000
B1-115V 系蓄電池(SA)	Ah	1,500
230V 系蓄電池(RCIC)	Ah	1,500

【設定根拠】

B-115V 系蓄電池, B1-115V 系蓄電池(SA), 230V 系蓄電池(RCIC)は設計事故対処設備の電源が喪失(全交流動力電源喪失)した場合, 負荷切り離しを行わずに 8 時間, その後, 必要な負荷以外を切り離して残り 16 時間の合計 24 時間にわたり必要な設備へ直流電源を供給できる設計とする。

1. 容量

各蓄電池の負荷は以下の通りとなる。

B-115V 系蓄電池負荷一覧表

負荷名称	0~1分	1~510分 ^{※2}
M/C 遮断器操作回路	281	0
L/C 遮断器操作回路	53	0
非常用ディーゼル発電機初期励磁 ^{※1}	0(230) ^{※1}	0
非常用照明	50	50
制御電源(制御盤関係)	65	65
計装用無停電交流電源装置	154	154
合計(A)	603	269

※1: 非常用ディーゼル発電機初期励磁電流はM/C及びL/C遮断器操作回路電流(遮断器投入・開放電流)と重なって操作されることはなく, 各動作時間は1分未満である。また, 非常用ディーゼル発電機初期励磁電流はM/C及びL/C制御電源電流より小さいため, 電流値の大きいM/C及びL/C遮断器操作回路電流に1分間電源供給するものとして蓄電池容量を計算する。

※2: 事象発生後8時間後から負荷切替作業を実施するが, 作業時間を考慮し8.5時間電源給電を継続するものとして容量を計算する。

直流 125V 蓄電池 6A の容量計算結果

$$C_1 = \frac{1}{0.8} (0.69 \times 1,368) = 1,180\text{Ah}$$

$$C_2 = \frac{1}{0.8} \{8.69 \times 1,368 + 8.69 \times (547 - 1,368)\} = 5,942\text{Ah}$$

$$C_3 = \frac{1}{0.8} \{12.20 \times 1,368 + 12.20 \times (547 - 1,368) + 5.20 \times (162 - 547)\} = 5,840\text{Ah}$$

上記計算より、直流 125V 蓄電池 6A の蓄電池容量は約 6,000Ah を選定する。

直流 125V 蓄電池 6A-2 の容量計算結果

$$C_1 = \frac{1}{0.8} (1.82 \times 828) = 1,884\text{Ah}$$

$$C_2 = \frac{1}{0.8} \{12.70 \times 828 + 12.70 \times (227 - 828)\} = 3,604\text{Ah}$$

上記計算より、直流 125V 蓄電池 6A-2 の蓄電池容量は約 4,000Ah を選定する。

AM 用直流 125V 蓄電池 (6号炉) の容量計算結果

$$C_1 = \frac{1}{0.8} (19.20 \times 28) = 672\text{Ah}$$

$$C_2 = \frac{1}{0.8} \{19.20 \times 28 + 0.69 \times (856 - 28)\} = 1,387\text{Ah}$$

$$C_3 = \frac{1}{0.8} \{24.20 \times 28 + 6.14 \times (856 - 28) + 6.13 \times (255 - 856)\} = 2,597\text{Ah}$$

上記計算より、AM 用直流 125V 蓄電池 (6号炉) の蓄電池容量は約 3,000Ah を選定する。

【設定根拠】(続き)

B 1 - 115V 系蓄電池 (S A) 負荷一覧表

負荷名称	0~480分	481~1439分	1439~1440分
M/C 遮断器操作回路 ^{※3}	0	0	100
非常用照明	0	10	10
制御電源 (制御盤関係)	0	15	15
S A 対策設備用分電盤 (1)	30	30	30
合計 (A)	30	55	155

※3 : 常設代替交流電源設備からの電源供給を考慮し、24 時間後に遮断器を投入する。

230V 系蓄電池 (R C I C) 負荷一覧表

負荷名称	0~1分	1分~480分	481分~1440分
R C I C 復水ポンプ ^{※4}	60	24	24
R C I C 真空ポンプ	58	23	23
R C I C 注入弁 ^{※4}	86	0	0
その他の弁 ^{※4,5}	82	0	0
合計 (A)	286	47	47

※4 : 間欠運転機器については、電池工業会規格「据置蓄電池の容量算出法」(SBA S 0601-2014) による時間当たりの平均電流値 (約 13A) の合計よりも、RCIC 復水ポンプ単体が定格連続運転した時の定格電流値が上回るため、RCIC 復水ポンプが定格連続運転するものとして蓄電池容量を計算する。

※5 : RCIC ミニマムフロー弁, RCIC 復水器冷却水入口弁, RCIC タービン蒸気入口弁を含む。

・ B - 115V 系蓄電池の容量計算結果

① 1 分間供給で必要となる蓄電池容量

$$C_1 = \frac{1}{L} \times [K_1 I_1] = \frac{1}{0.8} \times [0.56 \times 603] = 423\text{Ah}$$

$$K_1 : 0.56 (1 \text{分}), I_1 : 603 (A)$$

② 8.5 時間 (510 分) 供給で必要となる蓄電池容量

$$C_2 = \frac{1}{L} \times [K_1 I_1 + K_2 (I_2 - I_1)] = \frac{1}{0.8} \times [8.79 \times 603 + 8.79 \times (269 - 603)] = 2,956\text{Ah}$$

$$K_1 : 8.79 (510 \text{分}), K_2 : 8.79 (509 \text{分})$$

$$I_1 : 603 (A), I_2 : 269 (A)$$

上記計算より、B - 115V 系蓄電池の蓄電池容量は約 3,000Ah を選定する。

【設 定 根 拠】(続き)

・ B 1 -115V系蓄電池の容量計算結果

①24 時間供給で必要となる蓄電池容量

$$C_1 = \frac{1}{L} \times [K_1 I_1 + K_2 (I_2 - I_1) + K_3 (I_3 - I_2)]$$

$$= \frac{1}{0.8} \times [23.88 \times 30 + 15.88 \times (55 - 30) + 0.56 \times (155 - 55)] = 1,462\text{Ah}$$

$$K_1 : 23.88 \text{ (1440 分)}, K_2 : 15.88 \text{ (959 分)}, K_3 : 0.56 \text{ (1 分)}$$

$$I_1 : 30 \text{ (A)}, I_2 : 55 \text{ (A)}, I_3 : 155 \text{ (A)}$$

上記計算より, B1-115V 系蓄電池 (S A) の蓄電池容量は 1,500Ah を選定する。

・ 230V系蓄電池 (R C I C) の容量計算結果

① 1 時間供給で必要となる蓄電池容量

$$C_1 = \frac{1}{L} \times [K_1 I_1] = \frac{1}{0.8} \times [0.66 \times 286] = 236\text{Ah}$$

$$K_1 : 0.66 \text{ (1 分)}, I_1 : 286 \text{ (A)}$$

② 8 時間供給 (480 分) で必要となる蓄電池容量

$$C_2 = \frac{1}{L} \times [K_1 I_1 + K_2 (I_2 - I_1)] = \frac{1}{0.8} \times [8.72 \times 286 + 8.72 \times (47 - 286)] = 513\text{Ah}$$

$$K_1 : 8.72 \text{ (480 分)}, K_2 : 8.72 \text{ (479 分)}$$

$$I_1 : 286 \text{ (A)}, I_2 : 47 \text{ (A)}$$

③24 時間 (1440 分) 供給で必要となる蓄電池容量

$$C_3 = \frac{1}{L} \times [K_1 I_1 + K_2 (I_2 - I_1)] = \frac{1}{0.8} \times [24.32 \times 286 + 24.32 \times (47 - 286)] = 1,429\text{Ah}$$

$$K_1 : 24.32 \text{ (1440 分)}, K_2 : 24.32 \text{ (1439 分)}$$

$$I_1 : 286 \text{ (A)}, I_2 : 47 \text{ (A)}$$

上記計算より, 230V 系蓄電池 (R C I C) の蓄電池容量は 1,500Ah を選定する。

名 称		常設代替直流電源設備
S A用 115V 系蓄電池	Ah	1,500

【設 定 根 拠】

S A用 115V 系蓄電池は設計事故対処設備の電源が喪失（全交流動力電源喪失）した場合、負荷切離しを行わずに 24 時間にわたり必要な設備へ直流電源を供給できる設計とする。

1. 容量

蓄電池の負荷は以下の通りとなる。

S A用 115V 系蓄電池負荷一覧表

負荷名称	0～1分	1～1439分	1439～ 1440分
高压原子炉代替注水系電動弁	346	0.2	110
S A対策設備用分電盤（2）	43.5	43.5	43.5
制御電源（自動減圧系）	3.1	3.1	3.1
合計（A）	392.6	46.8	156.6

・ S A用 115V 系蓄電池の容量計算結果

① 1分供給で必要となる蓄電池容量

$$C_1 = \frac{1}{L} \times [K_1 I_1] = \frac{1}{0.8} \times [0.56 \times 392.6] = 275 \text{Ah}$$

$$K_1 : 0.56 \text{ (1分)}, I_1 : 393 \text{ (A)}$$

② 24時間（1440分）供給で必要となる蓄電池容量

$$C_2 = \frac{1}{L} \times [K_1 I_1 + K_2 (I_2 - I_1) + K_3 (I_3 - I_2)]$$

$$= \frac{1}{0.8} \times [23.88 \times 392.6 + 23.88 \times (46.8 - 392.6) + 0.56 \times (156.6 - 46.8)] = 1,474 \text{Ah}$$

$$K_1 : 23.88 \text{ (1440分)}, K_2 : 23.88 \text{ (1439分)}, K_3 : 0.56 \text{ (1分)}$$

$$I_1 : 392.6 \text{ (A)}, I_2 : 46.8 \text{ (A)}, I_3 : 156.6 \text{ (A)}$$

上記計算より、S A用 115V 系蓄電池の蓄電池容量は約 1,500Ah を選定する。

名称		所内蓄電式直流電源設備 (7号炉)
直流 125V 蓄電池 A	Ah	約 6,000
直流 125V 蓄電池 A-2	Ah	約 4,000
AM用直流 125V 蓄電池	Ah	約 3,000

【設定根拠】

直流 125V 蓄電池 7A, 直流 125V 蓄電池 7A-2, AM用直流 125V 蓄電池は, 設計基準事故対処設備の電源が喪失(全交流動力電源喪失)した場合, 負荷切り離しを行わずに 8 時間, その後, 必要な負荷以外を切り離して残り 16 時間の合計 24 時間にわたり必要な設備へ直流電源を供給できる設計とする。

1. 容量

各蓄電池の負荷は以下の通りとなる。

直流 125V 蓄電池 7A 負荷一覧表

負荷名称	0~1 分	1~480 分	480~720 分
原子炉隔離時冷却系真空ポンプ	113	45	-
原子炉隔離時冷却系復水ポンプ	130	52	-
非常用ディーゼル発電機初期励磁 ^{※1}	(105)	-	-
遮断器操作回路 ^{※1}	185	-	-
その他の負荷	1,000	446	160
合計(A)	1,428	543	160

※1: 非常用ディーゼル発電機初期励磁と非常用高圧母線及び非常用低圧母線の遮断器操作回路は重なって操作されることがないため, 値の大きいほうのみを, 蓄電池容量計算上含める。

直流 125V 蓄電池 7A-2 負荷一覧表

負荷名称	480~481 分	481~1,140 分
原子炉隔離時冷却系真空ポンプ	113	45
原子炉隔離時冷却系復水ポンプ	130	52
その他の負荷	696	142
合計(A)	939	239

AM用直流 125V 蓄電池 (7号炉) 負荷一覧表

負荷名称	0~1,140 分	1,140~1,141 分	1,141~1,440 分
原子炉隔離時冷却系真空ポンプ	-	113	45
原子炉隔離時冷却系復水ポンプ	-	130	52
その他の負荷	27	723	169
合計(A)	27	966	266

・設備の相違

直流 125V 蓄電池 7A の容量計算結果

$$C_1 = \frac{1}{0.8} (0.66 \times 1,428) = 1,179\text{Ah}$$

$$C_2 = \frac{1}{0.8} \{8.72 \times 1,428 + 8.72 \times (543 - 1,428)\} = 5,919\text{Ah}$$

$$C_3 = \frac{1}{0.8} \{12.32 \times 1,428 + 12.32 \times (543 - 1,428) + 5.30 \times (160 - 543)\} = 5,825\text{Ah}$$

上記計算より、直流 125V 蓄電池 7A の蓄電池容量は約 6,000Ah を選定する。

直流 125V 蓄電池 7A-2 の容量計算結果

$$C_1 = \frac{1}{0.8} (1.82 \times 939) = 2,137\text{Ah}$$

$$C_2 = \frac{1}{0.8} \{12.70 \times 939 + 12.70 \times (239 - 939)\} = 3,795\text{Ah}$$

上記計算より、直流 125V 蓄電池 7A-2 の蓄電池容量は約 4,000Ah を選定する。

AM 用直流 125V 蓄電池 (7号炉) の容量計算結果

$$C_1 = \frac{1}{0.8} (19.32 \times 27) = 653\text{Ah}$$

$$C_2 = \frac{1}{0.8} \{19.32 \times 27 + 0.66 \times (966 - 27)\} = 1,427\text{Ah}$$

$$C_3 = \frac{1}{0.8} \{24.32 \times 27 + 6.20 \times (966 - 27) + 6.19 \times (266 - 966)\} = 2,682\text{Ah}$$

上記計算より、AM 用直流 125V 蓄電池 (7号炉) の蓄電池容量は約 3,000Ah を選定する。

・設備の相違

名 称		B 1 -115V 系充電器(S A)																
出 力	A	約 200																
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>B 1 -115V 系充電器(S A)は、直流制御電源を供給しながらB 1 -115V 系蓄電池(S A)を10 時間で回復充電できる設計とし、また、設計基準事故対処設備の電源が喪失(全交流電源喪失及び蓄電池が枯渇)した場合、高圧発電機車を代替所内電気設備に接続することにより、B 1 -115V 系充電器(S A)を経由し、24 時間にわたり原子炉隔離時冷却系等の必要な設備へ直流電源を供給できる設計とする。</p>																		
<p>1. 容量</p> <p style="text-align: center;">B 1 -115V 系蓄電池(S A)回復充電時の最大負荷</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>負荷名称</th> <th>負荷電流(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>制御電源(制御盤関係)</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>B 1 -115V 系蓄電池(S A)の回復充電電流</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>165</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">全交流電源喪失時に必要となる最大負荷</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>負荷名称</th> <th>負荷電流(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>直流照明</td> <td>9.5</td> </tr> <tr> <td>制御電源(制御盤関係)</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>25^{※1}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 : 小数点以下は切り上げ</p> <p>したがって、B -115V 系充電器の出力は、B 1 -115V 系蓄電池(S A)回復充電時の最大負荷165A に対し、200A とする。</p>			負荷名称	負荷電流(A)	制御電源(制御盤関係)	15	B 1 -115V 系蓄電池(S A)の回復充電電流	150	合計	165	負荷名称	負荷電流(A)	直流照明	9.5	制御電源(制御盤関係)	15	合計	25 ^{※1}
負荷名称	負荷電流(A)																	
制御電源(制御盤関係)	15																	
B 1 -115V 系蓄電池(S A)の回復充電電流	150																	
合計	165																	
負荷名称	負荷電流(A)																	
直流照明	9.5																	
制御電源(制御盤関係)	15																	
合計	25 ^{※1}																	

名称	AM用直流 125V 充電器	
出力	A	約 300

名称	SA用 115V 系充電器	
出力	A	約 200

【設定根拠】

AM用直流 125V 充電器は、設計基準事故対処設備の電源が喪失（全交流動力電源喪失及び蓄電池が枯渇）した場合、電源車を代替所内電気設備へ接続することにより、AM用直流 125V 充電器を経由し、24 時間にわたり高圧代替注水系等へ直流電源を供給できる設計とする。

【設定根拠】

SA用 115V 系充電器は、直流制御電源を供給しながら SA用 115V 系蓄電池を 10 時間で回復充電できる設計とし、また、設計基準事故対処設備の電源が喪失（全交流電源喪失及び蓄電池が枯渇）した場合、高圧発電機車を代替所内電気設備に接続することにより、SA用 115V 系充電器を経由し、24 時間にわたり高圧代替注水系等の必要な設備へ直流電源を供給できる設計とする。

1. 容量

最大所要負荷は、6号炉・7号炉の全交流動力電源喪失時に必要となる最大負荷 42A である。

1. 容量

	6号炉	7号炉
a. 高圧代替注水系制御電源	3A	3A
b. 格納容器圧力逃がし装置制御電源	8A	8A
c. その他	31A	26A
合計 ^{※1} (a+b+c)	42A	37A

SA用 115V 系蓄電池回復充電時の最大負荷

負荷名称	負荷電流 (A)
制御電源 (制御盤関係)	47
SA用 115V 系蓄電池の回復充電電流	150
合計	197

※1. 容量計算書 蓄電池 (6号炉) ,蓄電池 (7号炉) のその他の負荷うち、以下のとおり原子炉隔離時冷却系の運転に必要な負荷を除いた値である。

全交流電源喪失時に必要となる最大負荷

負荷名称	負荷電流 (A)
制御電源 (制御盤関係)	47
合計	47

	① その他の負荷	② 原子炉隔離時冷却系の運転に必要な負荷	合計 (①-②=a+b+c AM用直流 125V 充電器に必要となる最大負荷)
6号炉	154A	112A	42A
7号炉	169A	132A	37A

したがって、AM用充電器の出力は最大所要負荷である、42A 対し十分な余裕を有する約 300A とする。

※1 : 小数点以下は切り上げ

したがって、SA用 115V 系充電器の出力は、SA用 115V 系蓄電池回復充電時の最大負荷 197A に対し、200A とする。

・設備の相違

・設備の相違

名 称	230V系充電器(常用)	
出 力	A	約 200

【設 定 根 拠】

230V系充電器(常用)は、設計基準事故対処設備の電源が喪失(全交流電源喪失及び蓄電池が枯渇)した場合、高圧発電機車を代替所内電気設備に接続することにより、230V系充電器(常用)を經由し、24時間にわたり原子炉隔離時冷却系等の必要な設備へ直流電源を供給できる設計とする。

1. 容量

全交流電源喪失時に必要となる最大負荷

負荷名称	負荷電流 (A)
R C I C真空ポンプ	23
R C I C復水ポンプ	24
合計	47

したがって、230V系充電器(常用)の出力は、全交流電源喪失時に必要となる最大負荷47Aに対し、200Aとする。

名称		号炉間電力融通ケーブル (常設)
個数	個	1
サイズ	mm ²	100

【設定根拠】

号炉間電力融通ケーブル (常設) は、設計基準事故対処設備の電源 (全交流動力電源喪失) が喪失した場合、他号炉の電源設備から号炉間電力融通ケーブルを用いて重大事故等に対処するために必要な電力を供給する設計とする。

1. 容量

号炉間電力融通ケーブル (常設) は、他号炉の電源設備から電力を供給する容量である 1,649kW^{※1} を通電する容量が必要となる。

したがって、以下のとおり、通電電流は 173A となり、約 250A 通電可能なケーブルサイズとして 100mm² とする。

$$1,649\text{kW} \div \text{力率 } 0.8 \div \sqrt{3} \div 6.9\text{kV} = 173\text{A}$$

※1. 容量根拠書 第一ガスタービン発電機に記載のとおり、6号炉から7号炉への融通時、7号炉として必要な容量は 1,615kW、7号炉から6号炉への融通時、6号炉として必要な容量は 1,649kW であり、大きい方の 1,649kW が他号炉の電源設備から供給する最大容量となる。

・設備の相違

名称		号炉間電力融通ケーブル (可搬型)
個数	個	1
サイズ	mm ²	100

【設定根拠】

号炉間電力融通ケーブル (可搬型) は、設計基準事故対処設備の電源 (全交流動力電源喪失) が喪失した場合、他号炉の電源設備から号炉間電力融通ケーブルを用いて重大事故等に対処するために必要な電力を供給する設計とする。

1. 容量

号炉間電力融通ケーブル (可搬型) は、他号炉の電源設備から電力を供給する容量である 1,649kW^{※1} を通電する容量が必要となる。

したがって、以下のとおり、通電電流は 173A となり、約 250A 通電可能なケーブルサイズとして 100mm² とする。

$$1,649\text{kW} \div \text{力率 } 0.8 \div \sqrt{3} \div 6.9\text{kV} = 173\text{A}$$

※1. 容量根拠書 第一ガスタービン発電機に記載のとおり、6号炉から7号炉への融通時、7号炉として必要な容量は 1,615kW、7号炉から6号炉への融通時、6号炉として必要な容量は 1,649kW であり、大きい方の 1,649kW が他号炉の電源設備から供給する最大容量となる。

・設備の相違

名称		<u>緊急用電源切替箱断路器</u>
定格電流	A	約 600
<p>【設定根拠】 緊急用電源切替箱断路器は、設計基準事故等対処設備の電源（全交流動力電源喪失）が喪失した場合、重大事故等に対処するために必要な電力を供給する設計とする。</p> <p>1. 容量 緊急用電源切替箱断路器は、設計基準事故等対処設備の電源（全交流動力電源喪失）が喪失した場合、重大事故等に対処するために必要な 1,649kW^{※1} を通電する容量が必要となる。 したがって、以下のとおり、通電電流は 173A となり、定格電流を約 600A とする。</p> $1,649\text{kW} \div \text{力率 } 0.8 \div \sqrt{3} \div 6.9\text{kV} = 173\text{A}$ <p>※1. 容量根拠書 第一ガスタービン発電機</p>		

・設備の相違

名称	緊急用断路器(6号及び7号炉共用)	
定格電流	A	約 600

名称	緊急用メタクラ	
母線定格電流	A	約 1,200

【設定根拠】

緊急用断路器は、常設重大事故等対処設備として設置する。
 緊急用断路器は、設計基準事故対処設備の電源が喪失したことにより重大事故等に対処するために必要な電力を供給できる設計とする。

1. 容量

緊急用断路器の定格電流容量は、第一ガスタービン発電機1基^{*1}が接続可能であることから、第一ガスタービン発電機1基の定格電流以上に設定する。

(1) 第一ガスタービン発電機1基分の定格電流である377Aに対し、十分余裕を有する約600Aとする。

※1. 第一ガスタービン発電機1基分の定格電流： $4,500\text{kVA} \div \sqrt{3} \div 6.9\text{kV} = 377\text{A}$

【設定根拠】

緊急用メタクラは、常設重大事故等対処設備として2号機用と予備用を設置する。
 緊急用メタクラは、設計基準事故対処設備の電源が喪失した場合に重大事故等に対処するために必要な電力を供給できる設計とする。

1. 容量

緊急用メタクラの母線電流はガスタービン発電機からの電力供給設備であることから、ガスタービン発電機の定格電流以上に設定する。

(1) ガスタービン発電機の定格電流である503Aに対し、十分余裕を考慮し、1,200Aとする。

ガスタービン発電機の定格電流： $6,000\text{kVA} \div \sqrt{3} \div 6.9\text{kV} = 503\text{A}$

・設備の相違

・設備の相違

名 称		メタクラ切替盤
母線定格電流	A	約 1,200
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>メタクラ切替盤は、設計基準事故等対処設備の電源（全交流動力電源喪失）が喪失した場合、重大事故等に対処するために必要な電力を供給する設計とする。</p> <p>1. 容量</p> <p>メタクラ切替盤は、設計基準事故等対処設備の電源（全交流動力電源喪失）が喪失した場合、重大事故等に対処するために必要な電力をガスタービン発電機又は高圧発電機車から受電するため、母線定格電流は容量の大きいガスタービン発電機の定格電流以上とする。</p> <p>したがって、母線定格電流は、以下に示すようにガスタービン発電機の定格電流 503A に余裕を考慮し、1200A とする。</p> <p>ガスタービン発電機の定格電流：$6,000\text{kVA} \div \sqrt{3} \div 6.9\text{kV} = 503\text{A}$</p>		

名 称		<u>高圧発電機車接続プラグ収納箱</u> <u>緊急用メタクラ接続プラグ盤</u>
定 格 電 流	A	約 280
<p>【設 定 根 拠】</p> <p>高圧発電機車接続プラグ収納箱及び緊急用メタクラ接続プラグ盤は、設計基準事故等対処設備の電源（全交流動力電源喪失）が喪失した場合、重大事故等に対処するために必要な電力を供給する設計とする。</p> <p>1. 容量</p> <p>高圧発電機車接続プラグ収納箱及び緊急用メタクラ接続プラグ盤は、高圧発電機車3台が接続可能であることから、高圧発電機車3台の定格電流以上に設定する。</p> <p>(1) 高圧発電機車3台の定格電流である 約 132A に対し、十分余裕を考慮し、280A とする。</p>		

・設備の相違

名 称		SAロードセンタ
母線定格電流	A	約 1,200
<p>【設定根拠】</p> <p>SAロードセンタは、設計基準事故等対処設備の電源（全交流動力電源喪失）が喪失した場合、重大事故等に対処するために必要な電力を供給する設計とする。</p>		
<p>1. 容量</p> <p>(1) 低圧原子炉代替注水設備運転時</p> <p>負荷出力合計は約 440kW である。</p>		
負荷名称		出力 (kW)
低圧原子炉代替注水ポンプ		210
SA1コントロールセンタ		230
合計		440
<p>(2) 残留熱代替除去ポンプ運転時</p> <p>負荷出力合計は約 400kW である。</p>		
負荷名称		出力 (kW)
SA1コントロールセンタ		230
SA2コントロールセンタ		170
合計		400
<p>低圧原子炉代替注水ポンプと残留熱代替除去ポンプは同時運転しないため、動力変圧器所要容量は最大負荷の大きい低圧原子炉代替注水ポンプを運転時の負荷 550kVA (=440kW ÷ 力率 0.8) に余裕を考慮し、600kVA とする。</p> <p>したがって、母線定格電流は 754A (=600kVA ÷ √3 ÷ 460V) に余裕を考慮し、1,200A とする。</p>		

・設備の相違

名 称		SA1コントロールセンタ
母線定格電流	A	約400
【設定根拠】		
SA1コントロールセンタは、設計基準事故等対処設備の電源（全交流動力電源喪失）が喪失した場合、重大事故等に対処するために必要な電力を供給する設計とする。		
1. 容量		
負荷出力合計は約230kWである。		
負荷名称		出力 (kW)
低圧原子炉代替注水設備 非常用送風機		15
代替注水設備 空調換気制御盤 (SA)		0.2
第1ベントフィルタ格納槽非常用送風機		3.7
第1ベントフィルタ出口水素濃度		25
重大事故設備交流電源用変圧器盤		25
第1フィルタベント設備ドレン移送ポンプ		11
第1ベントフィルタ格納槽排水ポンプ		30
第1ベントフィルタスクラバ水サンプリング		20
230V系充電器 (常用)		48
B1-115V系充電器 (SA)		24
SA用115V系充電器		24
合計		227*1

※1：小数点以下は切り上げ

したがって、 $378A (=230kW \div 0.8 \div \sqrt{3} \div 440V)$ に余裕を考慮し、400Aとする。

・設備の相違

名 称		SA2コントロールセンタ												
母線定格電流	A	約400												
<p>【設定根拠】</p> <p>SA2コントロールセンタは、設計基準事故等対処設備の電源（全交流動力電源喪失）が喪失した場合、重大事故等に対処するために必要な電力を供給する設計とする。</p> <p>1. 容量</p> <p>負荷出力合計は約170kWである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>負荷名称</th> <th>出力 (kW)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>格納容器水素濃度 (SA)</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>格納容器酸素濃度 (SA)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>A-残留熱代替除去ポンプ</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>B-残留熱代替除去ポンプ</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>170</td> </tr> </tbody> </table> <p>したがって、$279A (=170kW \div 0.8 \div \sqrt{3} \div 440V)$ に余裕を考慮し、400A とする。</p>			負荷名称	出力 (kW)	格納容器水素濃度 (SA)	20	格納容器酸素濃度 (SA)		A-残留熱代替除去ポンプ	75	B-残留熱代替除去ポンプ	75	合計	170
負荷名称	出力 (kW)													
格納容器水素濃度 (SA)	20													
格納容器酸素濃度 (SA)														
A-残留熱代替除去ポンプ	75													
B-残留熱代替除去ポンプ	75													
合計	170													

名称		緊急用電源切替箱接続装置
定格電流	A	約 1,200
<p>【設定根拠】 緊急用電源切替箱接続装置は、設計基準事故等対処設備の電源（全交流動力電源喪失）が喪失した場合、重大事故等に対処するために必要な電力を供給する設計とする。</p> <p>1. 容量 緊急用電源切替箱接続装置は、設計基準事故等対処設備の電源（全交流動力電源喪失）が喪失した場合、重大事故等に対処するために必要な1,649kW^{*1}を通電する容量が必要となる。 したがって、以下のとおり、通電電流は173Aとなり、定格電流を約1,200Aとする。</p> <p style="text-align: center;">$1,649\text{kW} \div \text{力率 } 0.8 \div \sqrt{3} \div 6.9\text{kV} = 173\text{A}$</p> <p>※1. 容量根拠書 第一ガスタービン発電機参照</p>		

・設備の相違

名称	非常用高圧母線C系・D系	
母線電流容量	A	約 1,200

【設定根拠】

非常用高圧母線C系・D系は、常設重大事故等対処設備として設置する。
 非常用高圧母線C系・D系は、設計基準事故対処設備の電源が喪失したことにより重大事故等に対処するために必要な電力を供給できる設計とする。

1. 容量

非常用高圧母線C系（又はD系）は、第一ガスタービン発電機からの電力又は号炉間電力融通ケーブルを介した他号炉非常用ディーゼル発電機からの電力を通電可能な設計とする。

具体的には、非常用高圧母線C系（又はD系）の母線電流容量は、第一ガスタービン発電機の定格容量 4,500kVA と非常用ディーゼル発電機 6,250kVA の容量の大きい非常用ディーゼル発電機の定格電流以上に設定する。

(1) 非常用ディーゼル発電機 1 基分の定格電流である 523A に対し、十分余裕を有する約 1,200A とする。

非常用ディーゼル発電機 1 基分の定格電流： $6,250\text{kVA} \div \sqrt{3} \div 6.9\text{kV} = 523\text{A}$

名称	非常用高圧母線C系・D系	
遮断器定格電流	A	約 1,200

【設定根拠】

非常用高圧母線C系・D系は、常設重大事故等対処設備として設置する。

非常用高圧母線C系・D系は、設計基準事故対処設備の電源が喪失したことにより重大事故等に対処するために必要な電力を供給できる設計とする。

1. 容量

非常用高圧母線C系（又はD系）は、ガスタービン発電機からの電力を通電可能な設計とする。

したがって、非常用高圧母線C系（又はD系）の母線電流容量は、以下に示すようにガスタービン発電機の定格電流 503A に余裕を考慮した設計とする。

ガスタービン発電機の定格電流： $6,000\text{kVA} \div \sqrt{3} \div 6.9 = 503\text{A}$

なお、非常用高圧母線C系（又はD系）は、非常用ディーゼル発電機 1 基分の定格電流 611A に十分な余裕を考慮し、定格電流約 1,200A を有する設計とする。

・設備の相違

名称		AM用動力変圧器
容量	kVA	約 750 (6号炉)
		約 800 (7号炉)

【設定根拠】

AM用動力変圧器は、設計基準事故対処設備の電源が喪失（全交流動力電源喪失）した場合、重大事故等に対処するために必要な電力を供給する設計とする。

1. 容量

負荷は6号炉が約155kW、7号炉が約160kWである。

	6号炉	7号炉
AM用直流125V充電器	約41kW	約41kW
中央制御室陽圧化可搬型空調機	3kW	3kW
復水移送ポンプ	55kW	55kW
復水移送ポンプ	55kW	55kW
R/B AM用直流125V蓄電池室排風機	0.75kW	-
DG(A)/Z排風機	-	1.5kW
合計	約155kW	約160kW

したがって、200kVA (=160kW ÷ 力率0.8) に余裕を考慮し、約750kVA(6号炉)、約800kVA(7号炉)とする。

・設備の相違

名称	<u>AM用MCC</u>	
母線定格電流	A	約 800

【設定根拠】

AM用MCCは、設計基準事故対処設備の電源が喪失（全交流動力電源喪失）した場合、重大事故等に対処するために必要な電力を供給する設計とする。

1. 容量

負荷は6号炉が約155kW、7号炉が約160kWである。

	6号炉	7号炉
AM用直流125V充電器	約41kW	約41kW
中央制御室陽圧化可搬型空調機	3kW	3kW
復水移送ポンプ	55kW	55kW
復水移送ポンプ	55kW	55kW
R/B AM用直流125V蓄電池室排風機	0.75kW	-
DG(A)/Z排風機	-	1.5kW
合計	約155kW	約160kW

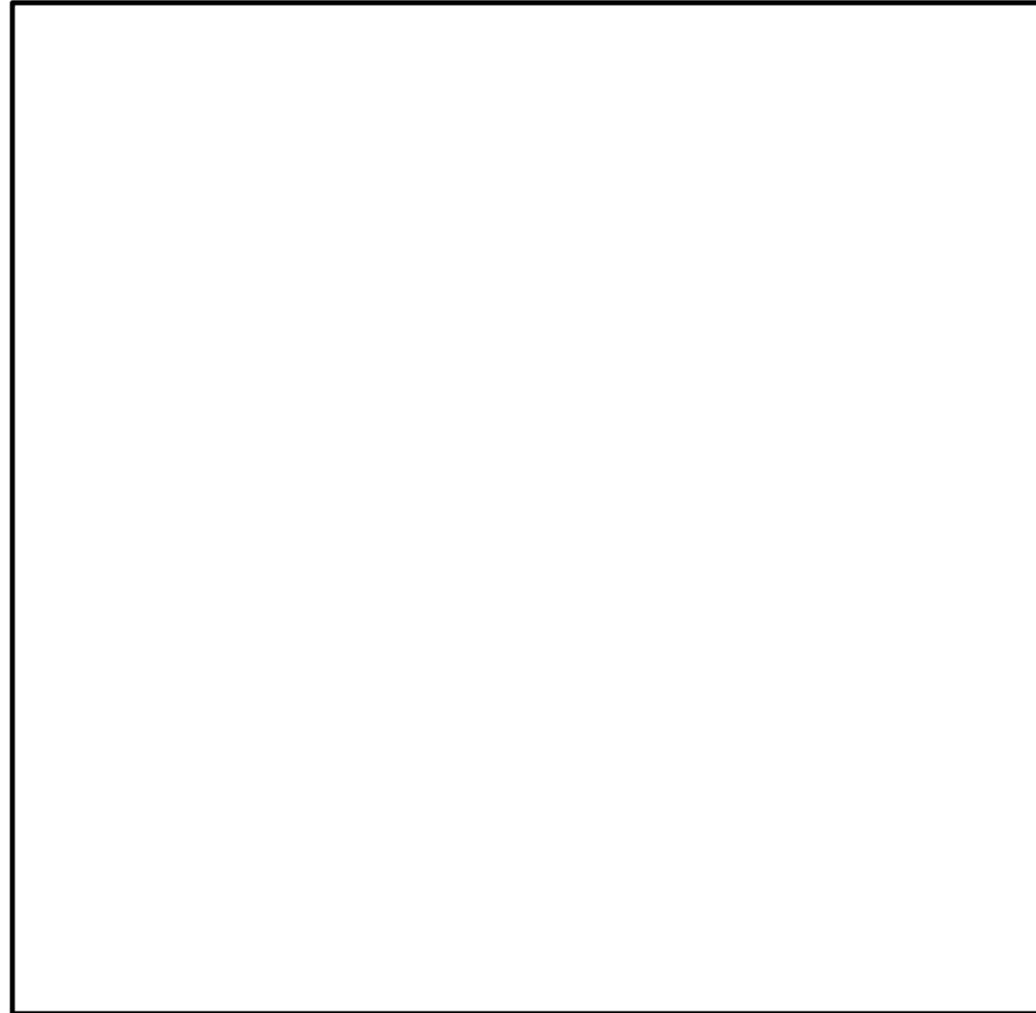
したがって、 $241A (=160kW \div 力率 0.8 \div \sqrt{3} \div 480V)$ に余裕を考慮し、800Aとする。

なお、AM用切替盤については、AM用切替盤に接続される負荷の容量にあわせた定格電流値を設定する。

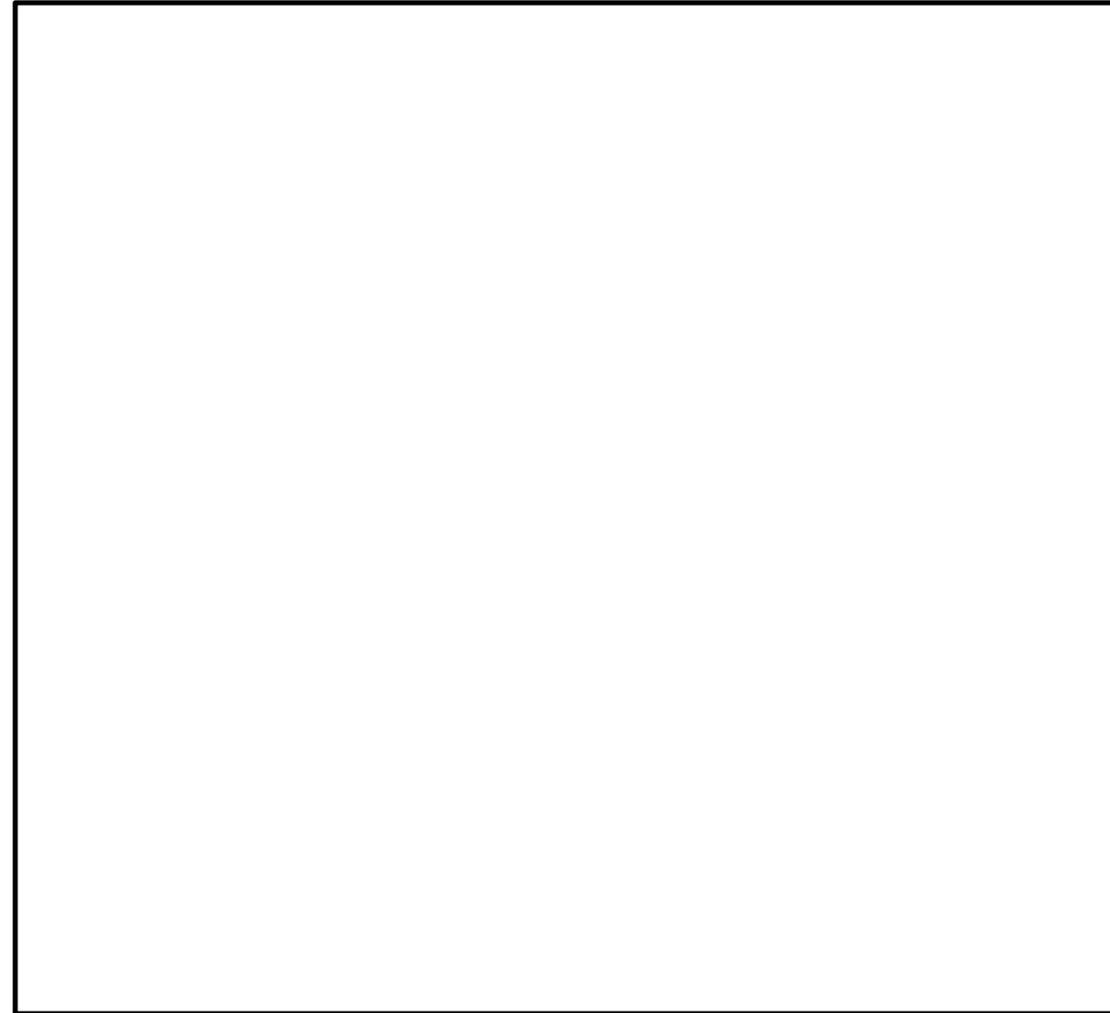
・設備の相違

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p data-bbox="587 659 804 737">57-6 アクセスルート図</p>	<p data-bbox="1733 659 1949 737">57-6 アクセスルート図</p>	

保管場所及びアクセスルート図



島根原子力発電所2号炉『可搬型重大事故等対処設備保管場所及びアクセスルートについて』より抜粋



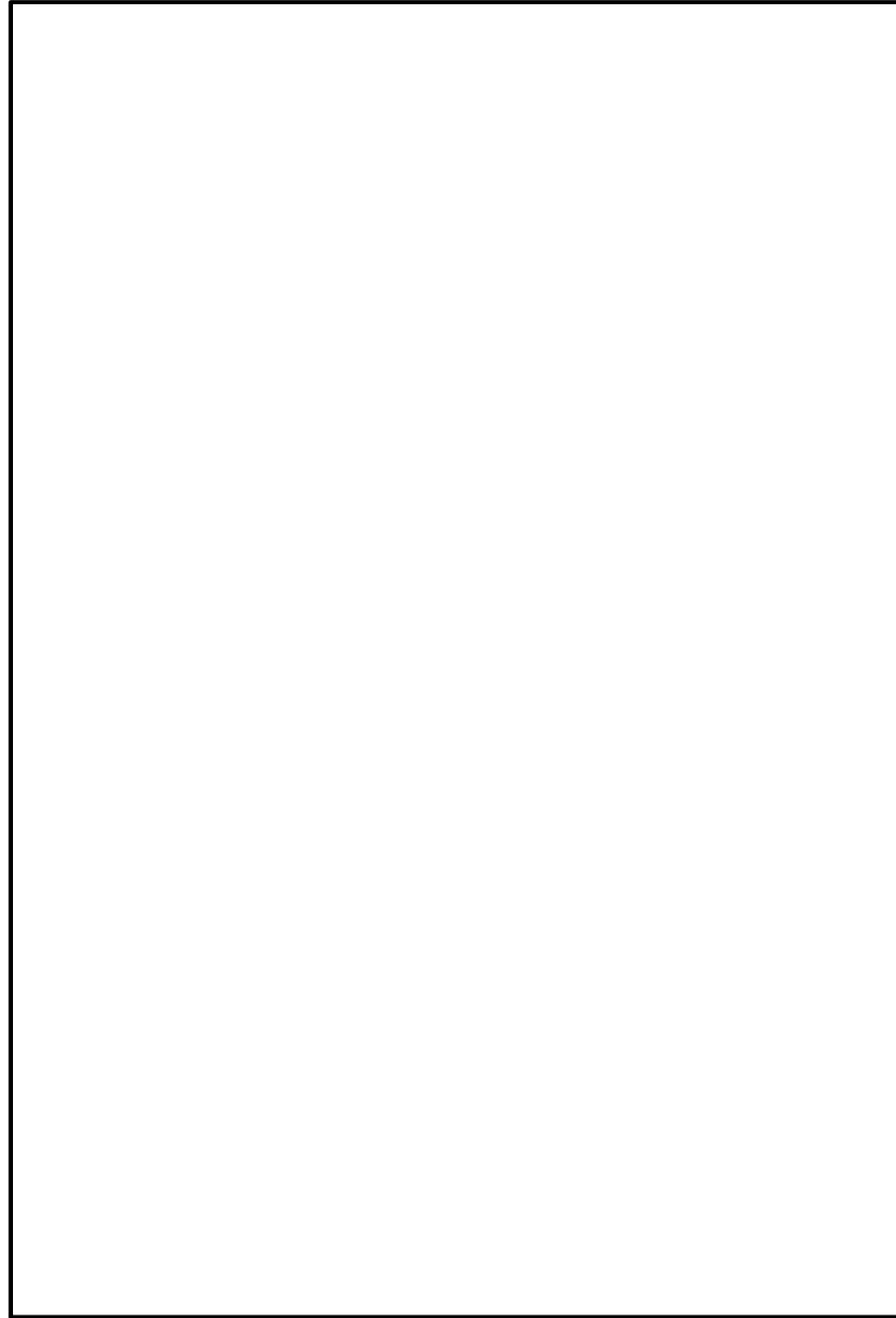
第 57-6-1 図 保管場所及びアクセスルート図

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)

島根原子力発電所 2号炉

備考

地震・津波発生時のアクセスルート図

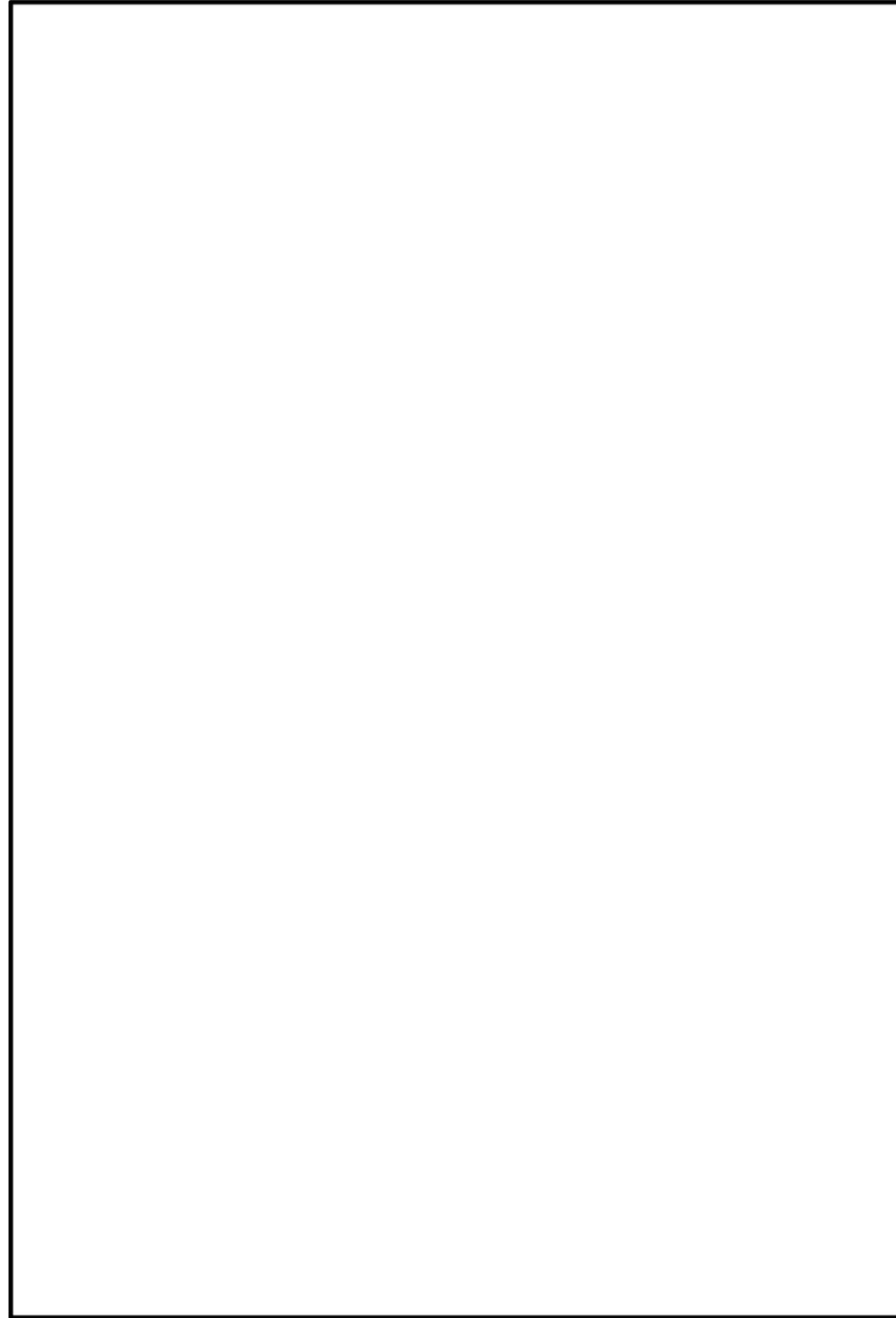


柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)

島根原子力発電所 2号炉

備考

森林火災発生時のアクセスルート図

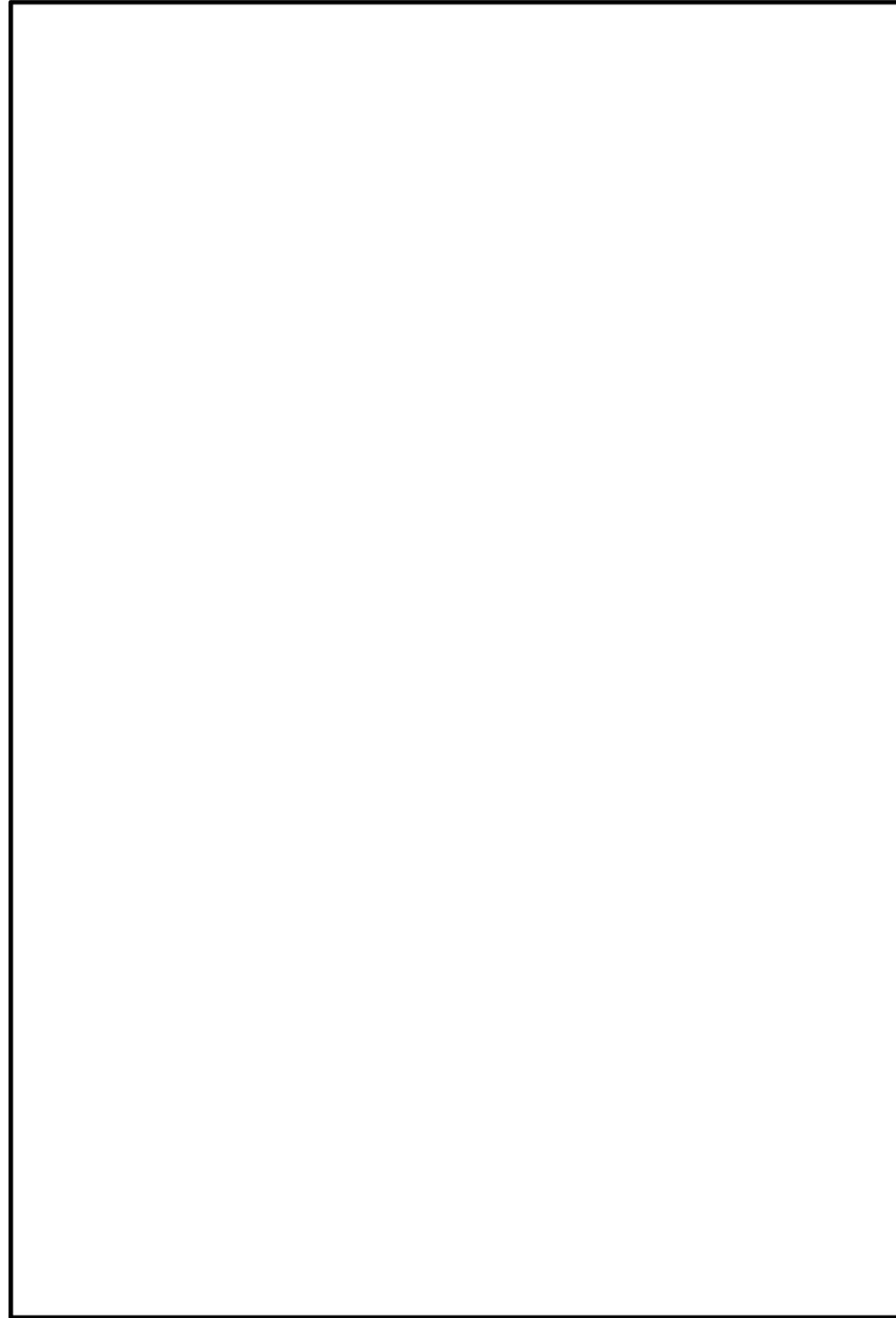


柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)

島根原子力発電所 2号炉

備考

中央交差点が通行不能時のアクセスルート図

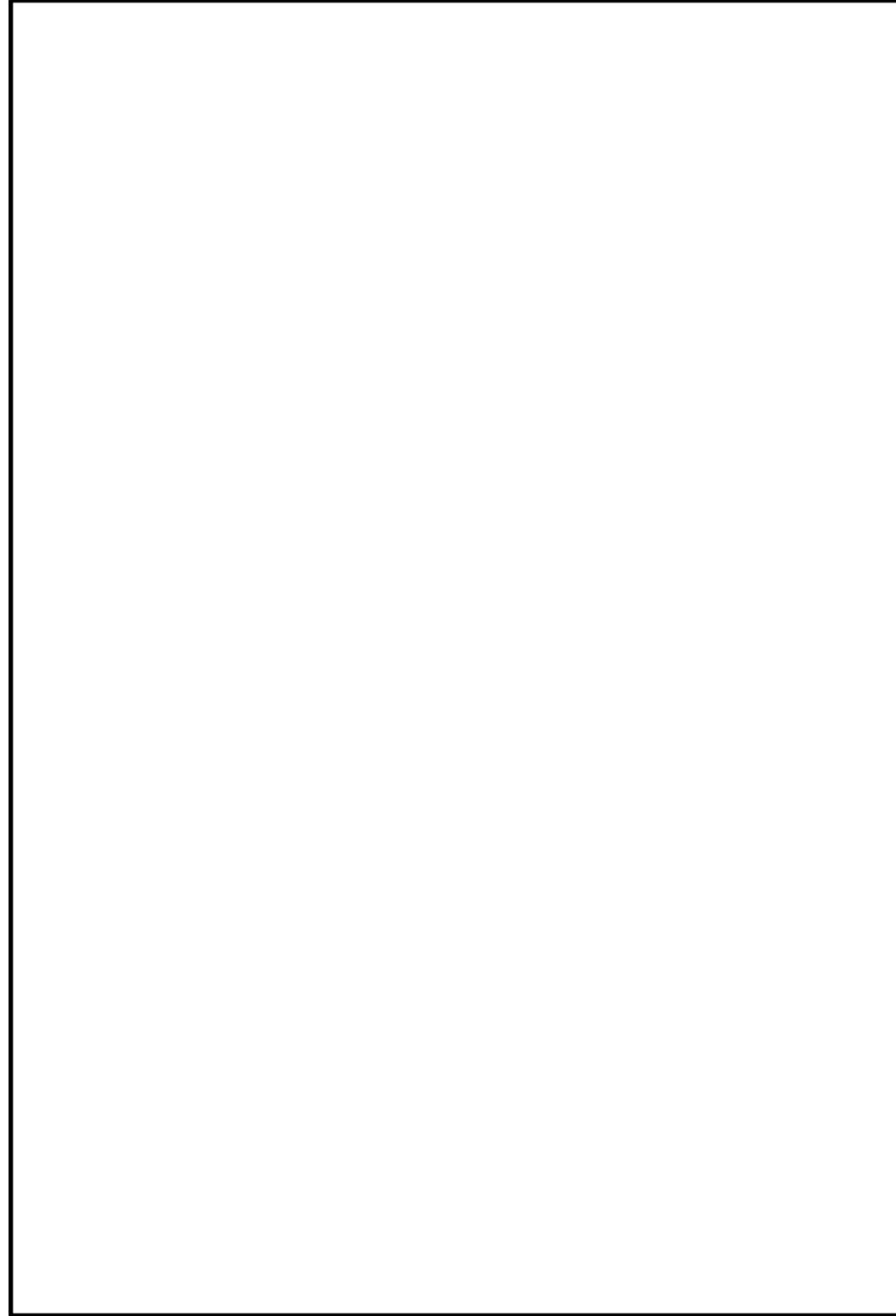


柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)

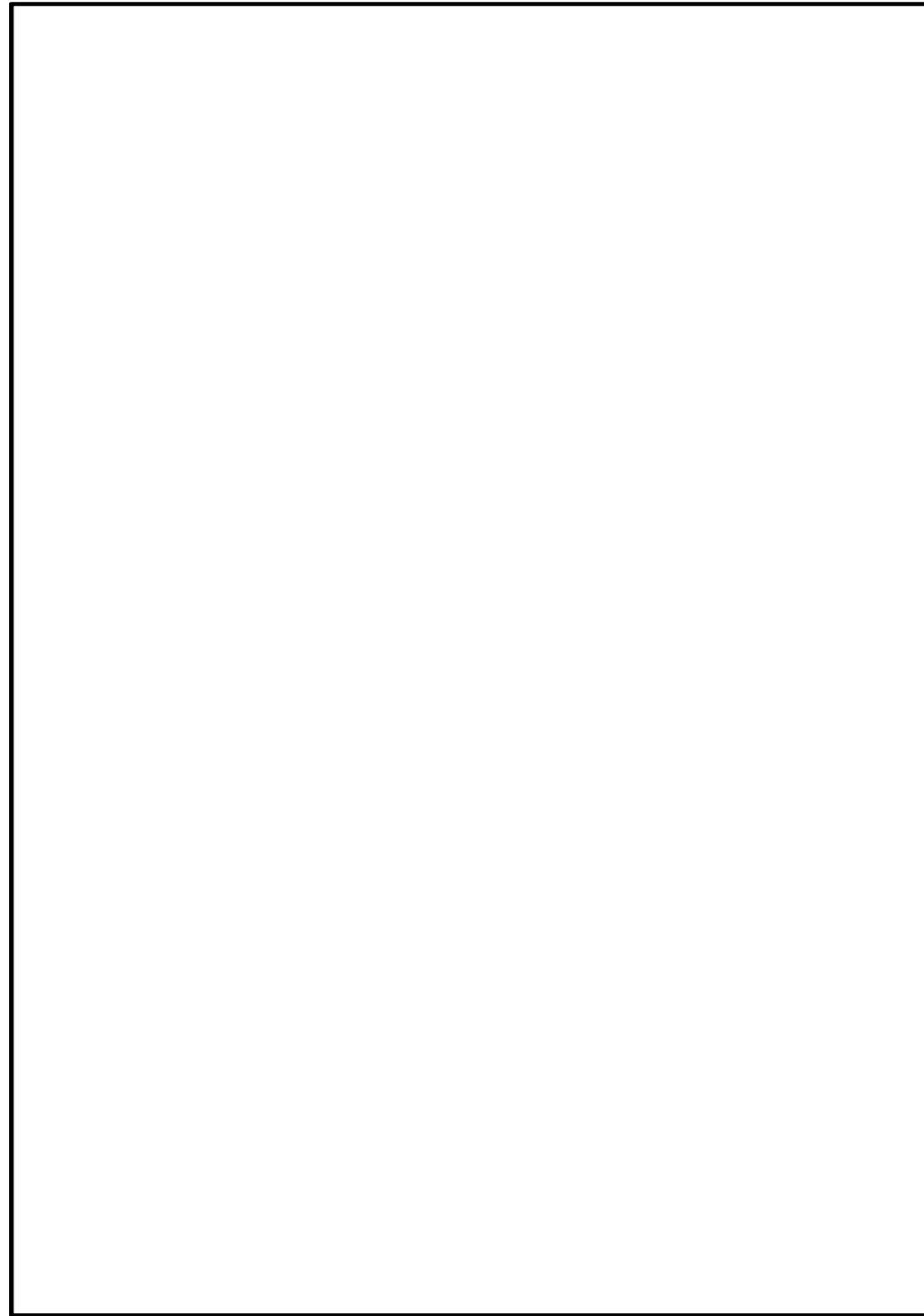
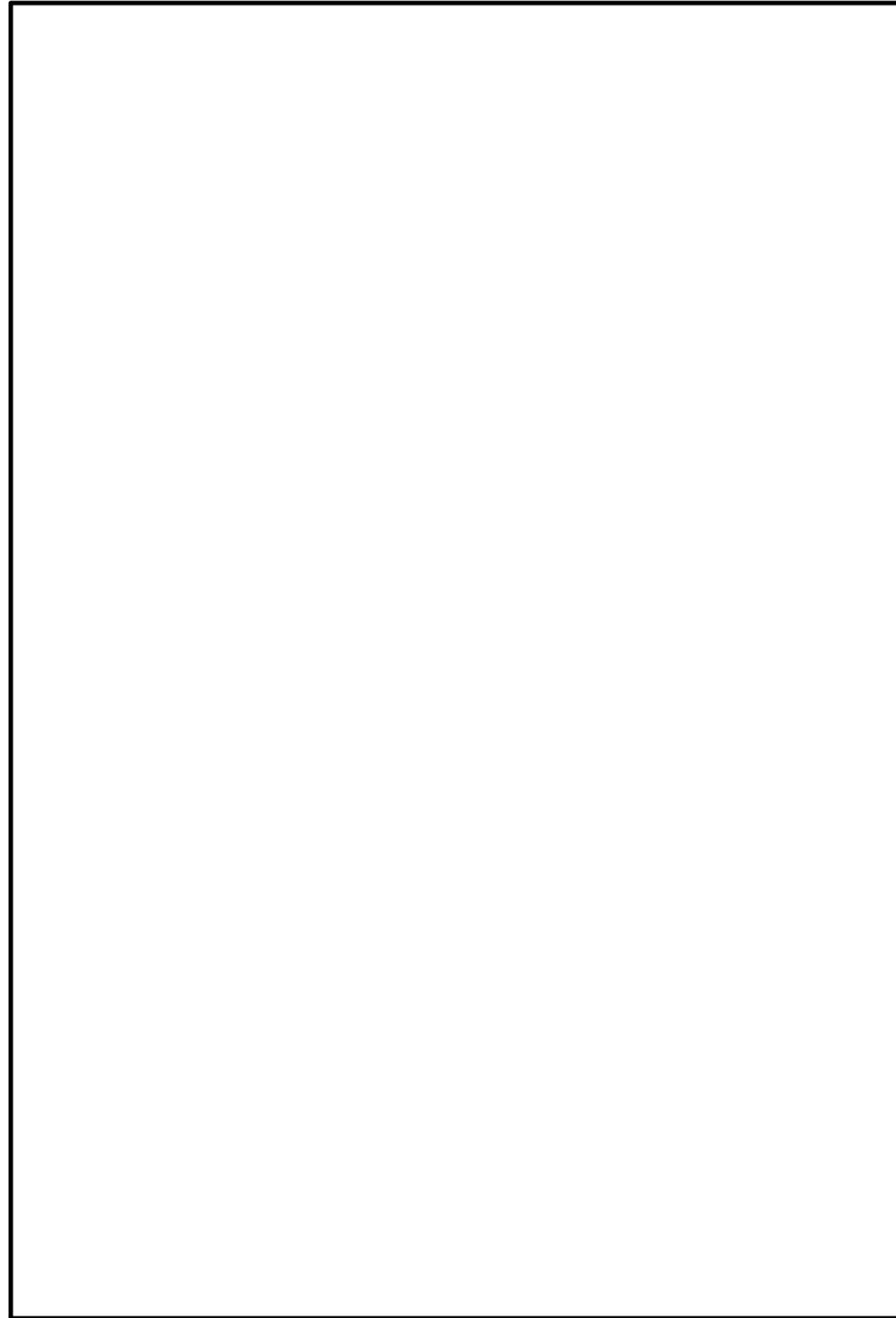
島根原子力発電所 2号炉

備考

中央交差点が通行不能時のアクセスルート図

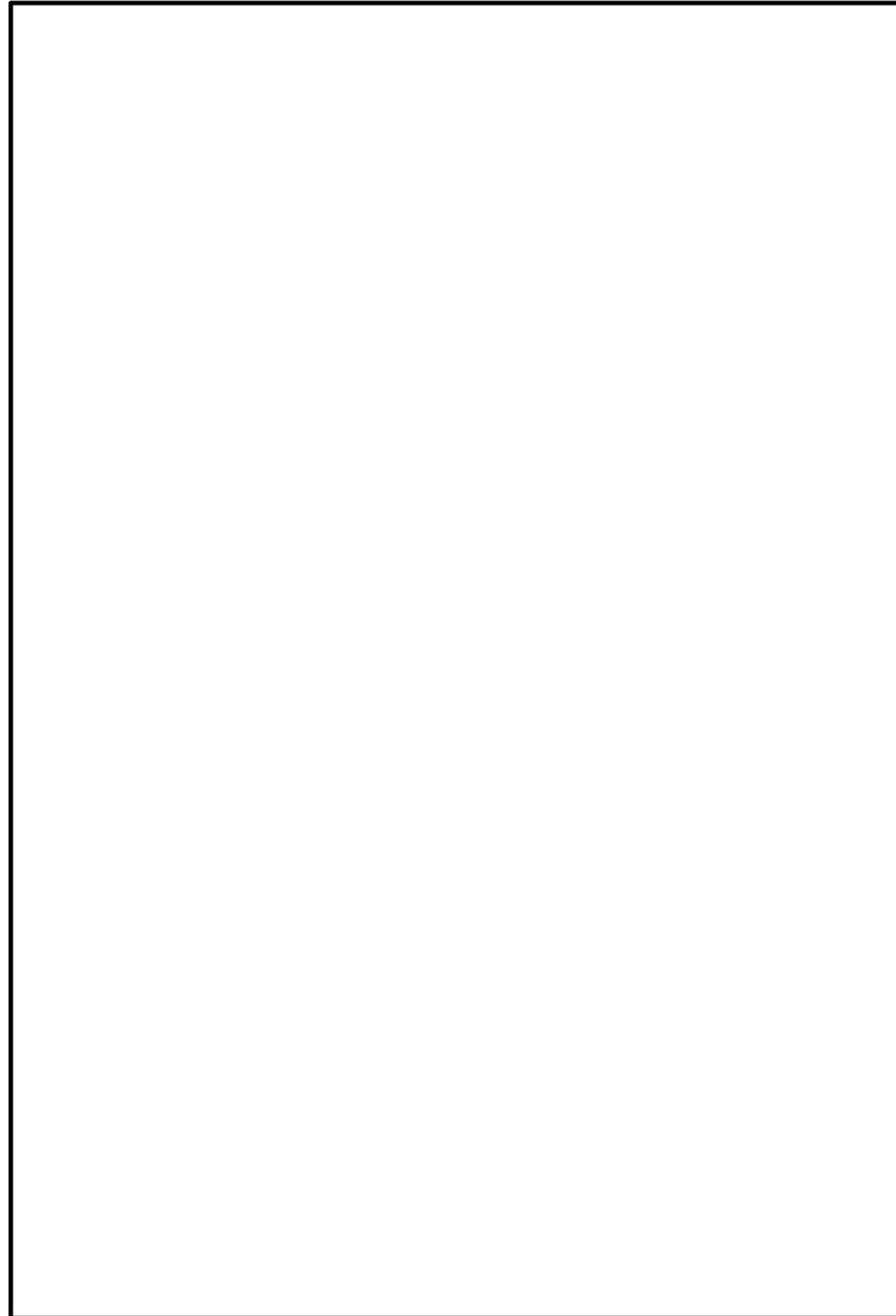


柏崎刈羽原子力発電所6/7号炉重大事故等発生時
アクセスルート [屋内] 現場確認結果



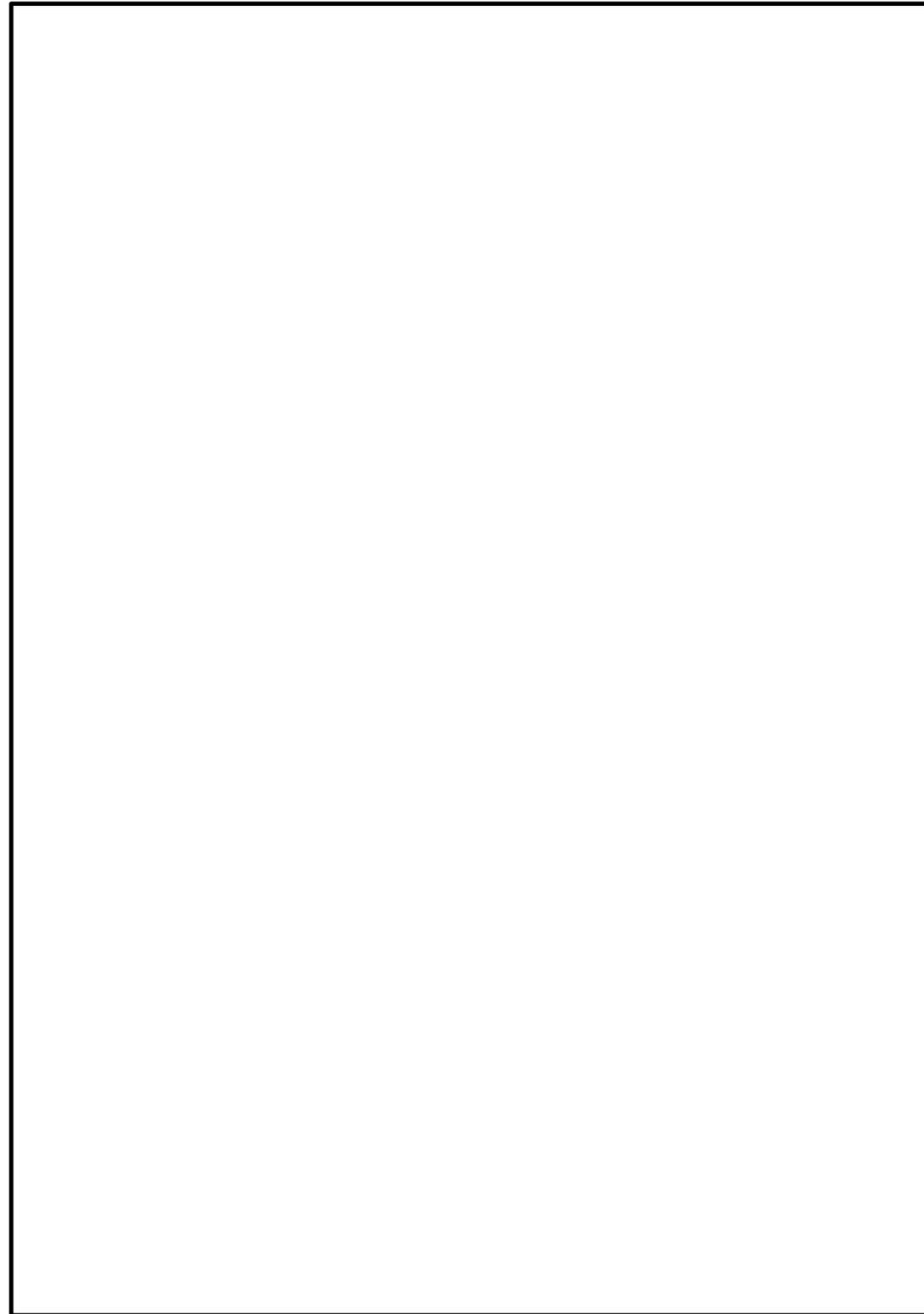
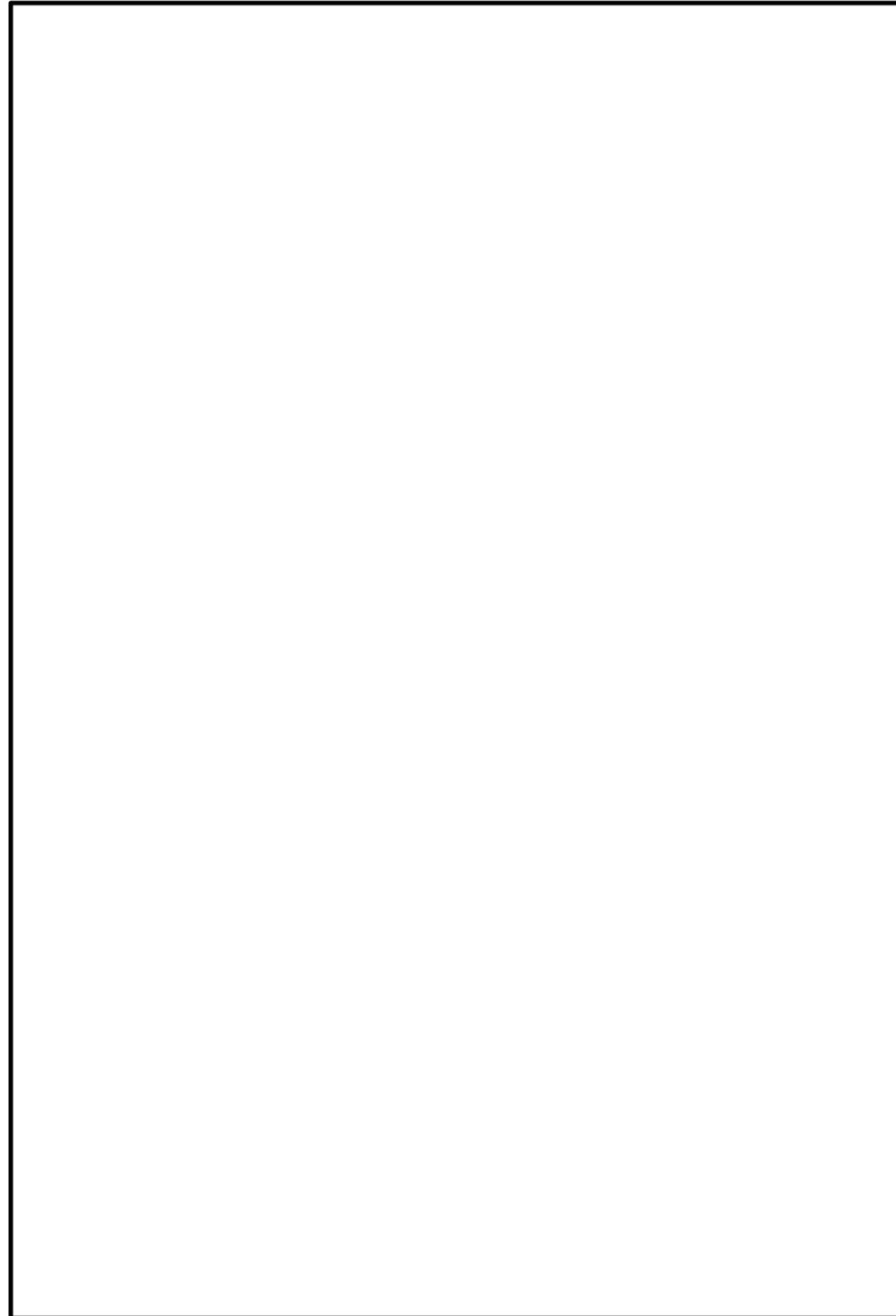
第 57-6-2 図 重大事故等時 電源設備屋内アクセスルート図 (1/10)

柏崎刈羽原子力発電所6/7号炉重大事故等発生時
アクセスルート [屋内] 現場確認結果



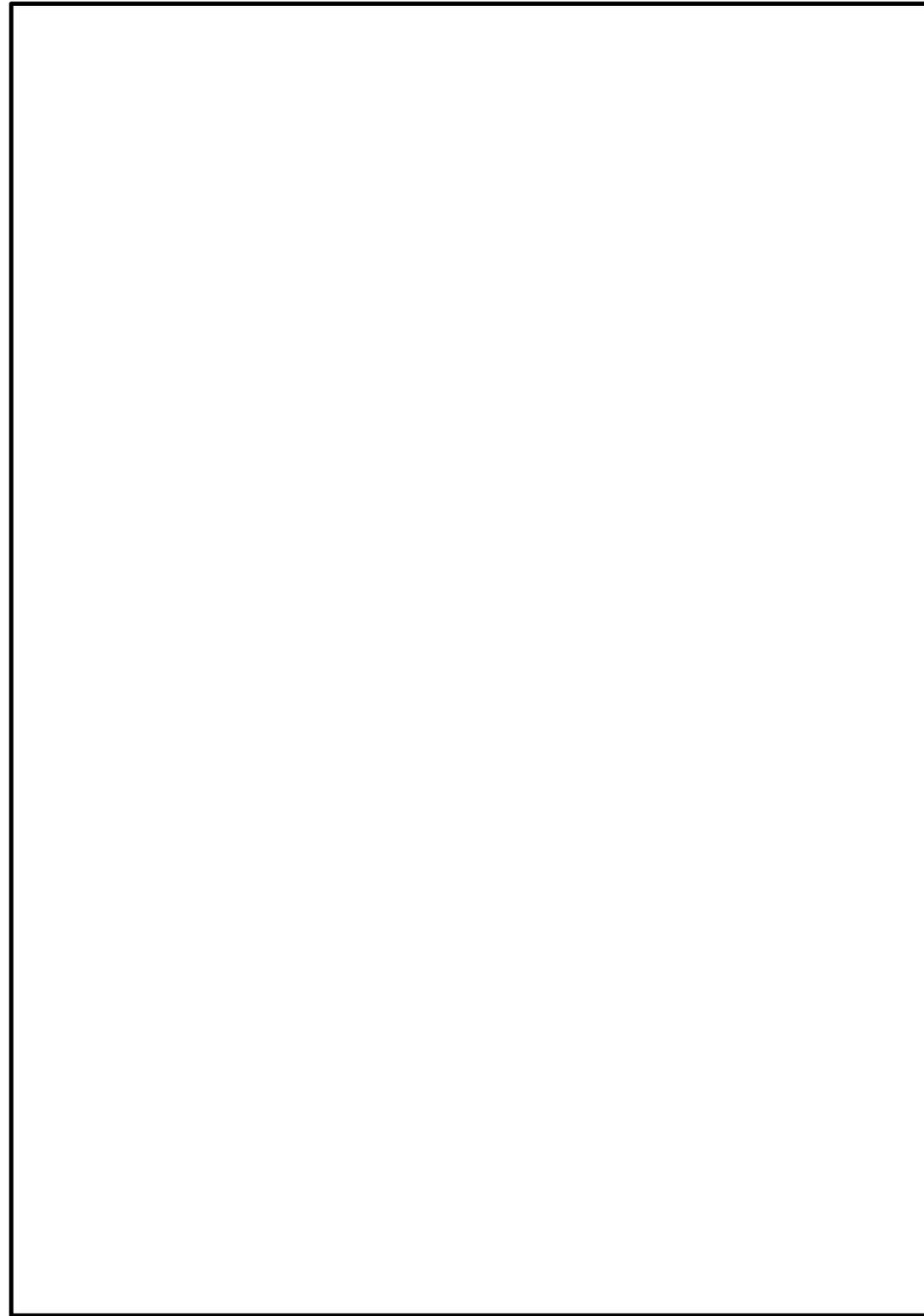
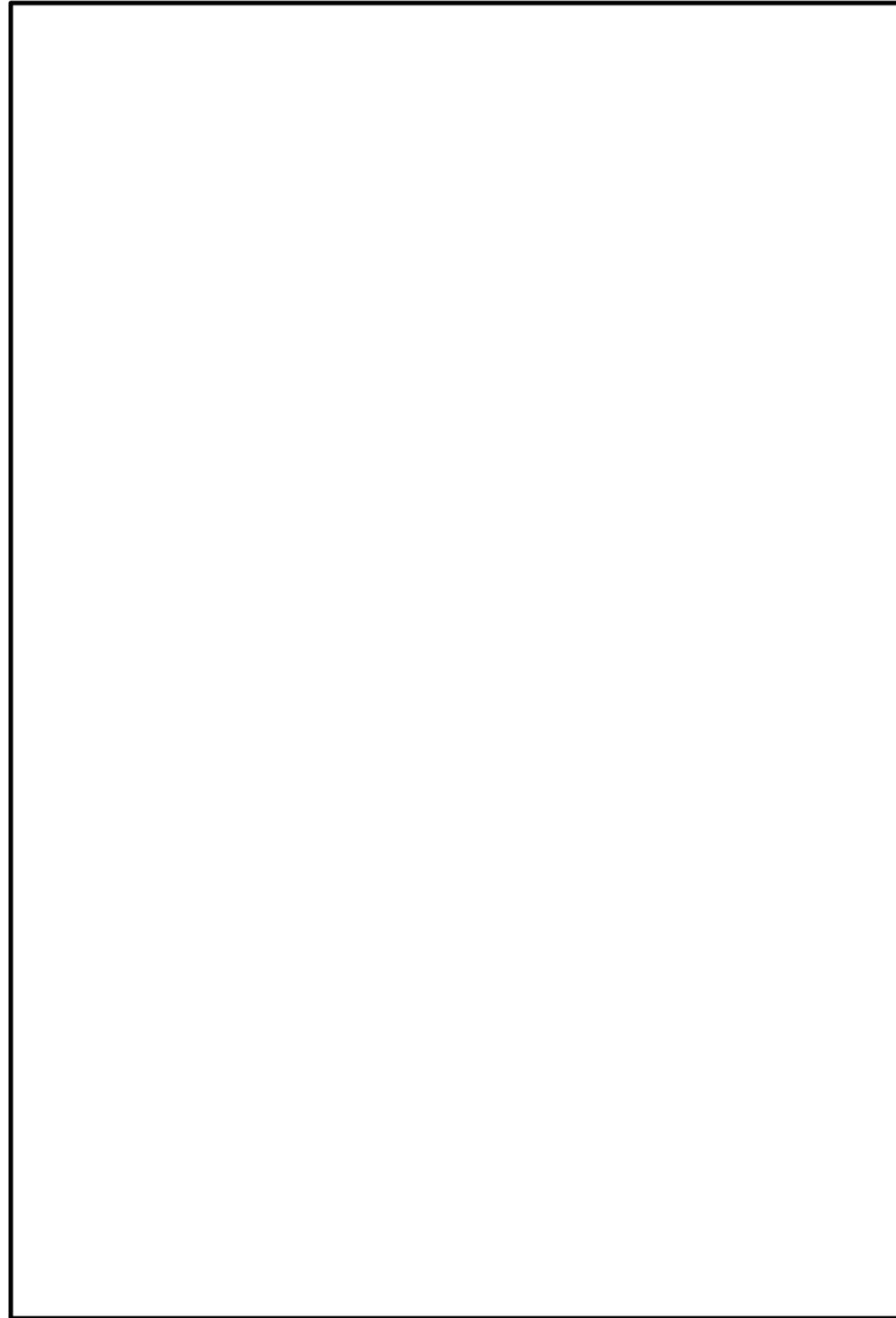
第 57-6-3 図 重大事故等時 電源設備屋内アクセスルート図 (2/10)

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7 号炉重大事故等発生時
アクセスルート [屋内] 現場確認結果



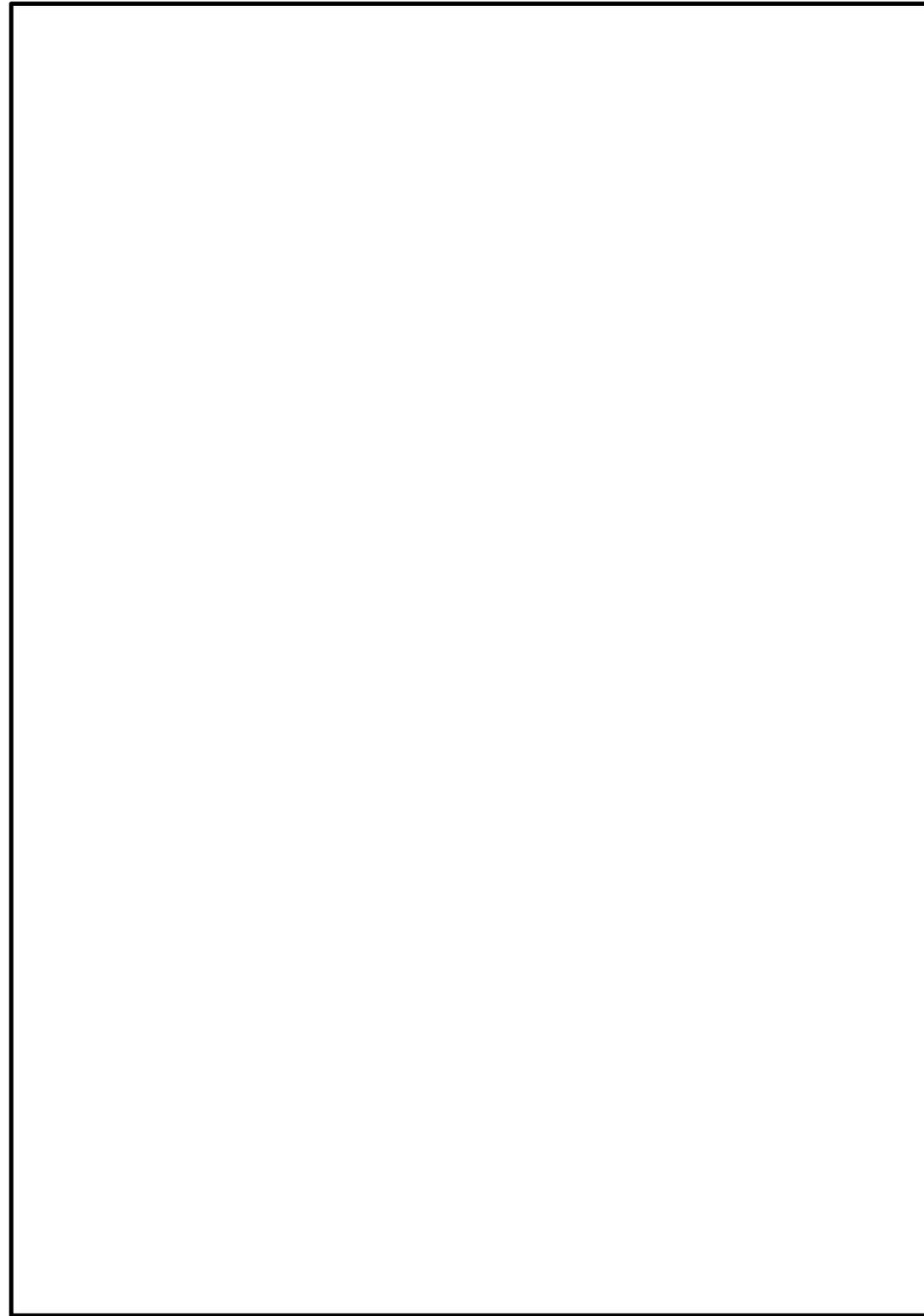
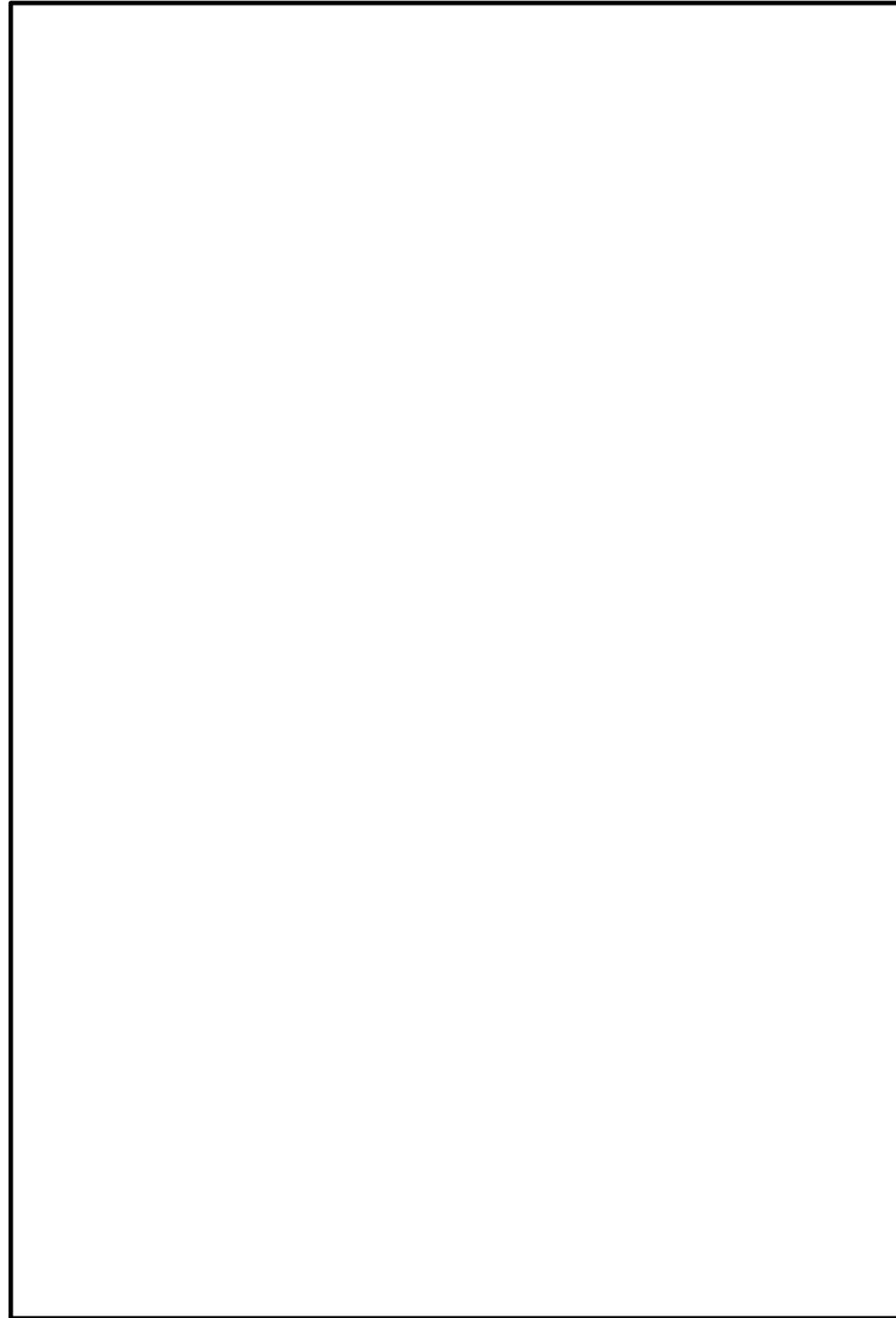
第 57-6-4 図 重大事故等時 電源設備屋内アクセスルート図 (3 / 10)

柏崎刈羽原子力発電所6/7号炉重大事故等発生時
アクセスルート [屋内] 現場確認結果



第 57-6-5 図 重大事故等時 電源設備屋内アクセスルート図 (4/10)

柏崎刈羽原子力発電所6/7号炉重大事故等発生時
アクセスルート [屋内] 現場確認結果



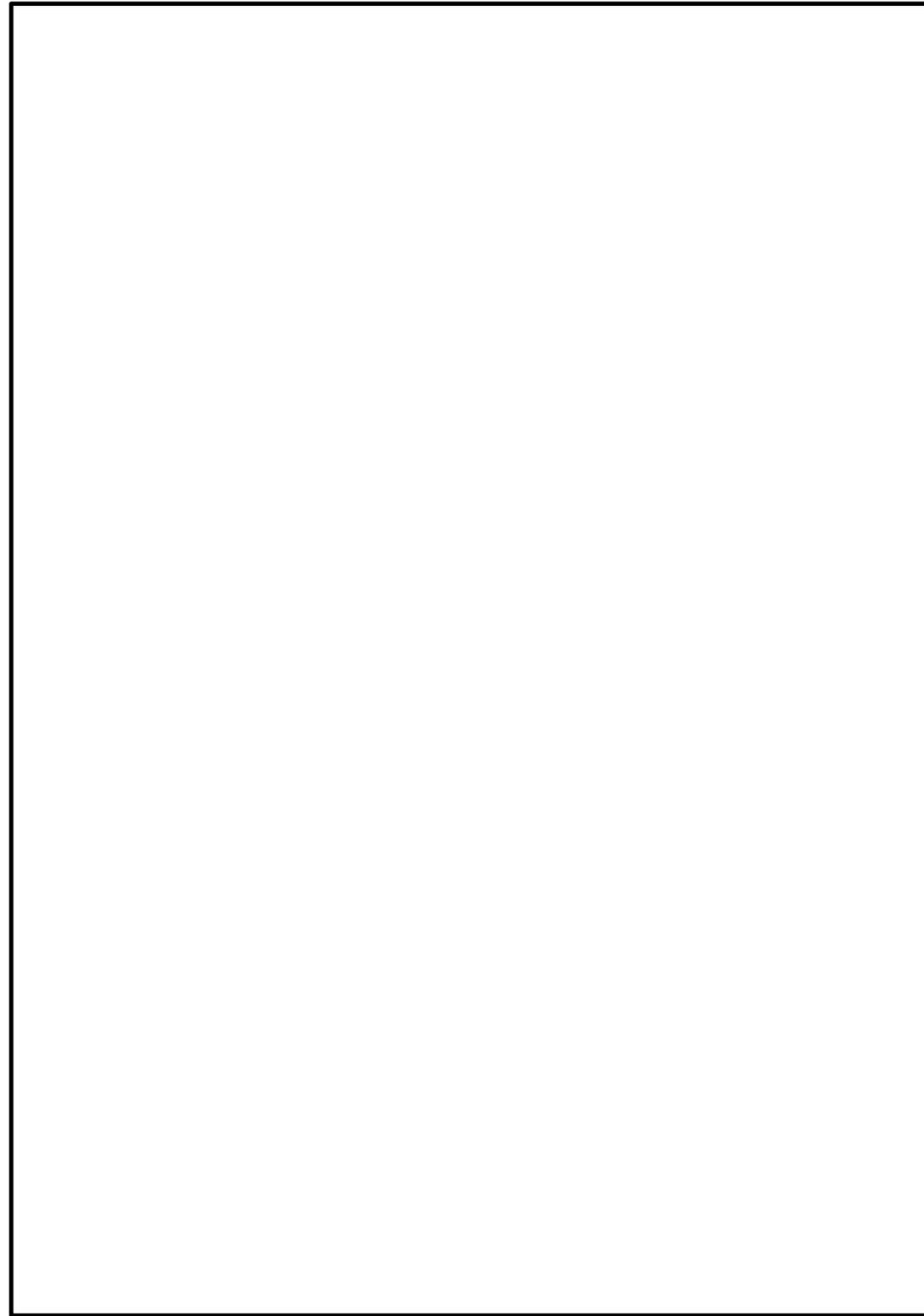
第 57-6-6 図 重大事故等時 電源設備屋内アクセスルート図 (5/10)



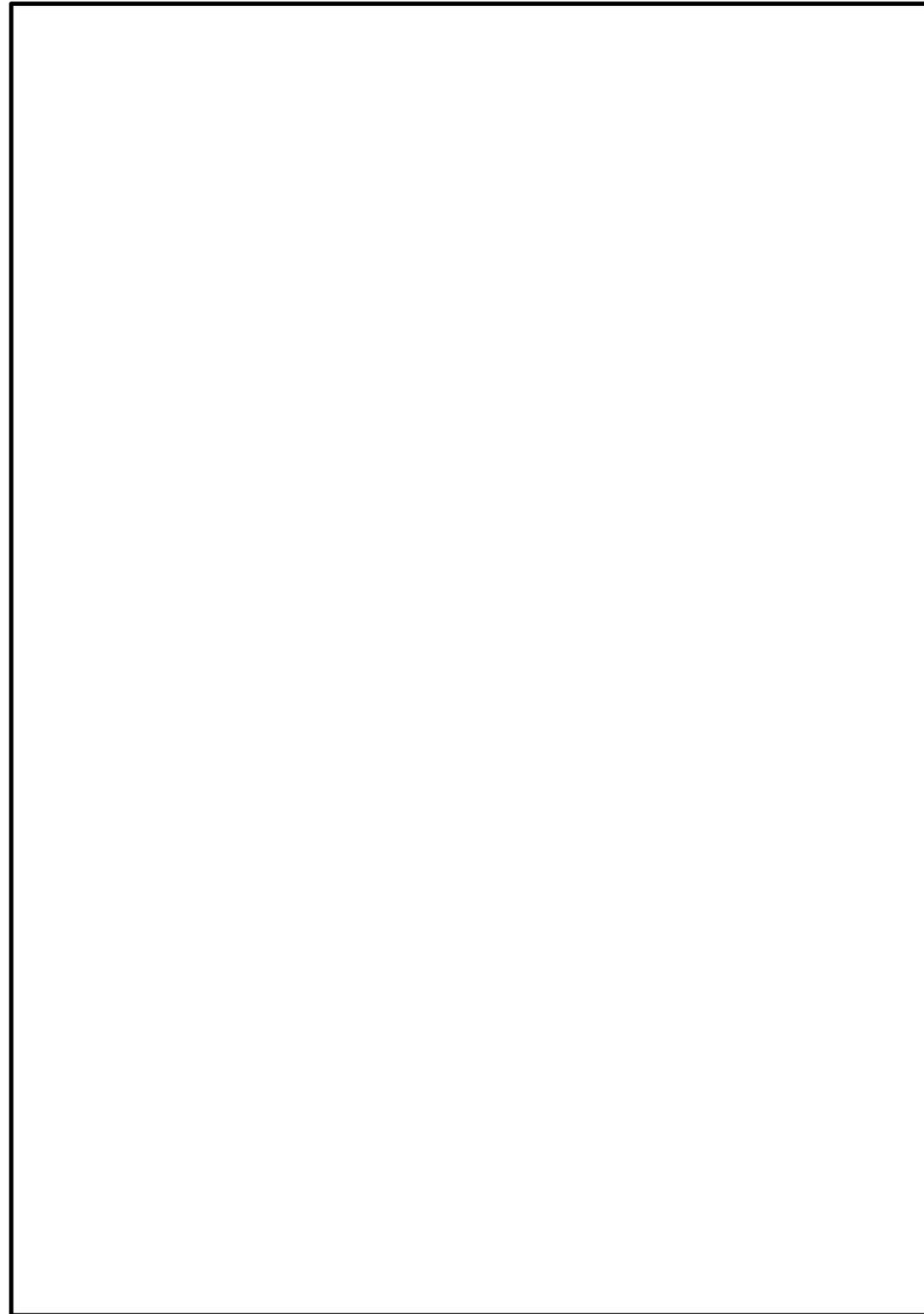
第 57-6-7 図 重大事故等時 電源設備屋内アクセスルート図 (6 / 10)



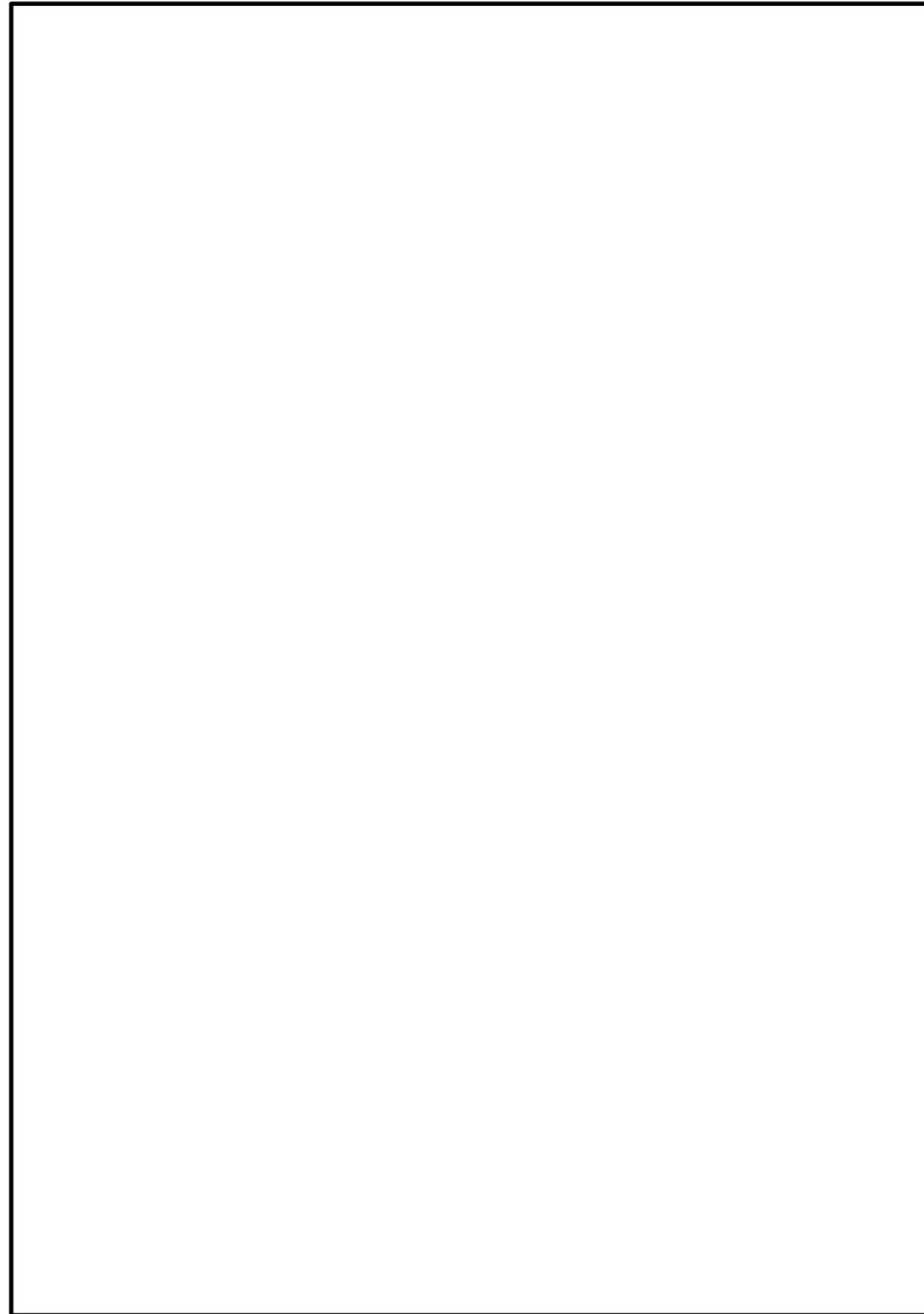
第 57-6-8 図 重大事故等時 電源設備屋内アクセスルート図 (7/10)



第 57-6-9 図 重大事故等時 電源設備屋内アクセスルート図 (8 / 10)

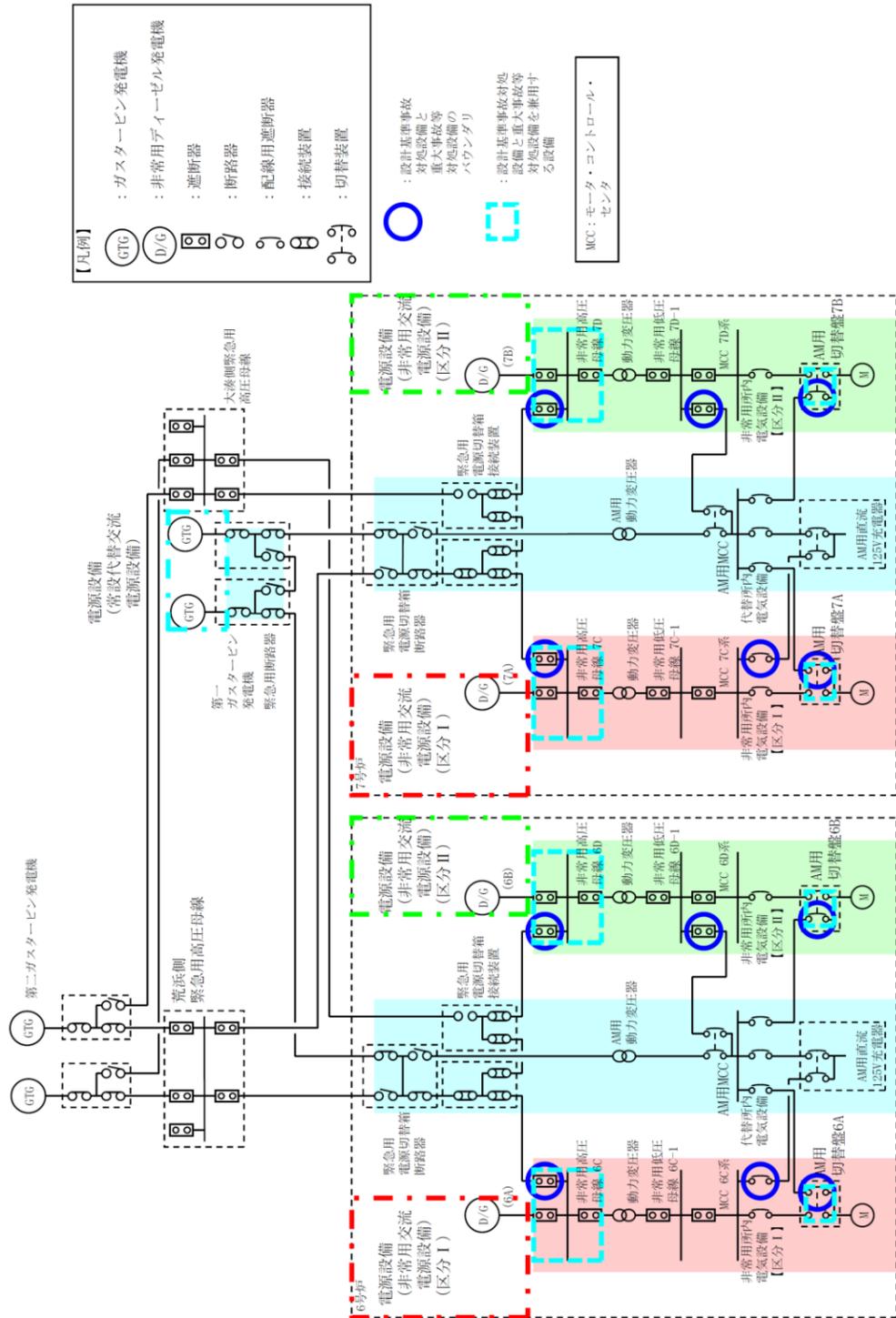


第 57-6-10 図 重大事故等時 電源設備屋内アクセスルート図 (9 / 10)



第 57-6-11 図 重大事故等時 電源設備屋内アクセスルート図 (10 / 10)

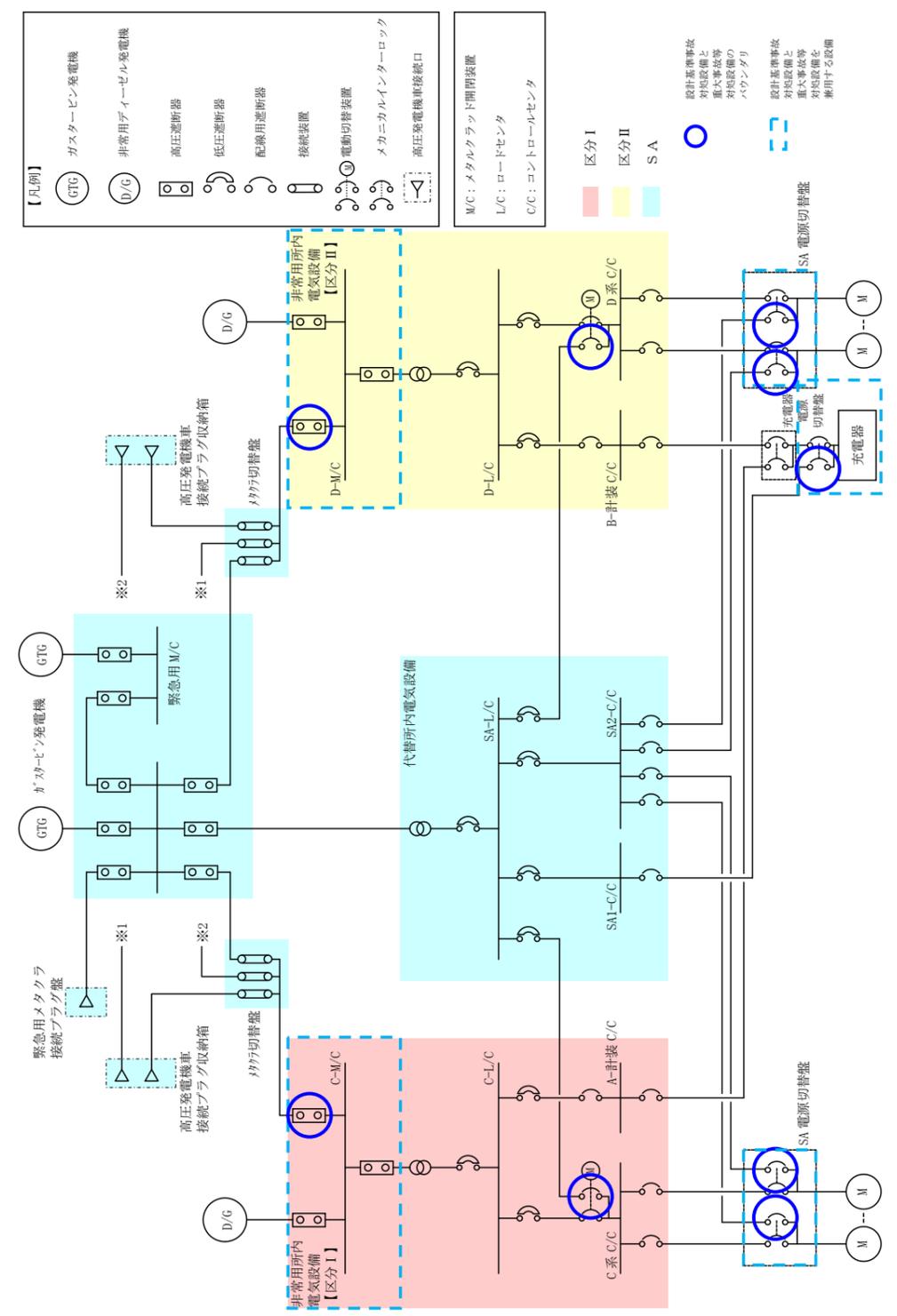
柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p data-bbox="329 659 1092 737">57-7 設計基準事故対処設備と重大事故等対処設備のバウンダリ系統図</p>	<p data-bbox="1478 659 2240 737">57-7 設計基準事故対処設備と重大事故等対処設備のバウンダリ系統図</p>	



【凡例】
 ○GTG : ガスタービン発電機
 ○D/G : 非常用ディーゼル発電機
 □ : 遮断器
 □ : 断路器
 □ : 配線用遮断器
 □ : 接続装置
 □ : 切替装置

○ : 設計基準事故
対処設備と
重大事故等
対処設備の
バウンダリ
□ : 設計基準事故対処
設備と重大事故等
対処設備を兼用す
る設備
MCC : モーター・コントロール
センター

図 57-7-1 設計基準事故対処設備と重大事故等対処設備の
バウンダリ系統図 (交流電源)

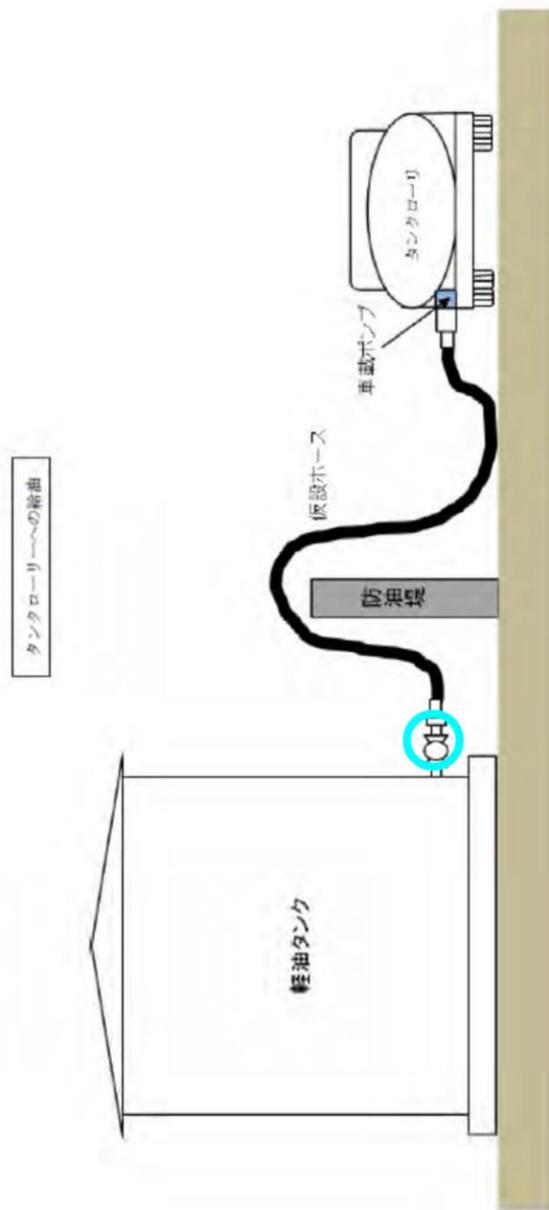


【凡例】
 ○GTG : ガスタービン発電機
 ○D/G : 非常用ディーゼル発電機
 □ : 遮断器
 □ : 断路器
 □ : 配線用遮断器
 □ : 接続装置
 □ : 電動切替装置
 □ : メカニカルインターロック
 □ : 高圧発電機車接続口
 M/C : メタルクラッド閉閉装置
 L/C : ロードセンタ
 C/C : コントロールセンタ

区分 I
 区分 II
 SA
 ○ : 設計基準事故
対処設備と
重大事故等
対処設備の
バウンダリ
□ : 設計基準事故
対処設備と
重大事故等
対処設備を
兼用する設備

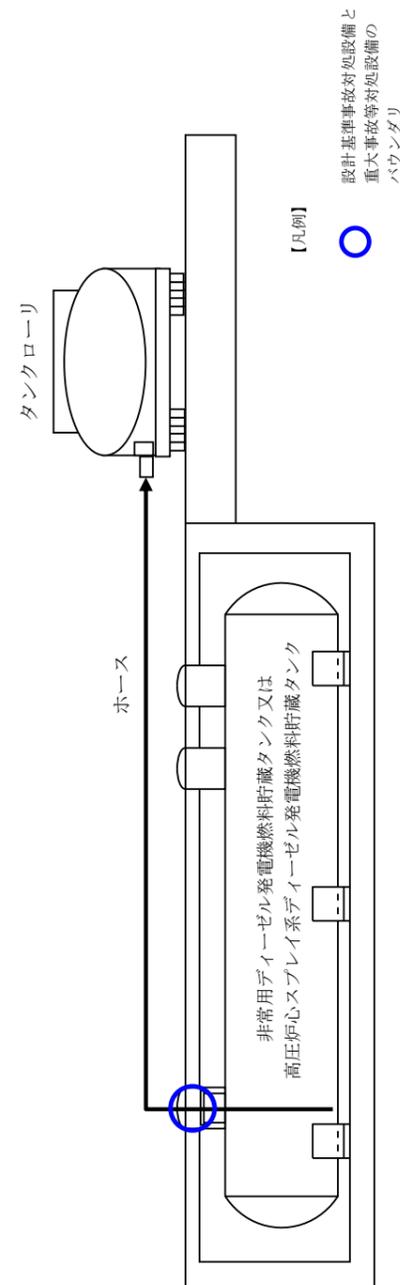
第 57-7-1 図 設計基準事故対処設備と重大事故等対処設備のバウンダリ系統図 (交流電源)

・設備の相違



○ : 設計基準事故対処設備と
重大事故等対処設備のバウンダリ

図 57-7-2 設計基準事故対処設備と重大事故等対処設備の
バウンダリ系統図 (軽油タンク)



【凡例】

○ 設計基準事故対処設備と
重大事故等対処設備の
バウンダリ

第 57-7-2 図 設計基準事故対処設備と重大事故等対処設備のバウンダリ系統図
(非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク又は高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料貯蔵
タンク)

・設備の相違

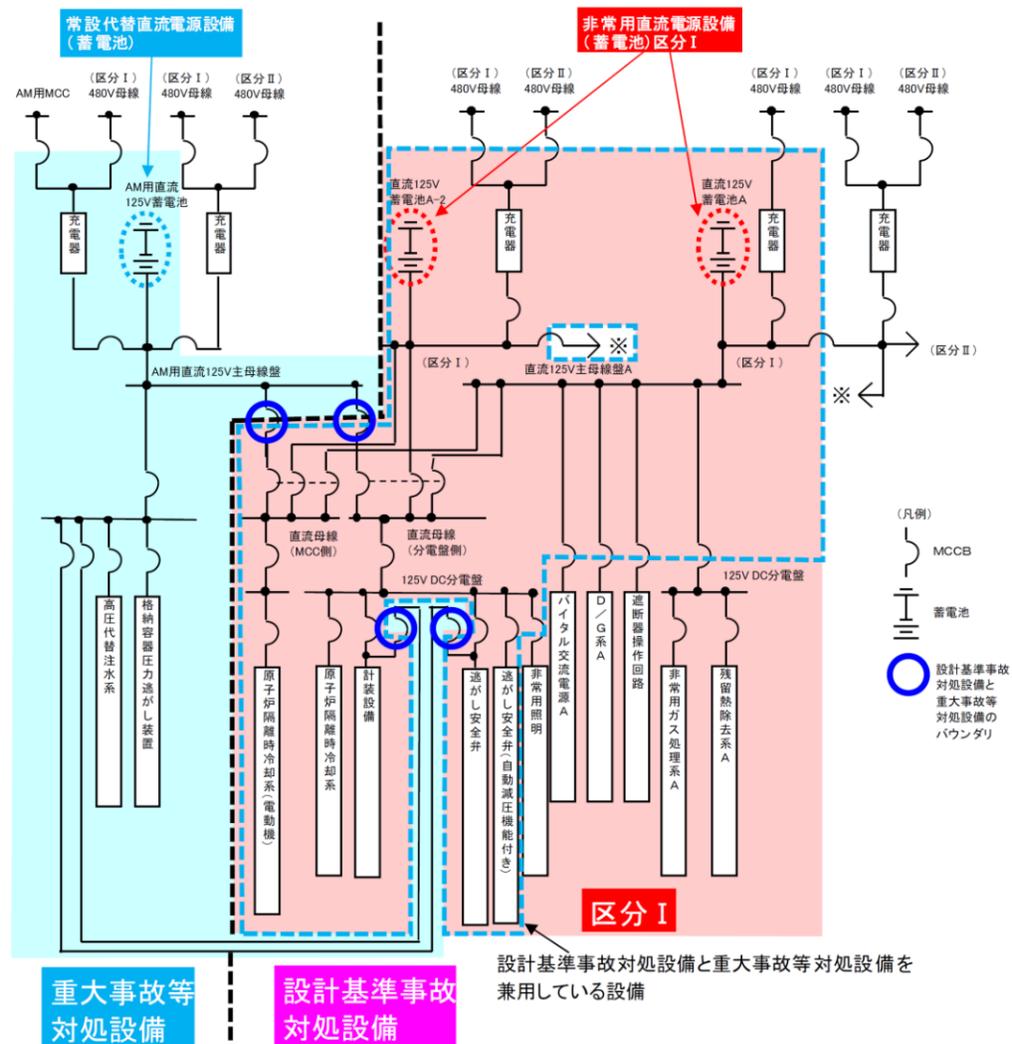
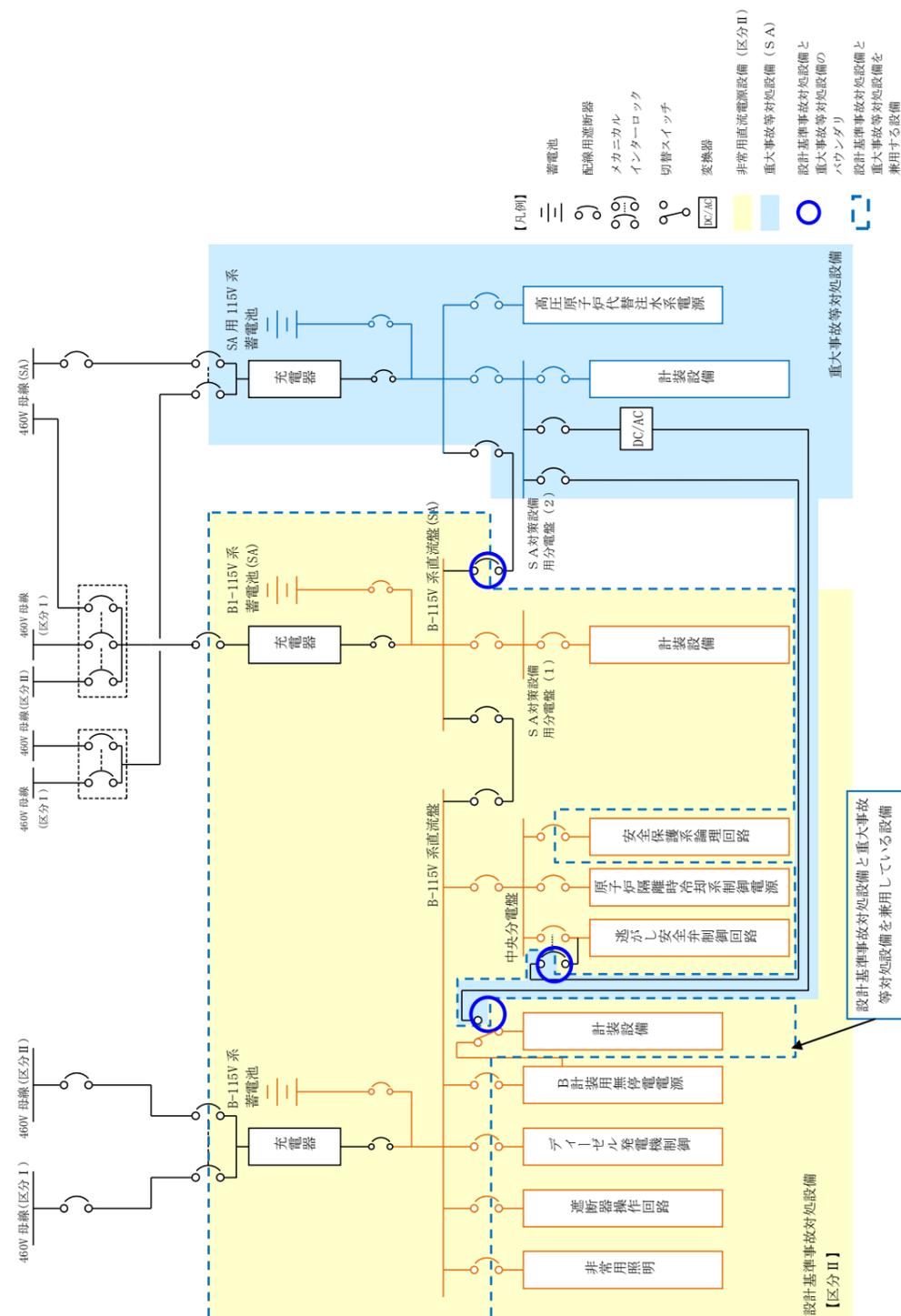
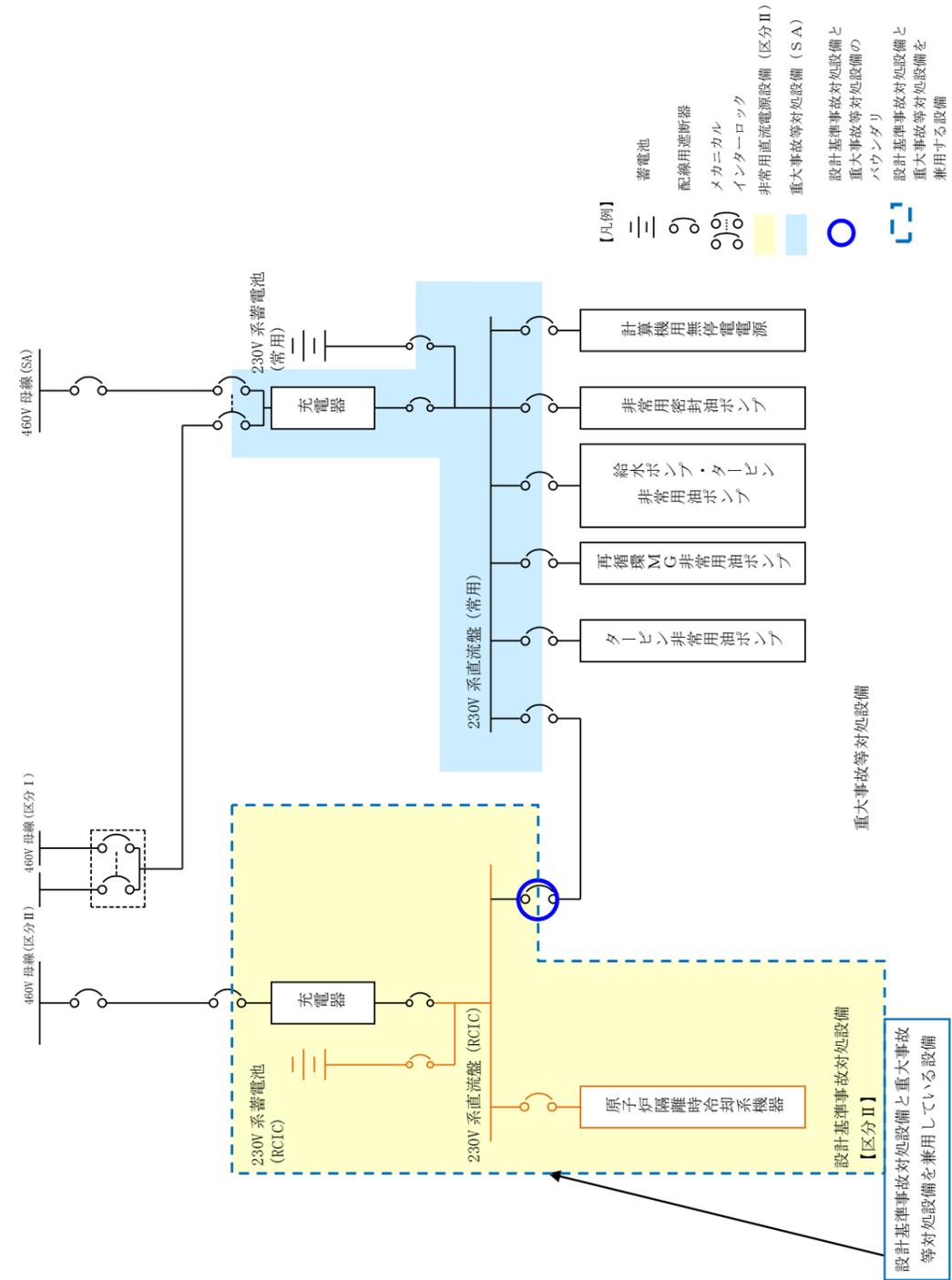


図 57-7-3 設計基準事故対処設備と重大事故等対処設備の
バウンダリ系統図 (6号炉直流電源)



第 57-7-3 図 設計基準事故対処設備と重大事故等対処設備のバウンダリ系統図
(115V系直流電源)

・設備の相違



第 57-7-4 図 設計基準事故対処設備と重大事故等対処設備のバウンダリ系統図
(230V 系直流電源)

・設備の相違

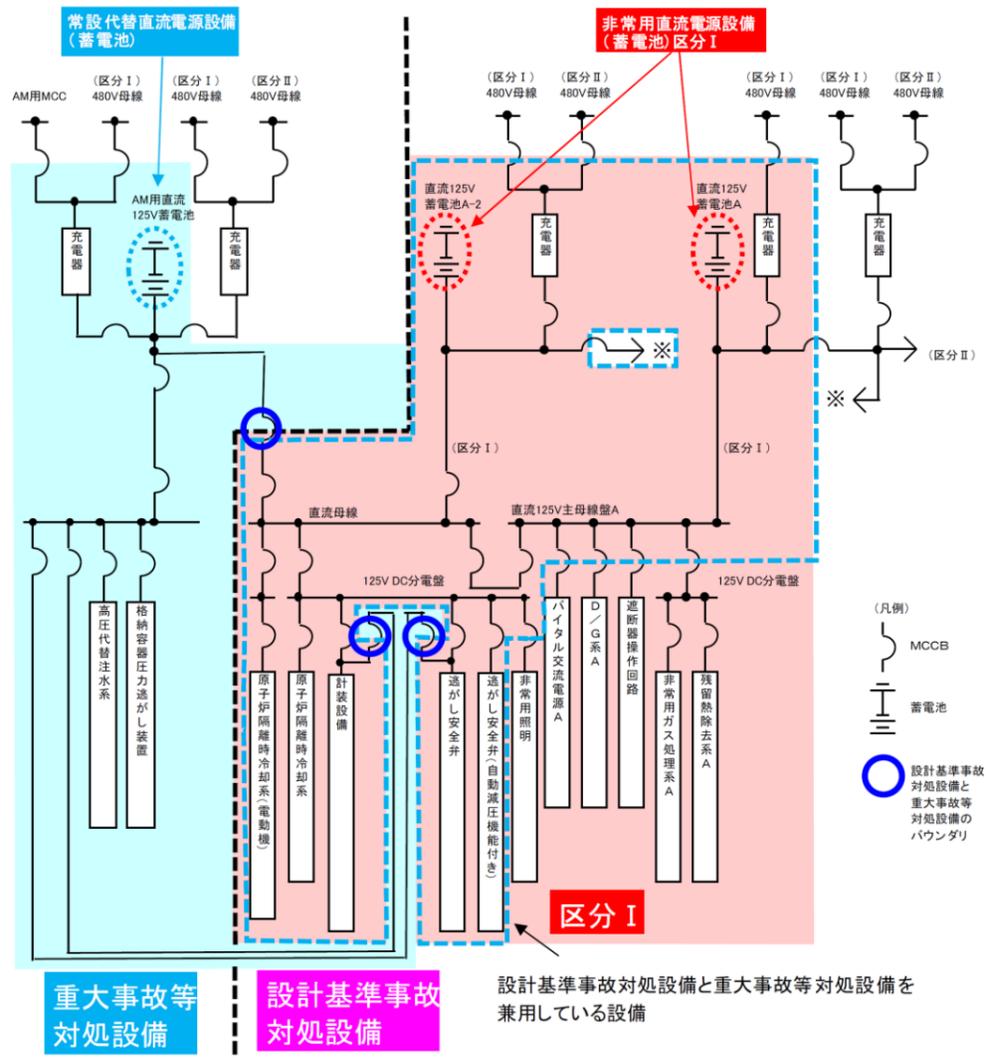


図 57-7-4 設計基準事故対処設備と重大事故等対処設備の
バウンダリ系統図 (7号炉直流電源)

・設備の相違

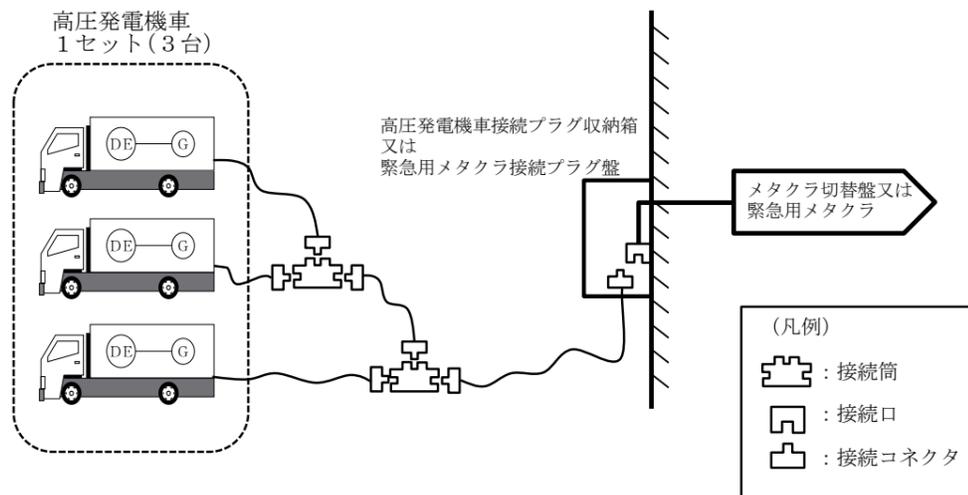
柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p data-bbox="537 659 884 737">57-8 発電機車接続に関する説明書</p>	<p data-bbox="1656 659 2056 737">57-8 高圧発電機車接続に関する説明書</p>	

・記載方針の相違

1. 高圧発電機車の運用について

高圧発電機車については、可搬型代替交流電源設備として、ガスタービン発電機が使用不能な場合のバックアップ電源として使用する場合に、3台を1セットとして並列運転する運用である。

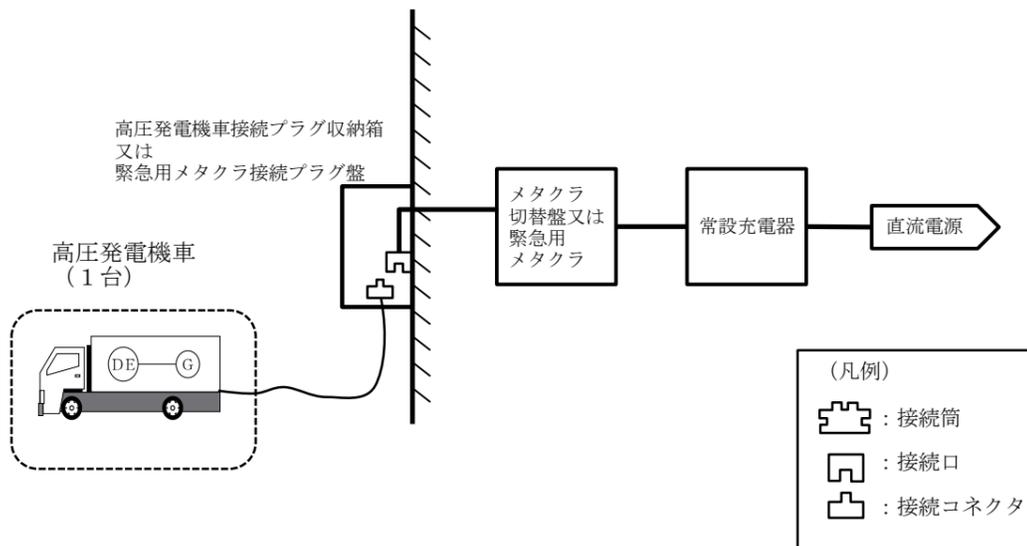
以下に、可搬型代替交流電源設備としての3台並列運転の概略図を示す。



第 57-8-1 図 可搬型代替交流電源設備の3台並列運転概略図

また、可搬型直流電源設備として高圧発電機車を使用する場合は、高圧発電機車1台を使用して、常設充電器（B1-115V系充電器（SA）、SA用115V系充電器及び230V系充電器（常用））に対して電源供給を行う運用である。

以下に、可搬型直流電源設備としての1台運転の概要図を示す。



第 57-8-2 図 可搬型直流電源設備の運転概略図

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>1. 電源車接続方法について</p> <p>電源車は以下の4ルートにて接続可能な設計とする。</p> <p>① <u>電源車～緊急用電源切替箱接続装置～非常用高圧母線C系及びD系</u> (非常用所内電気設備へ接続)</p> <p style="text-align: right;">・・・6号炉 図57-8-1～図57-8-3 ・・・7号炉 図57-8-13～図57-8-15</p> <p>② <u>電源車～動力変圧器C系～非常用高圧母線C系及びD系</u> (非常用所内電気設備へ接続)</p> <p style="text-align: right;">・・・6号炉 図57-8-4～図57-8-6 ・・・7号炉 図57-8-16～図57-8-18</p> <p>③ <u>電源車～緊急用電源切替箱接続装置～AM用MCC電路</u> (代替所内電気設備へ接続)</p> <p style="text-align: right;">・・・6号炉 図57-8-7～図57-8-9 ・・・7号炉 図57-8-19～図57-8-21</p> <p>④ <u>電源車～AM用動力変圧器～AM用MCC電路</u> (代替所内電気設備へ接続)</p> <p style="text-align: right;">・・・6号炉 図57-8-10～図57-8-12 ・・・7号炉 図57-8-22～図57-8-24</p>	<p>2. 高圧発電機車接続方法について</p> <p>高圧発電機車は以下の6ルートにて接続可能な設計とする。</p> <p>① <u>高圧発電機車～高圧発電機車接続プラグ収納箱(原子炉建物西側)</u> ～<u>非常用高圧母線C系又はD系</u>(非常用所内電気設備へ接続)</p> <p style="text-align: right;">・・・第57-8-3図～第57-8-4図</p> <p>② <u>高圧発電機車～高圧発電機車接続プラグ収納箱(原子炉建物南側)</u> ～<u>非常用高圧母線C系又はD系</u>(非常用所内電気設備へ接続)</p> <p style="text-align: right;">・・・第57-8-5図～第57-8-6図</p> <p>③ <u>高圧発電機車～緊急用メタクラ接続プラグ盤</u> ～<u>非常用高圧母線C系又はD系</u>(非常用所内電気設備へ接続)</p> <p style="text-align: right;">・・・第57-8-7図～第57-8-8図</p> <p>④ <u>高圧発電機車～高圧発電機車接続プラグ収納箱(原子炉建物西側)</u> ～<u>SA1コントロールセンタ及びSA2コントロールセンタ</u>(代替所内電気設備へ接続)</p> <p style="text-align: right;">・・・第57-8-9図～第57-8-10図</p> <p>⑤ <u>高圧発電機車～高圧発電機車接続プラグ収納箱(原子炉建物南側)</u> ～<u>SA1コントロールセンタ及びSA2コントロールセンタ</u>(代替所内電気設備へ接続)</p> <p style="text-align: right;">・・・第57-8-11図～第57-8-12図</p> <p>⑥ <u>高圧発電機車～緊急用メタクラ接続プラグ盤</u> ～<u>SA1コントロールセンタ及びSA2コントロールセンタ</u>(代替所内電気設備へ接続)</p> <p style="text-align: right;">・・・第57-8-13図～第57-8-14図</p>	<p>・運用の相違</p> <p>・設備の相違</p> <p>・設備の相違</p> <p>・設備の相違</p> <p>・設備の相違</p> <p>・設備の相違</p> <p>・設備の相違</p>

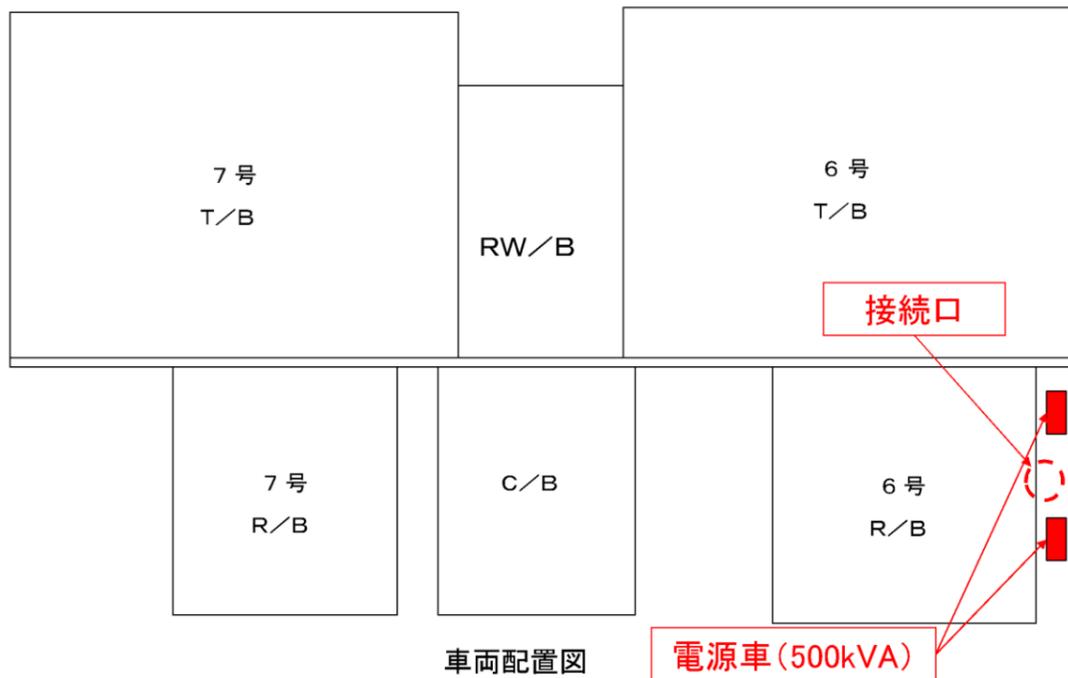


図 57-8-1 電源車配置場所 電源車～緊急用電源切替箱接続装置～非常用高压母線 C系及びD系 (非常用所内電気設備へ接続) 6号炉

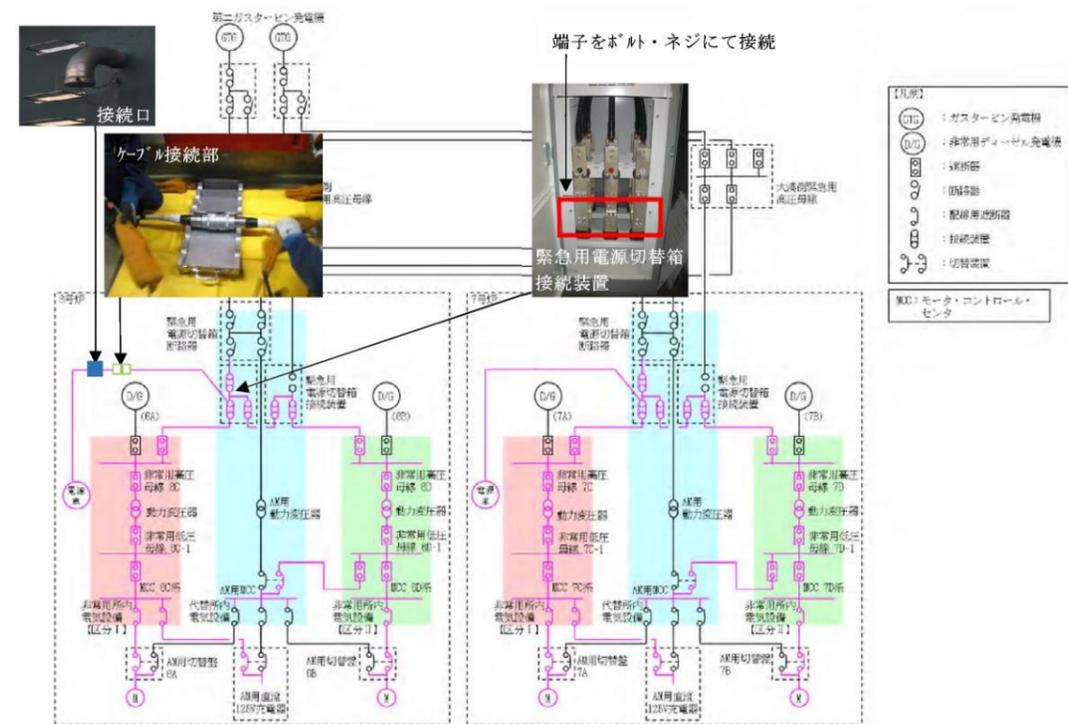
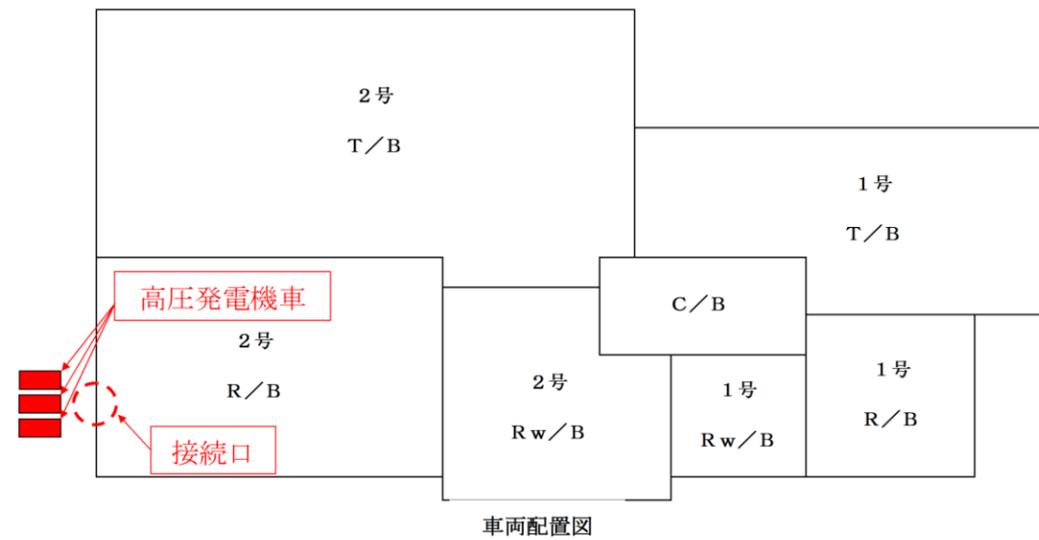
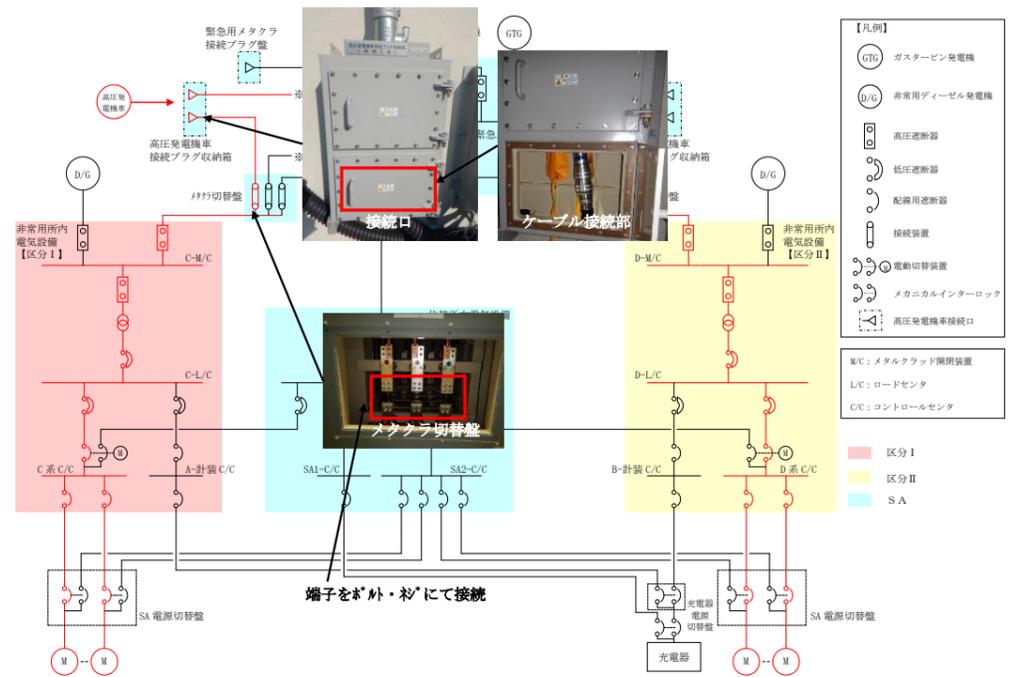


図 57-8-2 接続ルート(概略) 電源車～緊急用電源切替箱接続装置～非常用高压母線 C系及びD系 (非常用所内電気設備へ接続) 6号炉



第 57-8-3 図 高圧発電機車配置場所 高圧発電機車～高圧発電機車接続プラグ収納箱 (原子炉建物西側) ～非常用高压母線C系又はD系 (非常用所内電気設備へ接続)



第 57-8-4 図 接続ルート(概略) 高圧発電機車～高圧発電機車接続プラグ収納箱 (原子炉建物西側) ～非常用高压母線C系又はD系 (非常用所内電気設備へ接続)

・設備の相違

・設備の相違

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<div data-bbox="172 226 1187 1696" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="296 1732 1121 1816" data-label="Caption"> <p>図 57-8-3 接続ルート(詳細)_電源車～緊急用電源切替箱接続装置～ 非常用高圧母線C系及びD系 (非常用所内電気設備へ接続) _6 号炉</p> </div>		

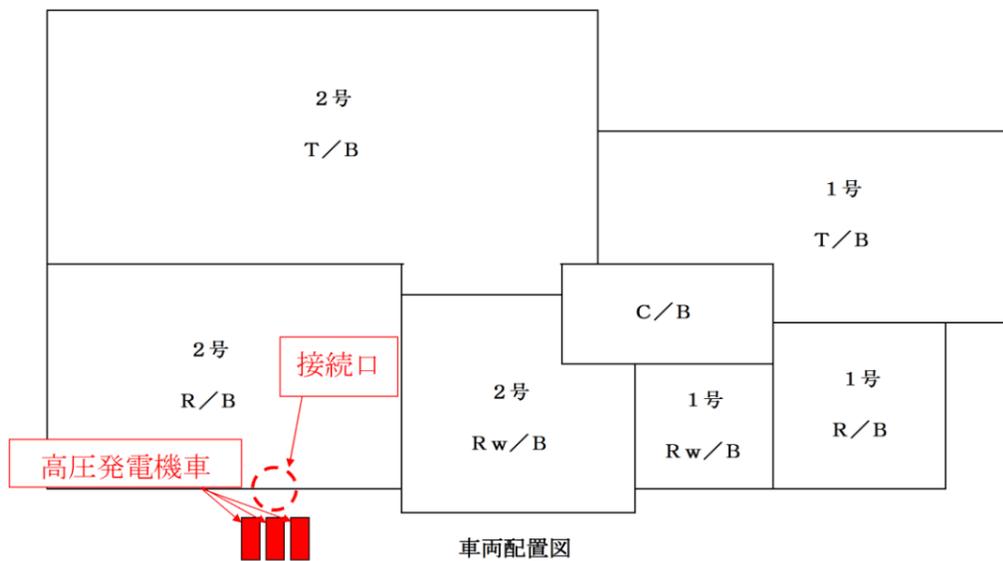
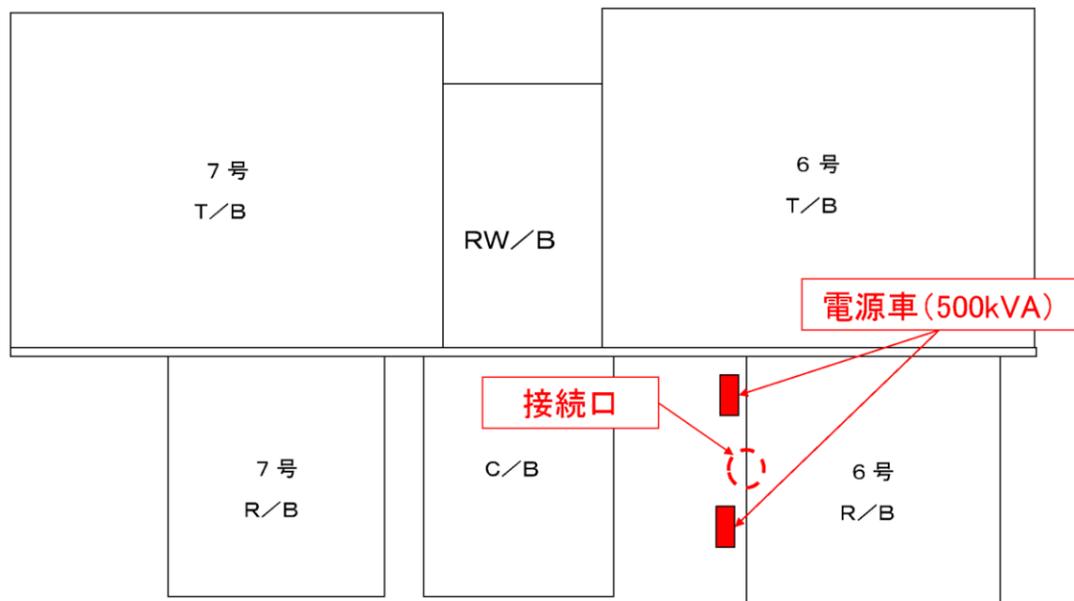


図 57-8-4 電源車配置場所 電源車～動力変圧器C系～非常用高圧母線C系及びD系 (非常用所内電気設備へ接続) 6号炉

第 57-8-5 図 高圧発電機車配置場所 高圧発電機車～高圧発電機車接続プラグ収納箱 (原子炉建物南側) ～非常用高圧母線C系又はD系 (非常用所内電気設備へ接続)

・設備の相違

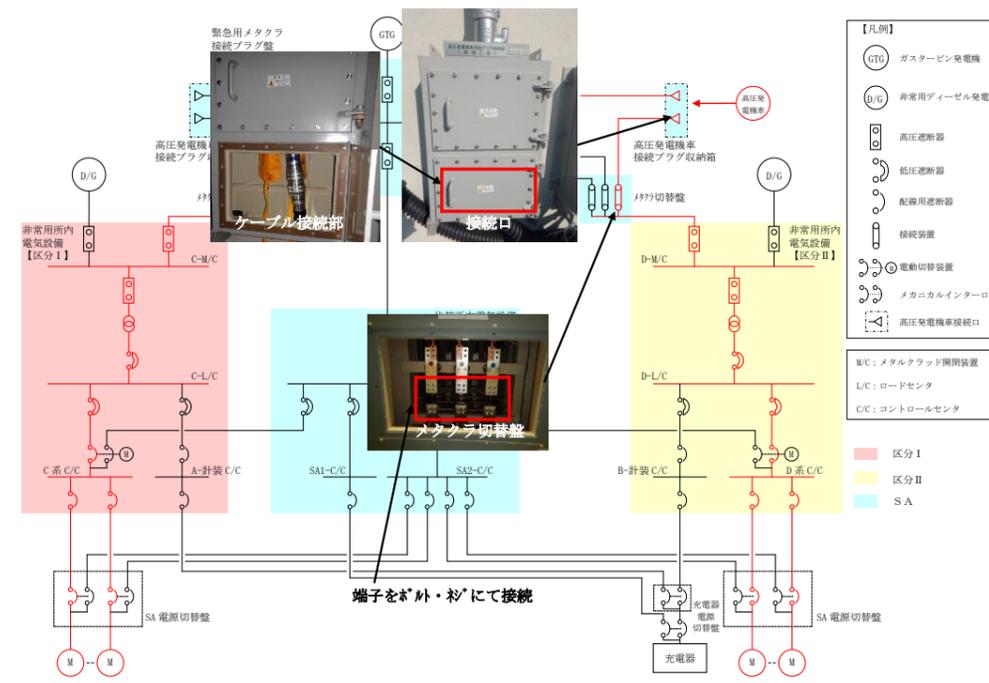
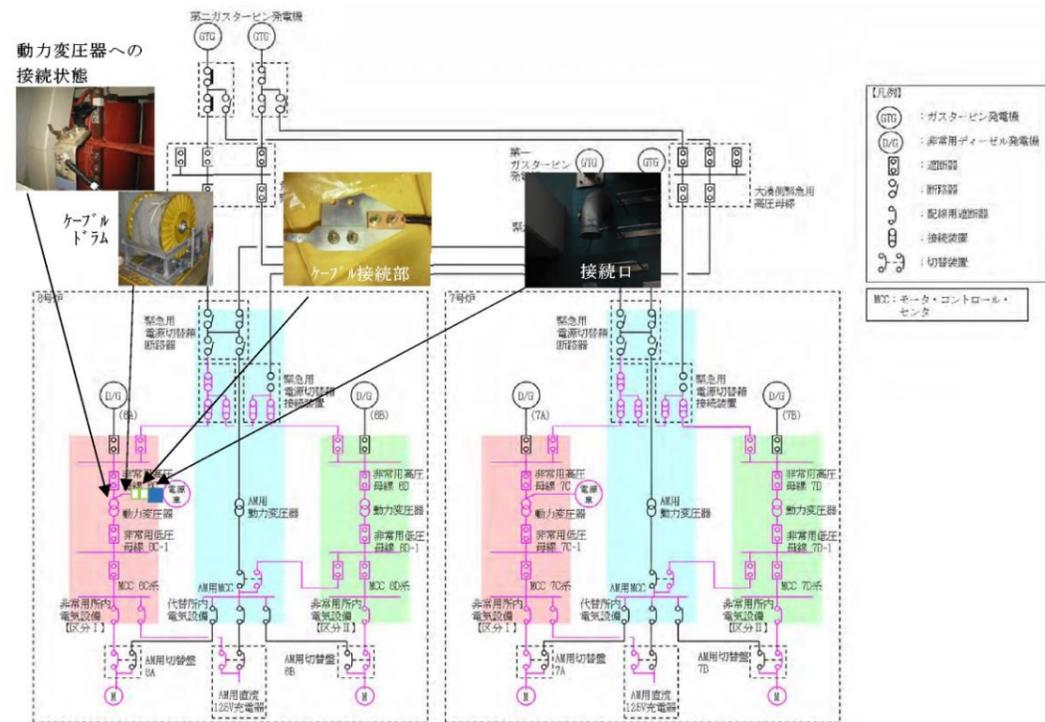


図 57-8-5 接続ルート (概略) 電源車～動力変圧器C系～非常用高圧母線C系及びD系 (非常用所内電気設備へ接続) 6号炉

第 57-8-6 図 接続ルート (概略) 高圧発電機車～高圧発電機車接続プラグ収納箱 (原子炉建物南側) ～非常用高圧母線C系又はD系 (非常用所内電気設備へ接続)

・設備の相違

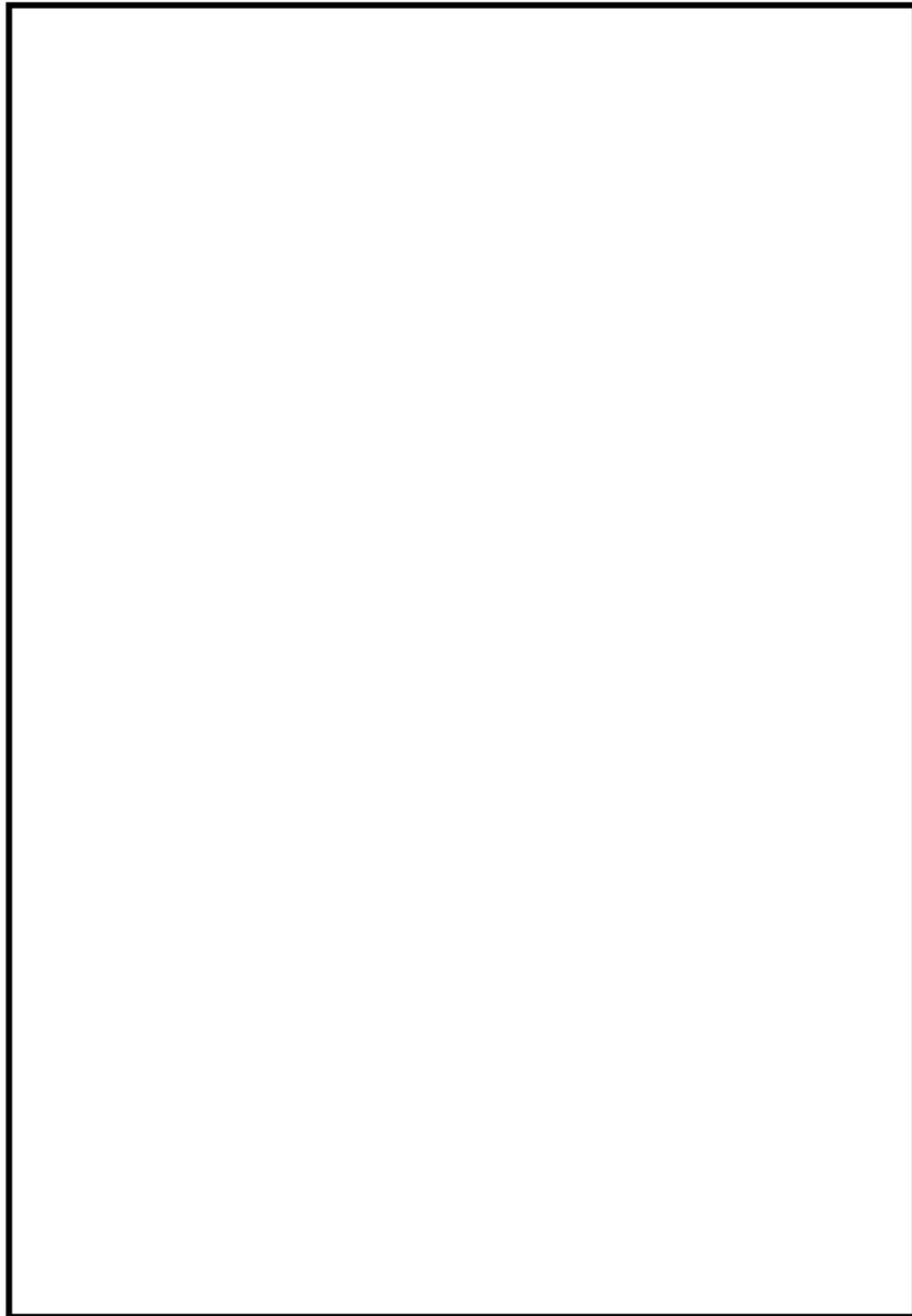
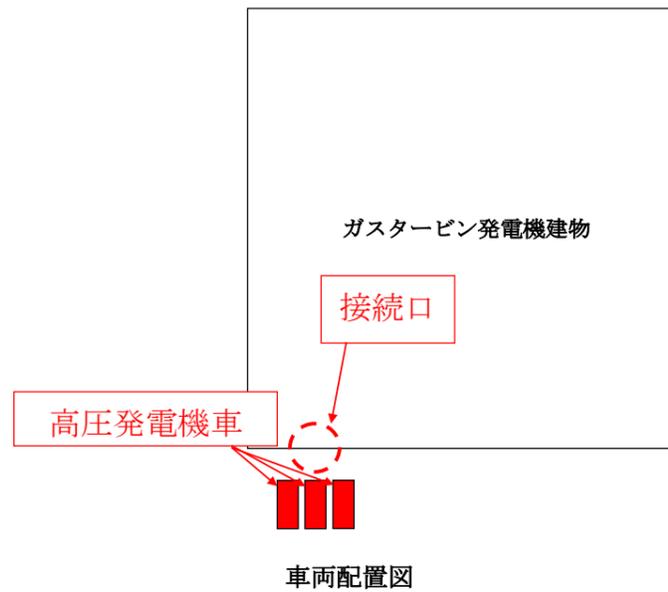
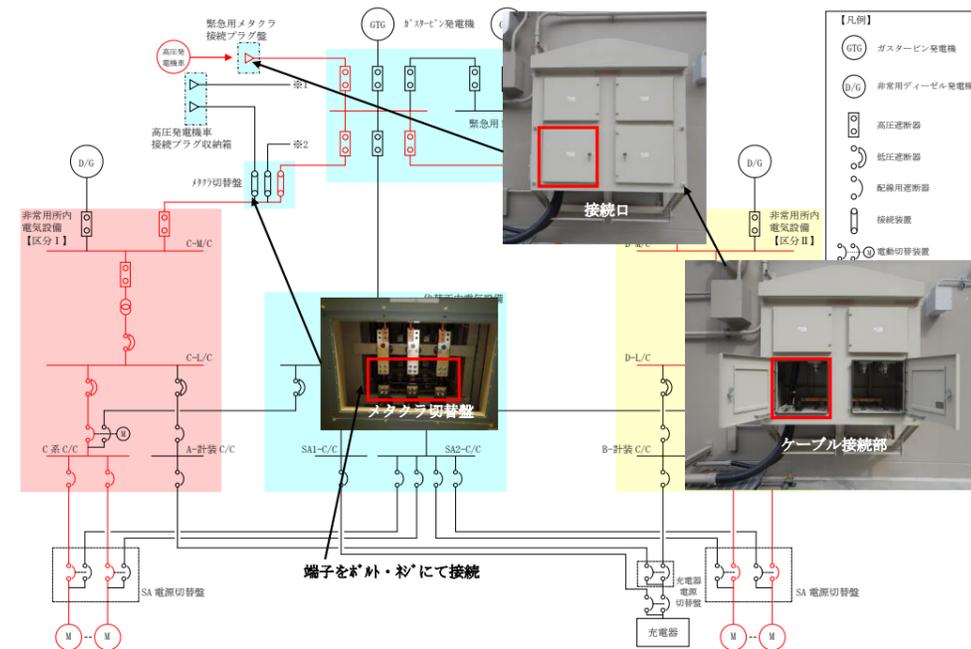


図 57-8-6 接続ルート(詳細) 電源車～動力変圧器C系～非常用高圧母線
C系及びD系 (非常用所内電気設備へ接続) _6 号炉



第 57-8-7 図 高圧発電機車配置場所 高圧発電機車～緊急用メタクラ接続プラグ盤～非常用高圧母線C系又はD系 (非常用所内電気設備へ接続)

・設備の相違



第 57-8-8 図 接続ルート(概略) 高圧発電機車～緊急用メタクラ接続プラグ盤～非常用高圧母線C系又はD系 (非常用所内電気設備へ接続)

・設備の相違

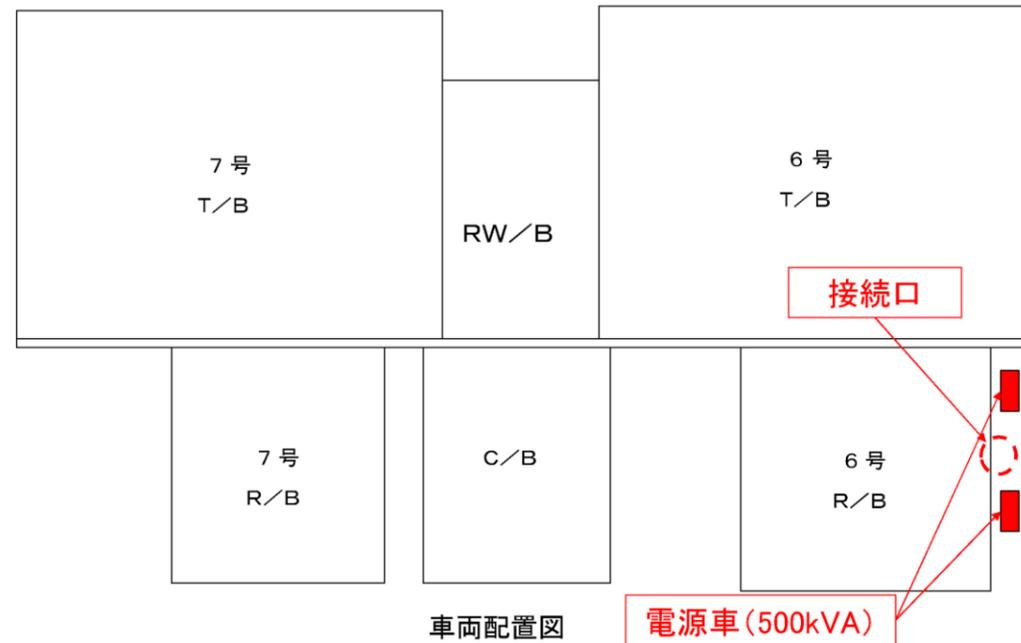


図 57-8-7 電源車配置場所 電源車～緊急用電源切替箱接続装置～AM 用 MCC 電路
(代替所内電気設備へ接続) 6号炉

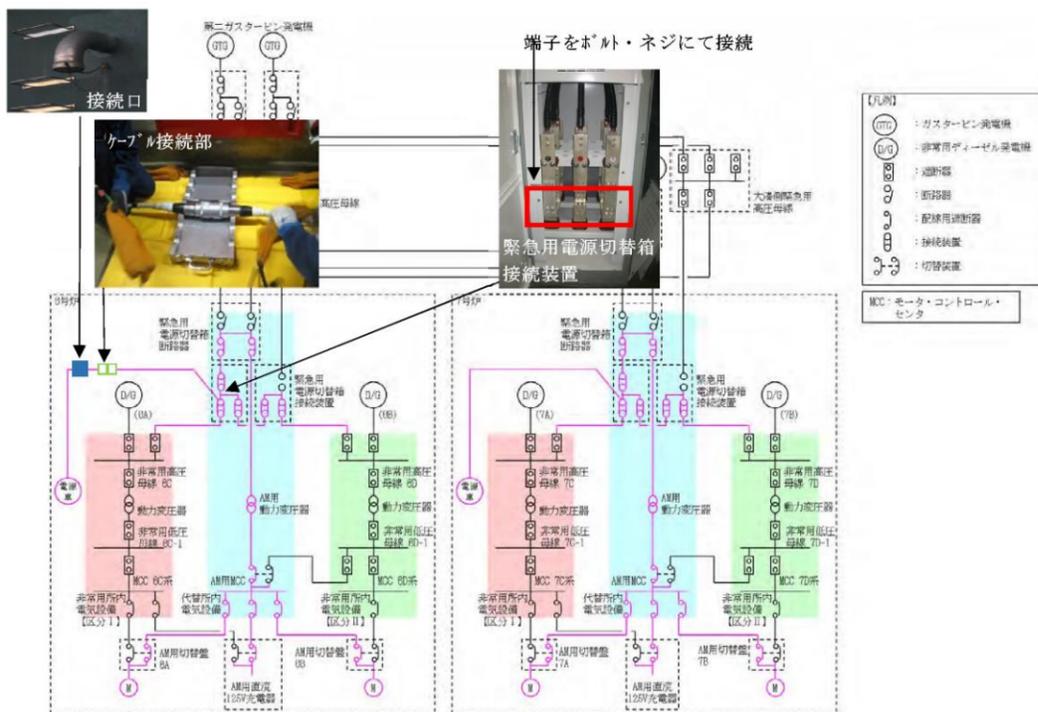
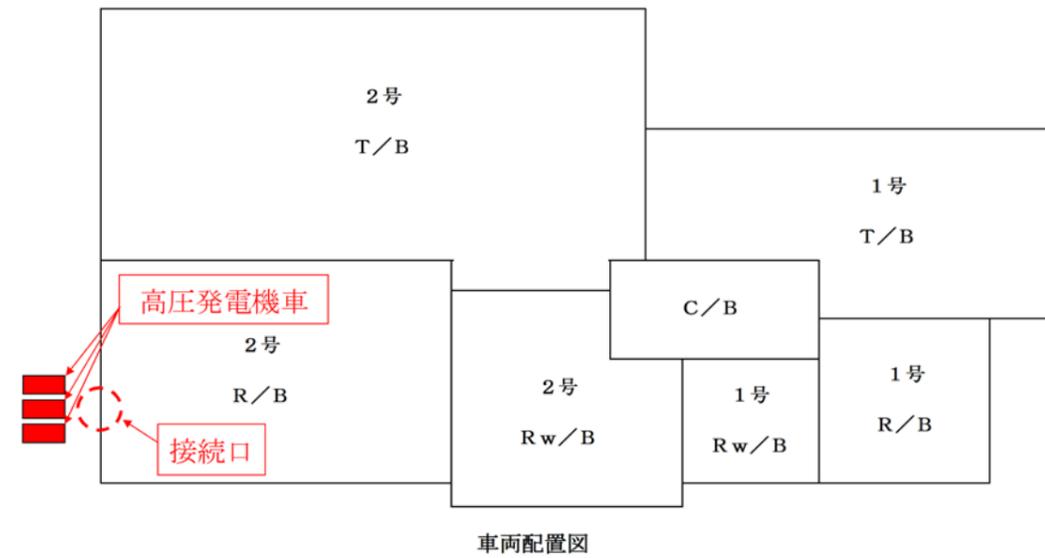
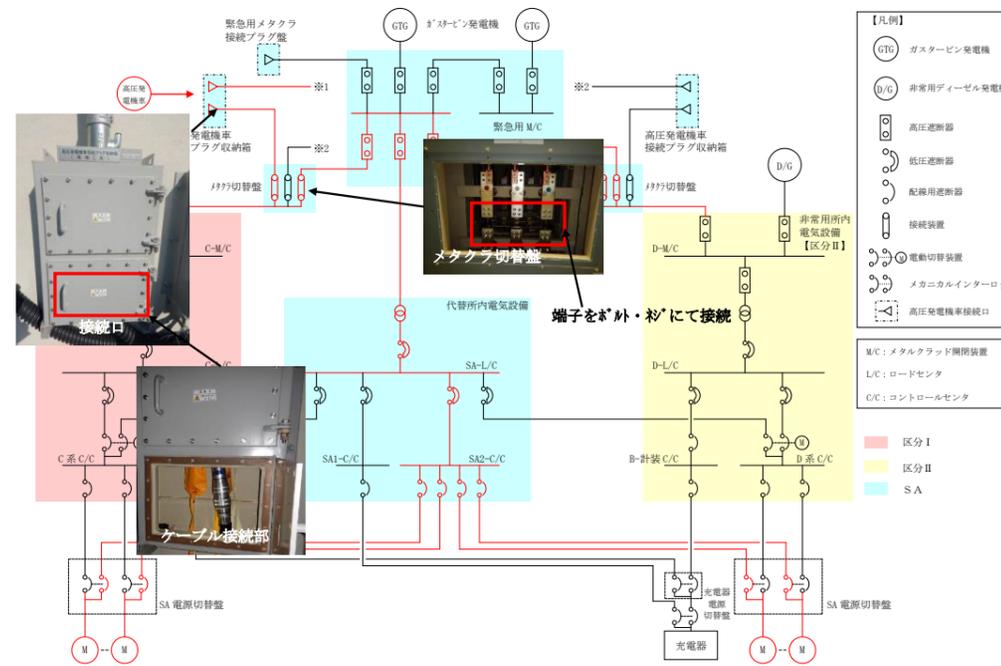


図 57-8-8 接続ルート(概略) 電源車～緊急用電源切替箱接続装置～AM 用 MCC 電路
(代替所内電気設備へ接続) 6号炉



第 57-8-9 図 高压発電機車配置場所 高压発電機車～高压発電機車接続プラグ収納箱(原子炉建物西側)～SA1コントロールセンタ及びSA2コントロールセンタ(代替所内電気設備へ接続)



第 57-8-10 図 接続ルート(概略) 高压発電機車～高压発電機車接続プラグ収納箱(原子炉建物西側)～SA1コントロールセンタ及びSA2コントロールセンタ(代替所内電気設備へ接続)

・設備の相違

・設備の相違

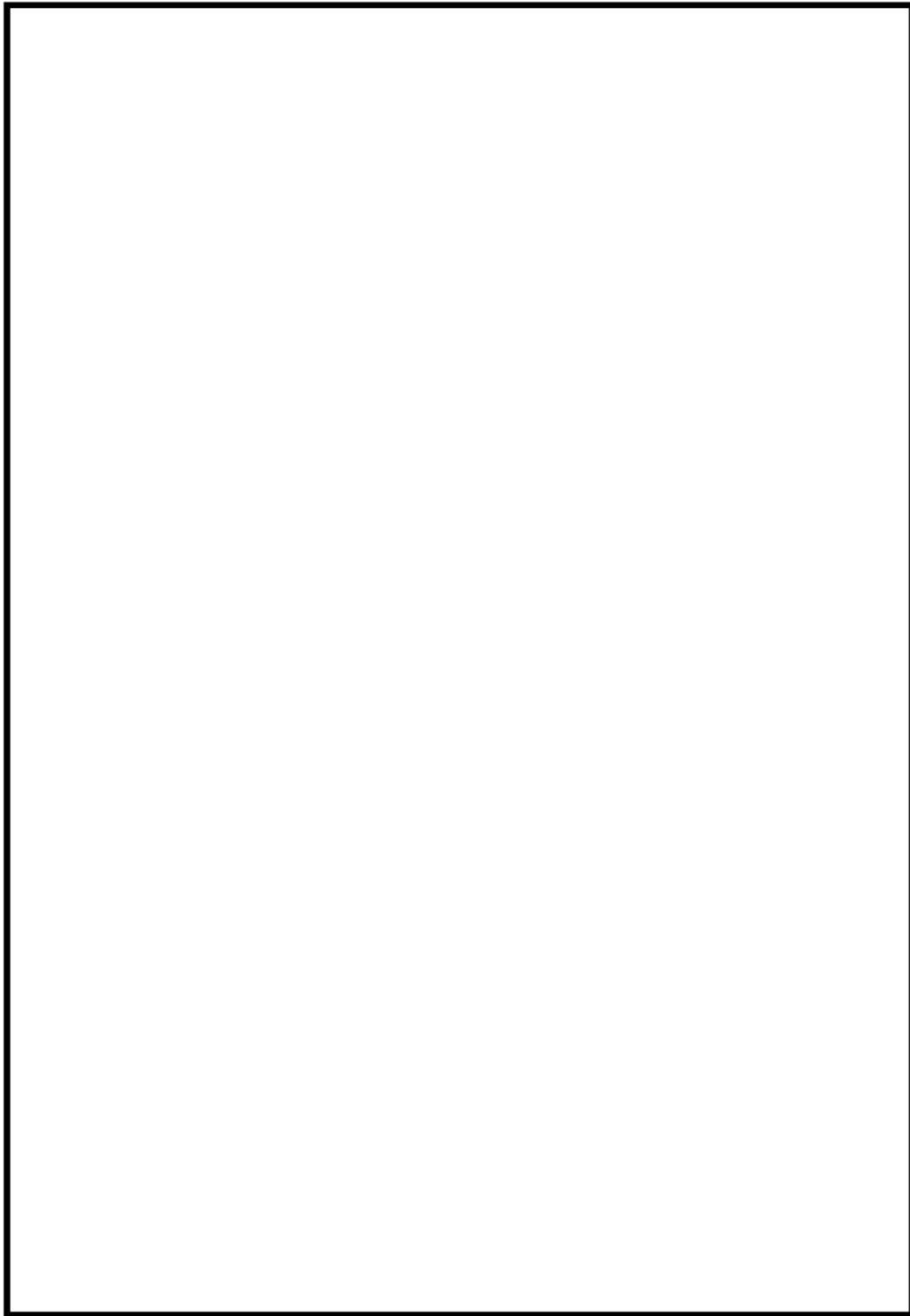
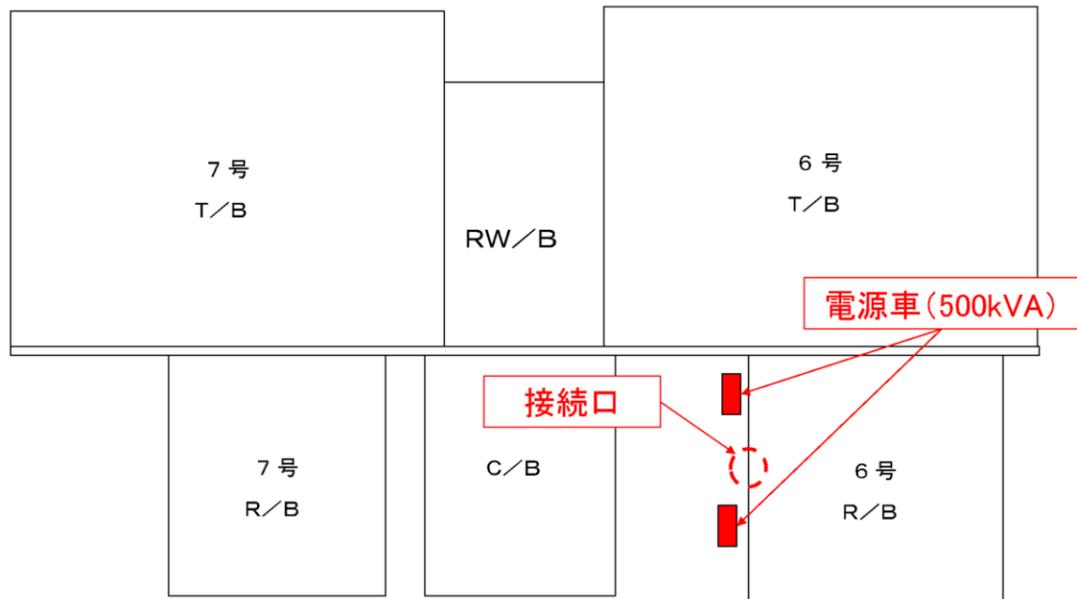


図 57-8-9 接続ルート(詳細)_電源車～緊急用電源切替箱接続装置～AM 用 MCC 電路
(代替所内電気設備へ接続) _6 号炉 (図 57-8-3 再掲)



車両配置図

図 57-8-10 電源車配置場所 電源車～AM 用動力変圧器～AM 用 MCC 電路
(代替所内電気設備へ接続) 6号炉

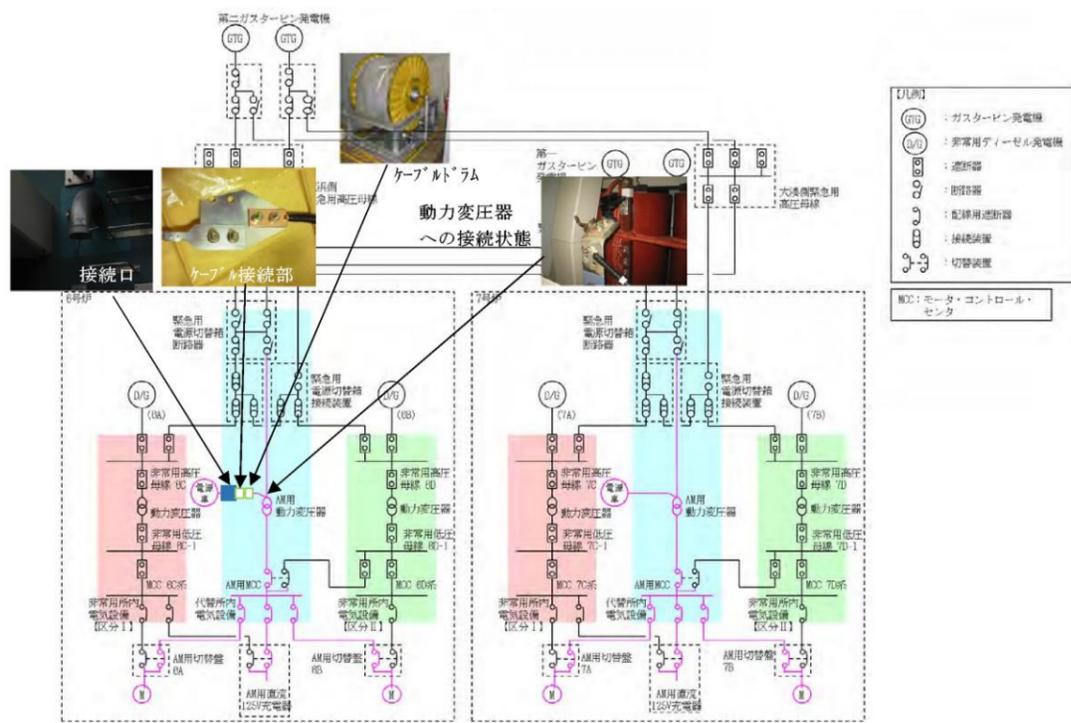
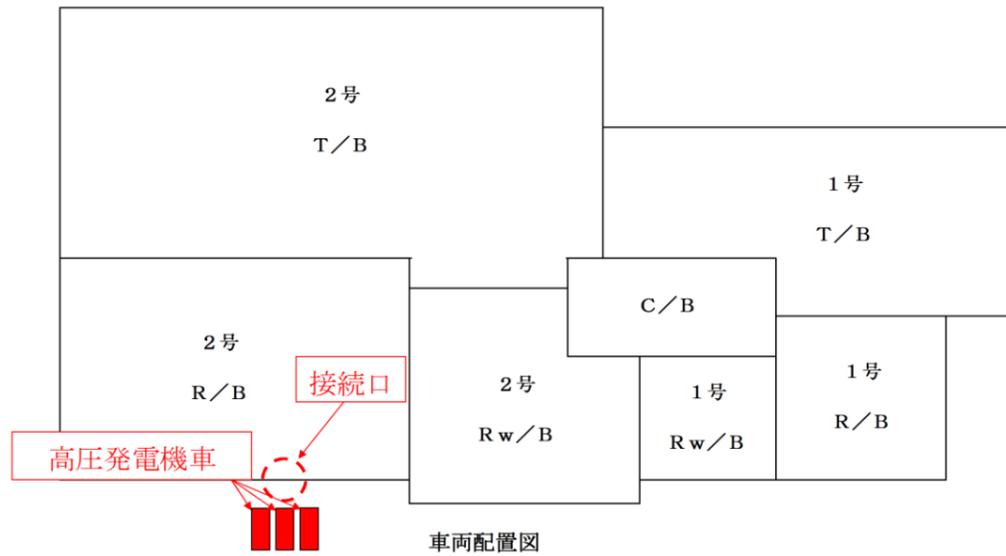
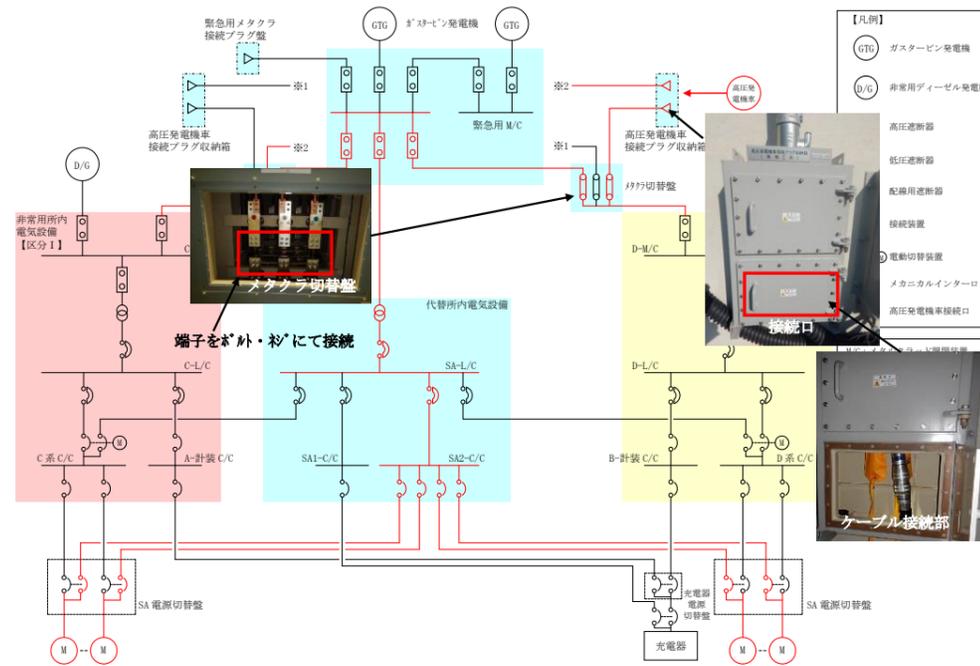


図 57-8-11 接続ルート(概略) 電源車～AM 用動力変圧器～AM 用 MCC 電路
(代替所内電気設備へ接続) 6号炉



車両配置図

第 57-8-11 図 高圧発電機車配置場所 高圧発電機車～高圧発電機車接続プラグ収納箱 (原子炉
建物南側) ～SA 1コントロールセンタ及びSA 2コントロールセンタ (代替所
内電気設備へ接続)



第 57-8-12 図 接続ルート(概略) 高圧発電機車～高圧発電機車接続プラグ収納箱 (原子炉建物
南側) ～SA 1コントロールセンタ及びSA 2コントロールセンタ (代替所内電
気設備へ接続)

・設備の相違

・設備の相違

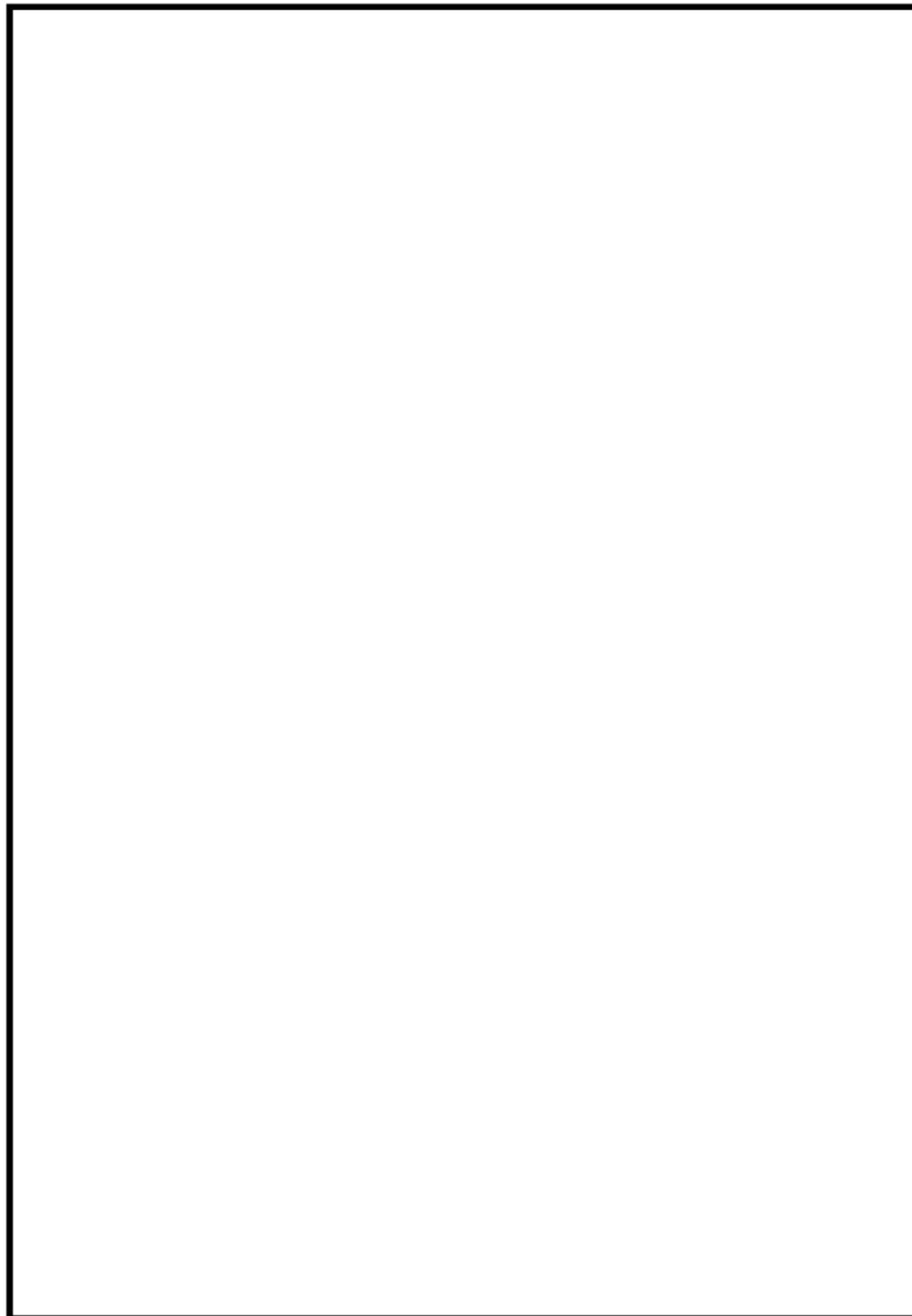
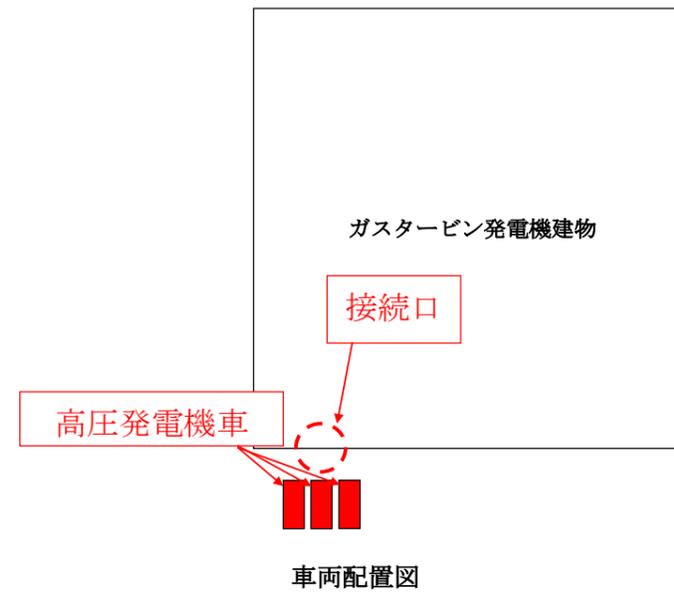
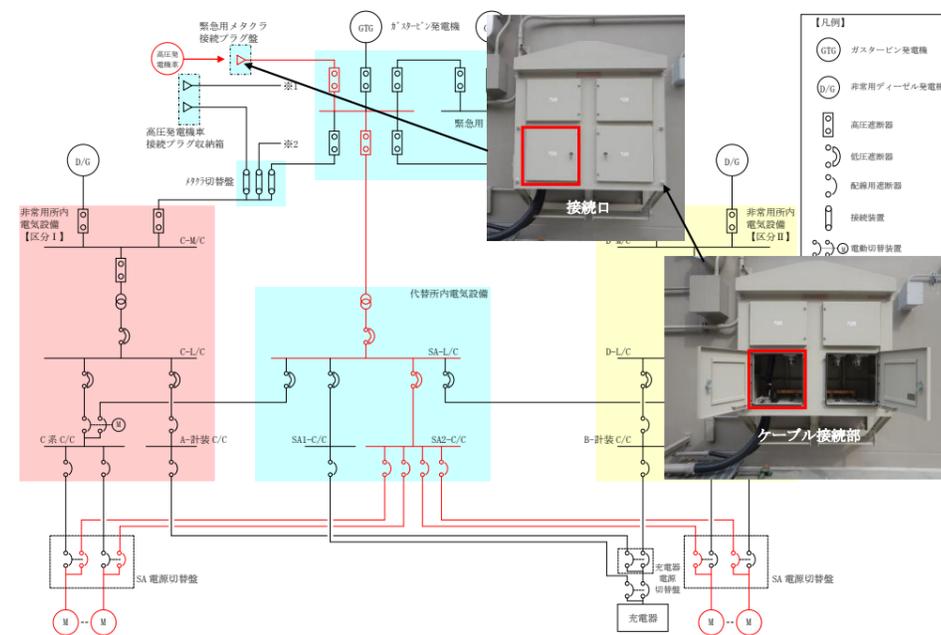


図 57-8-12 接続ルート(詳細)_ 電源車~AM 用動力変圧器~AM 用 MCC 電路
(代替所内電気設備へ接続) _6 号炉



第 57-8-13 図 高圧発電機車配置場所 高圧発電機車～緊急用メタクラ接続プラグ盤～SA1 コントロールセンタ及びSA2 コントロールセンタ (代替所内電気設備へ接続)

・設備の相違



第 57-8-14 図 接続ルート(概略) 高圧発電機車～緊急用メタクラ接続プラグ盤～SA1 コントロールセンタ及びSA2 コントロールセンタ (代替所内電気設備へ接続)

・設備の相違

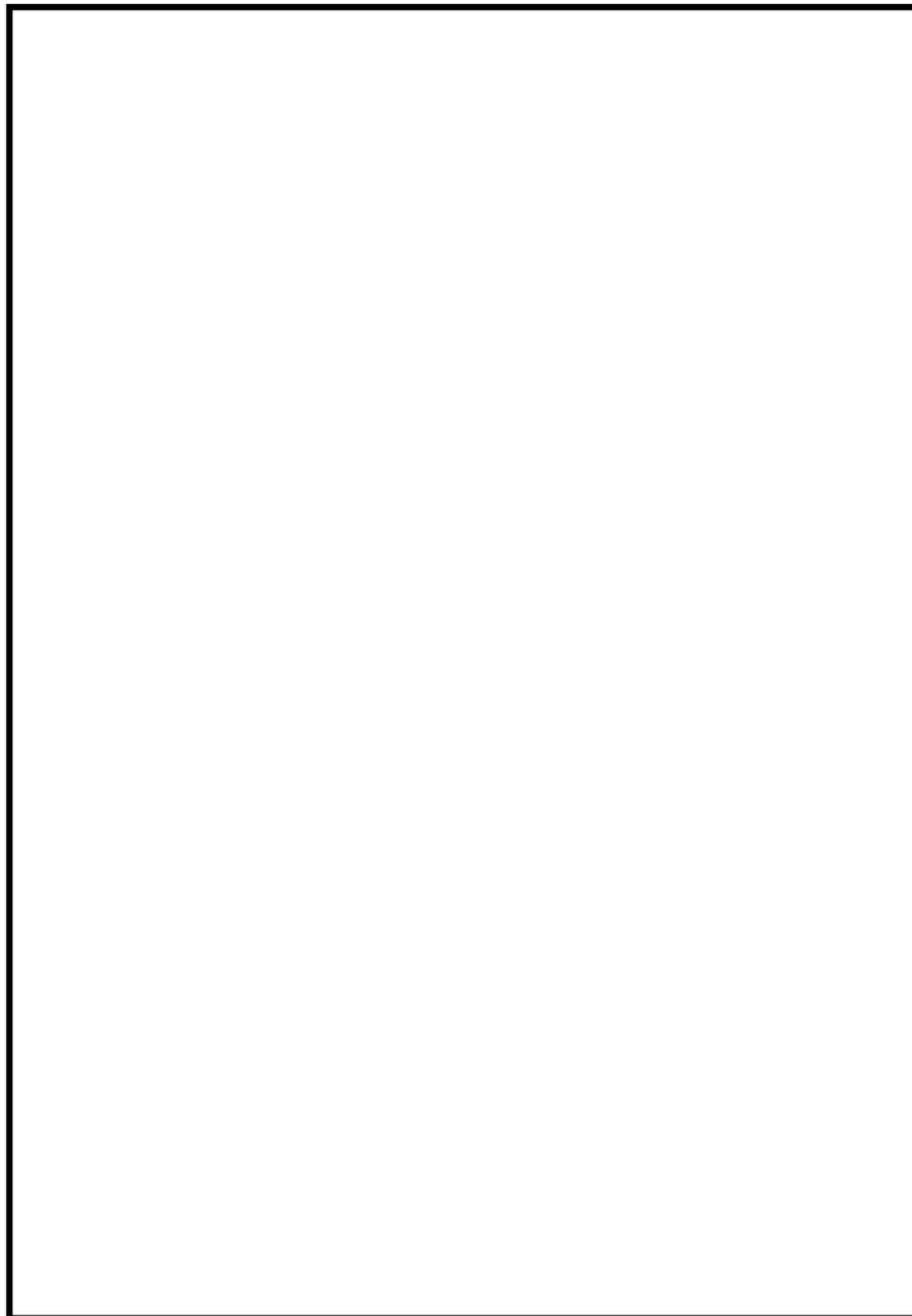


図 57-8-15 接続ルート(詳細)_ 電源車～緊急用電源切替箱接続装置～非常用
高圧母線C系及びD系(非常用所内電気設備へ接続) _7号炉

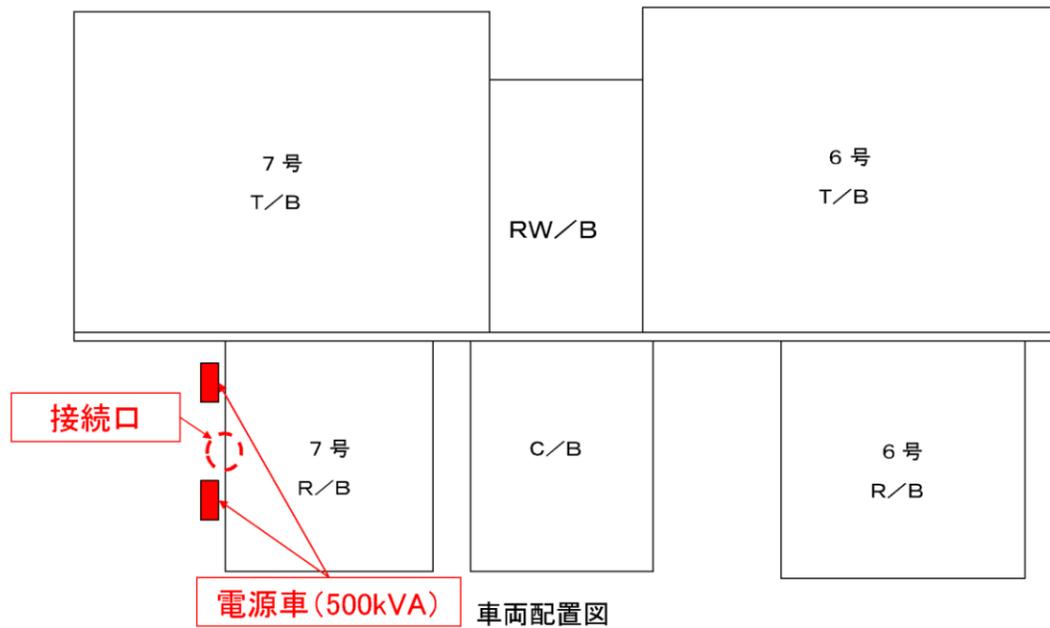


図 57-8-16 電源車配置場所 電源車～動力変圧器C系～非常用高压母線
C系及びD系 (非常用所内電気設備へ接続) 7号炉

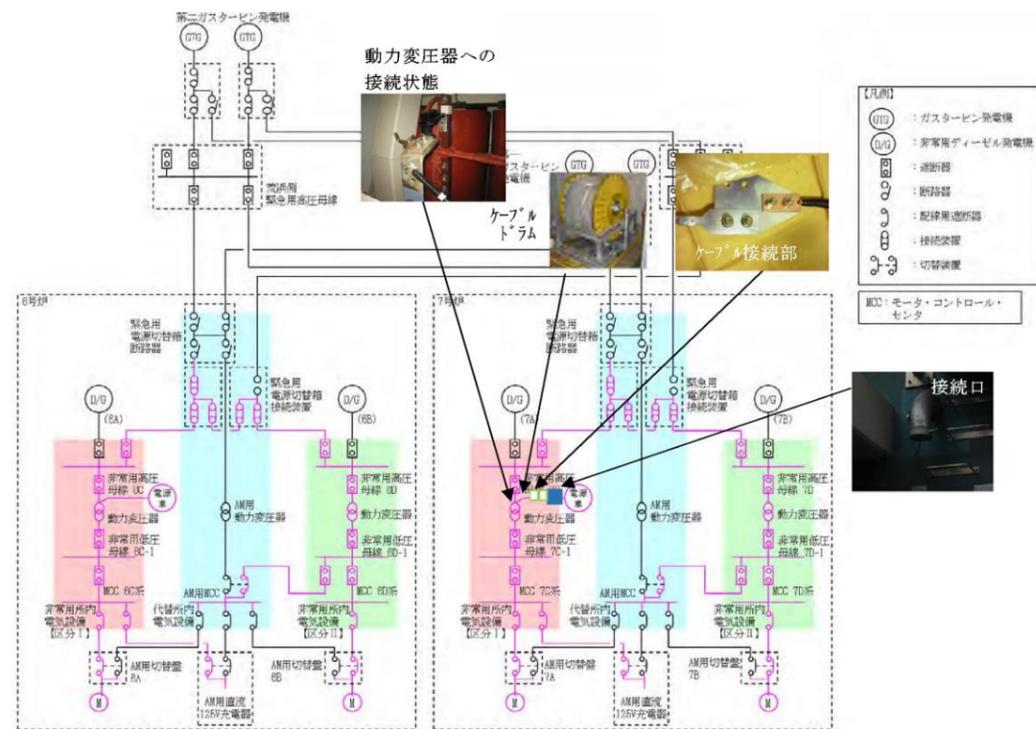


図 57-8-17 接続ルート(概略) 電源車～動力変圧器C系～非常用高压母線
C系及びD系 (非常用所内電気設備へ接続) 7号炉

・設備の相違

・設備の相違

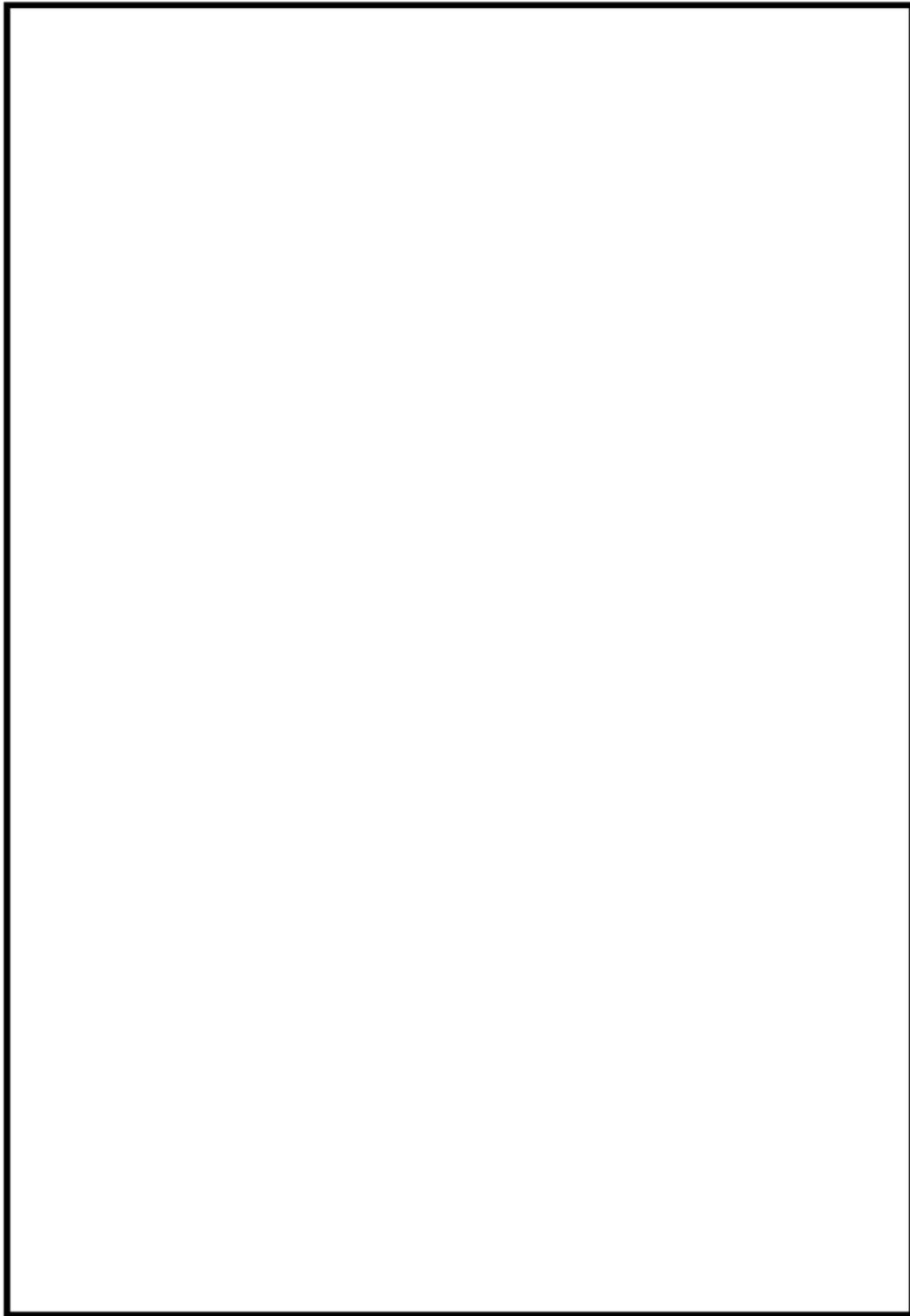


図 57-8-18 接続ルート(詳細)_ 電源車～動力変圧器C系～非常用高圧母線
C系及びD系 (非常用所内電気設備へ接続) _7 号炉

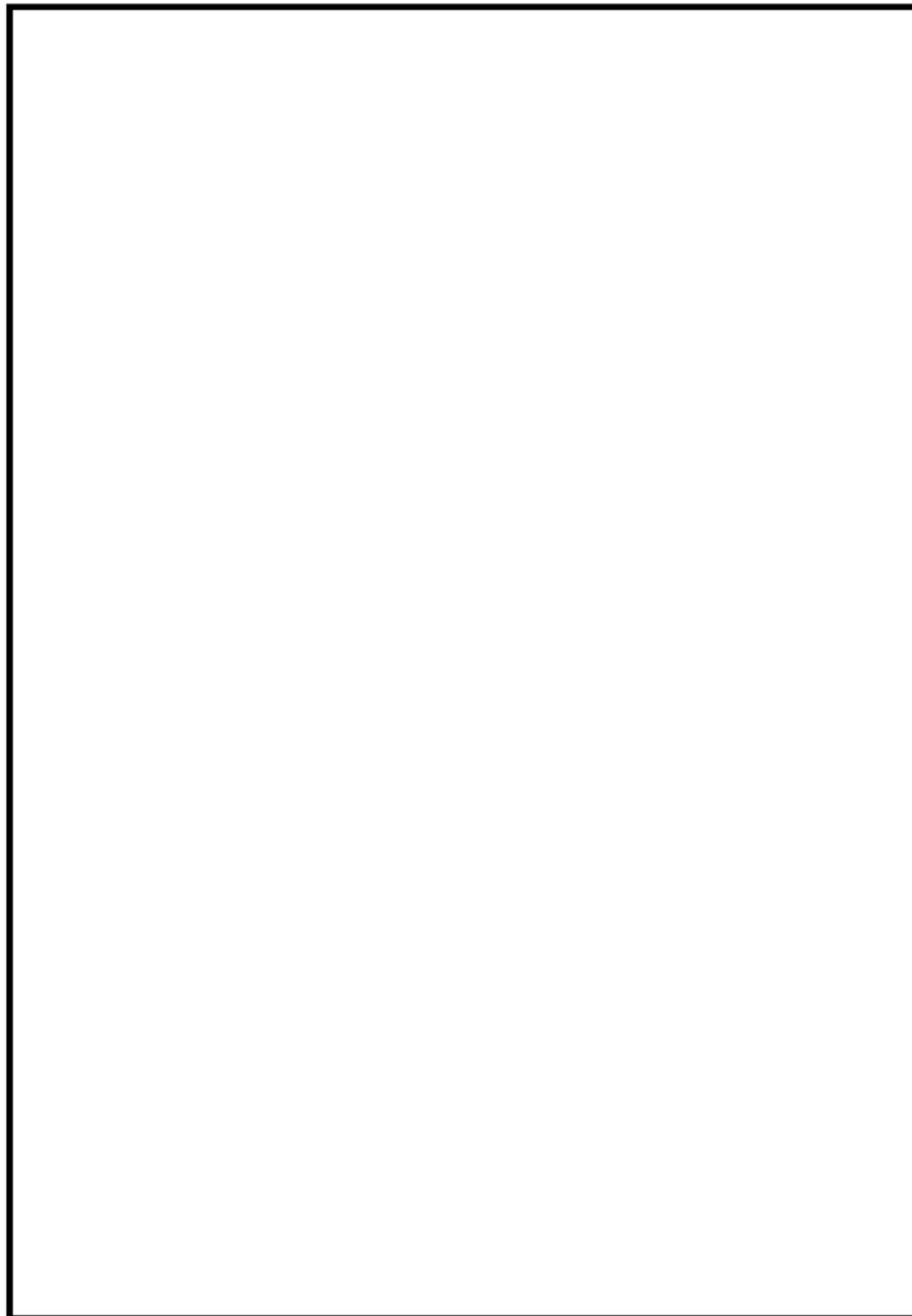


図 57-8-21 接続ルート(詳細)_電源車～緊急用電源切替箱接続装置～AM 用 MCC 電路
(代替所内電気設備へ接続) _7 号炉

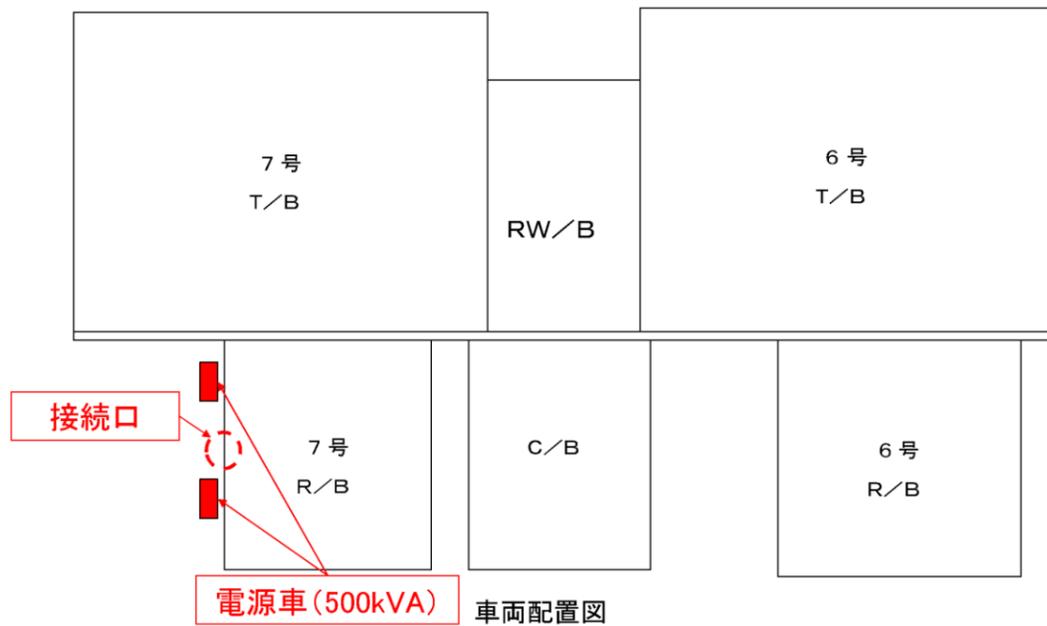


図 57-8-22 電源車配置場所 電源車～AM 用動力変圧器～AM 用 MCC 電路
(代替所内電気設備へ接続) 7号炉

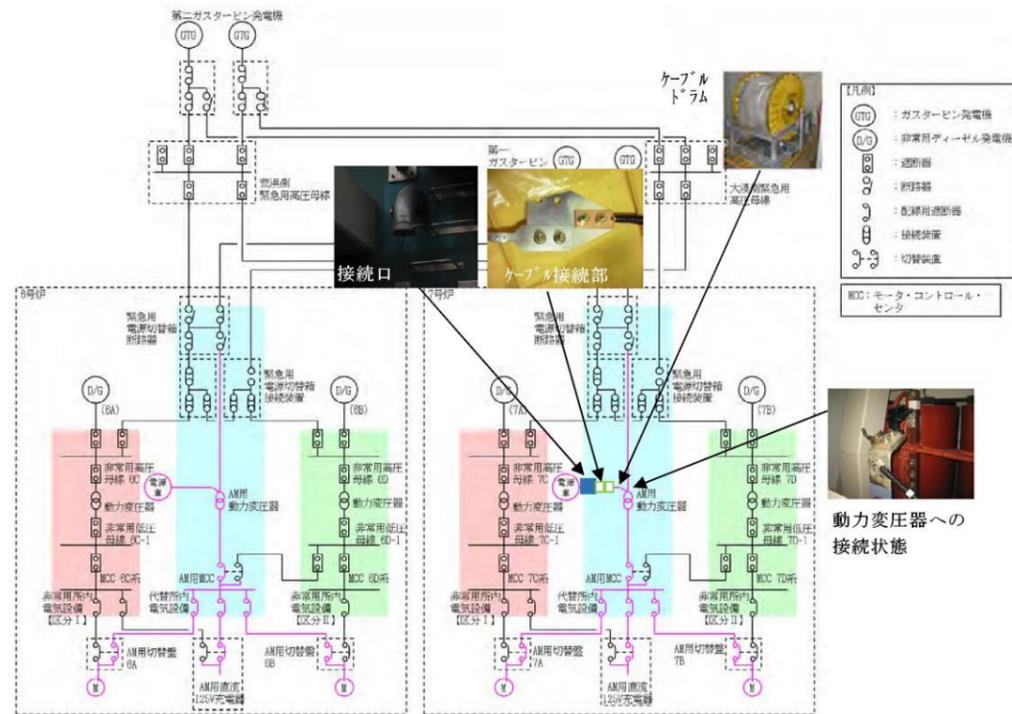


図 57-8-23 接続ルート(概略) 電源車～AM 用動力変圧器～AM 用 MCC 電路
(代替所内電気設備へ接続) 7号炉

・設備の相違

・設備の相違

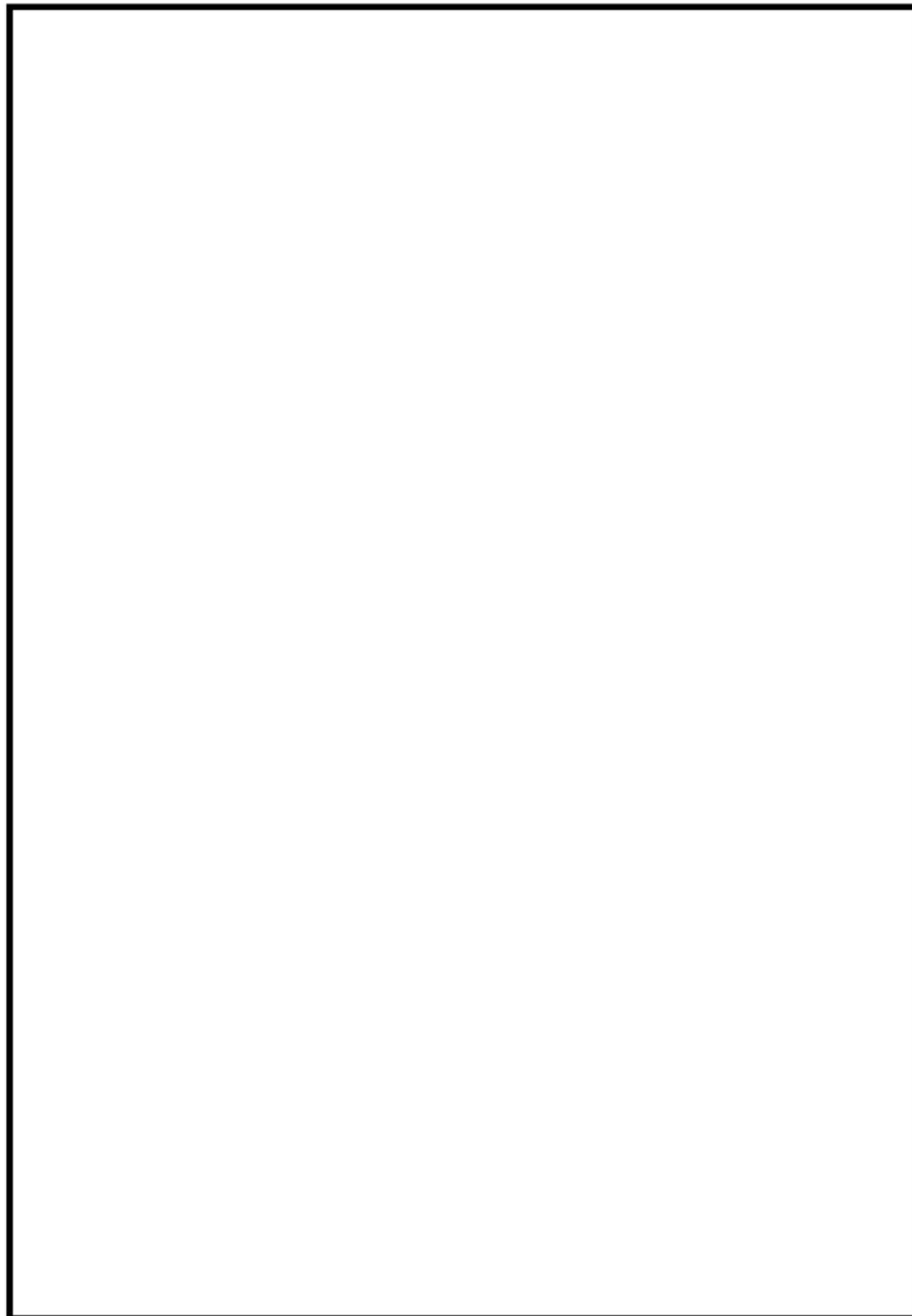


図 57-8-24 接続ルート(詳細)_ 電源車~AM 用動力変圧器~AM 用 MCC 電路
(代替所内電気設備へ接続) _7 号炉

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p data-bbox="578 661 845 735">57-9 代替電源設備について</p>	<p data-bbox="1721 661 1988 735">57-9 代替電源設備について</p>	

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>1. 代替電源設備について …57-9-2</p> <p>1.1 重大事故等対処設備による代替電源（交流）の供給 …57-9-7</p> <p>1.2 重大事故等対処設備による直流電源の供給 …57-9-17</p> <p>1.3 代替所内電気設備による給電 …57-9-19</p> <p><u>1.4</u> 自主対策設備について …57-9-89</p>	<p>1. 代替電源設備について</p> <p>1.1 重大事故等対処設備による代替電源（交流）の供給</p> <p>1.2 重大事故等対処設備による直流電源の供給</p> <p>1.3 代替所内電気設備による給電</p> <p><u>2.</u> 自主対策設備について</p> <p><u>2.1</u> 概略系統図</p> <p><u>2.2</u> 直流給電車</p> <p><u>2.3</u> 号炉間電力融通電気設備</p> <p><u>2.4</u> 非常用コントロールセンタ切替盤</p>	<p>・記載方針の相違</p>

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>1. 代替電源設備について</p> <p><u>福島第一原子力発電所事故</u>においては、津波により非常用ディーゼル発電機の冷却機能（海水系）が喪失するとともに、非常用ディーゼル発電機及びメタクラ等は<u>浸水被害</u>により、多重化された電源設備が同時に機能喪失するに至った。</p> <p><u>柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉</u>においては、設計基準事故対処設備として非常用ディーゼル発電機、及び非常用高圧母線等の電気設備を設置している。<u>6号及び7号炉の敷地高さはT.M.S.L※12mであり、遡上域における最大遡上高さ(T.M.S.L7.5m(大湊側))より高いため、敷地内に津波流入の恐れがない。</u></p> <p>また、隔壁によって区画化された電気室に設置し、多重化を図ることにより互いに独立させており、共通要因により同時に機能喪失することなく、人の接近性を確保できる設計としている。(図57-9-1～図57-9-4)</p> <p>※. T.M.S.L：東京湾平均海面</p>	<p>1. 代替電源設備について</p> <p><u>東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所事故</u>においては、津波により非常用ディーゼル発電機の冷却機能（海水系）が喪失するとともに、非常用ディーゼル発電機及びM/C等は<u>津波の浸水被害</u>により、多重化された電源設備が同時に機能喪失するに至った。</p> <p><u>島根原子力発電所2号炉</u>においては、設計基準事故対処設備として非常用ディーゼル発電機及びメタクラ等の電気設備を設置している。<u>2号炉の敷地高さはEL15mであり、施設の設置された敷地において、基準津波による遡上波を地上部から到達又は流入させないとともに、取水路及び放水路等の経路から流入させない設計としている。</u>また、隔壁によって区画化された電気室に設置し、多重化を図ることにより互いに独立させており、共通要因により同時に機能喪失することなく、人の接近性を確保できる設計としている。(第57-9-1図、第57-9-2図)</p>	<p>備考</p> <p>・敷地の相違</p>

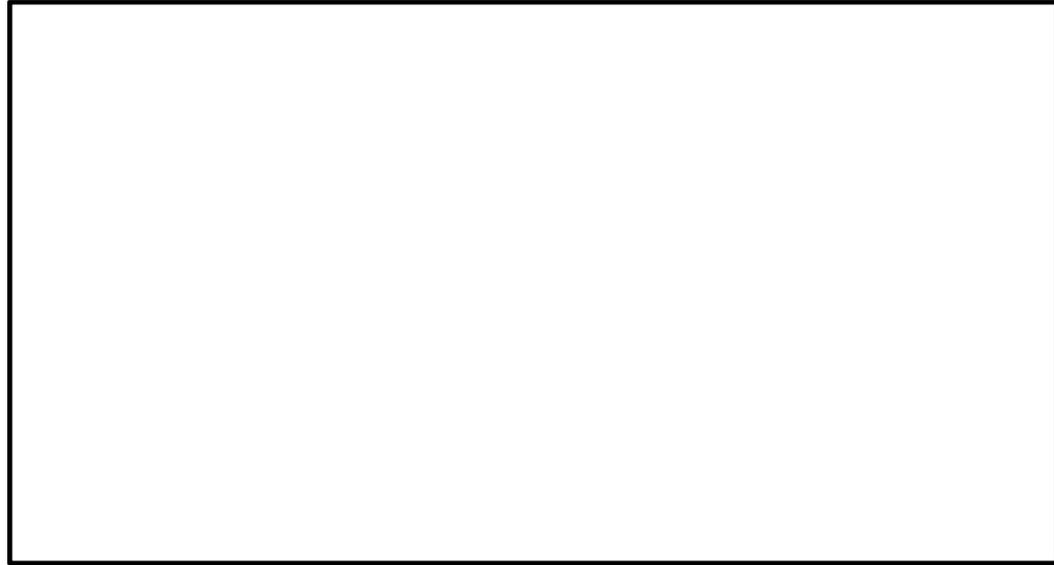


図 57-9-1 非常用ディーゼル発電機及び非常用 M/C の配置 (6 号炉)



第 57-9-1 図 非常用ディーゼル発電機及び非常用 M/C の配置

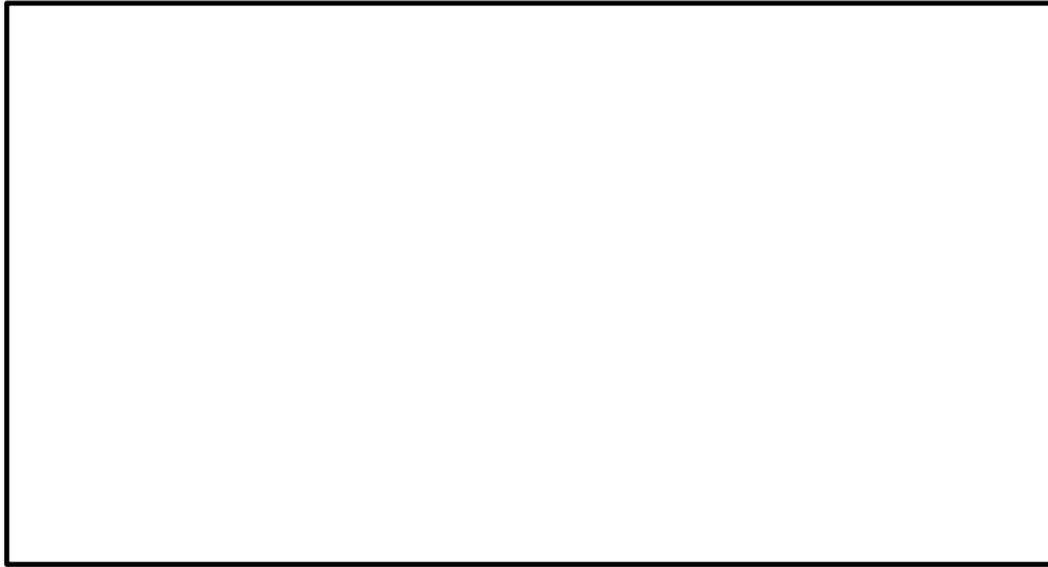
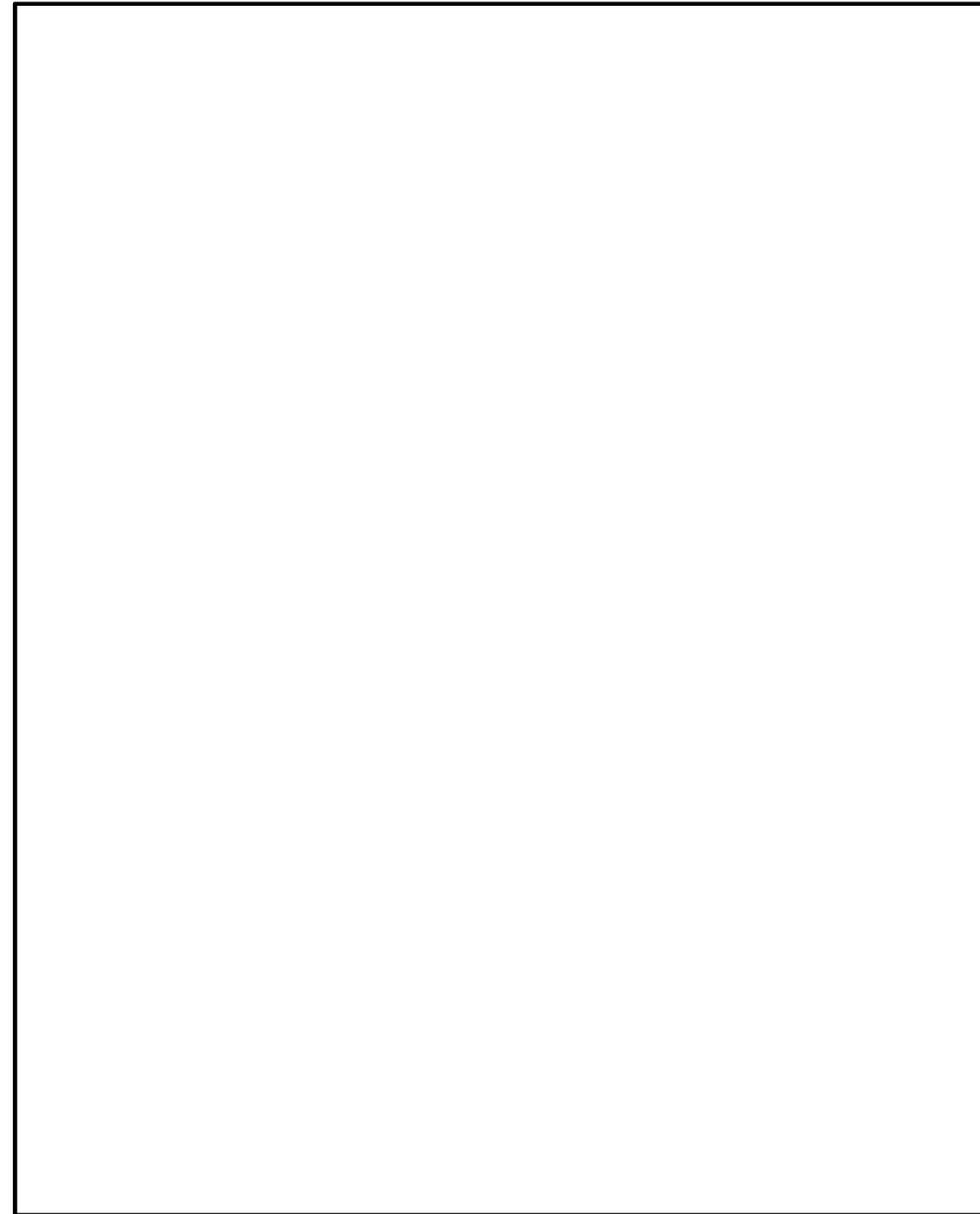


図 57-9-2 非常用蓄電池及び計装設備用電源設備の配置 (6号炉)



第 57-9-2 図 蓄電池 (非常用) 及び計装用電源設備の配置

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<div data-bbox="154 256 1202 821" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="296 835 1113 871" data-label="Caption"> <p>図 57-9-3 非常用ディーゼル発電機及び非常用 M/C の配置 (7 号炉)</p> </div> <div data-bbox="154 890 1202 1623" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="296 1644 1092 1680" data-label="Caption"> <p>図 57-9-4 非常用蓄電池及び計装設備用電源設備の配置 (7 号炉)</p> </div>		

柏崎刈羽原子力発電所 6 / 7号炉 (2017. 12. 20 版)	島根原子力発電所 2号炉	備考
<p>しかしながら、これら設計基準事故対処設備の電気設備が機能喪失した場合においても、重大事故等に対処できるよう常設又は可搬の代替電源等の設備を設置している。</p> <p>これら常設又は可搬の代替電源等の設備は、設置許可基準規則第 57 条及び技術基準規則第 72 条に要求事項が示されている。また、設置許可基準規則第 57 条及び技術基準規則第 72 条以外で、代替電源からの給電が要求される条文を表 57-9-1 に示す。</p> <p>また、代替電源からの給電が要求される各設備の単線結線図は下記の通り添付している。</p> <p>設置許可基準規則 46 条 / 技術基準規則第 61 条 : 57-9-(46-1) ~57-9-(46-2)</p> <p>設置許可基準規則 51 条 / 技術基準規則第 66 条 : 57-9-(51-1) ~57-9-(51-2)</p> <p>設置許可基準規則 52 条 / 技術基準規則第 67 条 : 57-9-(52-1) ~57-9-(52-2)</p> <p>設置許可基準規則 53 条 / 技術基準規則第 68 条 : 57-9-(53-1) ~57-9-(53-2)</p> <p>設置許可基準規則 54 条 / 技術基準規則第 69 条 : 57-9-(54-1) ~57-9-(54-2)</p> <p>設置許可基準規則 59 条 / 技術基準規則第 74 条 : 57-9-(59-1) ~57-9-(59-2)</p> <p>設置許可基準規則 62 条 / 技術基準規則第 77 条 : 57-9-(62-1) ~57-9-(62-2)</p>	<p>しかしながら、これら設計基準事故対処設備の電気設備が機能喪失した場合においても、重大事故等に対処できるよう常設又は可搬の代替電源等の設備を設置する。</p> <p>これら常設又は可搬の代替電源等の設備は、設置許可基準規則第 57 条及び技術基準規則第 72 条に要求事項が示されている。</p> <p>また、設置許可基準規則第 57 条及び技術基準規則第 72 条以外で、代替電源からの給電が要求される条文を第 57-9-1 表に示す。</p> <p>また、代替電源からの給電が要求される各設備の単線結線図は下記に示す。</p> <p>設置許可基準規則 46 条 / 技術基準規則第 61 条 : 57-9-(46-1)</p> <p>設置許可基準規則 51 条 / 技術基準規則第 66 条 : 57-9-(51-1)</p> <p>設置許可基準規則 52 条 / 技術基準規則第 67 条 : 57-9-(52-1)</p> <p>設置許可基準規則 53 条 / 技術基準規則第 68 条 : 57-9-(53-1)</p> <p>設置許可基準規則 54 条 / 技術基準規則第 69 条 : 57-9-(54-1)</p> <p>設置許可基準規則 59 条 / 技術基準規則第 74 条 : 57-9-(59-1)</p> <p><u>設置許可基準規則 60 条 / 技術基準規則第 75 条 : 57-9-(60-1)</u></p> <p>設置許可基準規則 62 条 / 技術基準規則第 77 条 : 57-9-(62-1)</p>	<p>備考</p> <p>・設備の相違 60 条 / 75 条の 1 項 C) に基づき記載</p>

表 57-9-1 代替電源からの給電が要求される条文

設置許可基準規則/技術基準条文番号		記載内容	備考
第46条	第61条	原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備	・常設直流電源系統喪失時に操作できる手動設備又は可搬型代替直流電源設備を配備する。
第51条	第66条	原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための設備	・交流又は直流電源が必要な場合は代替電源設備からの給電を可能とする。
第52条	第67条	水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備	・交流又は直流電源が必要な場合は代替電源設備からの給電を可能とする。
第53条	第68条	水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための設備	・交流又は直流電源が必要な場合は代替電源設備からの給電を可能とする。
第54条	第69条	使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備	・交流又は直流電源が必要な場合は代替電源設備からの給電を可能とする。
第59条	第74条	原子炉制御室	・原子炉制御室用の電源(空調及び照明等)は、代替交流電源設備からの給電を可能とする。
第60条	第75条	監視測定設備	・代替交流電源設備からの給電を可能とする。 57条と別の電源を用いるため、3.17 監視測定設備で示す。
第61条	第76条	緊急時対策所	・代替交流電源設備からの給電を可能とする。 57条と別の電源を用いるため、3.18 緊急時対策所で示す。
第62条	第77条	通信連絡を行うために必要な設備	・通信連絡設備は、代替電源設備(電池等の予備電源設備を含む。)からの給電を可能とする。 緊急時対策所の通信連絡設備は3.18 緊急時対策所で示す。

第 57-9-1 表 代替電源からの給電が要求される条文

設置許可基準規則/技術基準条文番号		記載内容	備考
第46条	第61条	原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための設備	・常設直流電源系統喪失時に操作できる手動設備又は可搬型代替直流電源設備を配備する。
第51条	第66条	原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための設備	・交流又は直流電源が必要な場合は代替電源設備からの給電を可能とする。
第52条	第67条	水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための設備	・交流又は直流電源が必要な場合は代替電源設備からの給電を可能とする。
第53条	第68条	水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための設備	・交流又は直流電源が必要な場合は代替電源設備からの給電を可能とする。
第54条	第69条	使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための設備	・交流又は直流電源が必要な場合は代替電源設備からの給電を可能とする。
第59条	第74条	原子炉制御室	・原子炉制御室用の電源(空調及び照明等)は、代替交流電源設備からの給電を可能とする。
第60条	第75条	監視測定設備	・代替交流電源設備からの給電を可能とする。
第61条	第76条	緊急時対策所	・代替交流電源設備からの給電を可能とする。 57条と別の電源を用いるため、3.18 緊急時対策所で示す。
第62条	第77条	通信連絡を行うために必要な設備	・通信連絡設備は、代替電源設備(電池等の予備電源設備を含む。)からの給電を可能とする。 緊急時対策所の通信連絡設備は3.18 緊急時対策所で示す。

・設備の相違

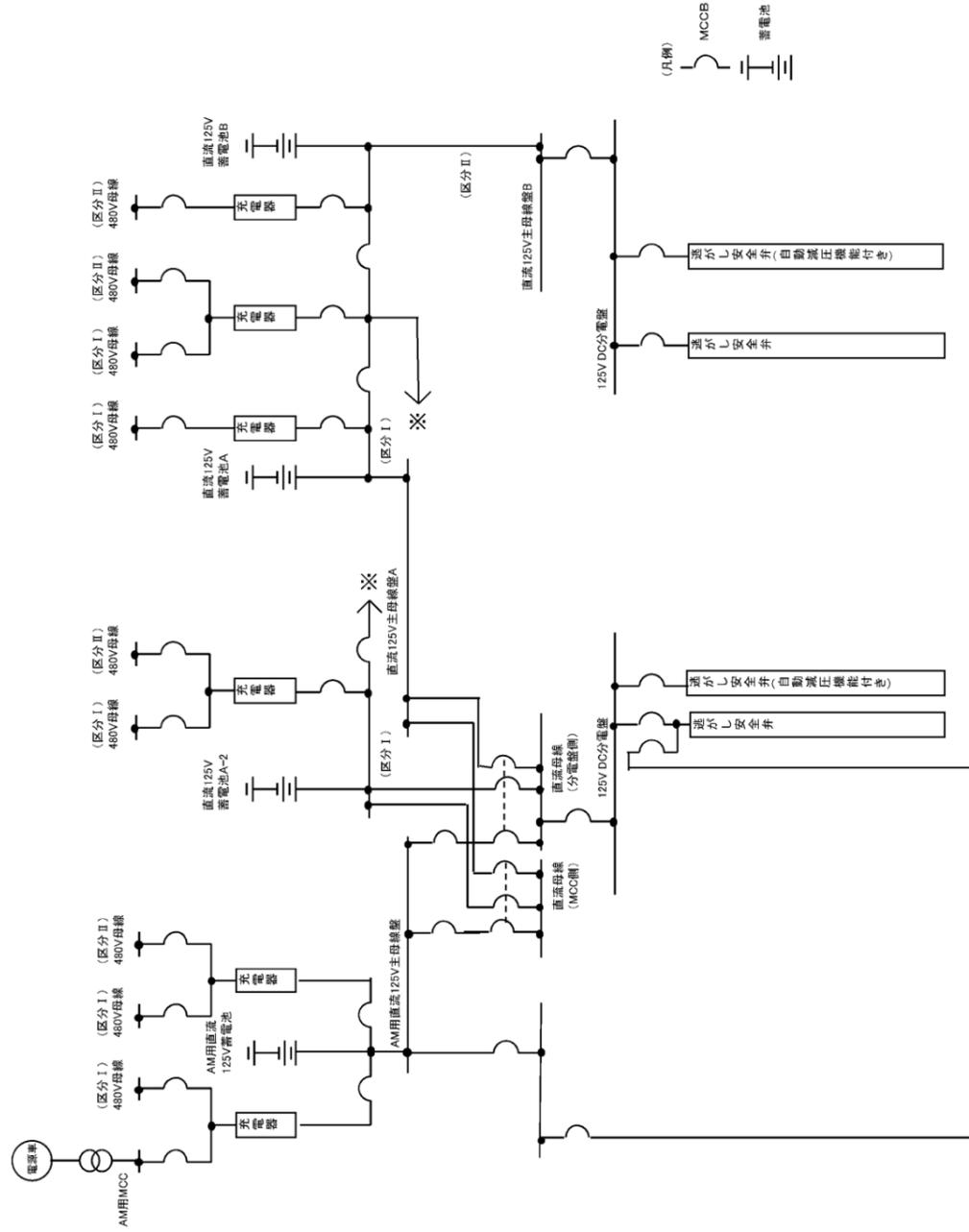
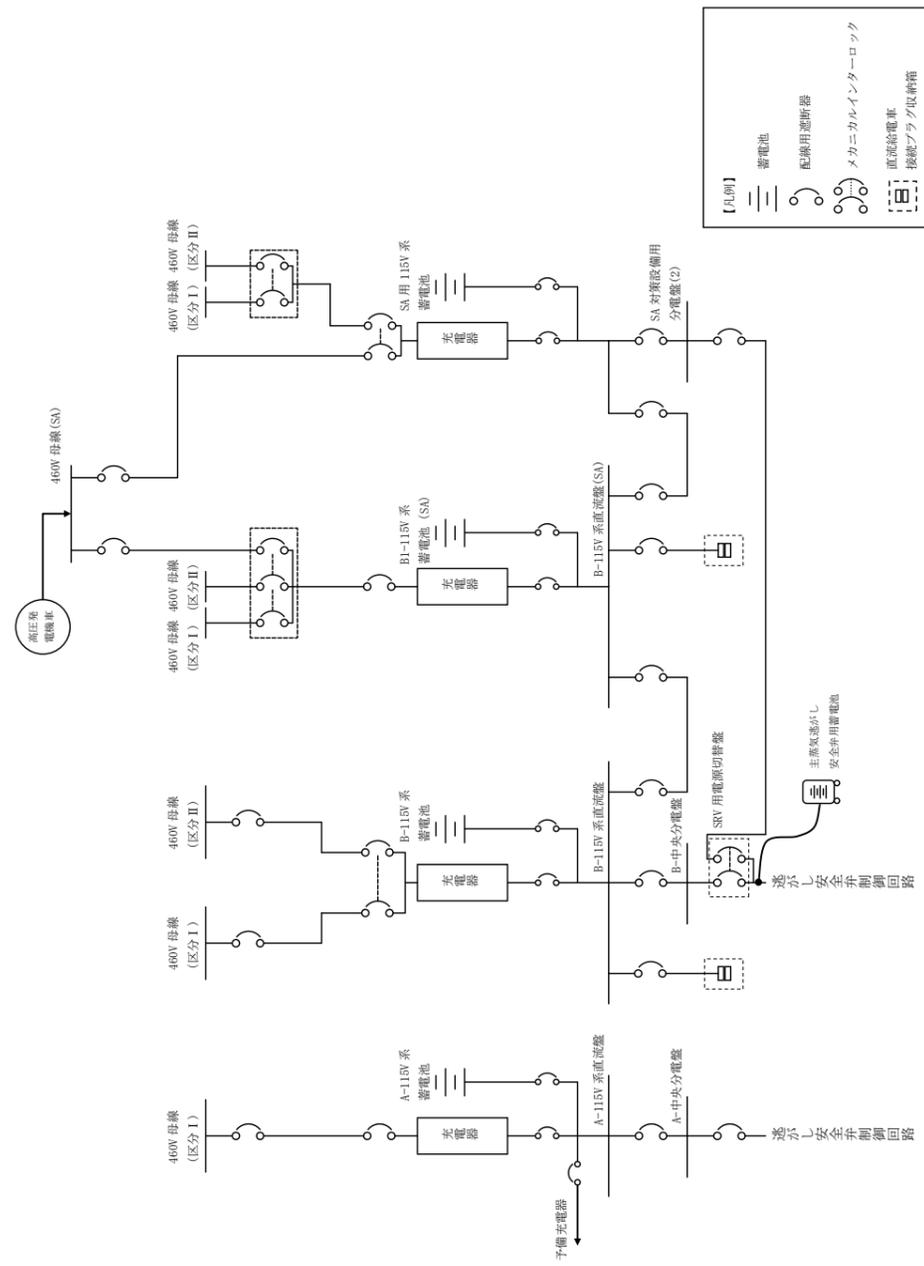


図 57-9-(46-1)6号炉単線結線図 (第46条)



第 57-9-(46-1)図 単線結線図 (46条)

・設備の相違

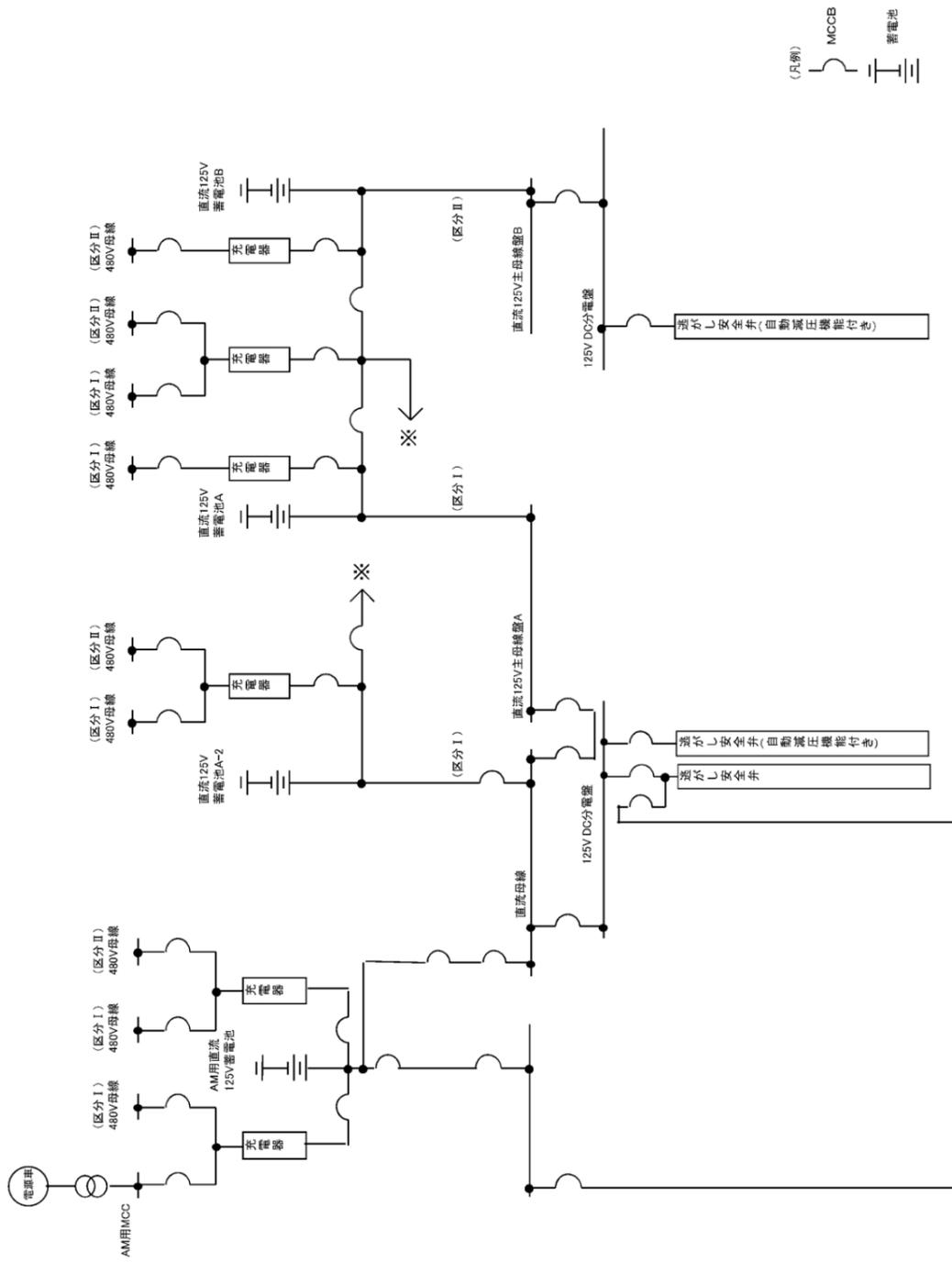


図 57-9-(46-2)7号炉単線結線図 (第46条)

・設備の相違

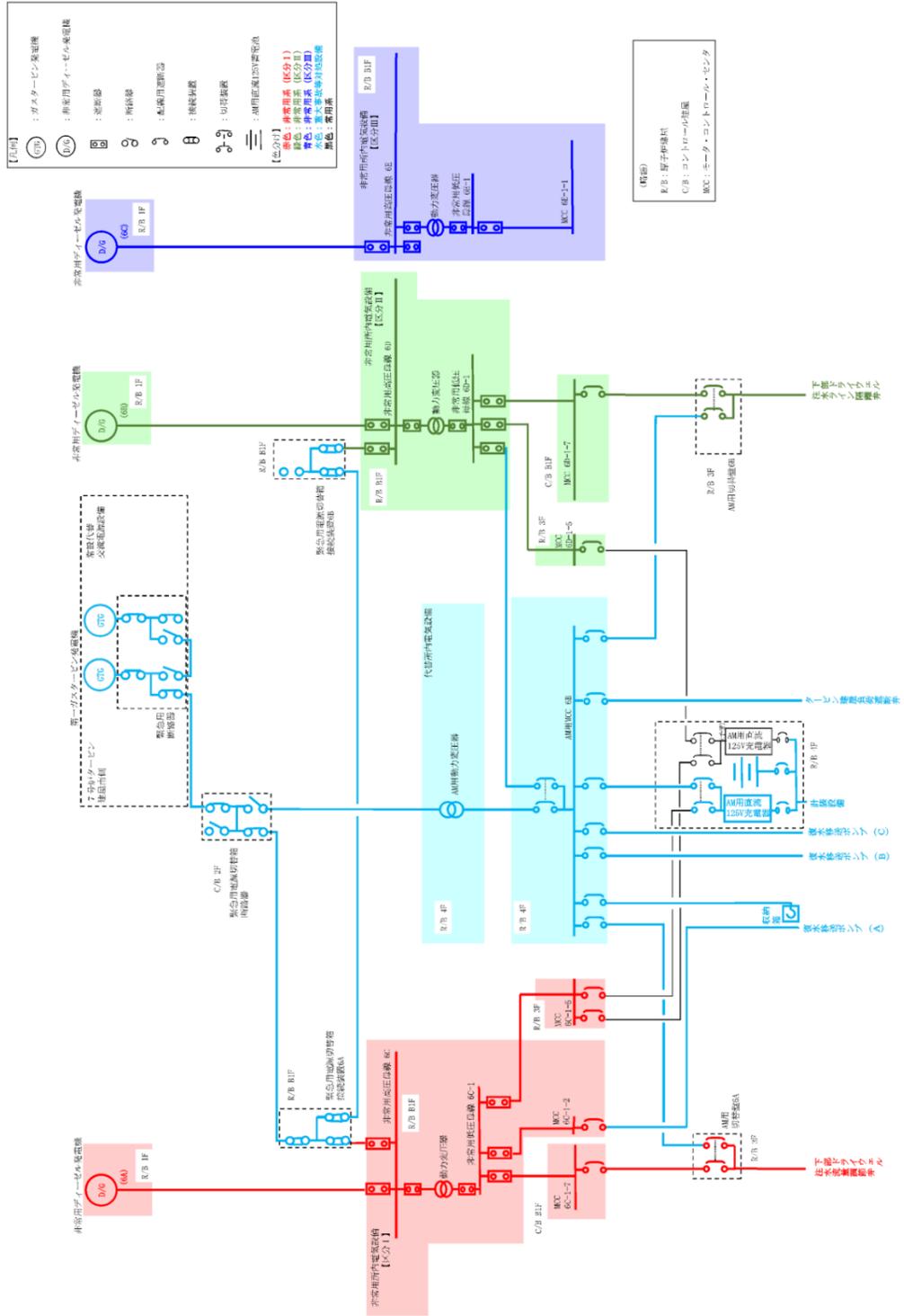
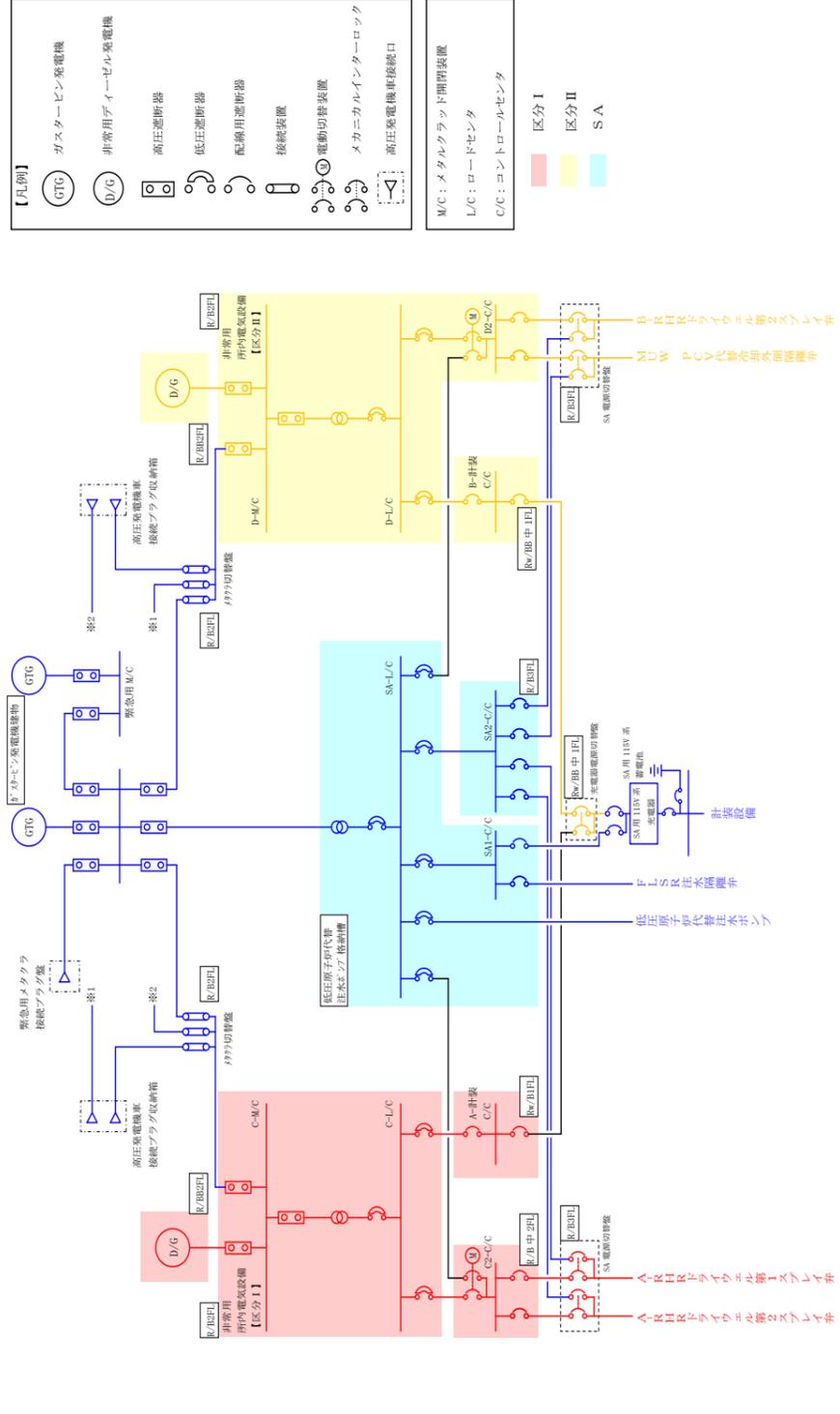


図 57-9-(51-1)6号炉単線結線図 (第51条)



第 57-9-(51-1)図 単線結線図 (51条)

・設備の相違

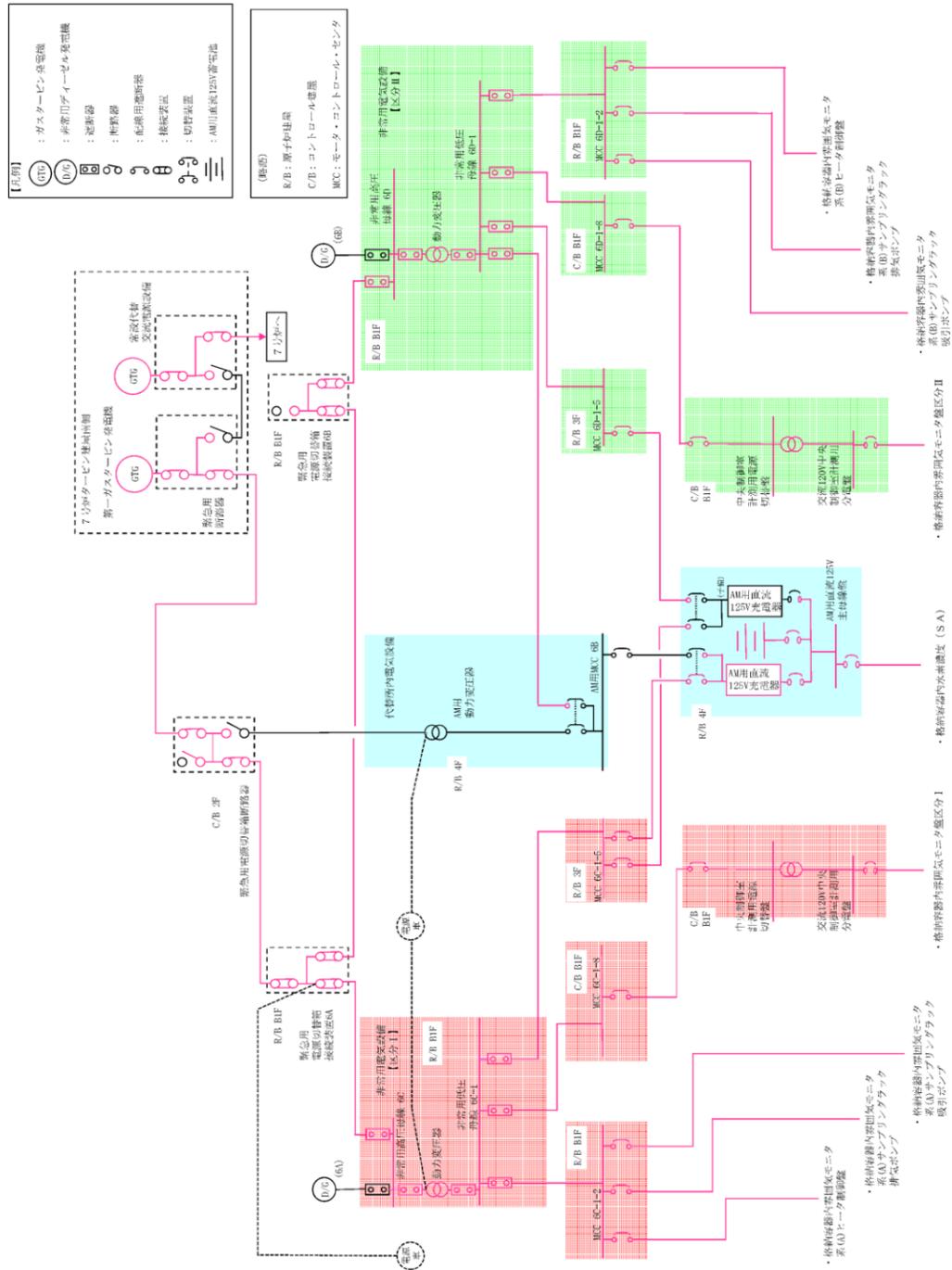
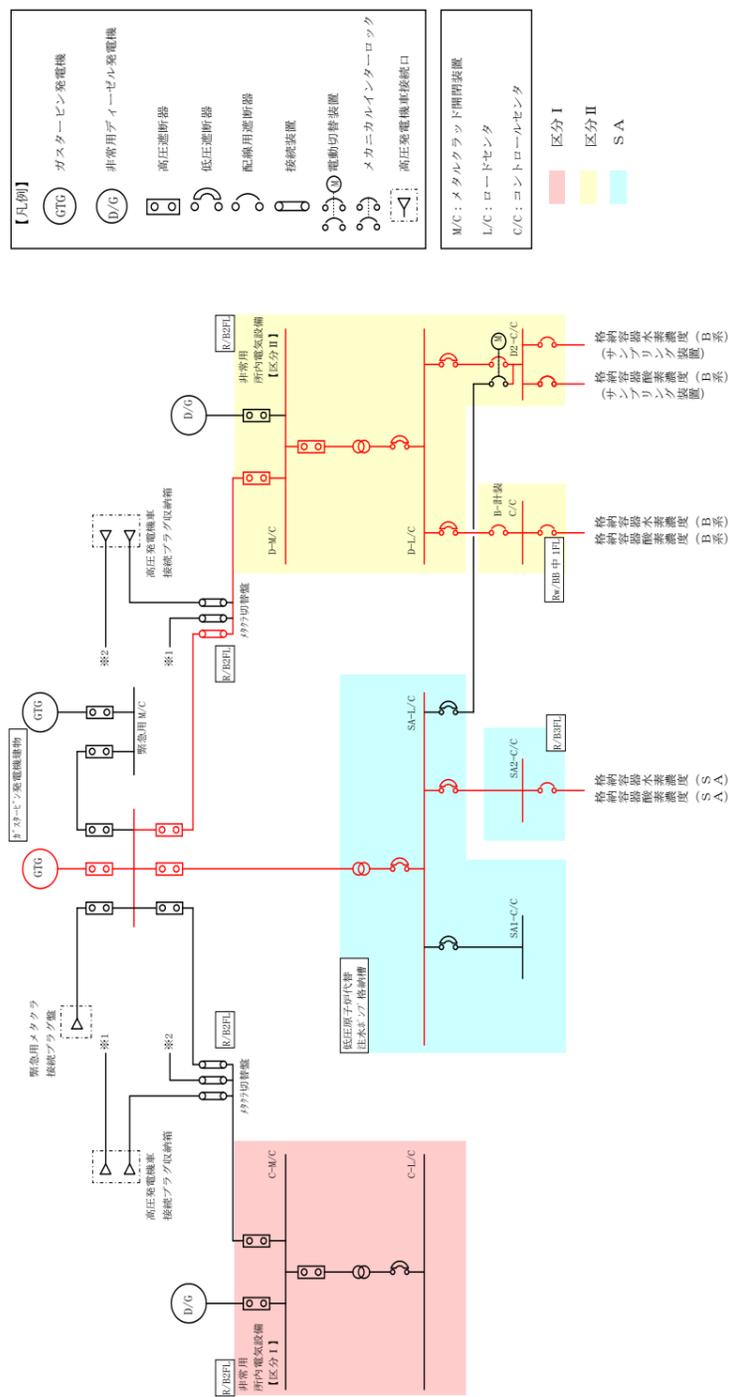


図 57-9-(52-1)6号炉単線結線図 (第52条)



第 57-9-(52-1)図 単線結線図 (52条)

・設備の相違

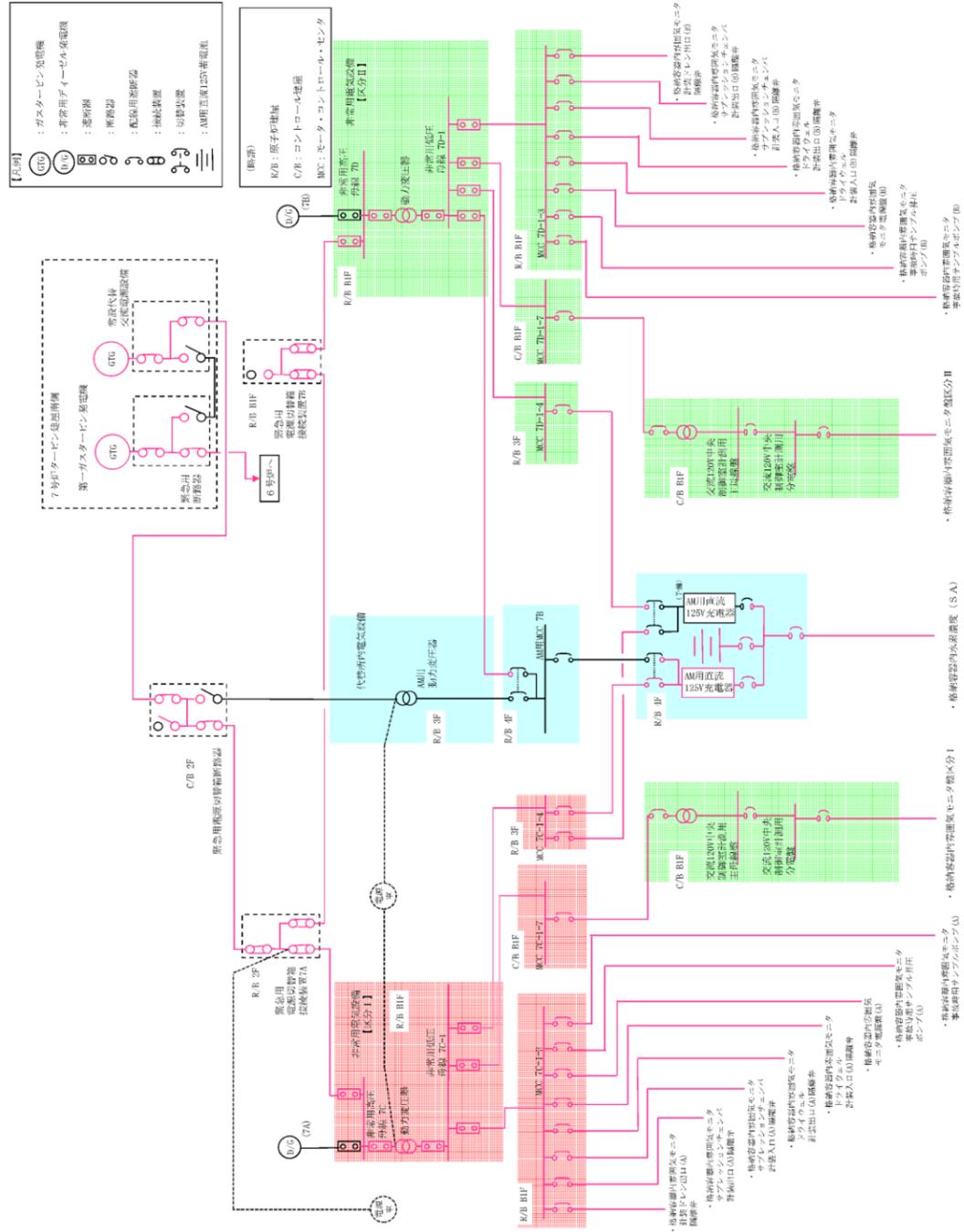


図 57-9-(52-2)7号炉単線結線図 (第52条)

・設備の相違

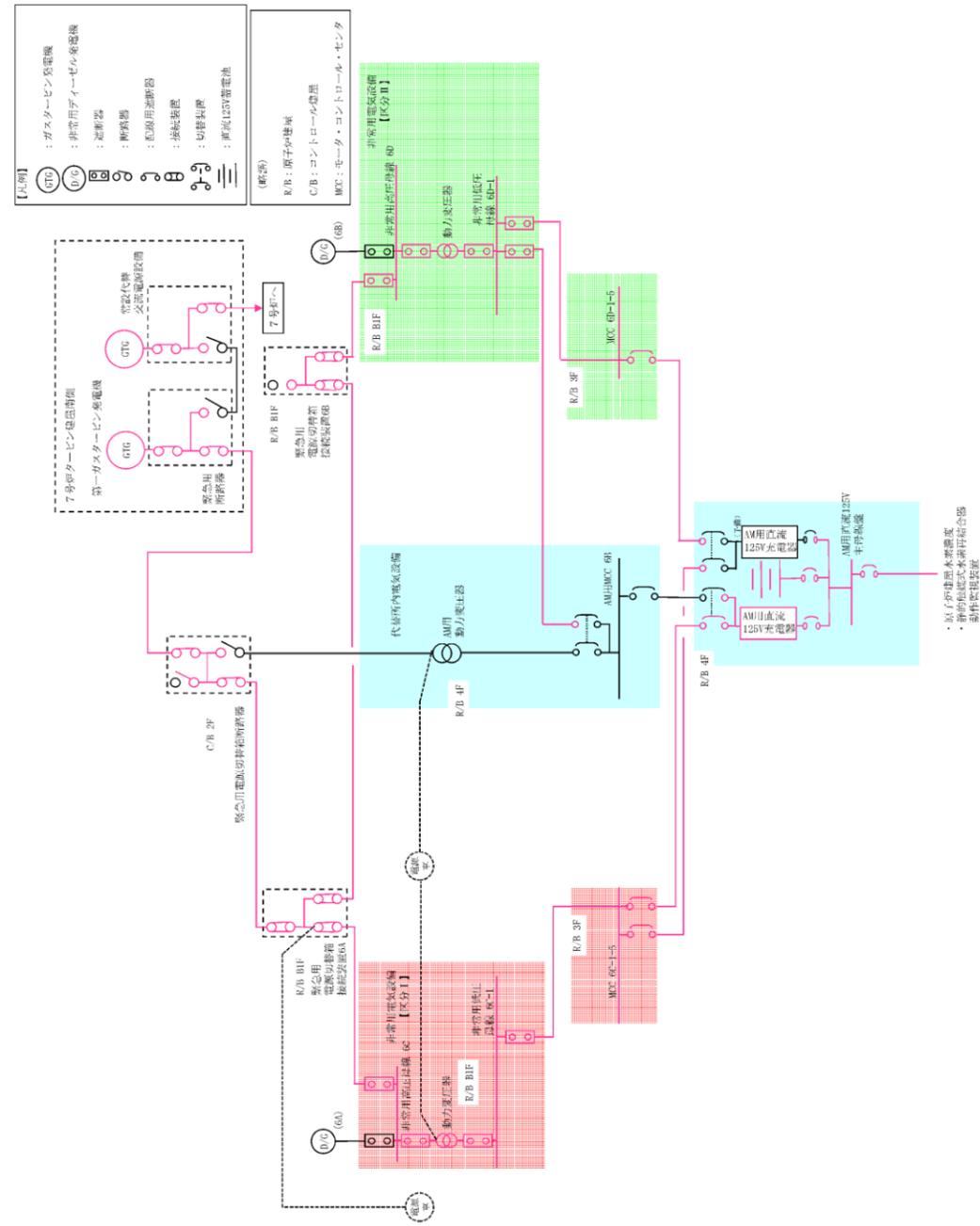
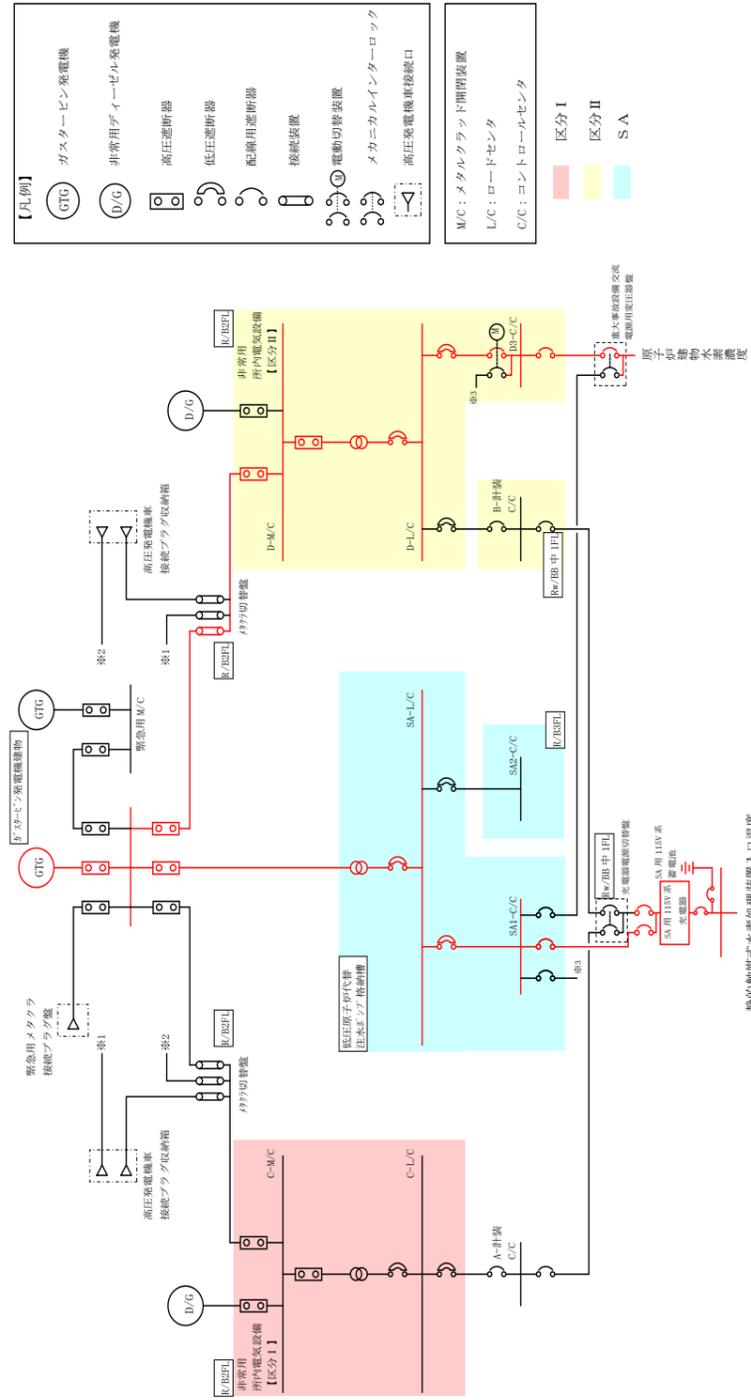
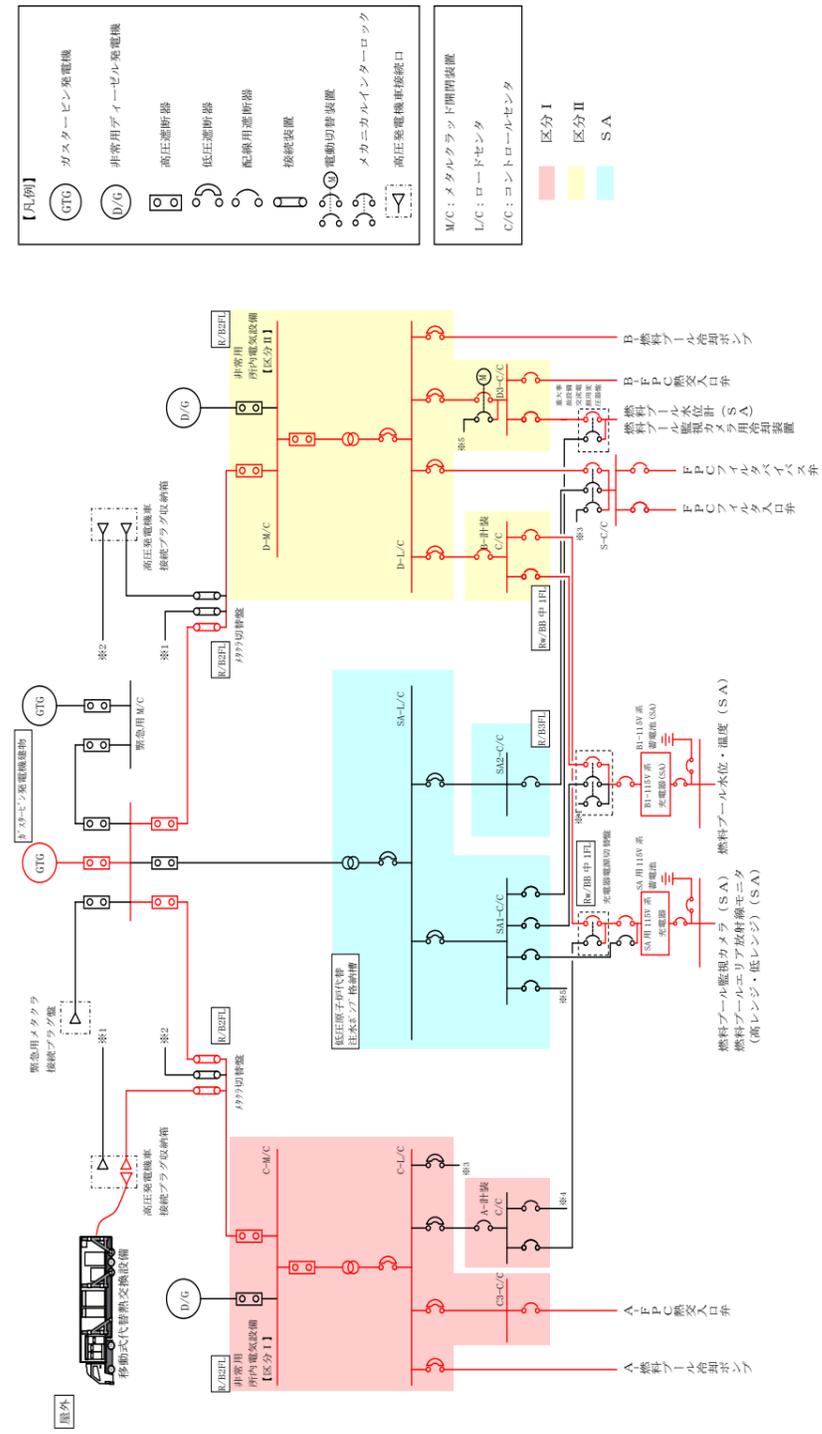
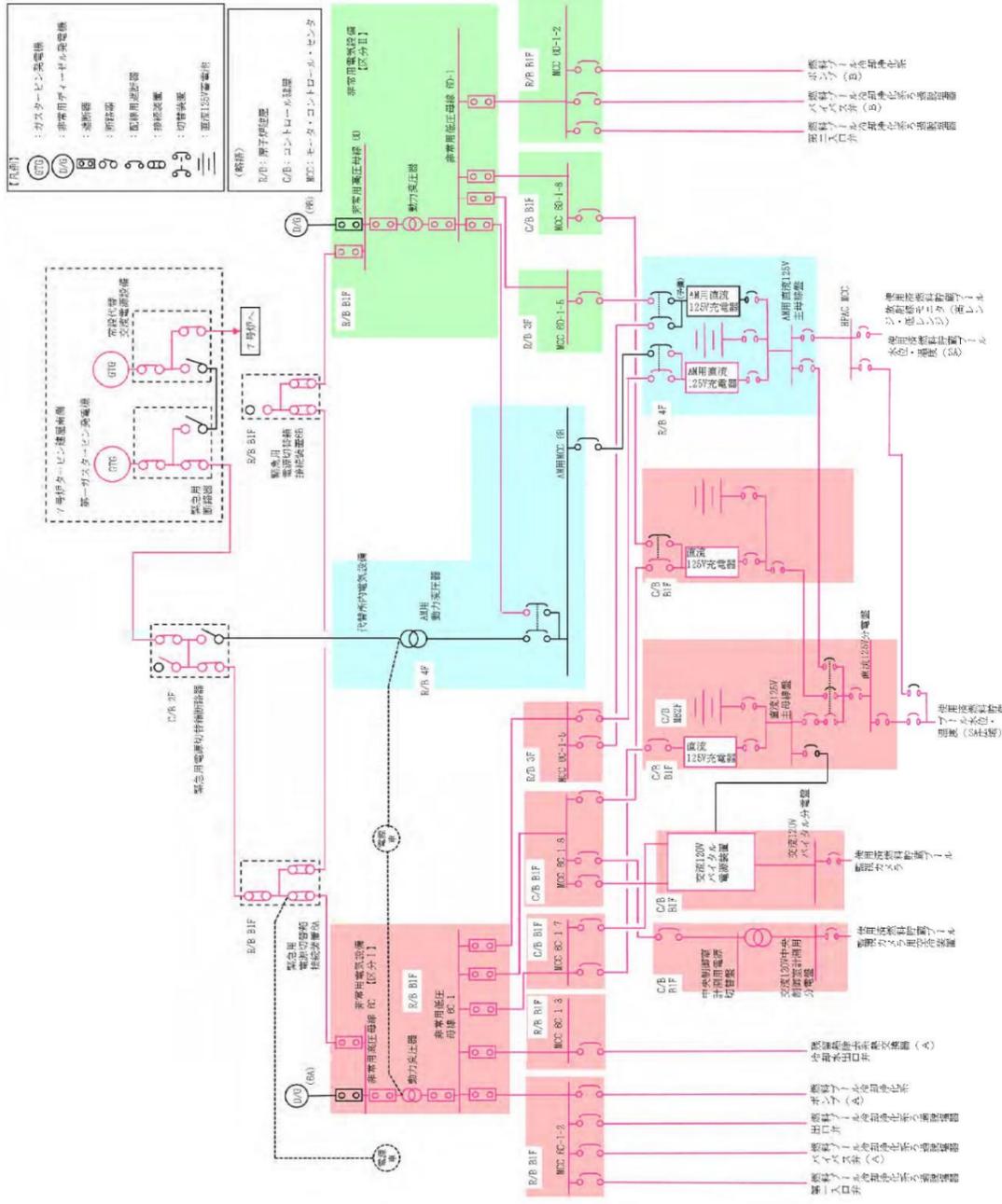


図 57-9-(53-1)6号炉単線結線図 (第53条)



第 57-9-(53-1)図 単線結線図 (53条)

・設備の相違



・設備の相違

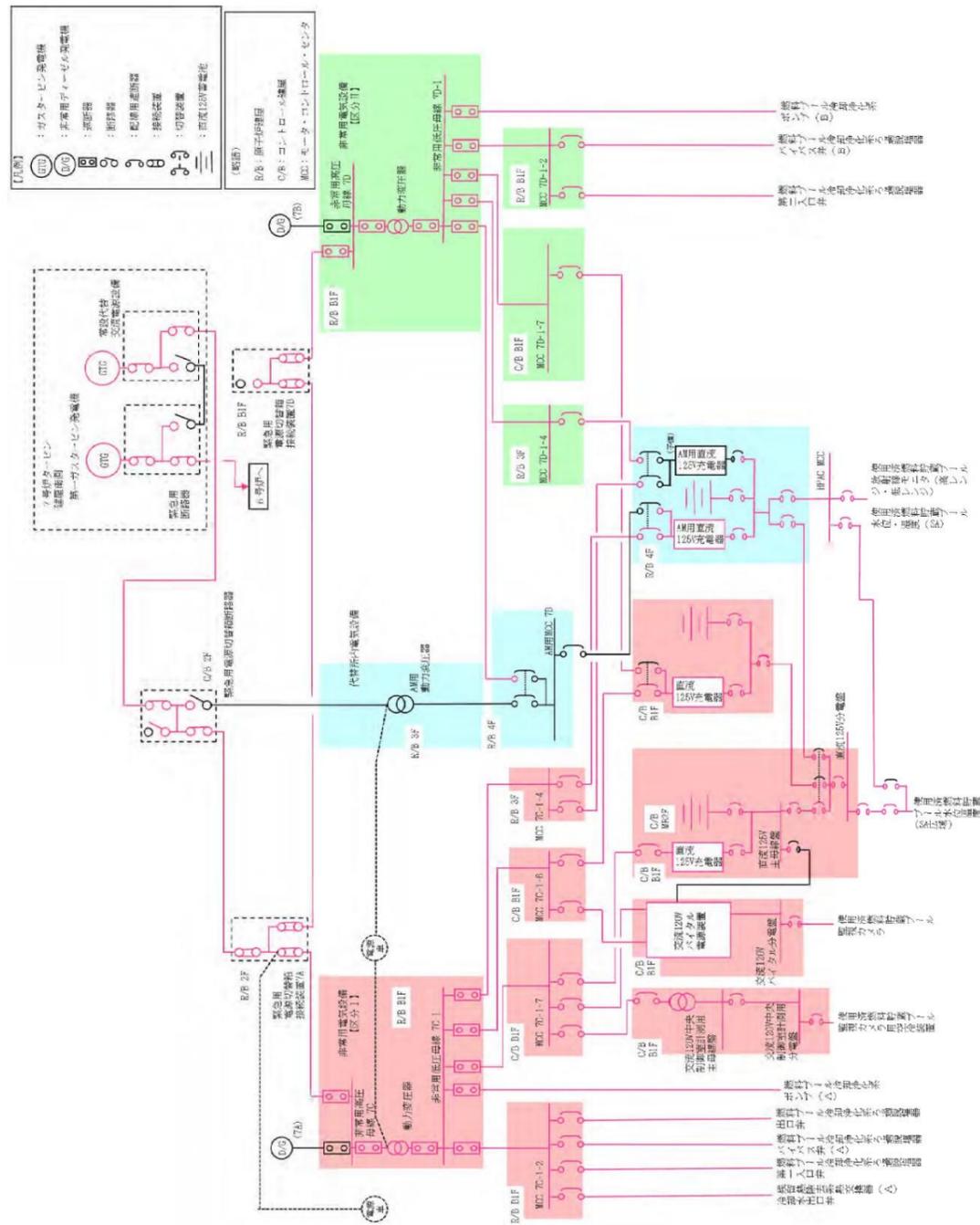


図 57-9-(54-2) 7号炉単線結線図 (第54条)

・設備の相違

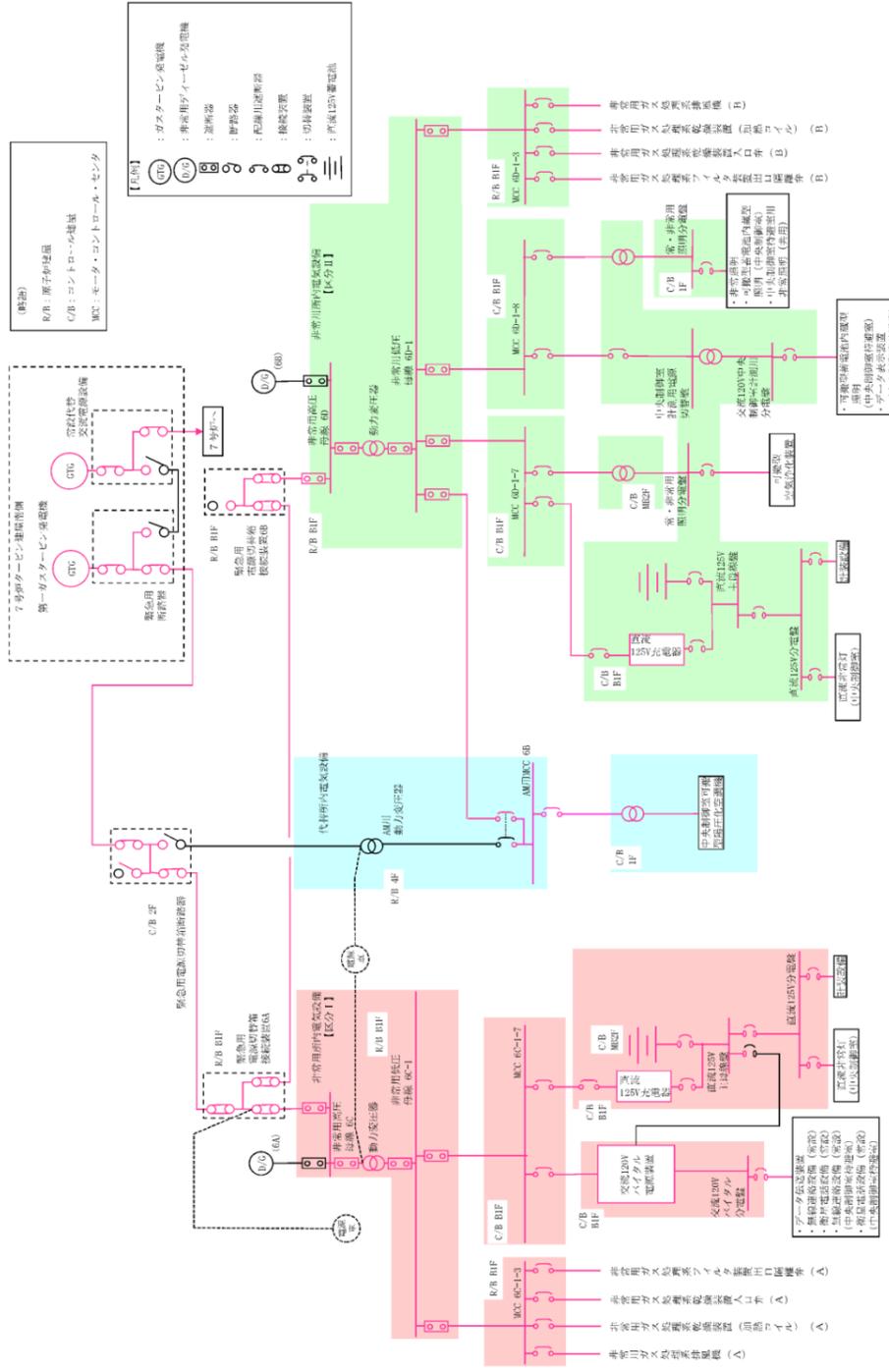
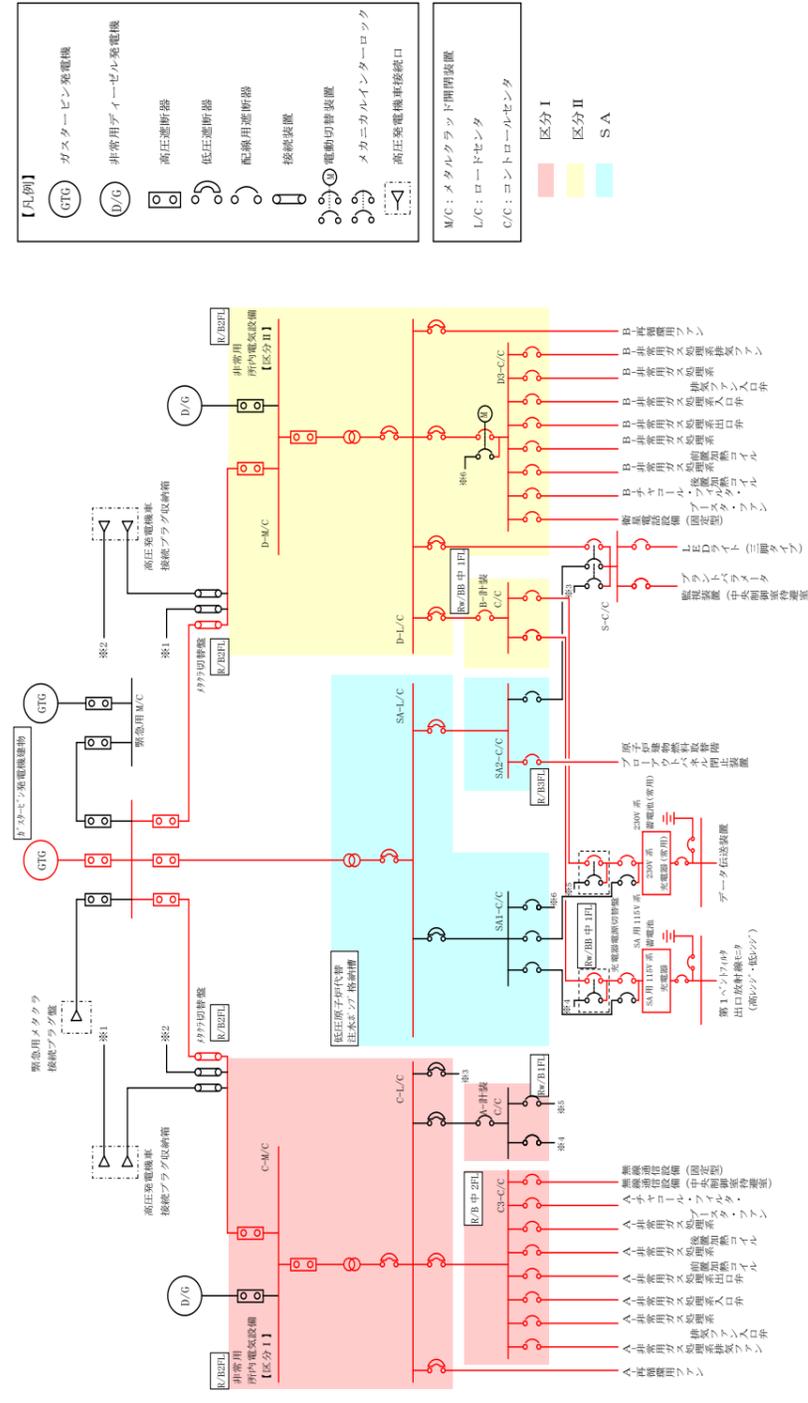
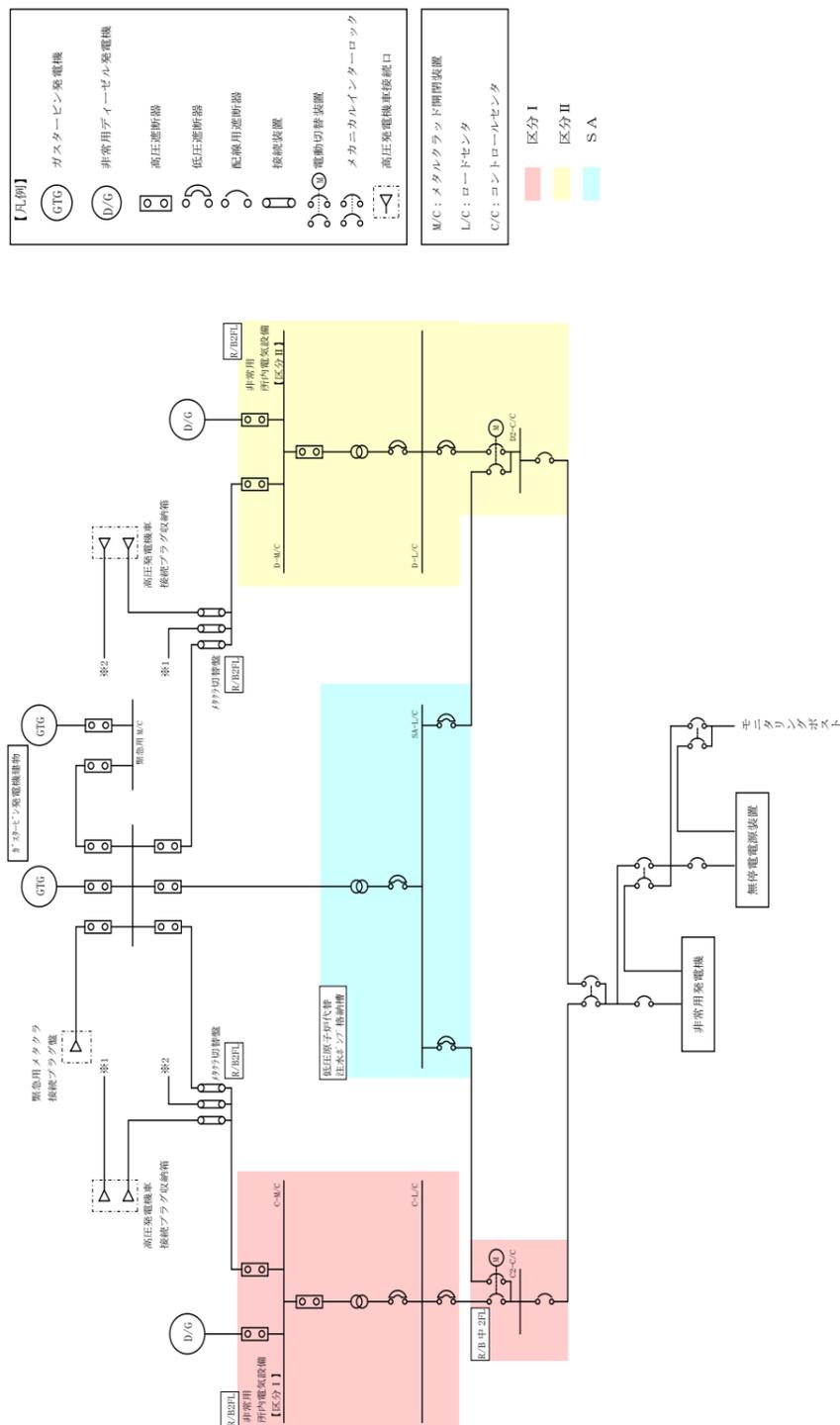


図 57-9-(59-1)6号炉単線結線図 (第59条)



第 57-9-(59-1)図 単線結線図 (59条)

・設備の相違



・設備の相違
60条/75条の1項C)に基づき記載

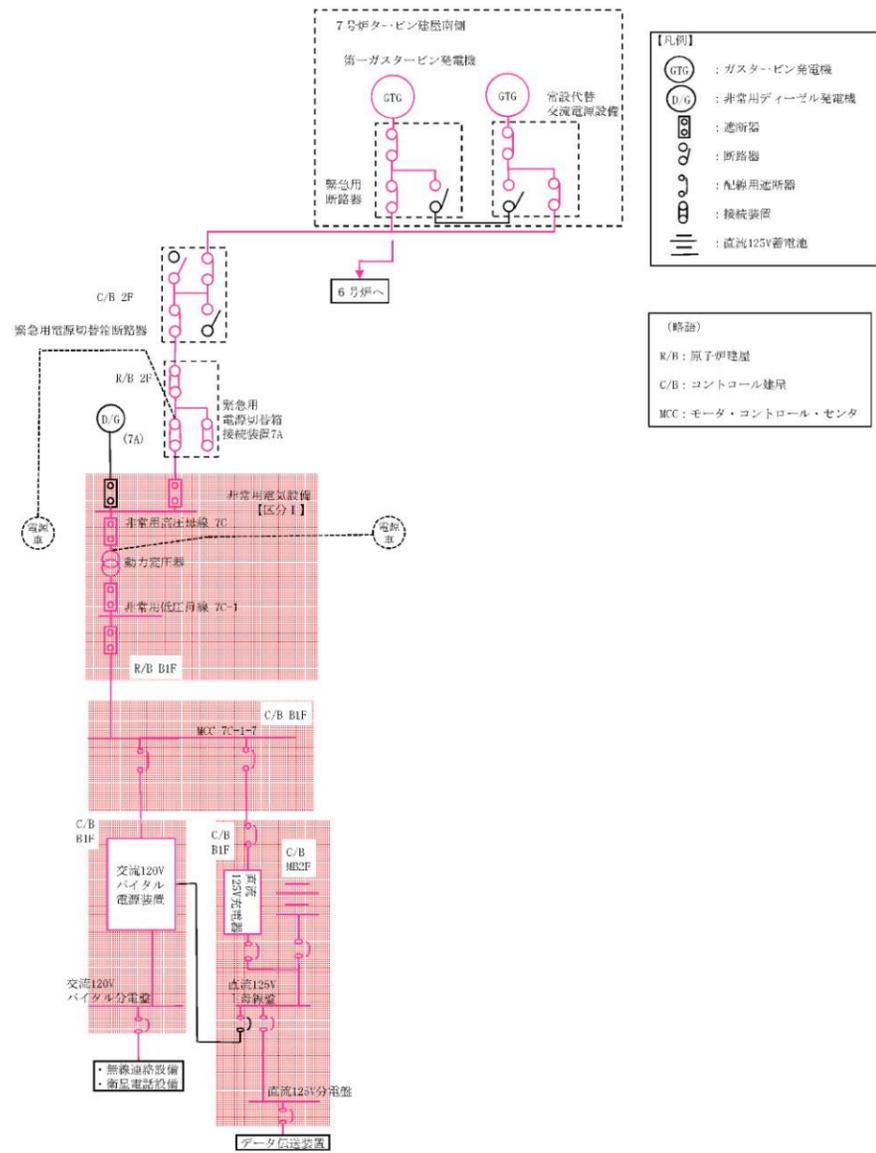


図 57-9-(62-2) 7号炉単線結線図 (第 62 条)

・設備の相違